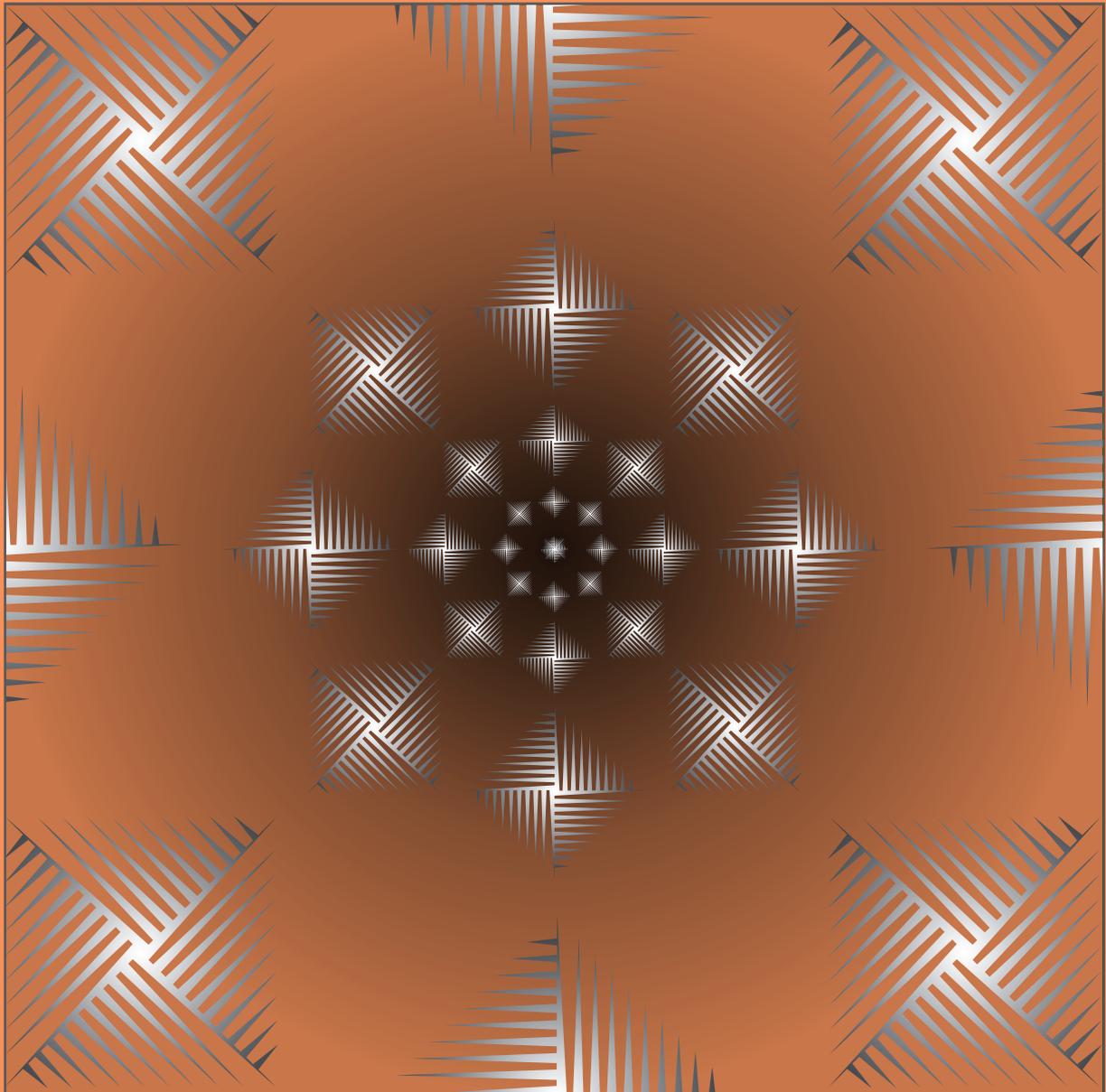


---

2010年度

# シラバス

# 交流文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

---

獨協大学

# シラバスの見方

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

## I 交流文化学科授業科目について

### 【シラバスページの検索方法】

目次の科目は学則別表と同じ順序で記載されています。

### 【履修不可について】

- ① 目次には「履修不可」学科が記載されています。  
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

### ② 表記方法

外：外国語学部    養：国際教養学部    経：経済学部    法：法学部  
独：ドイツ語学科    濟：経済学科    律：法律学科  
英：英語学科    営：経営学科    国：国際関係法学科  
仏：フランス語学科    総：総合政策学科  
交：交流文化学科  
言：言語文化学科    全：交流文化学科以外の全学部学科

## II シラバス本文の見方(右図参照)

- ① 入学年度  
② 入学年度に対応した科目名  
③ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望  
④ 学期の授業計画  
各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。  
⑤ 授業で使用するテキスト、参考文献  
⑥ 評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
<b>春学期</b>		
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
<b>秋学期</b>		
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

### 【注意事項】

#### 1.履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。  
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および4ページからの「学科共通科目」の目次の欄、「授業時間割表」で確認し、履修登録してください。

#### 2.定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

### ●参考資料(英語レベル一覧表)●

上級	TOEIC®	700点以上
		(iBT) 68点以上
	TOEFL®	(PBT) 520点以上 (CBT) 190点以上
	実用英語技能検定	準1級以上

中級	TOEIC®	600点以上
		(iBT) 54点以上
	TOEFL®	(PBT) 480点以上 (CBT) 157点以上

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施したTOEIC®テストで満たしていれば履修登録は可能です。  
学外で受験したスコアを利用する場合は、証明するコピーを教務課外国語学部係へ提出してください。

# 交流文化学科 授業科目

## 学科基礎科目

時間割 コード	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	交流文化概論i	遠藤 充信	春	木4	2	1	全	13
	交流文化概論ii	高橋 雄一郎	秋	金1	2	1	全	13
	交流文化概論iii	永野 隆行	秋	火5	2	1	全	14
	基礎演習 I	高橋 雄一郎	春	水1	2	1	全	15
	基礎演習 II	高橋 雄一郎	秋	水1	2	1	全	15
	基礎演習 I	島田 啓一	春	水1	2	1	全	16
	基礎演習 II	島田 啓一	秋	水1	2	1	全	16
	基礎演習 I	北野 収	春	水1	2	1	全	17
	基礎演習 II	北野 収	秋	水1	2	1	全	17
	基礎演習 I	須永 和博	春	水1	2	1	全	18
	基礎演習 II	須永 和博	秋	水1	2	1	全	18
	基礎演習 I	永野 隆行	春	水1	2	1	全	19
	基礎演習 II	永野 隆行	秋	水1	2	1	全	19
18393	英語圏の文学と文化概論	片山 亜紀	春	木5	2	1	全	20
18394	英語圏の文学と文化概論	片山 亜紀	秋	木4	2	1	全	20
18395	英語圏の文学と文化概論	片山 亜紀	秋	木5	2	1	全	20
	英語の世界 I	府川 謹也	春	金1	2	1	全	21
	English for Business I	各担当教員	春		1	2	全	22
	English for Business II	各担当教員	秋		1	2	全	22
	Listening & Speaking	N. H. ジョスト	春	月2	1	1	全	23
	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®	N. H. ジョスト	秋	月2	1	1	全	23
	Listening & Speaking	P. ドーレ	春	火2	1	1	全	24
	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®	P. ドーレ	秋	火2	1	1	全	24
	Listening & Speaking	担当者未定	春	水3	1	1	全	25
	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®	日野 克美	秋	水3	1	1	全	25
	Listening & Speaking	担当者未定	春	水2	1	1	全	26
	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®	日野 克美	秋	水2	1	1	全	26
	Listening & Speaking	P. ドーレ	春	火1	1	1	全	27
	Listening Practice for TOEFL®&TOEIC®	P. ドーレ	秋	火1	1	1	全	27
	Grammar for TOEFL®&TOEIC®I	各担当教員	春		1	1	全	28
	Grammar for TOEFL®&TOEIC® II	各担当教員	秋		1	1	全	28
	Reading Strategies I	高橋 雄一郎	春	木3	1	1	全	29
	Reading Strategies II	高橋 雄一郎	秋	木3	1	1	全	29
	Reading Strategies I	島田 啓一	春	水2	1	1	全	30
	Reading Strategies II	島田 啓一	秋	水2	1	1	全	30
	Reading Strategies I	瀬戸 千尋	春	月4	1	1	全	31
	Reading Strategies II	瀬戸 千尋	秋	月4	1	1	全	31
	Reading Strategies I	西 香生里	春	水3	1	1	全	32
	Reading Strategies II	西 香生里	秋	水3	1	1	全	32
	Reading Strategies I	須永 和博	春	火3	1	1	全	33
	Reading Strategies II	須永 和博	秋	火3	1	1	全	33
	Reading StrategiesⅢ (2-1)	N. H. ジョスト	春	水2	1	2	全	34
	Reading StrategiesⅣ (2-1)	N. H. ジョスト	秋	水2	1	2	全	34
	Reading StrategiesⅢ (2-2)	三吉 美加	春	月4	1	2	全	35
	Reading StrategiesⅣ (2-2)	三吉 美加	秋	月4	1	2	全	35
	Reading StrategiesⅢ (2-3)	河原 宏之	春	水1	1	2	全	36
	Reading StrategiesⅣ (2-3)	河原 宏之	秋	水1	1	2	全	36
	Reading StrategiesⅢ (2-4)	河原 宏之	春	水2	1	2	全	37
	Reading StrategiesⅣ (2-4)	河原 宏之	秋	水2	1	2	全	37
	Reading StrategiesⅢ (2-5)	担当者未定	春	水1	1	2	全	38
	Reading StrategiesⅣ (2-5)	担当者未定	秋	水1	1	2	全	38
	Reading StrategiesⅢ (2-6)	西 香生里	春	水4	1	2	全	39
	Reading StrategiesⅣ (2-6)	西 香生里	秋	水4	1	2	全	39
	Reading StrategiesⅢ (2-7)	町田 喜義	春	水1	1	2	全	40
	Reading StrategiesⅣ (2-7)	町田 喜義	秋	水1	1	2	全	40

時間割 コード	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	Writing Strategies I	R. J. バロウズ	春	火2	1	1	全	41
	Writing Strategies II	R. J. バロウズ	秋	火2	1	1	全	41
	Writing Strategies I	J. A. グレイ	春	月4	1	1	全	42
	Writing Strategies II	J. A. グレイ	秋	月4	1	1	全	42
	Writing Strategies I	R. J. バロウズ	春	火3	1	1	全	43
	Writing Strategies II	R. J. バロウズ	秋	火3	1	1	全	43
	Writing Strategies I	D. マツキャン	春	金2	1	1	全	44
	Writing Strategies II	D. マツキャン	秋	金2	1	1	全	44
	Writing Strategies I	M. ダーリン	春	月4	1	1	全	45
	Writing Strategies II	M. ダーリン	秋	月4	1	1	全	45
	Comprehensive English I	J. ウォールドマン	春	月3	1	1	全	46
	Comprehensive English II	J. ウォールドマン	秋	月3	1	1	全	46
	Comprehensive English I	K. ミーハン	春	金2	1	1	全	47
	Comprehensive English II	K. ミーハン	秋	金2	1	1	全	47
	Comprehensive English I	N. H. ジョスト	春	火1	1	1	全	48
	Comprehensive English II	N. H. ジョスト	秋	火1	1	1	全	48
	Comprehensive English I	M. ダーリン	春	木3	1	1	全	49
	Comprehensive English II	M. ダーリン	秋	木3	1	1	全	49
	Comprehensive English I	L. K. ハーキンス	春	金2	1	1	全	50
	Comprehensive English II	L. K. ハーキンス	秋	金2	1	1	全	50
	Comprehensive English I	N. H. ジョスト	春	月3	1	1	全	51
	Comprehensive English II	N. H. ジョスト	秋	月3	1	1	全	51
	Comprehensive English I	J. ウォールドマン	春	木3	1	1	全	52
	Comprehensive English II	J. ウォールドマン	秋	木3	1	1	全	52
	Comprehensive English I	K. ミーハン	春	月3	1	1	全	53
	Comprehensive English II	K. ミーハン	秋	月3	1	1	全	53
	Comprehensive English I	J. J. ダゲン	春	木3	1	1	全	54
	Comprehensive English II	J. J. ダゲン	秋	木3	1	1	全	54
	Comprehensive English I	L. K. ハーキンス	春	月2	1	1	全	55
	Comprehensive English II	L. K. ハーキンス	秋	月2	1	1	全	55
	Comprehensive English III (2-1)	R. ダラム	春	木3	1	2	全	56
	Comprehensive English IV (2-1)	R. ダラム	秋	木3	1	2	全	56
	Comprehensive English III (2-2)	P. アップス	春	水2	1	2	全	57
	Comprehensive English IV (2-2)	P. アップス	秋	水2	1	2	全	57
	Comprehensive English III (2-3)	D. マツキャン	春	木3	1	2	全	58
	Comprehensive English IV (2-3)	D. マツキャン	秋	木3	1	2	全	58
	Comprehensive English III (2-4)	E. フランコ	春	木1	1	2	全	59
	Comprehensive English IV (2-4)	E. フランコ	秋	木1	1	2	全	59
	Comprehensive English III (2-5)	P. ドーレ	春	月4	1	2	全	60
	Comprehensive English IV (2-5)	P. ドーレ	秋	月4	1	2	全	60
	Comprehensive English III (2-6)	N. H. ジョスト	春	月4	1	2	全	61
	Comprehensive English IV (2-6)	担当者未定	秋	月4	1	2	全	61
	Comprehensive English III (2-7)	P. ドーレ	春	月5	1	2	全	62
	Comprehensive English IV (2-7)	担当者未定	秋	月5	1	2	全	62
	E-learning I	羽山 恵	春	金5	1	1	全	63
	E-learning II	羽山 恵	秋	金5	1	1	全	63

※担当者が未定の科目は決まり次第、掲示にてお知らせします。

## 学科共通科目 「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

抽選コード	科目名	担当者	開講学期	曜時	定員	単位数	開始学年	履修不可	ページ
51	Japanese Art & Culture	A. ゴーリンジャー	春秋	木4	30	2	2	全	64
52	Language, Culture and Communication	C. B. 池口	春秋	火4	30	2	2	全	65
53	Education&Culture	J. J. ダゲン	春秋	火3	30	2	2	全	66
54	Origin and Evolution of Language	J. N. ウェンデル	春秋	月1	30	2	2	全	67
55	James Joyce	M. フッド	春秋	火3	30	2	2	全	68
56	Education	N. H. ジョスト	春秋	火2	30	2	2	全	69
57	国際機関とミレニアム開発目標	S. ロシート	春秋	木4	30	2	2	全	70
58	Linguistics	T. ヒル	春秋	月2	30	2	2	全	71
59	音声知覚のしくみと発達入門	青柳 真紀子	春秋	火3	30	2	2	全	72
60	Exploring Language Teaching	浅岡 千利世	春秋	木1	30	2	2	全	73
61	米国の東アジア政策	阿部 純一	春秋	土2	30	2	2	全	74
62	ポピュラー・カルチャー入門 1. 2	板場 良久	春秋	火3	30	2	2	全	75
63	時空を越えるエズラ・パウンド	遠藤 朋之	春秋	木3	30	2	2	全	76
64	ディズニー・アニメの歴史をたどる	大木 理恵子	春秋	月4	30	2	2	全	77
65	アメリカ黒人の歴史	岡田 誠一	春秋	月2	30	2	2	全	78
66	ヒッチコック映画の精神分析	柿田 秀樹	春秋	火5	30	2	2	全	79
67	短編小説を読みこなす	片山 亜紀	春秋	金2	30	2	2	全	80
68	アメリカ文学: John Steinbeckの文学を読む	金谷 優子	春秋	金4	30	2	2	全	81
69	アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係	金子 芳樹	春秋	水1	30	2	2	全	82
70	生成文法入門	河原 宏之	春秋	木3	30	2	2	全	83
71	グリーン・ツーリズムと持続可能な地域づくり/ 食と農からみたアメリカ社会とコミュニティ	北野 収	春秋	月3	30	2	2	全	84
72	地球市民のためのフェアトレード入門	北野 収	春秋	金4	30	2	2	全	85
73	SLA実証研究論文	羽山 恵	春秋	金3	30	2	2	全	86
74	対人コミュニケーション理論	工藤 和宏	春秋	火2	30	2	2	全	87
75	オーストラリアの詩	国見 晃子	春秋	木3	30	2	2	全	88
76	英語圏の現代演劇	児嶋 一男	春秋	月3	30	2	2	全	89
77	Critically thinking things through	小西 卓三	春秋	月2	30	2	2	全	90
78	認知英文法	小早川 暁	春秋	火3	30	2	2	全	91
79	シルヴィア・プラスの短編集を読む	小林 愛明	春秋	木4	30	2	2	全	92
80	米国ユダヤ人史	佐藤 唯行	春秋	木4	30	2	2	全	93
81	物語を読んで楽しむ	佐藤 勉	春秋	火4	30	2	2	全	94
82	現代国際関係論	佐野 康子	春秋	木3	30	2	2	全	95
83	アメリカ小説	島田 啓一	春秋	木2	30	2	2	全	96
84	Applied Linguistics	清水 由理子	春秋	月2	30	2	2	全	97
85	イギリス児童文学	白鳥 正孝	春秋	木2	30	2	2	全	98
86	生成英語統語論への誘い	鈴木 英一	春秋	木4	30	2	2	全	99
87	Deconstructing 'Japaneseness'	須永 和博	春秋	火2	30	2	2	全	100
88	異文化理解の視点	瀬戸 千尋	春秋	火3	30	2	2	全	101
89	20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人	高田 宣子	春秋	火4	30	2	2	全	102
90	グローバルな眼でアジアを読む	竹田 いさみ	春秋	火4	30	2	2	全	103
91	現代イギリス小説	東郷 公德	春秋	月5	30	2	2	全	104
92	国際政治史/国際関係論	永野 隆行	春秋	火4	30	2	2	全	105
93	インタビューやニュースのスク립トを読む	鍋倉 健悦	春秋	月2	30	2	2	全	106
94	アメリカ現代詩	原 成吉	春秋	火1	30	2	2	全	107
95	欽定訳聖書を読む	福井 嘉彦	春秋	火2	30	2	2	全	108
96	シェイクスピア入門	前沢 浩子	春秋	木3	30	2	2	全	109
97	国際連合の組織と機能	光辻 克馬	春秋	木4	30	2	2	全	110
98	米国とカリブのブラックカルチャー	三吉 美加	春秋	月3	30	2	2	全	111

※抽選の詳細については「授業時間割表」を参照してください。

## 学科共通科目

時間割 コード	科目名	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
20091	英語の世界Ⅱ	府川 謹也	春	火5		2	2	全	112
20092	英語の世界Ⅱ	府川 謹也	秋	金1		2	2	全	112
20093	観光英語Ⅰ	落合 康男	春	木2	22	2	2	英	113
20094	観光英語Ⅱ	日野 克美	秋	木2	22	2	2	英	113
20095	通訳案内士の英語Ⅰ	落合 康男	春	木1	22	2	2	英	114
20096	通訳案内士の英語Ⅱ	日野 克美	秋	木1	22	2	2	英	114
20097	Business Writing	海老沢 達郎	春	火1	22	2	2	英	115
20098	Business Writing	海老沢 達郎	秋	火1	22	2	2	英	115
20123	Academic Writing	A. マグズ	春	水2	25	2	2	全	116
20124	Academic Writing	A. マグズ	秋	水2	25	2	2	全	116
20107	Academic Writing	D. H. ケネディ	春	火1	25	2	2	全	117
20108	Academic Writing	D. H. ケネディ	秋	火1	25	2	2	全	117
20099	Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	25	2	2	全	118
20100	Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	25	2	2	全	118
20101	Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火1	25	2	2	全	119
20102	Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火1	25	2	2	全	119
20103	Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	25	2	2	全	120
20104	Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	25	2	2	全	120
20105	Academic Writing	E. フランコ	春	木3	25	2	2	全	121
20106	Academic Writing	E. フランコ	秋	木3	25	2	2	全	121
20109	Academic Writing	J. N. ウェンデル	春	火2	25	2	2	全	122
20110	Academic Writing	J. N. ウェンデル	秋	火2	25	2	2	全	122
20111	Academic Writing	J. ウォールドマン	春	木2	25	2	2	全	123
20112	Academic Writing	J. ウォールドマン	秋	木2	25	2	2	全	123
20113	Academic Writing	K. ミーハン	春	月5	25	2	2	全	124
20114	Academic Writing	L. K. ハーキンス	秋	月3	25	2	2	全	124
20115	Academic Writing	M. フッド	春	火4	25	2	2	全	125
20116	Academic Writing	M. フッド	秋	火4	25	2	2	全	125
20117	Academic Writing	P. ドーレ	春	火3	25	2	2	全	126
20118	Academic Writing	R. ダラム	春	木2	25	2	2	全	127
20119	Academic Writing	R. ダラム	秋	木2	25	2	2	全	127
20120	Academic Writing	M. ダーリン	春	月5	25	2	2	全	128
20121	Academic Writing	M. ダーリン	秋	月5	25	2	2	全	128
20125	翻訳Ⅰ	柴田 耕太郎	春	木3	25	2	2	全	129
20126	翻訳Ⅰ	柴田 耕太郎	秋	木3	25	2	2	全	129
20127	翻訳Ⅰ	柴田 耕太郎	春	木4	25	2	2	全	130
20128	翻訳Ⅰ	柴田 耕太郎	秋	木4	25	2	2	全	130
20129	翻訳Ⅰ	高田 宣子	春	火5	25	2	2	全	131
20130	翻訳Ⅰ	高田 宣子	秋	火5	25	2	2	全	131
20131	翻訳Ⅰ	藤田 永祐	春	月4	25	2	2	全	132
20132	翻訳Ⅰ	藤田 永祐	秋	月4	25	2	2	全	132
20133	翻訳Ⅰ	前沢 浩子	春	月3	25	2	2	全	133
20134	翻訳Ⅰ	山中 章子	春	木5	25	2	2	全	134
20135	翻訳Ⅰ	山中 章子	秋	木5	25	2	2	全	134
20137	翻訳Ⅱ	P. ネルム	春	金5	25	2	2	全	135
20138	翻訳Ⅱ	P. ネルム	秋	金5	25	2	2	全	135
21077	翻訳Ⅱ	白川 貴子	春	水4	25	2	2	全	136
21078	翻訳Ⅱ	白川 貴子	秋	水4	25	2	2	全	136
20141	College Grammar	靱江 静	春	月3	32	2	2	全	137
20142	College Grammar	靱江 静	秋	月3	32	2	2	全	137
20143	College Grammar	靱江 静	春	月4	32	2	2	全	138
20144	College Grammar	靱江 静	秋	月4	32	2	2	全	138
20145	College Grammar	河原 宏之	春	木2	32	2	2	全	139
20146	College Grammar	河原 宏之	秋	木2	32	2	2	全	139
20147	College Grammar	小早川 暁	春	金4	32	2	2	全	140
20148	College Grammar	小早川 暁	秋	金4	32	2	2	全	140
20149	College Grammar	坂本 洋子	春	金2	32	2	2	全	141

時間割 コード	科目名	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
20150	College Grammar	坂本 洋子	秋	金2	32	2	2	全	141
20151	College Grammar	坂本 洋子	春	金4	32	2	2	全	142
20152	College Grammar	坂本 洋子	秋	金4	32	2	2	全	142
20153	College Grammar	鈴木 英一	春	水1	32	2	2	全	143
20154	College Grammar	鈴木 英一	秋	水1	32	2	2	全	143
20155	College Grammar	府川 謹也	春	金2	32	2	2	全	144
20156	College Grammar	府川 謹也	秋	金2	32	2	2	全	144
20157	College Grammar	藤田 永祐	春	月3	32	2	2	全	145
20158	College Grammar	藤田 永祐	秋	月3	32	2	2	全	145
20165	Communicative English	D. ブラドリー	春	火2	25	2	2	全	146
20166	Communicative English	D. ブラドリー	秋	火2	25	2	2	全	146
20167	Communicative English	D. ベーカー	春	木3	25	2	2	全	147
20168	Communicative English	D. ベーカー	秋	木3	25	2	2	全	147
20169	Communicative English	D. マッキャン	春	木2	25	2	2	全	148
20170	Communicative English	D. マッキャン	秋	木2	25	2	2	全	148
20171	Communicative English	J. A. グレイ	春	月5	25	2	2	全	149
20163	Communicative English	J. A. グレイ	春	水5	25	2	2	全	150
20173	Communicative English	K. ミーハン	春	月4	25	2	2	全	151
20174	Communicative English	K. ミーハン	秋	月4	25	2	2	全	151
20164	Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	月1	25	2	2	全	152
20175	Communicative English	L. K. ハーキンス	春	金1	25	2	2	全	153
20176	Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	金1	25	2	2	全	153
20172	Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	金3	25	2	2	全	154
20193	Communicative English	P. M. ホーネス	春	月1	25	2	2	全	155
20194	Communicative English	P. M. ホーネス	秋	月1	25	2	2	全	155
20177	Communicative English	P. アップス	春	火2	25	2	2	全	156
20178	Communicative English	P. アップス	秋	火2	25	2	2	全	156
20180	Communicative English	P. ドーレ	秋	火3	25	2	2	全	157
20181	Communicative English	R. J. バロウズ	春	火4	25	2	2	全	158
20182	Communicative English	R. J. バロウズ	秋	火4	25	2	2	全	158
20183	Communicative English	R. ジョーンズ	春	月1	25	2	2	全	159
20184	Communicative English	R. ジョーンズ	秋	月1	25	2	2	全	159
20185	Communicative English	R. ダラム	春	火1	25	2	2	全	160
20186	Communicative English	R. ダラム	秋	火1	25	2	2	全	160
20187	Communicative English	R. ダラム	春	火3	25	2	2	全	161
20188	Communicative English	R. ダラム	秋	火3	25	2	2	全	161
20189	Communicative English	T. ヒル	春	火2	25	2	2	全	162
20190	Communicative English	T. ヒル	秋	火2	25	2	2	全	162
20191	Communicative English	M. ダーリン	春	木5	25	2	2	全	163
20192	Communicative English	M. ダーリン	秋	木5	25	2	2	全	163
20195	Discussion	C. B. 池口	春	火2	20	2	2	全	164
20196	Discussion	C. B. 池口	秋	火2	20	2	2	全	164
20197	Discussion	C. B. 池口	春	火3	20	2	2	全	165
20198	Discussion	C. B. 池口	秋	火3	20	2	2	全	165
20199	Discussion	D. L. ブランケン	春	金3	20	2	2	全	166
20200	Discussion	D. L. ブランケン	秋	金3	20	2	2	全	166
20201	Discussion	E. フランコ	春	木2	20	2	2	全	167
20202	Discussion	E. フランコ	秋	木2	20	2	2	全	167
20203	Discussion	P. M. ホーネス	春	月2	20	2	2	全	168
20204	Discussion	P. M. ホーネス	秋	月2	20	2	2	全	168
20205	Discussion	S. ロシート	春	木3	20	2	2	全	169
20206	Discussion	S. ロシート	秋	木3	20	2	2	全	169
20207	Public Speaking I	A. R. ファルヴォ	春	金1	25	2	2	全	170
	Public Speaking II	A. R. ファルヴォ	秋	金1	25	2	2	全	170
20209	Public Speaking I	P. マッケビリー	春	金2	25	2	2	全	171
	Public Speaking II	P. マッケビリー	秋	金2	25	2	2	全	171
20211	Public Speaking I	板場 良久	春	金2	25	2	2	全	172
	Public Speaking II	板場 良久	秋	金2	25	2	2	全	172
20213	Public Speaking I	門倉 弘枝	春	金3	25	2	2	全	173
	Public Speaking II	門倉 弘枝	秋	金3	25	2	2	全	173

時間割 コード	科目名	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
20215	Debate I	J. N. ウェンデル	春	月2	25	2	2	全	174
	Debate II	J. N. ウェンデル	秋	月2	25	2	2	全	174
20217	Debate I	柿田 秀樹	春	火3	25	2	2	全	175
	Debate II	柿田 秀樹	秋	火3	25	2	2	全	175
20219	通訳 I	鍋倉 健悦	春	火3	25	2	2	全	176
20220	通訳 I	鍋倉 健悦	秋	火3	25	2	2	全	176
20221	通訳 I	原口 友子	春	金2	25	2	2	全	177
20222	通訳 I	原口 友子	秋	金2	25	2	2	全	177
20223	通訳 I	原口 友子	春	金4	25	2	2	全	178
20224	通訳 I	原口 友子	秋	金4	25	2	2	全	178
20225	通訳 II	原口 友子	春	金3	25	2	2	全	179
20226	通訳 II	原口 友子	秋	金3	25	2	2	全	179
20227	英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	火3	50	2	2	全	180
20228	英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	火3	50	2	2	全	180
20229	英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	水3	50	2	2	全	181
20230	英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	水3	50	2	2	全	181
20231	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木3	50	2	2	全	182
20232	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木3	50	2	2	全	182
20233	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木4	50	2	2	全	183
20234	英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	秋	木4	50	2	2	全	183
20235	英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月1	50	2	2	全	184
20236	英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月1	50	2	2	全	184
20237	英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月2	50	2	2	全	185
20238	英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月2	50	2	2	全	185
20249	メディア英語 I	P. ネルム	春	金3	40	2	2	全	186
20250	メディア英語 I	P. ネルム	秋	金3	40	2	2	全	186
20243	メディア英語 I	海老沢 達郎	春	火2	40	2	2	全	187
20244	メディア英語 I	海老沢 達郎	秋	火2	40	2	2	全	187
20245	メディア英語 I	岡田 誠一	春	月4	40	2	2	全	188
20246	メディア英語 I	岡田 誠一	秋	月4	40	2	2	全	188
20247	メディア英語 I	岡田 誠一	春	木4	40	2	2	全	189
20248	メディア英語 I	岡田 誠一	秋	木4	40	2	2	全	189
20251	メディア英語 I	小林 愛明	春	木3	40	2	2	全	190
20252	メディア英語 I	小林 愛明	秋	木3	40	2	2	全	190
20255	メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	春	月1	40	2	2	全	191
20256	メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	秋	月1	40	2	2	全	191
20257	メディア英語 II	P. ネルム	春	金4	40	2	2	全	192
20258	メディア英語 II	P. ネルム	秋	金4	40	2	2	全	192
20259	メディア英語 II	東郷 公德	春	月4	40	2	2	全	193
20260	メディア英語 II	東郷 公德	秋	月4	40	2	2	全	193
20261	シネマ英語	岡田 誠一	春	木3	35	2	2	全	194
20262	シネマ英語	岡田 誠一	秋	木3	35	2	2	全	194
20263	シネマ英語	門倉 弘枝	春	金4	35	2	2	全	195
20264	シネマ英語	門倉 弘枝	秋	金4	35	2	2	全	195

## 学科専門科目

### ツーリズム

時間割 コード	科目名	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	ツーリズム交流論	遠藤 充信	秋	木4		2	2	英	196
	ツーリズム・リスク論	竹田 いさみ	秋	月3		2	2	外	197
20607	ツーリズム文化論	太田 勉	春	月4	200	2	2	外	198
20608	ツーリズム・メディア論	高橋 利男	秋	金1	200	2	2	外	199
20609	ツーリズム・マネジメント論	遠藤 充信	秋	木3	200	2	2	外	200
20610	国際会議・イベント事業論	遠藤 充信	秋	火4	200	2	2	外	201
20611	ツーリズム政策論	遠藤 充信	秋	火5	200	2	2	外	202
20612	旅行・宿泊産業論	遠藤 充信	春	火4	200	2	2	外	203
20613	航空産業論	遠藤 充信	春	木3	200	2	2	外	204
20614	サステイナブル・ツーリズム論	北野 収	秋	月5	200	2	2	外	205
20615	オルタナティブ・ツーリズム論	須永 和博	秋	金4	200	2	2	外	206
20616	ツーリズム人類学	須永 和博	春	金5	200	2	2	外	207
20617	ツーリズム地誌論	須永 和博	秋	金5	30	2	2	全	208
20618	市民参加のまちづくり論	北野 収	春	月5	200	2	2	外	209
20619	フィールドワーク論	須永 和博	春	金4	50	2	2	全	210
	インターンシップ	遠藤 充信	春	火5	80	2	2	全	211

### トランスナショナル文化

時間割 コード	科目名	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	トランスナショナル文化論	高橋 雄一郎	春	水3		2	2	英	212
	トランスナショナル・メディア論	永野 隆行	秋	水3		2	2	英	213
20623	メディア・ライティング論	阿部 純一	秋	土1	200	2	2	外	214
20624	パフォーマンス研究	高橋 雄一郎	秋	金2	200	2	2	外	215
20625	表象文化論	高橋 雄一郎	春	金2	200	2	2	外	216
20626	開発文化論	北野 収	春	金3	200	2	2	外	217
20627	トランスナショナル社会学	北野 収	秋	金3	200	2	2	外	218
20628	食の文化論	北野 収	秋	金1	200	2	2	外	219
20629	英語圏のエリア・スタディーズa	前沢 浩子	春	水3	200	2	2	全	220
20630	英語圏のエリア・スタディーズb	前沢 浩子	秋	水3	200	2	2	全	220
20297	ヨーロッパの文化	阿部 明日香	春	水1		2	2	全	221
20298	ヨーロッパの文化	阿部 明日香	秋	水1		2	2	全	221
20265	ヨーロッパの文化	金井 満	春	木1		2	2	全	222
20266	ヨーロッパの文化	金井 満	秋	木1		2	2	全	222
20299	ヨーロッパの文化	松橋 麻利	春	木4		2	2	全	223
20300	ヨーロッパの文化	松橋 麻利	秋	木4		2	2	全	223
20293	ヨーロッパの文化	矢羽々 崇	春	火1		2	2	全	224
20294	ヨーロッパの文化	矢羽々 崇	秋	火1		2	2	全	224
20295	ヨーロッパの文化	山本 淳	春	木4		2	2	全	225
20296	ヨーロッパの文化	山本 淳	秋	木4		2	2	全	225

## 学科専門科目

### グローバル社会

時間割 コード	科目名	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	グローバル社会論a	竹田 いさみ	春	火3		2	2	全	226
	グローバル社会論a	竹田 いさみ	秋	火3		2	2	全	226
	グローバル社会論b	佐野 康子	春	火3		2	2	全	227
	グローバル社会論b	佐野 康子	秋	火3		2	2	全	227
20307	国際協力論	竹田 いさみ	春	月3		2	2	全	228
20308	国際開発論	金子 芳樹	春	火2		2	2	全	229
20309	国際交流論	小松 諄悦	春	金2		2	2	全	230
20310	国際NGO・ボランティア論	金子 芳樹	秋	火2		2	2	全	231
20311	英語圏の国際関係a	永野 隆行	春	月2		2	2	全	232
20312	英語圏の国際関係b	永野 隆行	秋	月2		2	2	全	232
20313	ヨーロッパの社会	千代浦 昌道	春	木3		2	2	全	233
20314	ヨーロッパの社会	千代浦 昌道	秋	木3		2	2	全	233
20316	ヨーロッパの社会	廣田 愛理	秋	木2		2	2	全	234
20301	ヨーロッパの社会	古田 善文	春	木5		2	2	全	235
20302	ヨーロッパの社会	古田 善文	秋	木5		2	2	全	235

## 第二外国語(英語プラス1言語)

時間割 コード	言語	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	ドイツ語	ドイツ語(Ia 総合1)	E. ビリック	春	木2	1	1	全	236
		ドイツ語(Ib 総合1)	E. ビリック	秋	木2	1	1	全	236
		ドイツ語(Ia 総合2)	E. ビリック	春	火4	1	1	全	237
		ドイツ語(Ib 総合2)	E. ビリック	秋	火4	1	1	全	237
		ドイツ語(Ia 総合3)	宮村 重徳	春	金4	1	1	全	238
		ドイツ語(Ib 総合3)	宮村 重徳	秋	金4	1	1	全	238
		ドイツ語(IIa 総合1)	R. ザンドロック	春	月2	1	2	全	239
		ドイツ語(IIb 総合1)	R. ザンドロック	秋	月2	1	2	全	239
		ドイツ語(IIa 総合2)	R. ザンドロック	春	金2	1	2	全	240
		ドイツ語(IIb 総合2)	R. ザンドロック	秋	金2	1	2	全	240
		ドイツ語(IIa 総合3)	井村 行子	春	火2	1	2	全	241
		ドイツ語(IIb 総合3)	井村 行子	秋	火2	1	2	全	241
	フランス語	フランス語(Ia 総合1)	大原 知子	春	月1	1	1	全	242
		フランス語(Ib 総合1)	大原 知子	秋	月1	1	1	全	242
		フランス語(Ia 総合2)	M. ミズバヤシ	春	木2	1	1	全	243
		フランス語(Ib 総合2)	M. ミズバヤシ	秋	木2	1	1	全	243
		フランス語(Ia 応用)	田中 成和	春	金4	1	1	全	244
		フランス語(Ib 応用)	田中 成和	秋	金4	1	1	全	244
		フランス語(IIa 総合1)	山崎 夏絵	春	金2	1	2	全	245
		フランス語(IIa 総合1)	平井 康和	春	金2	1	2	全	245
		フランス語(IIb 総合1)	山崎 夏絵	秋	金2	1	2	全	245
		フランス語(IIb 総合1)	平井 康和	秋	金2	1	2	全	245
		フランス語(IIa 総合2)	C. ヴァリエヌ	春	火2	1	2	全	246
		フランス語(IIa 総合2)	S. ジュンタ	春	火2	1	2	全	246
		フランス語(IIb 総合2)	C. ヴァリエヌ	秋	火2	1	2	全	246
		フランス語(IIb 総合2)	S. ジュンタ	秋	火2	1	2	全	246
		フランス語(IIa 応用)	横地 卓哉	春	月2	1	2	全	247
		フランス語(IIa 応用)	竹内 久雄	春	月2	1	2	全	247
	フランス語(IIb 応用)	横地 卓哉	秋	月2	1	2	全	247	
	フランス語(IIb 応用)	竹内 久雄	秋	月2	1	2	全	247	
	スペイン語	スペイン語(Ia 総合1)	宮下 和大	春	木2	1	1	全	248
		スペイン語(Ia 総合1)	柴田 バネッサ	春	火4	1	1	全	248
		スペイン語(Ib 総合1)	宮下 和大	秋	木2	1	1	全	248
		スペイン語(Ib 総合1)	柴田 バネッサ	秋	火4	1	1	全	248
		スペイン語(Ia 総合2)	篠崎 英樹	春	金4	1	1	全	249
		スペイン語(Ia 総合2)	高橋 睦	春	金4	1	1	全	249
		スペイン語(Ib 総合2)	篠崎 英樹	秋	金4	1	1	全	249
		スペイン語(Ib 総合2)	高橋 睦	秋	金4	1	1	全	249
		スペイン語(Ia 会話)	G. ベギリスタイン	春	月1	1	1	全	250
		スペイン語(Ia 会話)	P. ラゴ	春	月1	1	1	全	250
		スペイン語(Ib 会話)	G. ベギリスタイン	秋	月1	1	1	全	250
		スペイン語(Ib 会話)	P. ラゴ	秋	月1	1	1	全	250

※時間割コードは、『授業時間割表』を参照してください。

時間割 コード	言語	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	スペイン語	スペイン語(IIa 会話1)	C. ガリード	春	金2	1	2	全	251
		スペイン語(IIa 会話1)	P. ラゴ	春	月2	1	2	全	251
		スペイン語(IIb 会話1)	C. ガリード	秋	金2	1	2	全	251
		スペイン語(IIb 会話1)	P. ラゴ	秋	月2	1	2	全	251
		スペイン語(IIa 会話2)	C. ガリード	春	金3	1	2	全	252
		スペイン語(IIa 会話2)	I. ロベルト	春	火2	1	2	全	252
		スペイン語(IIb 会話2)	C. ガリード	秋	金3	1	2	全	252
		スペイン語(IIb 会話2)	I. ロベルト	秋	火2	1	2	全	252
		スペイン語(IIa 総合)	浦部 浩之	春	金2	1	2	全	253
		スペイン語(IIa 総合)	高橋 睦	春	金3	1	2	全	253
		スペイン語(IIb 総合)	浦部 浩之	秋	金2	1	2	全	253
		スペイン語(IIb 総合)	高橋 睦	秋	金3	1	2	全	253
		中国語	中国語(Ia 講読・文法)	河野 直恵	春	金4	1	1	全
	中国語(Ib 講読・文法)		河野 直恵	秋	金4	1	1	全	254
	中国語(Ia 会話1)		張 亜紅	春	木2	1	1	全	255
	中国語(Ib 会話1)		張 亜紅	秋	木2	1	1	全	255
	中国語(Ia 会話2)		張 亜紅	春	火4	1	1	全	256
	中国語(Ib 会話2)		張 亜紅	秋	火4	1	1	全	256
	中国語(IIa 講読・文法)		平野 佐和	春	火2	1	2	全	257
	中国語(IIb 講読・文法)		平野 佐和	秋	火2	1	2	全	257
	中国語(IIa 会話1)		星野 芳欣	春	月2	1	2	全	258
	中国語(IIb 会話1)		星野 芳欣	秋	月2	1	2	全	258
	中国語(IIa 会話2)		秦 敏	春	金3	1	2	全	259
	中国語(IIb 会話2)		秦 敏	秋	金3	1	2	全	259
	韓国語	韓国語(Ia 総合1)	森 勇俊	春	土1	1	1	全	260
		韓国語(Ib 総合1)	森 勇俊	秋	土1	1	1	全	260
		韓国語(Ia 総合2)	森 貞美	春	土2	1	1	全	261
		韓国語(Ib 総合2)	森 貞美	秋	土2	1	1	全	261
		韓国語(Ia 応用)	金 熙淑	春	火4	1	1	全	262
		韓国語(Ib 応用)	金 熙淑	秋	火4	1	1	全	262
		韓国語(IIa 総合1)	金 秀晶	春	金2	1	2	全	263
		韓国語(IIb 総合1)	金 秀晶	秋	金2	1	2	全	263
		韓国語(IIa 総合2)	金 秀晶	春	金3	1	2	全	264
		韓国語(IIb 総合2)	金 秀晶	秋	金3	1	2	全	264
		韓国語(IIa 応用)	金 熙淑	春	火2	1	2	全	265
		韓国語(IIb 応用)	金 熙淑	秋	火2	1	2	全	265

※時間割コードは、『授業時間割表』を参照してください。

## 外国語学部共通科目

時間割 コード	科目名	担当者	開講 学期	曜時	定員	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
19598	総合講座	工藤 和宏	春	水3		2	1	養・経・法	266
19599	総合講座	工藤 和宏	秋	水3		2	1	養・経・法	266
07691	総合講座	廣田 愛理	秋	水2		2	1	養・経・法	267
00220	情報科学概論a	吳 浩東	春	月2	50	2	1	養・経・法	268
	情報科学概論b	休講							
	(入門)情報科学各論	各担当教員							
19458	(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	50	2	1	養・経・法	269
19460		田中 雅英	春	火3	50	2	1	養・経・法	269
19456		長崎 等	春	水1	50	2	1	養・経・法	269
19455		内田 俊郎	秋	木4	50	2	1	養・経・法	269
19592	(情報処理演習)[英語]	羽山 恵	春	木3	50	2	1	養・経・法	270
19593		羽山 恵	秋	木3	50	2	1	養・経・法	270
15229	(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	45	2	1	養・経・法	271
14281		田中 善英	春	金4	45	2	1	養・経・法	271
15230		金井 満	秋	火2	45	2	1	養・経・法	271
14282		田中 善英	秋	金4	45	2	1	養・経・法	271
	(応用)情報科学各論	各担当教員							
19471	(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	30	2	1	養・経・法	272
19450		内田 俊郎	春	木2	30	2	1	養・経・法	272
19462		田中 雅英	秋	火4	30	2	1	養・経・法	272
19472		松山 恵美子	秋	水2	30	2	1	養・経・法	272
19463	(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	30	2	1	養・経・法	273
19464		金子 憲一	秋	月4	30	2	1	養・経・法	273
19465	(Word中級)	金子 憲一	春	月3	30	2	1	養・経・法	274
19467		金子 憲一	春	月5	30	2	1	養・経・法	274
19454		内田 俊郎	春	木4	30	2	1	養・経・法	274
19459		田中 雅英	秋	火2	30	2	1	養・経・法	274
19457		長崎 等	秋	水1	30	2	1	養・経・法	274
19453		内田 俊郎	秋	木3	30	2	1	養・経・法	274
19469	(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	30	2	1	養・経・法	275
19470		松山 恵美子	秋	水3	30	2	1	養・経・法	275
16993	(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	50	2	2	養・経・法	276
16994		吉成 雄一郎	春	金2	50	2	2	養・経・法	277
15232	(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	50	2	2	養・経・法	276
15234		吉成 雄一郎	秋	金2	50	2	2	養・経・法	277
	(HTML)情報科学各論	各担当教員							
19451	(HTML初級)	内田 俊郎	秋	木2	50	2	1	養・経・法	278
19452		内田 俊郎	春	木3	50	2	1	養・経・法	278
19466		金子 憲一	秋	月3	50	2	1	養・経・法	278
19461		田中 雅英	秋	火3	50	2	1	養・経・法	278
19468	(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	30	2	1	養・経・法	279
00087	経済原論a	井上 智弘	春	水2	350	2	1	養・経・法	280
00088	経済原論b	井上 智弘	秋	水2	350	2	1	養・経・法	280
	社会心理学a	休講							
	社会心理学b	休講							

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

09年度以降	交流文化概論 i	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b>  領域も広範なツーリズム関連科目を学ぶ者の入門編として、ツーリズムの基礎的な知識を修得する。  人間の基本的欲求としての旅と観光行為の意味を理解する。又、ツーリズムの経済的役割と産業としての重要性を認識する。併せて、環境問題に果たすツーリズムの役割を理解する。</p> <p><b>講義概要</b>  21世紀は「人類大移動時代」と称されるようになり、観光は産業としてのみならず、人の生きがいとしても重要な要素の一つになっている。語源から旅と観光の意義を把握し、旅と観光の歩みを辿りながらツーリズムの持つ意味を文明的にとらえる。又、旅や観光が持つ経済的影響をツーリズム産業の中核をなす旅行業、宿泊業、航空業を概観することにより理解する。併せて今日的課題である環境問題をエコツーリズムの視点から触れる事により、観光を身近な問題として把握したい。</p> <p>講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要（ツーリズムを学ぶ意味と意義）</li> <li>2. ツーリズムとは・①観光とツーリズムの語源・</li> <li>3. ツーリズムとは・②観光の意義と役割</li> <li>4. 旅と観光の歩み・①旅の始まりと巡礼の時代</li> <li>5. 旅と観光の歩み・②グランドツアーとトーマス・クックの時代</li> <li>6. 旅と観光の歩み・③マスツーリズムの時代</li> <li>7. 旅と観光の歩み・④新しい観光の時代と観光立国</li> <li>8. ツーリズムと文化・①（文化観光と観光行動）</li> <li>9. ツーリズムと文化 ②（観光文化とテーマパーク）</li> <li>10. ツーリズム産業・①航空業</li> <li>11. ツーリズム産業・②宿泊業</li> <li>12. ツーリズム産業・③旅行業</li> <li>13. 新しいツーリズム・環境問題とツーリズム</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。  参考文献：観光学入門（岡本伸之）有斐閣、その他適宜指示する。</p>		<p>試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。</p>	

09年度以降	交流文化概論 ii	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>[講義目的]</b>  トランスナショナル研究の視点から、世界の諸問題を考察する、疑問を持つこと、批判的な分析、思考をおこなうこと。自分の考えを発表することを、目的とする。</p> <p><b>[講義概要]</b>  インターナショナルとトランスナショナル、移民、移住労働者、難民、ディアスポラ、国籍、在留資格、市民権、国境、アイデンティティ、ジェンダー、エスニシティ、先住民、テーマパーク、万国博覧会、オリンピック、ミュージアム、記念碑、野外博物館などをキーワードに、大教室ではあるが、学生参加型の、発表やディスカッションを重視した授業を展開したい。</p>		<p>第1回：イントロダクション  第2回～第13回：毎回のキーワードを中心に授業をする。  第14回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>講義支援システムからダウンロードする。</p>		<p>授業中の課題と、学期末に提出するレポートの合計による。授業を3回以上欠席した者には単位が認められない。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	交流文化概論iii	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半期の授業を通じて、国際関係研究（study of international relations）とはどのような学問なのかを、「戦争」について考えることを通じて理解してもらおう。最終的には、教員による説明をただ受動的に聞くのではなく、授業内容を批判的に聞き、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。</p> <p>毎回の授業の冒頭では、学生諸君に日々変化する国際情勢に関心を持ってもらうために、その週の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を30分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。</p> <p>授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。</p> <p>この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。</p> <p>なお私語は厳禁、真剣に学ぼうとする学生の邪魔をするものには、即座に退室してもらおう。</p>		<p>第1回：国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス①</p> <p>第2回：国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス②</p> <p>第3回：国際関係論はなぜ生まれたのか</p> <p>第4回：国際関係における個人・国家 ～個人と国家の安全と国際関係の安定</p> <p>第5回：戦争とは何か①その定義</p> <p>第6回：戦争とは何か②国際関係の構造と戦争</p> <p>第7回：戦争とは何か③戦争と国家 ～戦争は何をもたらすのか</p> <p>第8回：戦争とは何か④戦争観の変化 ～正戦論、無差別戦争観、人道的介入</p> <p>第9回：戦争とは何か⑤国際関係における正義と戦争 ～オバマ米大統領のノーベル平和賞受賞スピーチから</p> <p>第10回：戦争とは何か⑥新しい紛争 ～21世紀の紛争の特徴とは何か</p> <p>第11回：戦争とは何か⑦戦争の主体 ～「現代の傭兵」民間軍事会社（PMC）の登場</p> <p>第12回：戦争とは何か⑧核兵器と国際関係 ～オバマ米大統領の「核なき世界」演説から</p> <p>第13回：戦争とは何か⑨積極的平和と消極的平和 ～構造的暴力のない世界を目指して</p> <p>第14回：戦争とは何か⑩国際秩序と国家</p> <p>第15回：まとめ（質疑応答）&amp;国際関係をさらに学ぶには</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布する。		不定期に実施するリアクションペーパーの提出（40%）と定期試験（論述形式、60%）による評価。	

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[講義目的] 大学で勉強することの意味を考える。</p> <p>[講義概要] これから 4 年間、大学で勉強していく上で必要な、文献の検索や、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方などの技術を習得する。また、交流文化学科の専門分野を学ぶ導入として、ゼミ形式でディスカッションを重視する。春、秋、それぞれ一回ずつ教室でプレゼンテーションをし、学年末には、自分の研究成果をまとめられるようにする。</p>		<p>第 1 回：イントロダクション 第 2 回～第 13 回：ディスカッションとプレゼンテーション 第 14 回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『知へのステップ』（くろしお出版）		授業への積極的な参加、授業中に提出する課題、プレゼンテーション、レポートなどを総合的に評価する。	

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
基礎演習 I の続き		<p>第 1 回：イントロダクション 第 2 回～第 13 回：ディスカッションとプレゼンテーション 第 14 回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
森達也『世界を信じるためのメソッド』（理論社）		授業への積極的な参加、授業中に提出する課題、プレゼンテーション、レポートなどを総合的に評価する。	

09年度以降	基礎演習 I	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>交流文化学科 1 年生のゼミ形式の必修科目です。先生の話聞いて学ぶのではなく、大学ではどのように勉強したらよいか、を実際に自分でテーマを探し、それを発表し、他の学生と討論することにより学んでいく授業です。基本的なアカデミック・スキル(大学で学ぶ技能)を身につけるのが、この授業の目的です。</p> <p>春学期では、アカデミック・スキル(Study Skills)について書かれたテキストを用いて、学びます。毎週、テキストの 1 章ずつくらいの進捗で進む予定です。グループでの討論を通じて、テキストの内容理解を深めたり、課題などの発表、情報交換をしてもらいたいと思います。</p> <p>授業計画に、使用予定テキストの各章のテーマを書きおきます。テキストの学習と並行して、毎回簡単な課題を出し、学期末に課題をまとめた「研究発表」をしてもらう予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：スタディ・スキルズとは</li> <li>2. ノート・テイキング</li> <li>3. リーディングの基本スキル</li> <li>4. より深いリーディングのために</li> <li>5. 大学図書館における情報収集</li> <li>6. インターネットによる情報収集</li> <li>7. 情報の整理</li> <li>8. アカデミック・ライティングの基本スキル</li> <li>9. 効果的なアカデミック・ライティングのために</li> <li>10. パソコンによるライティング・スキル</li> <li>11. プレゼンテーションの基本スキル</li> <li>12. わかりやすいプレゼンテーションのために</li> <li>13. 研究発表(1)</li> <li>14. 研究発表(2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
学習技術研究会編『知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ』（くろしお出版，2006）		授業参加度、複数回提出のミニ・レポート、最終レポートをもとに総合的に評価します。	

09年度以降	基礎演習 II	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「基礎演習 I」の継続です。多様なトピックをグループや個人で調査・研究して、それらをクラスメートの前で発表し、さらにそれらについて討論をすることを通じて、学問への取り組み方を身につけていきます。</p> <p>春学期に学んだテキストを復習することにより、アカデミック・スキルを実際に身につけてもらいます。また、春学期より、調査しがいいあるテーマを選び、学期末にプレゼンテーションとレポート提出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：秋学期の授業計画</li> <li>2. 大学図書館における情報収集(1)</li> <li>3. 大学図書館における情報収集(2)</li> <li>4. インターネットによる情報収集(3)</li> <li>5. インターネットによる情報収集(3)</li> <li>6. インターネットによる情報収集(4)</li> <li>7. 情報の整理</li> <li>8. アカデミック・ライティング(1)</li> <li>9. アカデミック・ライティング(2)</li> <li>10. アカデミック・ライティング(3)</li> <li>11. プレゼンテーションの基本スキルとわかりやすいプレゼンテーションのために</li> <li>12. 研究発表(1)</li> <li>13. 研究発表(2)</li> <li>14. 研究発表(3)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
学習技術研究会編『知へのステップ：大学生からのスタディ・スキルズ』（くろしお出版，2006）		授業参加度、複数回提出のミニ・レポート、最終レポートをもとに総合的に評価します。	

09年度以降	基礎演習 I	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の基礎演習では、大学における最低限のスタディスキルを身につけることを最大の目標とし、原則として教科書に準拠しながら、文献の読み方、要約の仕方、図書館の活用法、レポートの書き方、引用ルールなどについて学習します。基本的に講義形式となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クラスガイダンス</li> <li>2. 全体ガイダンス</li> <li>3. 自己紹介、MLづくり</li> <li>4. 大学と高校の違い、スタディスキルズとは</li> <li>5. ノート・テイキング</li> <li>6. リーディングの基本スキル</li> <li>7. より深いリーディングのために</li> <li>8. 文を読んで要約する</li> <li>9. 図書館ガイダンス ※日程は前後する可能性あり</li> <li>10. 作文とレポートの違いとは</li> <li>11. アカデミック・ライティングの基本スキル①</li> <li>12. アカデミック・ライティングの基本スキル②</li> <li>13. 引用ルール</li> <li>14. 旅行博打ち合わせ</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>学習技術研究会『知へのステップ 改訂版』くろしお版 ※各自で購入して下さい。</p>		<p>出席点 (40%)、提出物 (60%)、受講態度 (±α)</p>	

09年度以降	基礎演習 II	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期の基礎演習では、グループ・ワークによる資料作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより学習を進めていきます。とりあげる題材は、社会・文化のトランスナショナル化に関するものとし、1年間の学習の総括として、個人のタームペーパー（レポート）を作成します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方について</li> <li>2. 旅行博関連プレゼン①</li> <li>3. 旅行博関連プレゼン②</li> <li>4. 旅行博関連プレゼン③</li> <li>5. 旅行博関連プレゼン④</li> <li>6. 文献輪読と議論①</li> <li>7. 文献輪読と議論②</li> <li>8. 文献輪読と議論③</li> <li>9. 文献輪読と議論④</li> <li>10. タームペーパー計画・中間報告①</li> <li>11. タームペーパー計画・中間報告②</li> <li>12. タームペーパー計画・中間報告③</li> <li>13. タームペーパー計画・中間報告④</li> <li>14. タームペーパー計画・中間報告⑤</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>学習技術研究会『知へのステップ 改訂版』くろしお出版 ※各自で購入して下さい。 参考文献は適宜提示。</p>		<p>出席点 (40%)、レジメ+プレゼン (30%)、その他提出物 (30%)、受講態度 (±α)</p>	

09年度以降	基礎演習 I	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本演習は、1. グループ・ワークによる小研究（＝実践的な学習）を通じて、大学で勉強・研究するための基礎的な考え・技法を身につけること、2. グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況のなかでの文化の動態について学問的に分析する能力を養うこと、を目的としている。</p> <p>本演習ではまず、担当者が数回、文献資料収集やフィールドワーク技法、プレゼンテーション技法、レポート作成技法等について講義を行なう。そしてこの講義をふまえた上で、後半はグループごとに指定した課題に関する小研究を行なってもらう。</p> <p>小研究で扱うトピックは多岐にわたるが、現在のところ「世界の食文化」「世界の観光事情」「身近なものから考えるグローバリゼーション」などを予定している。小研究のトピックは、受講生の関心・能力等によって変更する可能性がある。詳細については、初回授業で説明する。</p> <p>また週末や夏季休業等を利用した課外授業を実施することもある（実費負担）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体ガイダンス</li> <li>2. 個別趣旨説明・自己紹介・グループ分け</li> <li>3. 講義 2：研究とは何か</li> <li>4. 講義 3：文献資料収集の作法</li> <li>5. 講義 4：文献資料の読解・引用の流儀</li> <li>6. 講義 5：フィールドワークの技法</li> <li>7. 講義 6：プレゼンテーション・レポート作成技法</li> <li>8~10 回：グループワークによる小研究</li> <li>11~14 回：小研究の成果発表</li> </ol> <p>（授業計画はあくまで目安ですので、変更になる可能性があります）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤望ほか（編）2006『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』		小レポート・小研究の成果発表（70%）、学期末レポート（30%）。ただし、4回以上欠席の者は特段の理由がない限り、単位認定の資格を失う。	

09年度以降	基礎演習 II	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続き、グループごとの小研究・プレゼンテーションを毎回行なう。</p> <p>自分で調べたことをクラスメートの前で発表し、議論することを通じて、大学で勉強する際に必要なアカデミック・スキルを磨くと同時に、研究を行なうための感性や想像力を養う。</p> <p>また春学期からの継続課題の他、基礎文献の内容紹介を行なう。基礎文献の内容紹介については、担当教員が配布する課題図書リスト（基本的には小研究の課題に関連した新書や文庫。詳細は初回授業で説明する）のなかから、グループごとに1つ文献を選択してもらう。</p> <p>また週末等を利用した課外授業を実施することもある（実費負担）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2~6 回 プレゼンテーション</li> <li>7~13 回 課題図書の内容紹介。</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。課題図書リストを初回授業で配布する。		小レポート・小研究の成果発表（70%）、学期末レポート（30%）。ただし、4回以上欠席の者は特段の理由がない限り、単位認定の資格を失う。	

09年度以降	基礎演習 I	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>大学での「学び」と何でしょうか。それは高校とは違い、学生の自発的、積極的な取り組みが求められるものです。大学生は、ただ教師から与えられ、教えられる知識、そしてそれをもとに出来上がっている世界を盲目的に受け入れるのではなく、それらを「批判的」に受け止める姿勢を持つことが大切です。</p> <p>そして大学での「学び」を通じて（その「学び」がなんであれ）、これまで当たり前だ、常識だと教えられてきた世界に疑問を持ち、真実とは何かを見極める力を身につけて欲しいと思っています。大学での「学び」を通じて獲得した能力や姿勢は、卒業後の人生にとっても大いに役立つものです。</p> <p>授業では、前半では教員の用意する資料を使用しながら、大学で講義を聞くこと、疑問に思うこと、調べること、読むこと、考えをまとめること、書くこと、発表することとは何かを理解し、後半ではテキストの輪読と発表・討論を通じて、前半で学んだことを実践に移します。この授業を通じて、これから3ないし4年間の大学生活が、少しでも有意義なものとなるように願っています。</p> <p>なお4月、5月、6月、7月にそれぞれ課題を設定し、レポートの提出を義務づけます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス—この授業の進め方に関するオリエンテーション（第1週）</li> <li>2. 配付資料についての講義と討論（第2～第4週）</li> <li>3. テキストの内容（第1～第8章）についてのグループ・プレゼンテーション（第5～13週） *テキストの内容をまとめ、疑問に思った点、重要だと思われる点をいくつか取り上げて、それについて自分たちで調べた結果を報告します。レジメ（A3用紙1枚程度）を用意します。発表時間はおよそ40分とします。その後の質疑応答も、発表者が司会進行を務めます。</li> <li>4. まとめと秋学期にむけたガイダンス</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
高柳先男『戦争を知るための平和学入門』筑摩書房、2000年。		出欠（30%）、課題の提出状況（40%）、プレゼンテーション（30%）とします。3回以上欠席した場合には、単位取得の権利を失います。また、遅刻は2回で欠席1回に相当します。	

09年度以降	基礎演習 II	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期は、春学期に学んだことをもとにより実践に近い形で授業を進めます。自ら問題提起を行い、それについて調査し、結果を口頭で発表し、最終的に文章にしたためます。大学生としてふさわしい一連の知的作業を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期のオリエンテーション（第1週）</li> <li>2. 個人によるプレゼンテーション（第2～13週） *1週あたり2人の発表を予定しています。 *1人につき約20分のプレゼン（レジメ[A3用紙1枚程度]を用意）と約10分の質疑応答を行い、その後リアクションペーパーを書く時間を設けます。</li> <li>3. まとめ—最終レポートについて（第14週）</li> </ol> <p><b>【注意事項】</b> 第2～13週の個人発表終了後には、発表担当者を除く全学生に対して<b>リアクションペーパーの提出</b>を求めます。発表を受けて自分が考えたこと、疑問に思ったことなどを出来る限り詳しく書くこと。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特にテキストは指定しません。参考文献については授業の中で紹介します。		Presentation（20%）、リアクションペーパー（20%）、出欠（20%）、最終レポート（40%）で成績評価を行います。3回以上欠席した場合には、単位取得の権利を失います。また、遅刻は2回で欠席1回に相当します。	

09年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	前沢浩子・片山亜紀 島田啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ウィリアム・シェイクスピア、チャールズ・ディケンズ、マーク・トウェイン。イギリス文学とアメリカ文学には、世界中の多くの人々はその名を知っているような作家たちが何人もいる。あるいはそれほど一般には知られていないにしろ、第一級の文学作品を書いたと定評のある作家たちも数多い。</p> <p>この講義では、そのすべてを網羅することはできないが、英米の名だたる文学作品のハイライトを授業毎にいくつか紹介し、文学ならではの表現や発想を原文を示しながら解説する。また、背景となった文化、社会、政治についても同時に解説していく。受講者には、個々の文学作品を手がかりとしつつ、イギリスとアメリカの歴史の大きな流れを頭の中で思い描けるようになってほしい。</p> <p>なお、3名の教員で担当し、ほぼ年代順、地域順に講義を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イギリス文学史、アメリカ文学史 (片山)</li> <li>2. ユニオン・ジャックとシェイクスピア (前沢)</li> <li>3. 18世紀の市民社会とジャーナリズム (前沢)</li> <li>4. フランス革命とイギリス・ロマン派 (前沢)</li> <li>5. グローバリゼーションとイギリス文学 (前沢)</li> <li>6. ゴシック小説と『フランケンシュタイン』 (片山)</li> <li>7. ヴィクトリア時代と教養小説 (片山)</li> <li>8. 二つの世界大戦とヴァージニア・ウルフ (片山)</li> <li>9. 大英帝国の凋落とポストコロニアル文学 (片山)</li> <li>10. 多民族国家アメリカ (島田)</li> <li>11. アメリカン・ルネッサンスとリアリズム (島田)</li> <li>12. 自然主義とモダニズム (島田)</li> <li>13. モダニズムとフォークナー (島田)</li> <li>14. まとめ：英語文学の広がり (片山)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはハンドアウトを用意する。 参考文献は毎回の授業で適宜紹介する。</p>		<p>定期試験による。詳細は開講時に説明する。</p>	

09年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	前沢浩子・片山亜紀 島田啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ウィリアム・シェイクスピア、チャールズ・ディケンズ、マーク・トウェイン。イギリス文学とアメリカ文学には、世界中の多くの人々はその名を知っているような作家たちが何人もいる。あるいはそれほど一般には知られていないにしろ、第一級の文学作品を書いたと定評のある作家たちも数多い。</p> <p>この講義では、そのすべてを網羅することはできないが、英米の名だたる文学作品のハイライトを授業毎にいくつか紹介し、文学ならではの表現や発想を原文を示しながら解説する。また、背景となった文化、社会、政治についても同時に解説していく。受講者には、個々の文学作品を手がかりとしつつ、イギリスとアメリカの歴史の大きな流れを頭の中で思い描けるようになってほしい。</p> <p>なお、3名の教員で担当し、ほぼ年代順、地域順に講義を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イギリス文学史、アメリカ文学史 (片山)</li> <li>2. ユニオン・ジャックとシェイクスピア (前沢)</li> <li>3. 18世紀の市民社会とジャーナリズム (前沢)</li> <li>4. フランス革命とイギリス・ロマン派 (前沢)</li> <li>5. グローバリゼーションとイギリス文学 (前沢)</li> <li>6. ゴシック小説と『フランケンシュタイン』 (片山)</li> <li>7. ヴィクトリア時代と教養小説 (片山)</li> <li>8. 二つの世界大戦とヴァージニア・ウルフ (片山)</li> <li>9. 大英帝国の凋落とポストコロニアル文学 (片山)</li> <li>10. 多民族国家アメリカ (島田)</li> <li>11. アメリカン・ルネッサンスとリアリズム (島田)</li> <li>12. 自然主義とモダニズム (島田)</li> <li>13. モダニズムとフォークナー (島田)</li> <li>14. まとめ：英語文学の広がり (片山)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはハンドアウトを用意する。 参考文献は毎回の授業で適宜紹介する。</p>		<p>定期試験による。詳細は開講時に説明する。</p>	

09年度以降	英語の世界 I	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【目的】</b> 英語学(English linguistics)の学問研究から得られた英語についての知見を紹介することを通じ、高校時代までに習ってきた英語の知識(単語の意味・イントネーション・語法・構文)のうちで間違っ習った点を正しながら、さらに一歩掘り下げ、正しい知識であっても、なぜそのように言えて別の言い方ができないのかということを中心に解説する。したがってこの講義を受講すると、例えば、高校時代に楽器には定冠詞を付けて <b>play the guitar</b> と言わなければならないと教わるが、冠詞を付けなくとも、あるいは <b>a</b> と <b>the</b> のどちらを付けてもよく、ただ単にギターという楽器にたいする意味づけの仕方が異なるだけであるということがわかるようになる。</p> <p><b>【概要】</b> 右の授業計画に沿い、高校時代までに学習してきた英語の知識にたいし、「どうしてそうは言えてもこうは言えないのか？」という素朴な疑問に対し、現代言語学の観点からその成果を踏まえて説明することを試みる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 不定冠詞付き名詞は何を意味するか？</li> <li>3. 定冠詞付き名詞は何を意味するか？</li> <li>4. 数えられる名詞と数えられない名詞</li> <li>5. 時制と相 (現在時制と過去時制・進行相)</li> <li>6. 時制と相 (完了相)</li> <li>7. モダリティ (命題態度・発話態度表現)</li> <li>8. 動詞の意味と構文①</li> <li>9. 動詞の意味と構文②</li> <li>10. 動詞の意味と構文 (構文交替のメカニズムを探る)</li> <li>11. 存在を表す構文 (<b>There</b> 構文、はだか存在文、提示文)</li> <li>12. 否定の意味 (文否定と構成素否定・二重否定)</li> <li>13. 否定の意味 (部分否定と全体否定)</li> <li>14. 否定の意味 (<b>much・any/some・few/a few/several</b>)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：本学の講義支援ポータルサイトを通じてプリントを配布する。 参考書：授業中に適宜紹介する。</p>		課題と小テストおよび定期試験で決める。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	English for Business I	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>初学者を対象に、writing、reading を問わずビジネス場面における基礎レベルの英語運用能力を幅広く習得し、上級科目である「Business Writing」、「英語ビジネス・コミュニケーション」、「英語ビジネス・コミュニケーション実務」等を履修するための予備的な実力を養成します。</p> <p>Writing では e-learning プログラムを利用し、単語レベルから単文作成、文書の構築まで、ステップアップ式のメソッドで学習していき、Eメールの作成を中心とした、日常業務で使われる様々な文書形式と実際のシチュエーションに対応した実践的な学習をします。</p> <p>Reading では、英字新聞などに使用されているビジネスに関する基本的な語彙と語彙の説明や言い回しを学んでいきます。例えば、英字新聞によく使用される単語である失業率 (unemployment rate/jobless rate)、貿易黒字 (trade surplus) 買収する (acquire) などの語彙を学んで、Writing と関連させてビジネス英語の基本を習得していただきます。</p>		各担当教員が第1回目の授業で提示する。	
<b>テキスト</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(1) 『ライティングコース』(e-learning: 成美堂)</p> <p>(2) 英字新聞などの教材</p>		担当者が第1回目の授業で説明する。	

09年度以降	English for Business II	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>English for Business I で用いた e-learning プログラム教材を引き続き使い、Eメールの作成を中心とした、日常業務で使われる様々な文書形式と実際のシチュエーションに対応した実践的な学習をします。</p> <p>そして reading では、「English for Business I」同様、英字新聞などいろいろな種類の、幅広い意味でビジネスに係る文献を読みこなし、ビジネス英語の基本を習得していただきます。</p>		各担当教員が第1回目の授業で提示する。	
<b>テキスト</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(1) 『ライティングコース』(e-learning: 成美堂)</p> <p>(2) 英字新聞などの教材</p>		担当者が第1回目の授業で説明する。	

09年度以降	Listening & Speaking	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The primary aim of this course is to help students further develop their competency in communicative English. The course will have as its foundation a set course text, titled Consider the Issues-Listening and Critical Thinking Skills. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: Reading and discussion topic one  Week 3: Reading and discussion topic two  Week 4: Reading and discussion topic three  Week 5: Reading and discussion topic four  Week 6: Reading and discussion topic five  Week 7: Reading and discussion topic six  Week 8: Reading and discussion topic seven  Week 9: Reading and discussion topic eight  Week 10: Reading and discussion topic nine  Week 11: Reading and discussion topic ten  Week 12: Power Point presentations eleven  Week 13: Presentations  Week 14: Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Consider the Issues-Listening and Critical Thinking Skills		Grades will be based on attendance, participation, and projects	

09年度以降	Listening and Speaking for TOEFL® & TOEIC®	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This semester is a continuation of the first semester. However, it will place emphasis on the TOEFL/TOEIC vocabulary practice.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: TOEFL/ TOEIC Pract. discussion 1  Week 3: TOEFL/TOEIC Pract discussion 2  Week 4: TOEFL/TOEIC Pract discussion 3  Week 5: TOEFL/TOEIC Pract discussion 4  Week 6: TOEFL/TOEIC Pract discussion 5  Week 7: TOEFL/TOEIC Pract discussion 6  Week 8: TOEFL/TOEIC Pract discussion 7  Week 9: TOEFL/TOEIC Pract discussion 8  Week 10: TOEFL/TOEIC Pract discussion 9  Week 11: TOEFL/TOEIC Pract discussion 10  Week 12: TOEFL/TOEIC Pract discussion 11  Week 13: Presentations  Week 14: Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Consider the Issues-Listening and Critical Thinking Skills		Grades will be based on attendance, participation, and projects	

09年度以降	Listening and Speaking (火2)	担当者	P. ドーレ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Listening and speaking go hand-in-hand. Speaking helps improve your listening, and listening helps you to build your vocabulary for speaking.</p> <p>In this class, you will talk about the various topics you are introduced to through listening. We will use the internet a lot to give you a chance to hear authentic texts.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Introduction to topic issues, concepts, and vocabulary.</li> <li>3. Listening strategies I.</li> <li>4. Listening I. and discussion</li> <li>5. Discussion strategies I.</li> <li>6. Listening II. and discussion</li> <li>7. Continuation and review of Listening II.</li> <li>8. Listening strategies II.</li> <li>9. Listening III. and discussion</li> <li>9. Continuation and review of Listening III.</li> <li>10. Discussion strategies II.</li> <li>11. Listening IV. and discussion</li> <li>12. Continuation and review of Listening IV.</li> <li>13. In-class review of content</li> <li>14. Final listening and discussion</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their listening and discussion skills.	

09年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC® (火2)	担当者	P. ドーレ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Listening and speaking go hand-in-hand. Speaking helps improve your listening, and listening helps you to build your vocabulary for speaking.</p> <p>In this class, you will talk about the various topics you are introduced to through listening. We will use the internet a lot to give you a chance to hear authentic texts.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Introduction to topic issues, concepts, and vocabulary.</li> <li>3. Listening strategies I.</li> <li>4. Listening I. and discussion</li> <li>5. Discussion strategies I.</li> <li>6. Listening II. and discussion</li> <li>7. Continuation and review of Listening II.</li> <li>8. Listening strategies II.</li> <li>9. Listening III. and discussion</li> <li>9. Continuation and review of Listening III.</li> <li>10. Discussion strategies II.</li> <li>11. Listening IV. and discussion</li> <li>12. Continuation and review of Listening IV.</li> <li>13. In-class review of content</li> <li>14. Final listening and discussion</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their listening and discussion skills.	

09年度以降	Listening & Speaking (水3)	担当者	担当者未定
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語の音の本質を理解し、日本語の特質との違いを把握させることを主眼とする。</p> <p>歌には言語の特質が端的に現れる。歌詞と曲を集中的に学ぶことは英語の音の特質を把握する効果的方法の一つである。本授業ではよく知られた歌を取り上げ英語のリズムの特徴を理解し、さらに再現できることを目指す。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Lesson 1</p> <p>第3回 Lesson 1</p> <p>第4回 Lesson 2</p> <p>第5回 Lesson 2</p> <p>第6回 Lesson 3</p> <p>第7回 Lesson 3</p> <p>第8回 Lesson 4</p> <p>第9回 Lesson 4</p> <p>第10回 Lesson 5</p> <p>第11回 Lesson 5</p> <p>第12回 Lesson 6</p> <p>第13回 Lesson 6</p> <p>第14回 Lesson 6</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Hot Beat Listening 3 <sup>rd</sup> Edition Macmillan Languagehouse Macmillan Languagehouse		定期試験と課題および授業における参加度による。	

09年度以降	Listgening & Speaking for TOEFL® & TOEIC® (水3)	担当者	日野 克美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的Listeningの訓練を行いTOEIC及びTOEFL等の試験に対応できるよう配慮する。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Lesson 7</p> <p>第3回 Lesson 7</p> <p>第4回 Lesson 8</p> <p>第5回 Lesson 8</p> <p>第6回 Lesson 9</p> <p>第7回 Lesson 9</p> <p>第8回 Lesson 10</p> <p>第9回 Lesson 10</p> <p>第10回 Lesson 11</p> <p>第11回 Lesson 11</p> <p>第12回 Lesson 12</p> <p>第13回 Lesson 12</p> <p>第14回 Lesson 13</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Hot Beat Listening 3 <sup>rd</sup> Edition Macmillan Languagehouse		定期試験と課題、および授業における参加度による。	

09年度以降	Listening & Speaking (水2)	担当者	担当者未定
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語の音の本質を理解し、日本語の特質との違いを把握させることを主眼とする。</p> <p>歌には言語の特質が端的に現れる。歌詞と曲を集中的に学ぶことは英語の音の特質を把握する効果的方法の一つである。本授業ではよく知られた歌を取り上げ英語のリズムの特徴を理解し、さらに再現できることを目指す。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Lesson 1</p> <p>第3回 Lesson 1</p> <p>第4回 Lesson 2</p> <p>第5回 Lesson 2</p> <p>第6回 Lesson 3</p> <p>第7回 Lesson 3</p> <p>第8回 Lesson 4</p> <p>第9回 Lesson 4</p> <p>第10回 Lesson 5</p> <p>第11回 Lesson 5</p> <p>第12回 Lesson 6</p> <p>第13回 Lesson 6</p> <p>第14回 Lesson 6</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Hot Beat Listening 3 <sup>rd</sup> Edition Macmillan Languagehouse Macmillan Languagehouse		定期試験と課題および授業における参加度による。	

09年度以降	Listgening & Speaking for TOEFL® & TOEIC® (水2)	担当者	日野 克美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的Listeningの訓練を行いTOEIC及びTOEFL等の試験に対応できるよう配慮する。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Lesson 7</p> <p>第3回 Lesson 7</p> <p>第4回 Lesson 8</p> <p>第5回 Lesson 8</p> <p>第6回 Lesson 9</p> <p>第7回 Lesson 9</p> <p>第8回 Lesson 10</p> <p>第9回 Lesson 10</p> <p>第10回 Lesson 11</p> <p>第11回 Lesson 11</p> <p>第12回 Lesson 12</p> <p>第13回 Lesson 12</p> <p>第14回 Lesson 13</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Hot Beat Listening 3 <sup>rd</sup> Edition Macmillan Languagehouse		定期試験と課題、および授業における参加度による。	

09年度以降	Listening and Speaking (火1)	担当者	P. ドーレ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Listening and speaking go hand-in-hand. Speaking helps improve your listening, and listening helps you to build your vocabulary for speaking.</p> <p>In this class, you will talk about the various topics you are introduced to through listening. We will use the internet a lot to give you a chance to hear authentic texts.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Introduction to topic issues, concepts, and vocabulary.</li> <li>3. Listening strategies I.</li> <li>4. Listening I. and discussion</li> <li>5. Discussion strategies I.</li> <li>6. Listening II. and discussion</li> <li>7. Continuation and review of Listening II.</li> <li>8. Listening strategies II.</li> <li>9. Listening III. and discussion</li> <li>9. Continuation and review of Listening III.</li> <li>10. Discussion strategies II.</li> <li>11. Listening IV. and discussion</li> <li>12. Continuation and review of Listening IV.</li> <li>13. In-class review of content</li> <li>14. Final listening and discussion</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their listening and discussion skills.	

09年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC® (火1)	担当者	P. ドーレ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Listening and speaking go hand-in-hand. Speaking helps improve your listening, and listening helps you to build your vocabulary for speaking.</p> <p>In this class, you will talk about the various topics you are introduced to through listening. We will use the internet a lot to give you a chance to hear authentic texts.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Introduction to topic issues, concepts, and vocabulary.</li> <li>3. Listening strategies I.</li> <li>4. Listening I. and discussion</li> <li>5. Discussion strategies I.</li> <li>6. Listening II. and discussion</li> <li>7. Continuation and review of Listening II.</li> <li>8. Listening strategies II.</li> <li>9. Listening III. and discussion</li> <li>9. Continuation and review of Listening III.</li> <li>10. Discussion strategies II.</li> <li>11. Listening IV. and discussion</li> <li>12. Continuation and review of Listening IV.</li> <li>13. In-class review of content</li> <li>14. Final listening and discussion</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their listening and discussion skills.	

09年度以降	Grammar for TOEFL® & TOEIC® I	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ英語学科の学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英文法の知識を身につけてもらうことである。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語という言語の規則性を探っていく習慣を身につけていく方法が、結局は効率の良い学習方法である、ということがわかるようになる。この授業では、テキストを基にした講義から、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたい。〈下へ続く〉</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在と過去のコト</li> <li>2. 未来のコト</li> <li>3. 動詞で語るコト</li> <li>4. 続き</li> <li>5. 話し手の態度の表現（助動詞）</li> <li>6. 続き（助動詞の過去形、副詞・形容詞）</li> <li>7. 続き（助動詞の関連表現）</li> <li>8. 表に出ない行為者（能動文と受動文）</li> <li>9. 続き</li> <li>10. HAVE, BE, ING のちから</li> <li>11. 続き</li> <li>12. 動詞の共演者と構文タイプ</li> <li>13. 続き</li> <li>14. 続き</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>田中茂範『NHK 新感覚☆わかる使える英文法 文法がわかれば英語はわかる！』日本放送出版協会 ¥1100</p>		<p>定期試験と課題とオンライン学習の成果、および授業における参加度による。</p>	

09年度以降	Grammar for TOEFL® & TOEIC® II	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〈上からの続き〉 表現する主体（話し手もしくは書き手）と文法とはけして無関係ではないという立場から、表現主体を中心に英文法を考える。そして、表現主体が周りの世界を以下に表現するかという観点からも英文法を見る。そして、「なぜそうは言えてもこうは言えないのか？」には意味的な動機付け（semantic motivation）がある。したがって、文法は「なぜそうなのか」という間にたいしてかなりの程度説明することができということになる。そうなるとつまり、英文法は納得しながら学ぶことができ、「現在完了形と過去形の違いは何か」「a と the の違いは何か」とか、同じコトを表すのに 'I' m standing on/in the street.' の使い分けができるようになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 形容詞を中心とした構文</li> <li>2. 動詞の文法の総括</li> <li>3. モノ（名詞）の文法</li> <li>4. 続き</li> <li>5. 修飾語とその配列順</li> <li>6. あとから言い足していく語り方（後置修飾）</li> <li>7. 続き</li> <li>8. 代名詞と指示詞、そして名詞節</li> <li>9. 続き</li> <li>10. 副詞で状況を語る</li> <li>11. 続き</li> <li>12. さまざまな副詞表現</li> <li>13. 仮想の状況を設定する</li> <li>14. 情報の接続と論理</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>春・秋学期ともに、オンライン教材（上記教室用テキスト代とは別に費用が必要）を教室外の学習補助教材として使用する。したがって、キーボードとパソコン操作のことが必要。</p>		<p>定期試験と課題とオンライン学習の成果、および授業における参加度による。</p>	

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[講義目的] 英文の講読を通じて、世界について考える。</p> <p>[講義概要] 主に海外の新聞記事を読む。英語の読解力をつけることは勿論だが、背景について知り、自分の考えをまとめ、発言していくことが重要になる。</p>		<p>第1回：イントロダクション 第2回～第13回：講読 第14回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント（講義支援システムを通じて配布する。）		授業への積極的な参加と、毎週提出する課題による。	

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Reading Strategies I の続き		<p>第1回：イントロダクション 第2回～第13回：講読 第14回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント（講義支援システムを通じて配布する。）		授業への積極的な参加と、毎週提出する課題による。	

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目標： 英語の語彙を増やししながら、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する。</p> <p>授業概要： 短編小説を中心に、毎週、予定された範囲を予習してもらい、パラグラフごとに英語や日本語で要約したり、精読が必要な箇所は、和訳したりしてもらいます。 Web上の時事英語などもミニ・レポートのテーマとして極力扱い、リアルタイムに世界で今、何が起きているか、関心を持ってもらいたいと思います。 時間の許す限り、RLR練習(Read, Look Up, and Repeat: テキストの英文を声を出して読み、一つの文章を読むごとに、テキストから目を離して、その文章をリピートする練習)を用いて、英語の総合力アップも図りたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のやり方、評価方法などの説明、RLR練習の実習など</li> <li>2. 約2ページから5ページの範囲で、使用テキストを輪読する。</li> <li>3. 同上。随時、Web上の課外読み物を扱う。</li> <li>4. 以下同じ。</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト: プリントを使用の予定 参考文献: 授業で随時紹介</p>		授業参加度、ミニ・テスト、ミニ・レポート、定期試験の結果を総合的に評価する。	

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目標： “Reading Strategies I”に引き続き、英語の語彙力をつけながら、直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。“Reading Strategies I”で身につけた基礎的な読解技能を定着させ、発展させる。</p> <p>授業概要： 春学期の該当箇所を参照してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 約2ページから5ページの範囲で、使用テキストを輪読する。</li> <li>2. 同上。随時、Web上の課外読み物を扱う。</li> <li>3. 以下同じ。</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト: プリントを使用の予定 参考文献: 授業で随時紹介</p>		授業参加度、ミニ・テスト、ミニ・レポート、定期試験の結果を総合的に評価する。	

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、英語の語彙を増やし、かつ日本や外国の文化を理解する力を付けるとともに、正確に英語を理解するための基礎的な読解技能を習得することである。</p> <p>毎回の学習項目には以下の内容が含まれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 語彙の増強</li> <li>2. 音読</li> <li>3. 本文の読解</li> <li>4. 読解技能</li> <li>5. 文法の確認</li> </ol> <p>授業は、予習がなされていることを前提に進める。テキスト本文の理解については、授業中に学生の発表によって確認し、本文の音読を行う。音読に際して、文章の区切り目や抑揚等については授業担当者が適宜指導する。また、読解技能や文法事項の確認に関しては、授業担当者が講義または質疑応答を行なう。</p> <p>テキストの内容は、時事的な問題も含まれているし、日本や外国の文化を理解するうえで重要な問題も含まれている。学生諸君は、テキストに書かれている内容にとどまらず、興味・関心のあるトピックについては、図書館などを利用し、さまざまな情報を調べて授業に臨んでもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation</li> <li>2. Lesson 1: Multicultural Japan</li> <li>3. Lesson 2: The Ainu Language Is Forever</li> <li>4. Lesson 3: A British Boy Growing Up in Japan</li> <li>5. Lesson 4: Signs Written in Multiple Language</li> <li>6. Lesson 5: Brazilian Children at a Disadvantage</li> <li>7. Lesson 6: Foreign-language Education in Japan</li> <li>8. Lesson 7: A Theme Park for a Multilingual World</li> <li>9. Lesson 8: Language Support for Foreign Residents in Yao</li> <li>10. Lesson 9: Osakorean Town</li> <li>11. Lesson 10: Cross-cultural Marriage in Japan</li> <li>12. Lesson 11: International schools in Kobe</li> <li>13. Lesson 12: A Multilingual Radio Station</li> <li>14. Lesson 13: Nurses from Indonesia</li> </ol> <p>基本的には上記の予定で進めるが、学生の興味・関心に応じて、以下のトピックと差し替えることもありうる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Foreign Residents and Their Children in Fukuyama</li> <li>・ Okinawan: An Endangered language?</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Wright C., Sloss C., Kimura M., Saito S., Kawahara T., & Takagaki T. (2010). <i>Multicultural Japan</i> , Tokyo: Nan'un-do.		出席点 (10%), 授業内評価 (20%), 期末テスト (60%), 受講態度 (10%) で評価する。詳細については、最初の授業で説明する。	

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、春学期に引き続き英語の語彙を増やし、直読直解の力と、日本や外国の文化を理解する力を付けることである。さらに、フォーマリティが高い英文を読み、それについて自ら考えたり、表現したりする能力を身に付けることである。</p> <p>毎回の学習項目には以下の内容が含まれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 語彙の増強</li> <li>2. 本文の読解</li> <li>3. 英作文</li> <li>4. 関連するディスカッション</li> </ol> <p>授業は、予習がなされていることを前提に進める。テキスト本文の理解については、授業中に学生同士の質疑応答によって確認する。また、読解技能や文法事項の確認に関しては、授業担当者が講義または質疑応答を行なう。</p> <p>この授業では、学生の積極的な参加態度が非常に重要になる。英語という言葉そのものはもちろんのこと、書かれている内容についても能動的に理解し、思考し、表現する姿勢が求められる。学生諸君の手で活気ある授業にしてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation</li> <li>2. Unit 1: Foreign Neighbors</li> <li>3. Unit 2: Kids and Culture</li> <li>4. Unit 3: Strong Woman</li> <li>5. Unit 4: Global Shopping</li> <li>6. Unit 5: Meeting Strangers</li> <li>7. Unit 6: Calligraphy</li> <li>8. Unit 7: Human Touch</li> <li>9. Unit 8: Family Ties</li> <li>10. Unit 9: Freedom and Love</li> <li>11. Unit 10: Volunteering</li> <li>12. Unit 11: Kids and Violence</li> <li>13. Unit 12: racism and Stupidity</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Shaules, J. & Miyazoe, T. (2005). <i>Insights</i> , Tokyo: Nan'un-do.		出席点 (10%), 授業内評価 (20%), 期末テスト (60%), 受講態度 (10%) で評価する。	

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	西 香生里
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>[目標]</b> 英語の語彙を増やしながら、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する。</p> <p><b>[概要]</b> 読解技能には、語彙を増やすだけでなく、文脈や言葉の形に現れている情報を利用して知らない単語の意味を推測する力や、単語の連語などの用法にたいする知識、さらに previewing and predicting、recognizing patterns in paragraphs、recognizing patterns of text organization などが含まれる。</p>		第1回目の授業で提示する。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第1回目の授業で提示する。		第1回目の授業で説明する。	

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	西 香生里
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>[目標]</b> 「Reading Strategies I」に引き続き、英語の語彙力をつけながら、直読直解の力と外国の文化や文学を理解する力をつける。「Reading Strategies I」で身につけた基礎的な読解技能を定着させ、発展させる。</p> <p><b>[概要]</b> 「Reading Strategies I」で習得した読解技能に加え、文章としてはっきりとは書かれていないが、そこに含まれる内容を推測する技能や、文章を構成している各パラグラフで、何がもっとも重要なトピック(主題)なのかを読み取り、それが文章全体の構成のなかでどのような位置づけになっているかを把握する技能の習得を目指す。</p>		第1回目の授業で提示する。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第1回目の授業で提示する。		第1回目の授業で説明する。	

09年度以降	Reading Strategies I	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語で書かれた新聞・雑誌記事、エッセイ等を読むことを通じて、英文読解能力を養うことを目的とする。</p> <p>扱う英文の内容は大きく2種類に分けられる。第1には、「英語で書かれた日本」として、日本の社会や文化について書かれた英文記事を扱う。第2には、ツーリズム、環境、グローバリゼーション、移民、マイノリティ等、交流文化学科の科目群と密接に関わるトピックである。</p> <p>以上、本講義では、英文読解能力を養うに留まらず、交流文化学科で学ぶための基礎的な知識の習得を同時に目指す。</p>		<p>毎回の授業で担当教員が英文プリントを配布するので、受講生は授業時間内で英文プリントを読み込んだ上で、日本語に訳出を行なう。そして、毎回担当学生を決め、担当学生はその内容について日本語で解説をしてもらう。さらに英文記事の内容について、受講生全員でディスカッションを行なう。なお3週に1回程度の頻度で、単語テストを行なう。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に定めない。毎回、プリントを配布する。		授業毎の小レポート+単語テスト(70%)、期末テスト(30%)。ただし、4回以上欠席の者は特段の理由がない限り、単位認定の資格を失う。	

09年度以降	Reading Strategies II	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期同様、英語で書かれた新聞・雑誌記事、エッセイ等を読むことを通じて、英文読解能力を養うことを目的とする。</p> <p>扱う英文の内容は春学期と同様である。ただし、受講生の関心・能力等に応じて、春学期のトピックに関連する論文・ルポルタージュ等を適宜教材として加えたい。</p>		<p>毎回の授業で担当教員が英文プリントを配布するので、受講生は授業時間内で英文プリントを読み込んだ上で、日本語に訳出を行なう。そして、毎回担当学生を決め、担当学生はその内容について日本語で解説をしてもらう。さらに英文記事の内容について、受講生全員でディスカッションを行なう。なお3週に1回程度の頻度で、単語テストを行なう。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に定めない。毎回、プリントを配布する。		授業毎の小レポート+単語テスト(70%)、期末テスト(30%)。ただし、4回以上欠席の者は特段の理由がない限り、単位認定の資格を失う。	

09年度以降	Reading Strategies III	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their reading skills and further develop critical thinking skills. The reading material chosen for this class will look at some of the issues that face us today as they appear in print. Students in this class will have the opportunity to learn the different skills to become effective and efficient readers. This includes the abilities to skim and to scan, to improve vocabulary and to synthesize the material read.</p> <p>Students are required to maintain a notebook for this class which will include articles taken from various sources with written summaries</p>		<p>Week 1: Course introduction  Week 2: Reading material one  Week 3: Continued; skimming  Week 4: Reading material two  Week 5: Continued; scanning  Week 6: Reading material three  Week 7: Continued; speed reading  Week 8: Reading material four  Week 9: Continued; vocab. acquisition  Week 10: Reading material five  Week 11: Continued; graded readers  Week 12: Reading material six  Week 13: Final projects  Week 14: Final projects</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Printed reading materials will be provided by the instructor		Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks	

09年度以降	Reading Strategies IV	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their reading skills and further develop critical thinking skills. The reading material chosen for this class will look at some of the issues that face us today as they appear in print. Students in this class will have to the opportunity to learn the different skills to become effective and efficient readers. This includes the abilities to skim and to scan, to improve vocabulary and to synthesize the material read.</p> <p>Students are required to have a notebook for this class which will include articles taken from various sources with written summaries</p>		<p>Week 1: Course introduction  Week 2: Reading material seven  Week 3: Continued; skimming  Week 4: Reading material eight  Week 5: Continued; scanning  Week 6: Reading material nine  Week 7: Continued; speed reading  Week 8: Reading material ten  Week 9: Continued; vocab. acquisition  Week 10: Reading material eleven  Week 11: Continued; graded readers  Week 12: Reading material twelve  Week 13: Reading projects presented  Week 14: Reading projects presented</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Printed reading materials will be provided by the instructor.		Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks.	

09年度以降	Reading Strategies III	担当者	三吉 美加
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アフリカ系アメリカ人およびカリブ系によるショートストーリーを読んでいく。ミステリー、サスペンス、スピリチュアル、ユーモアなどジャンルも多様なものを読み、文章、構成、社会背景、時代、ファッションなどもあわせて考察していく。表面的に訳していくのではなく、内容、細かい出来事、登場人物、ニュアンスなどを深くよみながら、ヴィジュアルに解釈することを心がけていく。</p>		<p>学期を通して、3, 4回小テストを行う。訳をするだけでなく、背景にある社会、文化、歴史などの理解も受講者に求めていく。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Julia Alvarez, Junot Diaz, Coco Fusco, Amiri Baraka, Michael Jacksonなどを予定。</p>		<p>平常点（出席、予習、発言、授業への参加、グループワーク）70%、小テスト30%</p>	

09年度以降	Reading Strategies IV	担当者	三吉 美加
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アフリカ系アメリカ人およびカリブ系によるショートストーリーを読んでいく。ミステリー、サスペンス、スピリチュアル、ユーモアなどジャンルも多様なものを読み、文章、構成、社会背景、時代、ファッションなどもあわせて考察していく。表面的に訳していくのではなく、内容、細かい出来事、登場人物、ニュアンスなどを深くよみながら、ヴィジュアルに解釈することを心がけていく。</p>		<p>学期を通して、3, 4回小テストを行う。訳をするだけでなく、背景にある社会、文化、歴史などの理解も受講者に求めていく。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Julia Alvarez, Junot Diaz, Coco Fusco, Amiri Baraka, Michael Jacksonなどを予定。</p>		<p>平常点（出席、予習、発言、授業への参加、グループワーク）70%、小テスト30%</p>	

09年度以降	Reading Strategies III (水1)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。</p> <p><b>Vocabulary building:</b> 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。</p> <p><b>Intensive reading:</b> 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。</p> <p><b>Faster reading : Scanning や Skimming</b> の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。</p> <p><b>オンライン学習プログラム:</b> 交流文化学科のカリキュラムの一環として、読解力のみならず総合的な英語力を養成するため、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。このプログラムに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映されるので怠り無く練習に励んでいただきたい。</p>		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第13回 初回授業にて指示します。</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：初回授業にて指示します。		出席、試験、オンライン学習プログラムの総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09年度以降	Reading Strategies IV (水1)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。</p> <p><b>Vocabulary building:</b> 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。</p> <p><b>Intensive reading:</b> 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。</p> <p><b>Faster reading : Scanning や Skimming</b> の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。</p> <p><b>オンライン学習プログラム:</b> 交流文化学科のカリキュラムの一環として、読解力のみならず総合的な英語力を養成するため、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。このプログラムに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映されるので怠り無く練習に励んでいただきたい。</p>		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第13回 初回授業にて指示します。</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：初回授業にて指示します。		出席、試験、オンライン学習プログラムの総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09年度以降	Reading Strategies III (水2)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。</p> <p><b>Vocabulary building:</b> 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。</p> <p><b>Intensive reading:</b> 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。</p> <p><b>Faster reading : Scanning や Skimming</b> の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。</p> <p><b>オンライン学習プログラム:</b> 交流文化学科のカリキュラムの一環として、読解力のみならず総合的な英語力を養成するため、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。このプログラムに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映されるので怠り無く練習に励んでいただきたい。</p>		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第13回 初回授業にて指示します。</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：初回授業にて指示します。		出席、試験、オンライン学習プログラムの総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09年度以降	Reading Strategies IV (水2)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。</p> <p><b>Vocabulary building:</b> 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。</p> <p><b>Intensive reading:</b> 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。</p> <p><b>Faster reading : Scanning や Skimming</b> の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。</p> <p><b>オンライン学習プログラム:</b> 交流文化学科のカリキュラムの一環として、読解力のみならず総合的な英語力を養成するため、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。このプログラムに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映されるので怠り無く練習に励んでいただきたい。</p>		<p>第1回 導入</p> <p>第2回～第13回 初回授業にて指示します。</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：初回授業にて指示します。		出席、試験、オンライン学習プログラムの総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。	

09年度以降	Reading Strategies III	担当者	担当者未定
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>  英文を論理的に読む方法を身につけることを目的とする。そのためには、英文を構造としてとらえ、論理的展開を理解しながら読むことが重要である。具体的には文を理解しながら読み進めることも重要であるが、各段落の内容や役割を大まかに捉えた上で、文章全体を理解していくことが重要である。そこで実際に英文を読みながら実践し、さまざまな読解方法を身につけよう。</p> <p><b>講義概要：</b>  各課で扱う英語の文章を次のように読んでいく。  1) 細部にあまり気をとられず、文章の話題を見つける。  2) 文章の話題の発見は個々の文の話題が手掛かりになる。  3) 文の話題は主語か主語の前の要素である。  4) 文の理解のために文の構成と語・句の意味を推測する。  5) 述語動詞の特徴から文の構成・構造を考える。  6) 語・句の意味は談話・文の話題や前後の要素を考慮して推測する。語がもつ多くの意味から一つの意味を選ぶ。  7) 文・談話が何について何が述べられているかを読み取る。</p>		1. Chapter 1: “No Laughing Matter” 2. Chapter 1: “The Right to Criticize” 3. Chapter 2: “Coaching the Tiger” 4. Chapter 2: “Impressionism” 5. Chapter 3: “The Da Vinci Code” 6. Chapter 3: “Fact or Fiction” 7. Chapter 4: “Reaching the Top” 8. Chapter 4: “A Rich Person’s Playground” 9. Chapter 5: “Safari Africa” 10. Chapter 5: “Love to Travel” 11. Chapter 6: “Fast Relief from Allergies” 12. Chapter 6: “Get Dirty” 13. Chapter 7: “Creative Chitchat” 14. Chapter 7: “6 Minutes and 40 Seconds”	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：Timothy Kiggell & Katsuhito Muto, <i>PRISM Book 9: Brown</i> , Tokyo, Macmillan Languagehouse, 2007.		授業における平常点、オンライン学習プログラムの学習状況、期末試験の成績、出席状況を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

09年度以降	Reading Strategies IV	担当者	担当者未定
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>(春学期と同じ)  英文を論理的に読む方法を身につけることを目的とする。そのためには、英文を構造としてとらえ、論理的展開を理解しながら読むことが重要である。具体的には文を理解しながら読み進めることも重要であるが、各段落の内容や役割を大まかに捉えた上で、文章全体を理解していくことが重要である。そこで実際に英文を読みながら実践し、読解方法を身につけよう。</p> <p><b>講義概要：</b>  各課で扱う英語の文章を次のように読んでいく。  1) 細部にあまり気をとられず、文章の話題を見つける。  2) 文章の話題の発見は個々の文の話題が手掛かりになる。  3) 文の話題は主語か主語の前の要素である。  4) 文の理解のために文の構成と語・句の意味を推測する。  5) 述語動詞の特徴から文の構成・構造を考える。  6) 語・句の意味は談話・文の話題や前後の要素を考慮して推測する。語がもつ多くの意味から一つの意味を選ぶ。  7) 文・談話が何について何が述べられているかを読み取る。</p>		1. Chapter 8: “I Loved Feeling Hungry” 2. Chapter 8: “Tough to Be a Teenager” 3. Chapter 9: “Pixar’s Winning Streak” 4. Chapter 9: “Keep Looking” 5. Chapter 10: “Papermaking” Technical Diagram 6. Chapter 10: “Papermaking” Table and Graph 7. Chapter 11: “The World is Failing Children” 8. Chapter 11: “Hungry for Facts” 9. Chapter 12: “The Earthquake Bird” 10/ Chapter 12: “Earthquake Preparedness Center” 11. Chapter 13: “The World’s Funniest Joke” 12. Chapter 13: “Global Humor” 13. Chapter 14: “If” 14. Chapter 14: “Contact Made with Trapped Miners”	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：Timothy Kiggell & Katsuhito Muto, <i>PRISM Book 9: Brown</i> , Tokyo, Macmillan Languagehouse, 2007.		授業における平常点、オンライン学習プログラムの学習状況、期末試験の成績、出席状況を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

09年度以降	Reading Strategies III	担当者	西 香生里
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[目標]</p> <p>各種の英文を精読し、「Reading Strategies I」と「Reading Strategies II」で訓練したPreviewing and Predicting; Recognizing patterns of text organization; Making inferences; Outlining などの読解スキルに磨きを掛けながら、まとまりのある文章を効果的かつ正確に読むストラテジーを訓練し、批判的に内容を分析して読解力を伸ばす。読む力はそれを単独の技能として扱って訓練することはできない。読解力を付けるには、語彙力、語法・文法・構文力、韻律的特徴、さらに論理なものの考え方力と教養を身につけなければならない。この点にも細心に注意を払いながら、授業ではあらゆる角度から読解力を伸ばす訓練を行う。</p>		<p>最初の授業で提示する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
最初の授業で提示する。		最初の授業で説明する。	

09年度以降	Reading Strategies IV	担当者	西 香生里
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[目標]</p> <p>「Reading Strategies III」の続きに位置する授業であるが、ここでは、各種の英文を多読し、「Reading Strategies I」と「Reading Strategies II」で訓練した Previewing and Predicting; Recognizing patterns of text organization; Making inferences; Outlining などの読解スキルを応用しながら、まとまりのある文章を全体的にとらえ、あらすじやテーマを把握し約70%の理解度で読み進めることのできるスキルを身につけることも一つの狙いとする。</p>		<p>最初の授業で提示する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
最初の授業で提示する。		最初の授業で説明する。	

09年度以降	Reading Strategies III	担当者	町田 喜義
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>○概要</p> <p>Part 1. 読解力を診断する</p> <p>Part 2. 語彙認識の速度を上げる</p> <p>Part 3. 語彙理解の速度を上げる</p> <p>Part 4. 文章理解の速度を上げる</p> <p>Part 5. パラグラフを読む①</p> <p>Part 6. パラグラフを読む②</p> <p>Part 7. 長文に挑戦</p> <p>Part 8. Scanning</p> <p>Part 9. 辞書を使って読む</p> <p>Part 10. 練習問題</p>		<p>左記の概要に沿って進める。</p> <p>教材は毎週の授業時に配付する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
コピーを使用する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点30% (欠席1回:2点減)</li> <li>・定期試験70% (学習範囲から出題する:復習 に重点)</li> </ul>	

09年度以降	Reading Strategies IV	担当者	町田 喜義
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>○目的</p> <p>英語で書かれた文化、社会に関する文献を速く読み、その内容を把握すること。</p> <p>○概要</p> <p>コミュニケーション論、異文化コミュニケーション論の入門書を読む。</p>		<p>最初の授業で提示する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
コピーを使用する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席点30% (欠席1回:2点減)</li> <li>・定期試験70% (学習範囲から出題する)</li> </ul>	

09年度以降	Writing Strategies I (火2)	担当者	R. J. バロウズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will enable students to master basic paragraph structuring through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing &amp; revising.</p> <p>In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer &amp; a printer as hand-written assignments will not be accepted</p> <p>In addition to regular attendance, students must bring an English-English dictionary to class each week, if possible, an electronic one.</p>		<p>Week 1: Course Introduction</p> <p>Week 2: Beginning to Work</p> <p>Week 3: Giving &amp; Receiving Presents</p> <p>Week 4: A Favourite Place</p> <p>Week 5: An Exceptional Person</p> <p>Week 6: Trends &amp; Fads</p> <p>Week 7: White Lies</p> <p>Week 8: Explanations &amp; Excuses</p> <p>Week 9: Problems</p> <p>Week 10: Strange Stories</p> <p>Week 11: Differences</p> <p>Week 12: Difficult Decisions</p> <p>Week 13: Course Review</p> <p>Week 14: Evaluation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
‘Paragraph Writing’ by Dorothy Zemach & Carlos Islam & Dictionary		Attendance & Punctuality 30% Class work & homework 30% Final Evaluation 40%	

09年度以降	Writing Strategies II (火2)	担当者	R. J. バロウズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will take students from paragraph structuring to essay writing through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing &amp; revising.</p> <p>In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer &amp; a printer as hand-written assignments will not be accepted.</p> <p>In addition to regular attendance, students must bring an English-English dictionary to class each week, if possible, an electronic one.</p>		<p>Week 1: Process &amp; Pre-Writing</p> <p>Week 2: The Structure of a Paragraph</p> <p>Week 3: The Development of a Paragraph</p> <p>Week 4: Descriptive &amp; Process Paragraphs</p> <p>Week 5: Opinion Paragraphs</p> <p>Week 6: Comparison &amp; Contrast Paragraphs</p> <p>Week 7: Problem/Solution Paragraphs</p> <p>Week 8: The Structure of an Essay</p> <p>Week 9: Outlining an Essay</p> <p>Week 10: Introductions &amp; Conclusions</p> <p>Week 11: Unity &amp; Coherence</p> <p>Week 12: Essays for Examinations</p> <p>Week 13: Course Review</p> <p>Week 14: Evaluation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
‘Success with College Writing’ by Dorothy Zemach & Lisa Rumisek & Dictionary		Attendance & Punctuality 30%, Class Work & Homework 40%, Final Evaluation 30%	

09年度以降	Writing Strategies I	担当者	J. A. グレイ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is concentrated on writing at the sentence level in the first semester and paragraph level in the second semester to promote accuracy in grammar usage. Students will observe and learn how to avoid common grammatical errors produced by second language learners of English. As students begin to write assignments, they will learn to: find ideas for their writing and express these in sentences, logically order sentences to form paragraphs, and strengthen their work through review and revision. Both on-line sources and text will be used in and outside of class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction / Assignment</li> <li>2. Lesson 1 I go to ... Assignment</li> <li>3. Continued...</li> <li>4. Lesson 2 Funny stories</li> <li>5. Continued...</li> <li>6. Lesson 3 I' m from...</li> <li>7. Continued...</li> <li>8. Mid-Term Assignment Due</li> <li>9. Lesson 4 She seems...</li> <li>10. Continued...</li> <li>11. Lesson 5 She has brown eyes</li> <li>12. Continued...</li> <li>13. Lesson 6 I like playing...</li> <li>14. End-Term Assignment Due</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor' s discretion.</b></p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Text:  To Be Announced		Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, participation, homework, and other assignments.	

09年度以降	Writing Strategies II	担当者	J. A. グレイ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is concentrated on writing at the sentence level in the first semester and paragraph level in the second semester to promote accuracy in grammar usage. Students will observe and learn how to avoid common grammatical errors produced by second language learners of English. As students begin to write assignments, they will learn to: find ideas for their writing and express these in sentences, logically order sentences to form paragraphs, and strengthen their work through review and revision. Both on-line sources and text will be used in and outside of class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction / Assignment</li> <li>2. Lesson 7 Faded jeans</li> <li>3. Continued...</li> <li>4. Lesson 8 I' m a... major</li> <li>5. Continued...</li> <li>6. Lesson 9 I' m in...</li> <li>7. Continued...</li> <li>8. Mid-Term Assignment Due</li> <li>9. Lesson 10 It' s a kind of... game</li> <li>10. Continued...</li> <li>11. Lesson 11 It has great graphics</li> <li>12. Continued...</li> <li>13. Lesson 12 I' ve never been to...</li> <li>14. End-Term Assignment Due</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor' s discretion.</b></p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Text:  To Be Announced		Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, participation, homework, and other assignments.	

09年度以降	Writing Strategies I (火3)	担当者	R. J. バロウズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will enable students to master basic paragraph structuring through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing &amp; revising.</p> <p>In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer &amp; a printer as hand-written assignments will not be accepted</p> <p>In addition to regular attendance, students must bring an English-English dictionary to class each week, if possible, an electronic one.</p>		<p>Week 1: Course Introduction</p> <p>Week 2: Beginning to Work</p> <p>Week 3: Giving &amp; Receiving Presents</p> <p>Week 4: A Favourite Place</p> <p>Week 5: An Exceptional Person</p> <p>Week 6: Trends &amp; Fads</p> <p>Week 7: White Lies</p> <p>Week 8: Explanations &amp; Excuses</p> <p>Week 9: Problems</p> <p>Week 10: Strange Stories</p> <p>Week 11: Differences</p> <p>Week 12: Difficult Decisions</p> <p>Week 13: Course Review</p> <p>Week 14: Evaluation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
‘Paragraph Writing’ by Dorothy Zemach & Carlos Islam & Dictionary		Attendance & Punctuality 30% Class work & homework 30% Final Evaluation 40%	

09年度以降	Writing Strategies II (火3)	担当者	R. J. バロウズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will take students from paragraph structuring to essay writing through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing &amp; revising.</p> <p>In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer &amp; a printer as hand-written assignments will not be accepted.</p> <p>In addition to regular attendance, students must bring an English-English dictionary to class each week, if possible, an electronic one.</p>		<p>Week 1: Process &amp; Pre-Writing</p> <p>Week 2: The Structure of a Paragraph</p> <p>Week 3: The Development of a Paragraph</p> <p>Week 4: Descriptive &amp; Process Paragraphs</p> <p>Week 5: Opinion Paragraphs</p> <p>Week 6: Comparison &amp; Contrast Paragraphs</p> <p>Week 7: Problem/Solution Paragraphs</p> <p>Week 8: The Structure of an Essay</p> <p>Week 9: Outlining an Essay</p> <p>Week 10: Introductions &amp; Conclusions</p> <p>Week 11: Unity &amp; Coherence</p> <p>Week 12: Essays for Examinations</p> <p>Week 13: Course Review</p> <p>Week 14: Evaluation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
‘Success with College Writing’ by Dorothy Zemach & Lisa Rumisek & Dictionary		Attendance & Punctuality 30%, Class Work & Homework 40%, Final Evaluation 30%	

09年度以降	Writing Strategies I	担当者	D. マツキャン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this course, I shall aim to help students improve their writing ability, beginning with vocabulary and sentence level activities and progressing to paragraph organization and construction, stressing the function of the paragraph as a building block of more extended texts.</p> <p>Attention will be paid to both accuracy and fluency of expression, and many activities will focus on the interconnection between writing and the other aspects of language learning (listening, speaking and reading). Materials will be selected from various sources, including authentic spoken and written texts, and students will be encouraged to share their writing activities with their classmates both as audience and source of support.</p> <p>Grammatical issues will be covered as the need arises, with special emphasis on students' individual needs and problems specific to most Japanese learners of English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions</li> <li>2. English alphabet and punctuation</li> <li>3. Alphabet activities</li> <li>4. The paragraph. A personal letter</li> <li>5. letter exchange and response</li> <li>6. Writing narrative: opening paragraph</li> <li>7. Writing narrative: closing paragraph</li> <li>8. Book and movie reviews</li> <li>9. Students present their own review</li> <li>10. Free/fast writing</li> <li>11. Describing pictures and photographs</li> <li>12. Making paragraphs from comic strips</li> <li>13. Writing plans for summer vacation</li> <li>14. Summer holiday alphabet project</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『Writing from Within Intro』		Grading will be based on enthusiasm, performance of language tasks and attendance throughout the course	

09年度以降	Writing Strategies II	担当者	D. マツキャン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Holiday writing activities</li> <li>2. Paragraph exchange and questions</li> <li>3. Preparing 300-word paragraph</li> <li>4. Guided writing of paragraph</li> <li>5. Advertisements for goods and services</li> <li>6. Students present their own chosen product</li> <li>7. Review of grammar</li> <li>8. Common errors in students' own work</li> <li>9. Poetry and song lyrics</li> <li>10. Presentation of student-selected text</li> <li>11. Gift-giving and receiving letter style</li> <li>12. Beyond the paragraph</li> <li>13. Writing about future plans</li> <li>14. Survey of course and feedback</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『Writing from Within Intro』		Grading will be based on enthusiasm, performance of language tasks and attendance throughout the course	

09年度以降	Writing Strategies I	担当者	M. ダーリン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of this course is to provide a basic introduction to the process of writing with an emphasis on grammatical accuracy. Students will learn various methods of pre-writing and then put their ideas into sentences. In addition, students will gain an awareness of common grammatical problems in writing made by Japanese students.</p>		<p>Week 1: Course Introduction  Week 2: Sentence Writing  Week 3: Sentence Structure  Week 4: Topic Sentences  Week 5: Connectors  Week 6: Brainstorming  Week 7: Combining sentences with adjectives  Week 8: Capitalization  Week 9: Tenses  Week 10: Modals  Week 11: Conditional  Week 12: Passive  Week 13: Assignment  Week 14: Review &amp; Feedback</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be decided		Students will be evaluated on their writing assignments, journals and their classroom participation.	

09年度以降	Writing Strategies II	担当者	M. ダーリン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Points for further consideration:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Students will need an English-English dictionary</li> <li>● Students will be required to make weekly entries for journal writing</li> </ul>		<p>Week 1: Review &amp; Freewriting  Week 2: Facts &amp; Opinions  Week 3: Proofreading &amp; Editing  Week 4: Assignment  Week 5: Noun clauses  Week 6: Combining sentences with so &amp; because  Week 7: Using Time Expressions  Week 8: Assignment  Week 9: Error Analysis  Week 10: Relative Clauses  Week 11: Assignment  Week 12: Assignment &amp; Journals due  Week 13: Review &amp; Feedback</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be decided		Students will be evaluated on their writing assignments, journals and their classroom participation.	

09年度以降	Comprehensive English I (月3)	担当者	J. ウォールドマン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding, public speaking and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction with explanation of the grading system and student requirements.</li> <li>2. Cosmetic surgery: Is there too much emphasis on appearance these days?</li> <li>3. Can man and woman be close without romance?</li> <li>4. This session will focus on environmental issues.</li> <li>5. Teenage life with student presentations.</li> <li>6. Is plagiarism a crime?</li> <li>7. Who's responsible for household duties? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>8. What are the options for pregnant teenagers?</li> <li>9. Is it okay to go on dates for money? Quiz on previous issues.</li> <li>10. How important is appearance in a relationship?</li> <li>11. Should adult children move out? Quiz on previous issue.</li> <li>12. Should employees go out with their bosses?</li> <li>13. How should we deal with culture shock? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. Explanation of summer homework projects.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Title: <i>Impact Issues 3</i>  Author: Day, Shaules and Yamanaka  Publisher: Pearson/Longman</p>		<p>Students will be grade on attendance, classroom participation, homework and tests.</p>	

09年度以降	Comprehensive English II (月3)	担当者	J. ウォールドマン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Discussion will focus on summer projects.</li> <li>2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class.</li> <li>3. Is money more important than life style?</li> <li>4. Story telling techniques.</li> <li>5. The problems faced by immigrants.</li> <li>6. Vocabulary test on previous issues. Student presentations.</li> <li>7. Does technology create distance in relationships?</li> <li>8. Who should work and who should stay at home? Quiz on previous issue.</li> <li>9. How much should you compromise for a spouse?</li> <li>10. Story telling techniques.</li> <li>11. When is war justified?</li> <li>12. Should we stop our friends from getting into trouble?</li> <li>13. When is it okay to get a divorce? Vocabulary test on previous issues.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Title: <i>Impact Issues 3</i>  Author: Day, Shaules and Yamanaka  Publisher: Pearson/Longman</p>		<p>Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.</p>	

09年度以降	Comprehensive English I (金2)	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pairwork and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Memorries and keepsakes</li> <li>3. Opinions about food</li> <li>4. Crimes and mysteries</li> <li>5. Trends</li> <li>6. Errands</li> <li>7. Postgraduate plans</li> <li>8. Celebrations</li> <li>9. Fairy tales and folk stories</li> <li>10. The world of work</li> <li>11. Telecommunications</li> <li>12. Technology today</li> <li>13 Travel preparation</li> <li>14 Test- Poster presentation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>World Link Book2 Highlighted special edition</p>		<p>Grades will be based on attendance, class participation, and tests.</p>	

09年度以降	Comprehensive English II (金2)	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pairwork and discussion. Students should be open to speak and work in small groups</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Summer vacation</li> <li>2. Imagination, dreams, and rules</li> <li>3. Career plans</li> <li>4. Media</li> <li>5. Men and women</li> <li>6. Cultural differences</li> <li>7. Big business</li> <li>8 Health</li> <li>9 Sports and hobbies</li> <li>10. Social issues</li> <li>11. Weath</li> <li>12. Honesty and lies</li> <li>13. Our earth</li> <li>14. Test- Poster presentation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>World Link Book3 Highlighted special edition</p>		<p>Grades will be based on attendance, class participation, and tests.</p>	

09年度以降	Comprehensive English I (火1)	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The primary aim of this course is to help students further develop their competency in communicative English. The course will have as its foundation a set course text. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. As there will be student-centered, group learning activities, it is important to maintain for all students to maintain a friendly learning relationship.</p>		<p>Week 1: Course introduction  Week 2: Old Friends: Discussion  Week 3: Old Friends: Discussion  Week 4: Technology: Debate  Week 5: Technology: Debate  Week 6: Time Management: Issues  Week 7: Time Management: Issues  Week 8: Life in the City: Views  Week 9: Life in the City: Views  Week 10: Knowledge: Knowing vs Not Know  Week 11: Knowledge: Knowing vs Not Know  Week 12: Histories' Most Famous People  Week 13: Histories' Most Famous People  Week 14: Final Class</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Course text will be introduced in the first lesson.		Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks.	

09年度以降	Comprehensive English II (火1)	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
		<p>Week 1: Course introduction  Week 2: If only: The Way Things Should Be  Week 3: If only: The Way Things Should Be  Week 4: Travel: Making my Way in the World  Week 5: Travel: Making my Way in the World  Week 6: Life's Choices: Discussion  Week 7: Life's Choices: Discussion  Week 8: A Look into the Future: Views  Week 9: A Look into the Future: Views  Week 10: Preparation for Presentations  Week 11: Graded Presentations  Week 12: Graded Presentations  Week 13: Graded Presentations  Week 14: Final Class</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Course text will be introduced during the first lesson.		Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks.	

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	M. ダーリン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of this course is to develop students' fluency and increase their confidence as English speakers</p> <p>Students will have ample opportunities to speak in class doing pairwork and having small group discussions</p>		<p>Week 1: course introduction</p> <p>Week 2: unit 1</p> <p>Week 3: unit 1</p> <p>Week 4: unit 1</p> <p>Week 5: unit 2</p> <p>Week 6: unit 2</p> <p>Week 7: unit 2</p> <p>Week 8: unit 3</p> <p>Week 9: unit 3</p> <p>Week 10: unit 3</p> <p>Week 11: unit 4 &amp; project preparation</p> <p>Week 12: unit 4 &amp; projects</p> <p>Week 13: project preparation</p> <p>Week 14: presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Interchange Third Edition Student' s Book 3A		Students will be evaluated on tests, presentations and participation.	

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	M. ダーリン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Points for further consideration</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Students will need an English - English dictionary</li> <li>• Students will be required to have a notebook</li> </ul>		<p>Week 1: unit 5</p> <p>Week 2: unit 5 continued</p> <p>Week 3: unit 5 continued</p> <p>Week 4: unit 6</p> <p>Week 5: unit 6 continued</p> <p>Week 6: unit 6 continued</p> <p>Week 7: unit 7</p> <p>Week 8: unit 7 continued</p> <p>Week 9: unit 7 continued</p> <p>Week 10: unit 8</p> <p>Week 11: unit 8 &amp; project</p> <p>Week 12: project preparation</p> <p>Week 13: presentations</p> <p>Week 14: presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Interchange Third Edition Student' s Book 3A		Students will be evaluated on tests, presentations and participation.	

09年度以降	Comprehensive English I (金2)	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
The goal of this course is to expose the class to contemporary English vocabulary, grammar and idioms, and to imbue the students with the confidence necessary to use them. This shall be accomplished through the use of film clips, from which selected portions will be used to illustrate grammatical points, targeted vocabulary and idiomatic expressions. The students will also engage in discussions, both with each other and with the instructor, on topics related to the film clips and employing the language presented in the lesson		The weekly schedule will be provided after consultation with the class.	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No text will be used for this class. All materials will be provided by the instructor.		Evaluation will consist of the following: attendance, participation, 2 tests and a presentation.	

09年度以降	Comprehensive English II (金2)	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Same as 1 <sup>st</sup> semester.		Same as 1 <sup>st</sup> semester.	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Same as the 1 <sup>st</sup> semester.		Same as the 1 <sup>st</sup> semester.	

09年度以降	Comprehensive English I (月3)	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The primary aim of this course is to help students further develop their competency in communicative English. The course will have as its foundation a set course text. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. As there will be student-centered, group learning activities, it is important to maintain for all students to maintain a friendly learning relationship.</p>		<p>Week 1: Course introduction  Week 2: Old Friends: Discussion  Week 3: Old Friends: Discussion  Week 4: Technology: Debate  Week 5: Technology: Debate  Week 6: Time Management: Issues  Week 7: Time Management: Issues  Week 8: Life in the City: Views  Week 9: Life in the City: Views  Week 10: Knowledge: Knowing vs Not Know  Week 11: Knowledge: Knowing vs Not Know  Week 12: Histories' Most Famous People  Week 13: Histories' Most Famous People  Week 14: Final Class</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Course text will be introduced in the first lesson.		Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks.	

09年度以降	Comprehensive English II (月3)	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The primary aim of this course is to help students further develop their competency in communicative English. The course will have as its foundation a set course text. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. As there will be student-centered, group learning activities, it is important to maintain for all students to maintain a friendly learning relationship.</p>		<p>Week 1: Course introduction  Week 2: If only: The Way Things Should Be  Week 3: If only: The Way Things Should Be  Week 4: Travel: Making my Way in the World  Week 5: Travel: Making my Way in the World  Week 6: Life's Choices: Discussion  Week 7: Life's Choices: Discussion  Week 8: A Look into the Future: Views  Week 9: A Look into the Future: Views  Week 10: Preparation for Presentations  Week 11: Graded Presentations  Week 12: Graded Presentations  Week 13: Graded Presentations  Week 14: Final Class</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Course text will be introduced during the first lesson.		Grades will be based on class participation, attendance, evaluations and class notebooks.	

09年度以降	Comprehensive English I (木3)	担当者	J. ウォールドマン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding, public speaking and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction with explanation of the grading system and student requirements.</li> <li>2. Cosmetic surgery: Is there too much emphasis on appearance these days?</li> <li>3. Can man and woman be close without romance?</li> <li>4. This session will focus on environmental issues.</li> <li>5. Teenage life with student presentations.</li> <li>6. Is plagiarism a crime?</li> <li>7. Who's responsible for household duties? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>8. What are the options for pregnant teenagers?</li> <li>9. Is it okay to go on dates for money? Quiz on previous issues.</li> <li>10. How important is appearance in a relationship?</li> <li>11. Should adult children move out? Quiz on previous issue.</li> <li>12. Should employees go out with their bosses?</li> <li>13. How should we deal with culture shock? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. Explanation of summer homework projects.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Title: <i>Impact Issues 3</i>  Author: Day, Shaules and Yamanaka  Publisher: Pearson/Longman</p>		<p>Students will be grade on attendance, classroom participation, homework and tests.</p>	

09年度以降	Comprehensive English II (木3)	担当者	J. ウォールドマン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations.</p> <p>Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Discussion will focus on summer projects.</li> <li>2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class.</li> <li>3. Is money more important than life style?</li> <li>4. Story telling techniques.</li> <li>5. The problems faced by immigrants.</li> <li>6. Vocabulary test on previous issues. Student presentations.</li> <li>7. Does technology create distance in relationships?</li> <li>8. Who should work and who should stay at home? Quiz on previous issue.</li> <li>9. How much should you compromise for a spouse?</li> <li>10. Story telling techniques.</li> <li>11. When is war justified?</li> <li>12. Should we stop our friends from getting into trouble?</li> <li>13. When is it okay to get a divorce? Vocabulary test on previous issues.</li> <li>14. Story telling techniques.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Title: <i>Impact Issues 3</i>  Author: Day, Shaules and Yamanaka  Publisher: Pearson/Longman</p>		<p>Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.</p>	

09年度以降	Comprehensive English I (月3)	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pairwork and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Memorries and keepsakes</li> <li>3. Opinions about food</li> <li>4. Crimes and mysteries</li> <li>5. Trends</li> <li>6. Errands</li> <li>7. Postgraduate plans</li> <li>8. Celebrations</li> <li>9. Fairy tales and folk stories</li> <li>10. The world of work</li> <li>11. Telecommunications</li> <li>12. Technology today</li> <li>13 Travel preparation</li> <li>14 Test- Poster presentation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>World Link Book2 Highlighted special edition</p>		<p>Grades will be based on attendance, class participation, and tests.</p>	

09年度以降	Comprehensive English II (月3)	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building , speeches, pairwork and discussion. Students should be open to speak and work in small groups</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Summer vacation</li> <li>2. Imagination, dreams, and rules</li> <li>3. Career plans</li> <li>4. Media</li> <li>5. Men and women</li> <li>6. Cultural differences</li> <li>7. Big business</li> <li>8 Health</li> <li>9 Sports and hobbies</li> <li>10. Social issues</li> <li>11. Weath</li> <li>12. Honesty and lies</li> <li>13. Our earth</li> <li>14. Test- Poster presentation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>World Link Book3 Highlighted special edition</p>		<p>Grades will be based on attendance, class participation, and tests.</p>	

09年度以降	Comprehensive English I	担当者	J. J. ダゲン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In the first semester, the major specific aims are informative &amp; communicative.</p> <p>In the first part of this semester, we will develop your group discussion skills by working on reading, understanding, and discussing content-based material of a topical nature from various media resources. The concept of intercultural communication will be introduced into our group discussion topics. I will be selecting the articles and preparing the assigned tasks and activities in the first term.</p> <p>In the second part of the semester, students, working in pairs, will research, select, prepare, present, and lead class discussion. It is the students' responsibility to prepare for this and to be ready to present on their assigned day. It is the responsibility of the other students to do the assigned reading as well as complete the assigned tasks outside of class so as to be ready to participate in discussing and sharing your opinions inside of class.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Participating in group discussions. Week 2: Reading &amp; Discussion I. Week 3: Reading &amp; Discussion II. Week 4: Reading &amp; Discussion III. Quiz Week 5: Understanding intercultural communication. Week 6: Reading &amp; Discussion III. Week 7: Reading &amp; Discussion IV. Quiz. Week 8: Student Presentations &amp; Discussion. Week 9: Student Presentations &amp; Discussion. Week 10: Student Presentations &amp; Discussion. Week 11: Student Presentations &amp; Discussion. Week 12: Student Presentations &amp; Discussion. Week 13: Student Presentations &amp; Discussion. Week 14: Consolidation &amp; Review.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Speech Communication Made Simple (3rd Ed.); Dale, P and J. Wolf; Pearson Longman.		Grading will be based on class participation, assignments, quizzes and a final assessment.	

09年度以降	Comprehensive English II	担当者	J. J. ダゲン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In the second semester, the major specific aims are affective &amp; organizational.</p> <p>We will work on developing a more comfortable and supportive class atmosphere as well as working on building speaking confidence, through presentation and practice. We will then work on organization, both of spoken and written English, by preparing and giving speech presentations, to help make you a more confident and coherent communicator.</p> <p>As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course explanation. Speaking to develop self-confidence. Presentation. Week 2: Speaking to develop self-confidence. Preparation. Presentation. Week 3: Speaking to develop self-confidence. Preparation. Presentation. Week 4: Speaking to inform. Preparation. Week 5: Speaking to inform. Preparation. Week 6: Informative speech presentations. Week 7: Informative speech presentations Week 8: Informative speech presentations. Quiz. Week 9: Speaking to persuade. Preparation. Week 10: Speaking to persuade. Preparation. Week 11: Persuasive speech presentations. Week 12: Persuasive speech presentations. Week 13: Persuasive speech presentations. Quiz. Week 14: Consolidation &amp; Review.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Speech Communication Made Simple (3rd Ed.); Dale, P and J. Wolf; Pearson Longman.		Grading will be based on class participation, assignments, and a final assessment.	

09年度以降	Comprehensive English I (月2)	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
The goal of this course is to expose the class to contemporary English vocabulary, grammar and idioms, and to imbue the students with the confidence necessary to use them. This shall be accomplished through the use of film clips, from which selected portions will be used to illustrate grammatical points, targeted vocabulary and idiomatic expressions. The students will also engage in discussions, both with each other and with the instructor, on topics related to the film clips and employing the language presented in the lesson		The weekly schedule will be provided after consultation with the class.	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No text will be used for this class. All materials will be provided by the instructor.		Evaluation will consist of the following: attendance, participation, 2 tests and a presentation.	

09年度以降	Comprehensive English II (月2)	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Same as 1 <sup>st</sup> semester.		Same as 1 <sup>st</sup> semester.	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Same as the 1 <sup>st</sup> semester.		Same as the 1 <sup>st</sup> semester.	

09年度以降	Comprehensive English III	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in, communicate in, and make presentations in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) research, learn about, and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting discussions about those topics</i>, in English; and</p> <p>d) research and 'give' (present) a <b>DYNAMIC English class presentation</b>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking <i>student suggestions for INTERNATIONAL topics/themes which they would like to learn &amp; study</i>.</p> <p>Week 3: Choosing an Academic Research topic. Discussion of recent <b>International News</b> articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.)</p> <p>Week 4: Focusing your research topic. / Collecting and summarizing relevant articles for your research topic.</p> <p>Week 5: Student research/discussion about a variety of themes which they choose, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest.</p> <p>Week 6: Organizing the articles you've collected about your Academic research topic. Summarizing the relevant information. Class discussions.</p> <p>Week 7: Preparations for making presentations &amp; discussions. International vs. Domestic <b>etiquette</b> and <b>manners (EQ)</b>.</p> <p>Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment.</p> <p>Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for class presentations.</p> <p>Week 10: Student presentations &amp; class discussion.</p> <p>Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos.</p> <p>Week 12: Further student presentations &amp; class discussion.</p> <p>Week 13: Final presentations. If time remains: discussing &amp; explaining plans for the Summer.</p> <p>Week 14: Continuous assessment: discussing Summer plans &amp; destinations. Video and/or listening exercise.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. <b>IF</b> a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>You will be assessed often—the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>research &amp; present</b> your topic; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on. Your grade will be <i>tentatively &amp; approximately</i> determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (20%); rk/test(s)/presentations (30%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs. <b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes</b>, for any reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (<b>One late = 1/2 absence.</b>)</p>	

09年度以降	Comprehensive English IV	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to <b>MORE EFFECTIVELY</b>:</p> <p>a) think in, communicate in, and make presentations in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) research, learn about, and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <b>MORE DYNAMIC, interesting discussions about those topics</b>, in English; and</p> <p>d) research and 'give' (present) a <b>DYNAMIC &amp; EFFECTIVE English class presentation</b>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your Summer Break, using modern English. Students will be asked to consider what Academic research/presentation topics appeal to them.</p> <p>Week 2: Asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to research &amp; make presentations about. Continuous assessments.</p> <p>Week 3: Suggested: Researching <b>festivals in different countries</b>: Hallowe'en, Christmas, and other occasions chosen by students. Discussion of <b>International News</b> (articles and/or News Videos).</p> <p>Week 4: Choosing a country and <b>Fall/Winter festival</b> about which to make a presentation. Reminder of effective English presentation-giving techniques.</p> <p>Week 5: Hallowe'en video and discussion. Students collect, organize, and summarize news articles, books, Internet sources, re: a chosen topic.</p> <p>Week 6: Reminder to avoid plagiarism when researching/ presenting. Preparation for presentations. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (&amp; recommendations) of those short presentation 'intros'.</p> <p>Week 8: Further short 'demo' presentations; peer-assessment &amp; recommendations, re: those 'demo' presentations.</p> <p>Week 9: Finalizing preparations and practice for presentations. Discussion of News articles and/or video about international topics.</p> <p>Week 10: Class presentations &amp; discussions.</p> <p>Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. Discussions of Christmas customs in various countries.</p> <p>Week 12: Further class presentations &amp; discussions.</p> <p>Week 13: Final class presentations/ discussions. If time permits: Christmas video and/or Christmas song exercise/ discussion.</p> <p>Week 14: Continuous assessment: discussion re: New Year's events, and New Year's Resolutions. Video and/or listening exercise.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion, <b>IF</b> a textbook is necessary, one will be chosen.</p>		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you research, summarize, and present information in English; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on. Your grade will be <i>tentatively &amp; approximately</i> determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (30%); and attendance (20%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs. <b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason</b>. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F"); b) lateness will also affect your grade in this course. (<b>One late = 1/2 absence.</b>)</p>	

09年度以降	Comprehensive English III	担当者	P. アップス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is the second year Comprehensive English course.</p> <p>It is designed for students with intermediate level abilities in listening and speaking. Emphasis is placed on the students to motivate themselves in the classroom.</p> <p>The students will be expected to participate in discussions in the classroom and give opinions on a wide variety of topics.</p> <p>The students will select two assignments of a possible</p> <p>Which include</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Recording a radio commercial</li> <li>2. A Poster presentation</li> <li>3. A power point Presentation</li> <li>4. A two page essay</li> </ol>		<p>The topics studied in this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Identity Theft</li> <li>○ Advertising</li> <li>○ Endurance</li> <li>○ The English Language</li> <li>○ Culture</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Northstar Listening and Speaking Three (new edition) by Helen S Solorzano and Jennifer P.L. Schmidt		<p>Evaluation</p> <p>1) Class attendance 20%    2) Class Attitude 20%</p> <p>3) Tests and assignments 60%</p>	

09年度以降	Comprehensive English IV	担当者	P. アップス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is the second year Comprehensive English course.</p> <p>It is designed for students with intermediate level abilities in listening and speaking. Emphasis is placed on the students to motivate themselves in the classroom.</p> <p>The students will be expected to participate in discussions in the classroom and give opinions on a wide variety of topics.</p> <p>The students will select two assignments of a possible</p> <p>Which include</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Recording a scary story</li> <li>2. A Poster presentation</li> <li>3. A power point Presentation</li> <li>4. A two page essay</li> </ol>		<p>The topics studied in this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Identity Theft</li> <li>○ Advertising</li> <li>○ Endurance</li> <li>○ The English Language</li> <li>○ Culture</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Northstar Listening and Speaking Three (New Edition) by Helen S Solorzano and Jennifer P.L. Schmidt		<p>Evaluation</p> <p>1) Class attendance 20%    2) Class Attitude 20%</p> <p>3) Tests and assignments 60%</p>	

09年度以降	Comprehensive English III	担当者	D. マツキヤン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed.</p> <p>Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester.</p> <p>Grammatical issues will be covered as the need arises, with special emphasis on students individual needs and problems specific to most Japanese learners of English.</p>		<p>The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions</li> <li>2. Collecting introduction cards</li> <li>3. Travel topic alphabets</li> <li>4. Student profiles and expectations Listening</li> <li>5. Varieties of English</li> <li>6. Group discussion</li> <li>7. World music and song</li> <li>8. Students select song texts</li> <li>9. Presentation of song texts</li> <li>10. Discussion of song and music</li> <li>11. Students select summer holiday topic</li> <li>12. Preparation of holiday topic Materials</li> <li>13. Discussion on language strategies</li> <li>14. Written feedback/personal interviews</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
A selection of authentic language materials		Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities	

09年度以降	Comprehensive English IV	担当者	D. マツキヤン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is designed to enable students to put the English they have already acquired to practical use through involvement in pair and group discussion, with plenty of opportunity and encouragement to express their own views and consider those of their classmates. Materials will be selected with a view to stimulating interest and motivation on the part of the students themselves, and students' own input and suggestions will be welcomed.</p> <p>Reading material will be selected from various authentic sources, including magazines, newspapers and illustrated publications. These will be supplemented, where appropriate, with DVD extracts, music and song, drawn from all available media channels. All class members will be asked to make a personalized introduction card at the outset of the course, and this will be used extensively throughout the semester.</p>		<p>The sequence of course activities and topics to be covered will be largely determined by the nature of the materials. At every stage, emphasis will be placed on functional language skills such as identifying main ideas from text, analyzing information and drawing logical conclusions.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review of holiday topics</li> <li>2. Presentations of chosen topics</li> <li>3. Imagination and Fantasy : animation,comics and cartoons</li> <li>4. Exchange reading and discussion</li> <li>5. Films, books and magazines</li> <li>6. Students discuss their favourites</li> <li>7. Language learning strategies</li> <li>8. Individual learning/studying styles</li> <li>9. Use of multimedia-discussion</li> <li>10. Students select presentation topic</li> <li>11. Presentation preparation</li> <li>12. Presentations</li> <li>13. Presentations</li> <li>14. Feedback writing-farewells</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
A selection of authentic language materials		Grading will be by continuous assessment, based on classroom participation, enthusiasm and co-operation as well as performance in assignments, tasks and activities	

09年度以降	Comprehensive English III	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course seeks to master competency in English fluency improving speaking, and comprehension skills.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles to study national and international issues of political and social significance.</p> <p>The class aims to provide an English native like environment in reading, listening, writing, pair and group discussion practice. Students will prepare an article and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements &amp; start article # 1</p> <p>Week 2: Article # 1</p> <p>Week 3: Article # 2</p> <p>Week 4: Article # 2</p> <p>Week 5: Article # 3</p> <p>Week 6: Article # 3</p> <p>Week 7: Article # 4</p> <p>Week 8: Article # 4</p> <p>Week 9: Article # 5</p> <p>Week 10: Article # 5</p> <p>Week 11: Article # 6</p> <p>Week 12: Article # 6</p> <p>Week 13: Article # 7</p> <p>Week 14: Article # 7</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
The Daily Yomiuri		Weekly exercises, presentation, attendance and class participation.	

09年度以降	Comprehensive English IV	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course seeks to master competency in English fluency improving speaking, and comprehension skills.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles to study national and international issues of political and social significance.</p> <p>The class aims to provide an English native like environment in reading, listening, writing, pair and group discussion practice. Students will prepare an article and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements &amp; start article # 1</p> <p>Week 2: Article # 1</p> <p>Week 3: Article # 2</p> <p>Week 4: Article # 2</p> <p>Week 5: Article # 3</p> <p>Week 6: Article # 3</p> <p>Week 7: Article # 4</p> <p>Week 8: Article # 4</p> <p>Week 9: Article # 5</p> <p>Week 10: Article # 5</p> <p>Week 11: Article # 6</p> <p>Week 12: Article # 6</p> <p>Week 13: Article # 7</p> <p>Week 14: Article # 7</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
The Daily Yomiuri		Weekly exercises, presentation, attendance and class participation.	

09年度以降	Comprehensive English III (月4)	担当者	P. ドーレ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Expressing an opinion is something we all do. Every person from every culture does this almost daily. In this class, we will learn the nuances of the language used to express opinions. We will also learn about and practice participating in and leading group discussions.</p> <p>You will begin by reading about a teacher-selected topic. Then you will develop your opinions and present your ideas in an in-class discussion.</p> <p>You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers and your teacher.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Introduction to discussion</li> <li>3. Introduction to acceptable language for discussion</li> <li>4. Introduction to effective discussion timing</li> <li>5. Introduction to effective discussion leadership</li> <li>6. The process of leading a discussion</li> <li>7. Gathering ideas and background information</li> <li>8. Developing your ideas and opinions</li> <li>9. Review of content so far</li> <li>10. Large group discussion leadership</li> <li>11. Review Large Group discussion leadership</li> <li>12. Second Large Group discussion leadership</li> <li>13. Review of second discussion leadership</li> <li>14. In-class written review of content</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their discussion leadership.	

09年度以降	Comprehensive English IV (月4)	担当者	P. ドーレ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Presenting you ideas and research in a coherent way is an essential life skill. This skill will take you a long way in your professional career.</p> <p>In this class, you will have the opportunity to research, practice with peers, and finally present an issue you have researched.</p> <p>You will begin by collecting ideas and background information and developing your ideas on the subject. You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers and teacher.</p> <p>Finally, you will present your research in class and be assessed on it. You will need to use other media (video, power point, pictures, etc) to support your presentation.</p> <p>You will also analyze other presentations in order to build on and improve your own presentation skills.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. &amp; 3. Presentation analysis</li> <li>4. &amp; 5. How to choose a topic</li> <li>6. &amp; 7. Preparing a presentation</li> <li>8. &amp; 9. Critical analysis of ideas, data and background information</li> <li>10. First draft of presentation due</li> <li>11. Research and documentation of sources</li> <li>12. In-class presentation peer review</li> <li>13. &amp; 14. In-class major presentations for assessment</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their presentations.	

09年度以降	Comprehensive English III	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course sets out to help students further develop communication and critical thinking skills. Students are required to bring in and present topics of interest. We will also have various presentations throughout the semester.</p> <p>Students are required to maintain a notebook for this class and within it keep a running list of lexical items found in their readings.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: Reading and discussion topic one  Week 3: Reading and discussion topic two  Week 4: Reading and discussion topic three  Week 5: Reading and discussion topic four  Week 6: Reading and discussion topic five  Week 7: Reading and discussion topic six  Week 8: Reading and discussion topic seven  Week 9: Reading and discussion topic eight  Week 10: Reading and discussion topic nine  Week 11: Reading and discussion topic ten  Week 12: Power Point presentations eleven  Week 13: Power Point presentations eleven  Week 14: Summations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Material will be taken from various news sources		Grades will be based on attendance, participation, and projects	

09年度以降	Comprehensive English IV	担当者	担当者未定
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Second semester is a continuation of the previous semester.</p>		<p>The schedule will be given in the first class.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>The textbook will be announced on the first day of class.</p>		<p>The criteria-related grading scheme will be explained on the first day of class.</p>	

09年度以降	Comprehensive English III (月5)	担当者	P. ドーレ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Expressing an opinion is something we all do. Every person from every culture does this almost daily. In this class, we will learn the nuances of the language used to express opinions. We will also learn about and practice participating in and leading group discussions.</p> <p>You will begin by reading about a teacher-selected topic. Then you will develop your opinions and present your ideas in an in-class discussion.</p> <p>You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers and your teacher.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Introduction to discussion</li> <li>3. Introduction to acceptable language for discussion</li> <li>4. Introduction to effective discussion timing</li> <li>5. Introduction to effective discussion leadership</li> <li>6. The process of leading a discussion</li> <li>7. Gathering ideas and background information</li> <li>8. Developing your ideas and opinions</li> <li>9. Review of content so far</li> <li>10. Large group discussion leadership</li> <li>11. Review Large Group discussion leadership</li> <li>12. Second Large Group discussion leadership</li> <li>13. Review of second discussion leadership</li> <li>14. In-class written review of content</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>To Be Announced in class</i>		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their discussion leadership.	

09年度以降	Comprehensive English IV (月5)	担当者	担当者未定
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The fall semester is a continuation of Comprehensive English III.</p>		<p>The schedule will be given in the first class.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>The textbook will be announced on the first day of class.</p>		<p>The criteria-related grading scheme will be explained on the first day of class.</p>	

09年度以降	E-learning I	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[目的] 英語学科1年1, 2組と交流文化学科の学生を対象とする。Reading Strategies, Paragraph Writing/Basic Essay Writingなどの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着, 向上させることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1週目の説明会で, オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に集合のこと</li> <li>初回授業後すぐにPCでの課題に取りかかることになる。自宅あるいは学内のPCを使用することになるが, 学内のPCを利用するためのIDとパスワードを常に携帯すること</li> <li>通常授業期間中は指定のオンライン教材にアクセスし, 自主的に学習を進めること</li> <li>4週目以降は隔週で対面授業(確認テスト)を行うので, 指定教室に集合すること</li> <li>計画的に学習を進めないと単位の取得は難しいので, 十分注意すること</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体ガイダンス, Criterion (1)</li> <li>2. Criterionガイダンス, Criterion (2)</li> <li>3. 自習, Criterion (3)</li> <li>4. ALCテスト 第1回, Criterion (4)</li> <li>5. 自習, Criterion (5)</li> <li>6. ALCテスト 第2回, Criterion (6)</li> <li>7. 自習, Criterion (7)</li> <li>8. ALCテスト 第3回, Criterion (8)</li> <li>9. 自習, Criterion (9)</li> <li>10. ALCテスト: 中間, Criterion (10)</li> <li>11. 自習, Criterion (11)</li> <li>12. ALCテスト 第4回, Criterion (12)</li> <li>13. 自習, Criterion (13)</li> <li>14. ALCテスト 第5回, Criterion (14)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
オンライン学習教材 (ALC NetAcademy 2, Criterion)		(a) テストの得点, (b) 課題の提出回数, (c) 課題の評定から総合的に評価する。	

09年度以降	E-learning II	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[目的] 英語学科1年1, 2組と交流文化学科の学生を対象とする。Reading Strategies, Paragraph Writing/Basic Essay Writingなどの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着, 向上させることを目的とする。</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1週目および2週目の説明会で, オンラインで提出するエッセイ (Criterion) に関する追加課題の説明をするので必ず出席すること</li> <li>通常授業期間中は指定のオンライン教材にアクセスし, 自主的に学習を進めること</li> <li>3週目以降は隔週で対面授業(確認テスト)を行うので, 指定教室に集合すること</li> <li>計画的に学習を進めないと単位の取得は難しいので, 十分注意すること</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体ガイダンス, Criterion (1)</li> <li>2. Criterionガイダンス, Criterion (1) review</li> <li>3. ALCテスト 第1回, Criterion (2)</li> <li>4. 自習, Criterion (2) review</li> <li>5. ALCテスト 第2回, Criterion (3)</li> <li>6. 自習, Criterion (3) review</li> <li>7. ALCテスト 第3回, Criterion (4)</li> <li>8. 自習, Criterion (4) review</li> <li>9. ALCテスト: 中間, Criterion (5)</li> <li>10. 自習, Criterion (5) review</li> <li>11. ALCテスト 第4回, Criterion (6)</li> <li>12. 自習, Criterion (6) review</li> <li>13. ALCテスト 第5回, Criterion (7)</li> <li>14. 自習, Criterion (7) review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
オンライン学習教材 (ALC NetAcademy 2, Criterion)		(a) テストの得点, (b) 課題の提出回数, (c) 課題の評定から総合的に評価する。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (Japanese Art & Culture)	担当者	A. ゴーリンジャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. Noh and noh masks will also be discussed.</p> <p>Reading for the course is aimed at preparing students to attend related art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the course of the semester. Drawing from academic articles, museum catalogues, and texts, students will study the profiles and backgrounds of the featured artists; study the artists' characteristic painting styles; study the common themes and iconography of selected paintings; and study the cultural context from which the works of art were produced.</p> <p>Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, to respond to prepared comprehension questions, and to introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion.</p>		<p>Exhibitions for study during the spring semester will include two from the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>根津美術館</b>「新創記念特別展第5部 国宝燕子花図屏風 —琳派コレクション一挙公開—」 2010年4月24日～4月23日</li> <li>● <b>根津美術館</b>「新創記念特別展第6部 能面の心・装束の華 —物語をうつす姿—」 2010年6月5日～7月4日 — paired with — <b>サントリー美術館</b>「国立能楽堂コレクション展「能の雅（エレガンス）狂言の妙（エスプリ）」 2010年6月12日～7月25日</li> <li>● <b>出光美術館</b>「日本の美・発見Ⅳ 屏風の世界 —その変遷と展開—」 2010年6月12日～7月25日</li> </ul> <p>Following a general introduction, classes 1 through 7 will comprise reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (25%), the completion of homework assignments (25%), and achievement on quizzes (25%) and on a final report (25%).	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (Japanese Art & Culture)	担当者	A. ゴーリンジャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. Noh and noh masks will also be discussed.</p> <p>Reading for the course is aimed at preparing students to attend related art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the course of the semester. Drawing from academic articles, museum catalogues, and texts, students will study the profiles and backgrounds of the featured artists; study the artists' characteristic painting styles; study the common themes and iconography of selected paintings; and study the cultural context from which the works of art were produced.</p> <p>Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, to respond to prepared comprehension questions, and to introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion.</p>		<p>Exhibitions for study during the fall semester will include two from the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>三井記念美術館</b>「特別展 円山応挙—空間の創造—」 2010年10月9日～11月28日</li> <li>● <b>サントリー美術館</b>「歌麿・写楽の仕掛け人 —その名は葛屋重三郎—」 2010年11月3日～12月19日</li> <li>● <b>出光美術館</b>「酒井抱一生誕250年 琳派芸術 —光悦・宗達から江戸琳派—」 第1部〈煌めく金の世界〉 2011年1月8日～2月6日</li> </ul> <p>Following a general introduction, classes 1 through 7 will comprise reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Final evaluations will be based on attendance (25%), the completion of homework assignments (25%), and achievement on quizzes (25%) and on a final report (25%).	

09年度以降	英語専門講読 I (Language, Culture and Communication)	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide a lot of reading opportunity to develop different reading skills. The reading skills in focus range from simple factual comprehension to interpretation and reasoning for implications. Materials will focus on the relation between language and culture.</p> <p>The choice of materials is based on the rationale that students today live in an ever globalizing world. Travel is a necessity. There is a great need to interrelate with diverse people of different language and culture backgrounds. The basic step, awareness of the issue, is the final goal, by reading materials on these and related topics.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course orientation: scope of the lesson, class methods, evaluation, etc.</li> <li>2. The joys of traveling</li> <li>3. Various types/experiences of culture travelers (1)</li> <li>4. Various types/experiences of culture travelers (2)</li> <li>5. Travel, Tourism &amp; Culture Interaction</li> <li>6. Culture interaction as a result of traveling</li> <li>7. Culture interaction as a result of traveling</li> <li>8. Culture shock experience: how to deal with it(1)</li> <li>9. Culture shock experience: how to deal with it (2)</li> <li>10. Foreigners in Japan: what they say!</li> <li>11. Foreigners in Japan: why they say so!!</li> <li>12. The Japanese uniqueness (1)</li> <li>13. The Japanese uniqueness (2)</li> <li>14. Summary and evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text and references will be announced on the first day of class.		Student grades will be based on a summative evaluation of class participation and end-of-term test or report.	

09年度以降	英語専門講読 II (Language, Culture and Communication)	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of the lessons in the second term continue from those of the first term.</p> <p>This course aims to provide a lot of reading opportunity to develop different reading skills. The reading skills in focus range from simple factual comprehension to interpretation and reasoning for implications. Materials will focus on the relation between language and culture.</p> <p>The choice of materials is based on the rationale that students today live in an ever globalizing world. Travel is a necessity. There is a great need to interrelate with diverse people of different language and culture backgrounds. The basic step, awareness of the issue, is the final goal, by reading materials on these and related topics.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course orientation: scope of the lessons, class methods, evaluation, etc.</li> <li>2. Culture, language and communication style</li> <li>3. Sweet interdependence “Amae”</li> <li>4. Interdependence &amp; culture homogeneity</li> <li>5. Respectfulness and homogeneity</li> <li>6. Relational identities</li> <li>7. Levels of politeness: language honorifics</li> <li>8. Culture and politeness</li> <li>9. Masculinity and language use</li> <li>10. Femininity and language use</li> <li>11. Back channelling 1: types of back channelling</li> <li>12. Back channelling 2: psychological use in face-to-face communication</li> <li>13. Back channelling 3: cultural factors and back channelling</li> <li>14. Summary and evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text will be announced on the first day of class.		Student grades will be based on a summative evaluation of class participation and end-of-term test or report.	

09年度以降	英語専門講読 I (Education & Culture)	担当者	J. J. ダゲン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><i>Learning to Bow</i> is the first-person account of a young American taking part in the JET program in Japan. It offers an instructive, yet amusing, inside look at Japan's educational system as seen by someone from another culture. The author's account of his experiences with his Japanese students, supervisors and colleagues (including such educationally and culturally relevant topics as how boys and girls learn gender roles, or the impact of strict school rules) will form the basis of study for this class.</p> <p>By reading and discussing the observations made by the author, it is hoped that students will achieve a new outlook and understanding of the education system in Japan and of Japanese society and culture in general.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction. Week 2: Selected chapter. Week 3: Selected chapter. Week 4: Selected chapter. Week 5: Selected chapter. Week 6: Selected chapter. Week 7: Selected chapter. Week 8: Selected chapter. Week 9: Selected chapter. Week 10: Selected chapter. Week 11: Selected chapter. Week 12: Selected chapter. Week 13: Selected chapter. Week 14: Review.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Feiler, B. <i>Learning to Bow: Inside the Heart of Japan</i> . (Harper Perennial).		Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.	

09年度以降	英語専門講読 II (Education & Culture)	担当者	J. J. ダゲン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><i>Learning to Bow</i> is the first-person account of a young American taking part in the JET program in Japan. It offers an instructive, yet amusing, inside look at Japan's educational system as seen by someone from another culture. The author's account of his experiences with his Japanese students, supervisors and colleagues (including such educationally and culturally relevant topics as how boys and girls learn gender roles, or the impact of strict school rules) will form the basis of study for this class.</p> <p>By reading and discussing the observations made by the author, it is hoped that students will achieve a new outlook and understanding of the education system in Japan and of Japanese society and culture in general.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p> <p>As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction. Week 2: Selected chapter. Week 3: Selected chapter. Week 4: Selected chapter. Week 5: Selected chapter. Week 6: Selected chapter. Week 7: Selected chapter. Week 8: Selected chapter. Week 9: Selected chapter. Week 10: Selected chapter. Week 11: Selected chapter. Week 12: Selected chapter. Week 13: Selected chapter. Week 14: Review.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Feiler, B. <i>Learning to Bow: Inside the Heart of Japan</i> . (Harper Perennial).		Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (Origin and Evolution of Language)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Language is the most extraordinary ability that humans possess, and yet, curiously, we seem to know so little about its origins and evolution. In fact, the past 30 years have seen fascinating developments in our understanding of these questions. These developments are found in sciences that range across many disciplines including biology, genetics, archeology, anthropology, psychology, computer modeling, and, of course, linguistics. This course will survey the many perspectives that have enriched our understanding of language and its origin and evolution.</p> <p>A word of advice—This course will require careful reading of a text (<i>The Seeds of Speech</i>) and, possibly, a few short articles. Although the text is written with the general reader in mind, it is not an easy read, and, in order to pass the course, you will need to be able to understand, discuss, and write about the ideas covered in the book. Thus I would recommend this course only to students who are genuinely interested in these questions—the origin and evolution of language—and who are willing to devote the time and effort it takes to acquire an understanding of them.</p>		<p>1 Orientation</p> <p>2-3 How did language begin: A natural curiosity</p> <p>4-5 What is language for: A peculiar habit</p> <p>6-7 Why do languages differ so much? The bother at Babel</p> <p>8-9 Is language an independent skill? Distinct duties</p> <p>10-11 The evolutionary background: The family tree</p> <p>12 Test</p> <p>13-14 Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Seeds of Speech: Language origin and evolution.</i> (2000) Jean Aitchison. Cambridge University Press.		Students will be evaluated according to the quality of their contributions to the class discussions, presentations, and a test.	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (Origin and Evolution of Language)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Language is the most extraordinary ability that humans possess, and yet, curiously, we seem to know so little about its origins and evolution. In fact, the past 30 years have seen fascinating developments in our understanding of these questions. These developments are found in sciences that range across many disciplines including biology, genetics, archeology, anthropology, psychology, computer modeling, and, of course, linguistics. This course will survey the many perspectives that have enriched our understanding of language and its origin and evolution.</p> <p>A word of advice—This course will require careful reading of a text (<i>The Seeds of Speech</i>) and, possibly, a few short articles. Although the text is written with the general reader in mind, it is not an easy read, and, in order to pass the course, you will need to be able to understand, discuss, and write about the ideas covered in the book. Thus I would recommend this course only to students who are genuinely interested in these questions—the origin and evolution of language—and who are willing to devote the time and effort it takes to acquire an understanding of them.</p>		<p>1 Orientation</p> <p>2-3 The basic requirements of language: A devious mind</p> <p>4-5 Inherited ingredients: Broken air</p> <p>6-7 First steps in language: Small beginnings</p> <p>8-9 Expansion of language: The tower of speech</p> <p>10-11 Extra attachments: Time travelling</p> <p>12 Test</p> <p>13 Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Seeds of Speech: Language origin and evolution.</i> (2000) Jean Aitchison. Cambridge University Press.		Students will be evaluated according to the quality of their contributions to the class discussions, presentations, and a test.	

09年度以降	英語専門講読 I (James Joyce)	担当者	M. フッド
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce.</p> <p>During the spring term, we will focus on Joyce's collection of short stories, <i>Dubliners</i> and begin reading his semi-autobiographical novel <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i>.</p> <p>Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature.</p> <p>This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion</p> <p>Week 2: The Sisters</p> <p>Week 3: Araby</p> <p>Week 4: Araby (video)</p> <p>Week 5: Eveline</p> <p>Week 6: Two Gallants</p> <p>Week 7: A Painful Case</p> <p>Week 8: The Dead</p> <p>Week 9: The Dead (video)</p> <p>Week 10: Review, Nora (video)</p> <p>Week 11: Nora (video)</p> <p>Week 12: Introduction to A Portrait of the Artist</p> <p>Week 13: Portrait, Chapter 1</p> <p>Week 14: Portrait, Chapter 2</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
The Portable James Joyce (Penguin)		Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.	

09年度以降	英語専門講読 II (James Joyce)	担当者	M. フッド
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce.</p> <p>During the fall term, we will finish <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> and read excerpts from Joyce's most important novel, <i>Ulysses</i>. We will finish the course with a short introduction to Joyce's final and most enigmatic work, <i>Finnegans Wake</i>.</p> <p>Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature.</p> <p>This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Portrait, Chapter 3</p> <p>Week 2: Portrait, Chapters 4</p> <p>Week 3: Portrait 5</p> <p>Week 4: Review of Portrait</p> <p>Week 5: Introduction to Ulysses</p> <p>Week 6: Telemachus, Nestor (video)</p> <p>Week 7: Calypso, Hades (video)</p> <p>Week 8: Cyclops, The Wandering Rocks (video)</p> <p>Week 9: The Sirens, Circe (video)</p> <p>Week 10: Ithaca</p> <p>Week 11: Penelope (video)</p> <p>Week 12: Review of Ulysses</p> <p>Week 13: Finnegans Wake</p> <p>Week 14: Finnegans Wake</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
The Portable James Joyce (Penguin)		Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.	

09年度以降	英語専門講読 I (Education)	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The course book for this class is titled <u>The English You Need to Know</u>. It will provide a foundation for the in-class lectures, workshops, and projects. It is a skill-based textbook. Thus, the course will focus on helping students improve their ability to use English more authentically and to understand the various aspects of language which are normally less emphasized in the communicative classroom. Areas as such narration, description, figures of speech, idiomatic language, persuasion, humor and irony, allusion will all be studied.</p> <p>Textbook is available on-line at amazon.co.jp 1,326 yen</p>		<p>Week 1: Class Introduction Week 2: Narration I Week 3: Narration II Week 4: Description I Week 5: Description II Week 6: Exposition I Week 7: Exposition II Week 8: Topic Sentences Week 9: Repetition Week 10: Using Quotations I Week 11: Figures of Speech I Week 12: Figures of Speech II Week 13: Using Quotations II Week 14: Final Roundup</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
The English You Need to Know by Barrons		Grades are based on class participation, attendance, and final debates	

09年度以降	英語専門講読 II (Education)	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The second semester is a continuation of the first semester.</p> <p>Students considering this class should keep in mind that they will need to read and prepare material for each lesson. Each class will allow for discussion time on the topic covered in class.</p>		<p>Week 1: Class Introduction Week 2: Idioms I Week 3: Idioms II Week 4: Editorial Essays Week 5: Matters of Fact Week 6: Connotations Week 7: Humor and Irony Week 8: Humor and Ironing (joke) Week 9: Allusions Week 10: Allusions Week 11: Dialogue Week 12: Choose a Title Week 13: Open class Week 14: Final roundup</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
The English You Need to Know by Barrons		Grades are based on class participation, attendance, and final debates	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (国際機関とミレニアム開発目標)	担当者	S. ロシート
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Aims to improve</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Reading skills and specialized vocabulary related to international development</li> <li>2. Knowledge of global issues related to poverty using the MDGs (ミレニアム開発目標) as a base</li> <li>3. Understanding about what is being done to tackle these problems</li> <li>4. Critical understanding of problems and approaches.</li> <li>5. Develop communication skills</li> </ol> <p>Weekly assignments: Each week students will complete short readings, which will form a based for class discussion.</p> <p>Class format Instructor presentation - key issues. Group work - discussion, review of readings and exercises. Participant presentation - present summaries, final project.</p>		<p>* Since we will be focusing on current issues - specific contents may change.</p> <p>Class 1 Introduction to course, Overview of international development and current global issues Class 2 What are the MDGs? Class 3 MDG 1 - poverty Class 4 Case study on poverty Class 5 MDG 2 - universal education Class 6 Case study on girl' s education Class 7 Mid-term quiz and discussion "exam" Class 8 MDG 3 - gender equity Class 9 Case study on women and work Class 10 MDG 4 - infant and maternal mortality Class 11 Case study on child health Class 12 Overview of NGO-government collaboration Class 13 Presentation skills Class 14 Wrap up &amp; Final Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Online readings from OXFAM and 2015 Anyone without internet access should tell the instructor in class1</p>		<p>Active class participation, mid-term quiz, final project (paper and presentation) and regular completion of assignments. Attendance of 75% is required to pass.</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (国際機関とミレニアム開発目標)	担当者	S. ロシート
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Aims to improve</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Reading skills and specialized vocabulary related to international development</li> <li>2. Knowledge of global issues related to poverty using the MDGs (ミレニアム開発目標) as a base</li> <li>3. Understanding about what is being done to tackle these problems</li> <li>4. Critical understanding of problems and approaches.</li> <li>5. Develop communication skills</li> </ol> <p>Weekly assignments: Each week students will complete short readings, which will form a based for class discussion.</p> <p>Class format Instructor presentation - key issues. Group work - discussion, review of readings and exercises. Participant presentation - present summaries, final project.</p>		<p>* Since we will be focusing on current issues - specific contents may change.</p> <p>Class 1 Introduction to course, Overview of international development and current global issues Class 2 Why the MDGs? Class 3 MDG 1 - hunger Class 4 Case study on food security Class 5 MDG 5 &amp; 6 - maternal health and infectious diseases Class 6 Case study on reproductive health issues Class 7 Mid-term quiz and discussion "exam" Class 8 MDG 7 - environmental sustainability Class 9 Case study on water Class 10 Case study on housing Class 11 MDG 8 - international aid Class 12 Overview of what governments are doing Class 13 Presentation skills Class 14 Wrap up &amp; Final Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Online readings from OXFAM and 2015 Anyone without internet access should tell the instructor in class1</p>		<p>Active class participation, mid-term quiz, final project (paper and presentation) and regular completion of assignments. Attendance of 75% is required to pass.</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (Linguistics)	担当者	T. ヒル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is intended to provide students with a basic introduction to most of the topics dealt with in the field of sociolinguistics. It will include such topics as language and communities, languages and dialects, varieties of language, pidgins and creoles, codes, bilingualism and multilingualism, speech communities, and language variation. Students interested in class should keep in mind that we will cover 10 to 12 pages each lesson, and will have discussions based on the topics covered. The first class will provide a detailed-overview of the course.</p>		<p>Week 1: Course introduction  Week 2: Unit one  Week 3: Continued  Week 4: Continued  Week 5: Unit Two  Week 6: Continued  Week 7: Continued  Week 8: United Three  Week 9: Continued  Week 10: Continued  Week 11: Unit Four  Week 12: Continued  Week 13: Continued  Week 14: Final Class</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Introduction to Sociolinguistics by Peter Trudgill		Evaluation will be based on attendance, participation in class, completion and submission of weekly hand-outs, and a term paper	

09年度以降	英語専門講読 I (Linguistics)	担当者	T. ヒル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is intended to provide students with a basic introduction to most of the topics dealt with in the field of sociolinguistics. It will include such topics as language and communities, languages and dialects, varieties of language, pidgins and creoles, codes, bilingualism and multilingualism, speech communities, and language variation. Students interested in class should keep in mind that we will cover 10 to 12 pages each lesson, and will have discussions based on the topics covered. The first class will provide a detailed-overview of the course.</p>		<p>Week 1: Course introduction  Week 2: Unit Five  Week 3: Continued  Week 4: Continued  Week 5: Unit Six  Week 6: Continued  Week 7: Continued  Week 8: Unit Seven  Week 9: Continued  Week 10: Continued  Week 11: Unit Eight  Week 12: Continued  Week 13: Continued  Week 14: Final Class</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Introduction to Sociolinguistics by Peter Trudgill		Evaluation will be based on attendance, participation in class, completion and submission of weekly hand-outs, and a term paper	

09 年度以降	英語専門講読 I (音声知覚のしくみと発達入門)	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u> 音声知覚について、つまり、ヒトがことばの音を「聞いてわかる」ということはどういうことなのか、ということについてその基礎を学び、またその習得・発達に関連して読んでいく。</p> <p>音声と言語に対する興味を開拓し、また乳児や動物の音声認知について知ることによりヒトの知能活動としての言語の面白さに触れる。</p> <p>テキストは比較的やさしい入門書ではあるが、専門的な内容についてある程度まとまった分量を継続して読み進めることにより、正確な読解力と分析的な視点を養う。</p> <p><u>講義概要</u> (1) 音声知覚入門 (こどもの音声獲得・発達、動物による知覚も含む) (2) その他音声 (発話・認知) に関するトピック</p> <p>各学生は毎回の指定範囲の予習が前提となり、小テストで確認する。英文の構造とその内容を正確に理解するよう精読の練習をする。各章の後に担当者がハンドアウト (配布資料) を使用して内容のまとめを発表する。これについて教員が補足、解説をし、また質疑応答・議論を行う。</p> <p><u>メッセージ</u> Ryalls (1996) は入門書の中でも最も平易で簡潔明瞭に書かれているものである。英語も易しく、各章も文字の大きいわずかずページからなり、後ろに確認 exercise がついていて初心者にとっても親切である。例年の受講者を見ていても、読み課題 (質・量) は少しずつ慣れていくはずで、地道に努力を重ねることで、年度末には読解力向上が実感できると思われる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction /Preliminary reading サルの顔認知</li> <li>2. Ch-1 Sounds of Speech 音とは</li> <li>3. Ch-1 (2)</li> <li>4. Ch-2 Basic Speech Acoustics 音響の基礎</li> <li>5. Review exercises</li> <li>6. Ch-3 Perception of Consonants 子音を聴く</li> <li>7. Ch-3 (2)</li> <li>8. Ch-3 (3)</li> <li>9. Ch-4 Categorical Perception 微細であり大雑把であること</li> <li>10. Ch-4 (2)</li> <li>11. Ch-4 (3)</li> <li>12. Review exercises</li> <li>13. Ch-8 A theory of Acoustic Invariance 音の手がかりは何?</li> <li>14. Ch-8 (2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Ryalls, Jack. (1996) <i>A Basic Introduction to Speech Perception</i>. Singular Publishing Group Inc. (ISBN: 1-56593-617-5)</p> <p>その他 配布資料</p>		<p>授業参加 (準備・参加)、小テスト、発表、試験の総合評価による。</p> <p>各項で最低限をクリアすること。</p>	

09 年度以降	英語専門講読 II (音声知覚のしくみと発達入門)	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u> 春学期に引き続き読み進め、さらなる読解力を養う。</p> <p><u>講義概要</u> 春学期に同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Ch-9 Dichotic Listening 右脳と左脳の話</li> <li>2. Ch-9 (2)</li> <li>3. Ch-9 (2)</li> <li>4. Ch-11 Studies of Infant Speech Perception 乳児の音声知覚</li> <li>5. Ch-11 (2)</li> <li>6. Ch-11 (3)</li> <li>7. Review exercises</li> <li>8. Ch-12 Development of Speech Perception 乳児の能力の不思議とその後の展開</li> <li>9. Ch-12 (2)</li> <li>10. Ch-12 (3)</li> <li>11. Ch-13 Speech Perception in Animals 動物は同じ?違う?</li> <li>12. Ch-13 (2)</li> <li>13. Ch-13 (3)</li> <li>14. Review exercises</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Ryalls, Jack. (1996) <i>A Basic Introduction to Speech Perception</i>. Singular Publishing Group Inc. (ISBN: 1-56593-617-5)</p> <p>その他 配布資料</p>		<p>授業参加 (準備・参加)、小テスト、発表、試験の総合評価による。</p> <p>各項で最低限をクリアすること。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this course, you will learn practical ideas and techniques in materials development for language teaching and integrating “global issues” into language learning classes.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is strongly recommended for students who are in the teacher-training course.</p> <p><i>Please refer to <u>Kogi-shien System</u> whenever you miss a class which will be updated with the latest information.</i></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Global issues and language learning 1</li> <li>3. Global issues and language teaching 2</li> <li>4. Finding and selecting materials</li> <li>5. Adapting materials</li> <li>6. Content-rich songs</li> <li>7. Developing activities 1</li> <li>8. Developing activities 2</li> <li>9. Presentations 1</li> <li>10. Presentations 2</li> <li>11. Presentations 3</li> <li>12. Presentations 4</li> <li>13. Presentations 5</li> <li>14. Evaluating your materials</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義支援システム使用 参考文献: <u>Materials Development in Language Teaching</u> (B. Tomlinson, Cambridge Univ. Press), <u>Global Issues</u> (Sampedro & Hillyard, Oxford)		class participation, reading assignments and projects	

09年度以降	英語専門講読 II (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this course, you will learn practical ideas and techniques in materials development for language teaching and integrating “global issues” into language learning classes.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is strongly recommended for students who are in the teacher-training course.</p> <p><i>Please refer to <u>Kogi-shien System</u> whenever you miss a class which will be updated with the latest information.</i></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Global issues and language learning 1</li> <li>3. Global issues and language teaching 2</li> <li>4. Using authentic materials</li> <li>5. Using films as a teaching material</li> <li>6. Using media as a teaching material</li> <li>7. Developing activities</li> <li>8. Developing activities</li> <li>9. Presentations 1</li> <li>10. Presentations 2</li> <li>11. Presentations 3</li> <li>12. Presentations 4</li> <li>13. Presentations 5</li> <li>14. Evaluating your materials</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義支援システム使用 参考文献: <u>Materials Development in Language Teaching</u> (B. Tomlinson, Cambridge Univ. Press), <u>Global Issues</u> (Sampedro & Hillyard, Oxford)		class participation, reading assignments and projects	

09 年度以降	英語専門講読 I (米国の東アジア政策)	担当者	阿部 純一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>経済、外交とも厳しい国際環境の中で、オバマ政権は 2 年目を迎えた。秋には、政権の業績評価ともなる中間選挙が控える。国内の景気浮揚、失業率低下に決め手はなく、アフガン戦争も打開策が見当たらない。こうした情勢下で、東アジアとの関係も困難の度合いを深めている。安保条約改訂から 50 年目を迎えた日米同盟は、米海兵隊の普天間基地移設問題をめぐって迷走し、米中関係では台湾への武器供与問題で利害の相反関係を露呈した。さらに、いまだ再開の目処が立たない北朝鮮の核問題をめぐる 6 者協議など、東アジア情勢では様々な課題に直面している。オバマ大統領は昨年 11 月の訪日時のアジア政策スピーチで、太平洋国家として東アジアへのコミットメントを確認したが、それが米国の東アジア政策のなかでどのように具体的に展開されるかが注目される。授業では、このような問題意識に立って、リアルタイムに米国の政策を追いかけ、分析する。</p>		<p>授業では、事前に配布した教材をもとに報告を担当する学生がレジュメ (A4 で 2 枚厳守) を用意し、それに基づき教材の内容についてプレゼンテーションを行う。 プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事項や問題につき、討論する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
シンクタンクのレポート、新聞記事など、最新のトピックを扱ったものから教材を選択し、毎回配布する。		学生のプレゼンテーション、授業における気論への積極的参加、出席を基に評価する。理由の如何を問わず 3 回連続の欠席はドロップアウト。	

09 年度以降	英語専門講読 II (米国の東アジア政策)	担当者	阿部 純一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
(春学期に同じ)		(春学期に同じ)	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
(春学期に同じ)		(春学期に同じ)	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (ポピュラー・カルチャー入門 1)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ポピュラーな文化」の複眼的理解が、このクラスにおける今年度のテーマです。</p> <p>講読テキスト：人々が日常的に親しんでいるものを、消費や娯楽の対象としてではなく、深く考える対象として理解していくための理論と方法を解説した専門書を読みます。</p> <p>各章の理解を確認していくために、グループに分かれ、全体のディスカッションの舵取りをしていただきます。</p> <p>学期末には、読書内容と関連のある発表をグループごとに行っていただきます。</p> <p>なお、履修登録が完了したら、指定テキストを amazon.co.jp など各自注文することを勧めますが、初回の授業で共同購入手続きをする方法もあります。ただし、共同購入の場合、入手が遅れることが予想されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Overview of the semester</li> <li>2. Group formation</li> <li>3. What is popular culture? 1</li> <li>4. What is popular culture? 2</li> <li>5. The 'culture and civilization' tradition 1</li> <li>6. The 'culture and civilization' tradition 2</li> <li>7. Culturalism 1</li> <li>8. Culturalism 2</li> <li>9. Marxisms 1</li> <li>10. Marxisms 2</li> <li>11. Psychoanalysis 1</li> <li>12. Psychoanalysis 2</li> <li>13. Preparation and consultation</li> <li>14. Presentations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Storey, <i>Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction</i> , 4th Edition (University of Georgia Press, 2006)		出席状況と授業への参加・貢献度 (50%)、課題読書の理解度 (20%)、および学期末発表 (30%)	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (ポピュラー・カルチャー入門 2)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上述の春学期の続きです。授業の進め方も同じです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Overview of the course</li> <li>2. Structuralism and post-structuralism 1</li> <li>3. Structuralism and post-structuralism 2</li> <li>4. Gender and sexuality 1</li> <li>5. Gender and sexuality 2</li> <li>6. Postmodernism 1</li> <li>7. Postmodernism 2</li> <li>8. The politics of the popular 1</li> <li>9. The politics of the popular 2</li> <li>10. Case Analysis (実例研究：ディズニー映画)</li> <li>11. Case Analysis (実例研究：アメリカのCM)</li> <li>12. Case Analysis (実例研究：アメリカの映画)</li> <li>13. Preparation and consultation</li> <li>14. Presentations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Storey, <i>Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction</i> , 4th Edition (University of Georgia Press, 2006)		出席状況と授業への参加・貢献度 (50%)、課題読書の理解度 (20%)、および学期末発表 (30%)	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (時空を越えるエズラ・パウンド)	担当者	遠藤 朋之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>タイトル通り、時空を越えるエズラ・パウンドの詩作品を読む。</p> <p>日々刻々と流れる時間。時間のありようは、それだけだろうか？ 否、「共時的な時間」というものもある。その「共時的な時間」を探るにあたって、20世紀になって初めてその概念を打ち出したパウンドが、いかに「共時的」の対概念である「通時的」を越えたか、それをパウンドの詩作において探る。</p> <p>「時空」とは、「時間」と「空間」のことである。詩という言語芸術において時空を越えるとは、古今（時間）東西（空間）を越える、ということでもある。このふたつは、厳密に分けられるものではないが、パウンドは、「翻訳」という手法で時空を越えようとした。古（いにしえ）の作品を翻訳すれば、「時間」を越えたものになり、英語とは別言語のものを翻訳すれば（パウンドは、もちろん、古今東西の文学を英語に「翻訳」した）、「空間」を越えるものになる。この授業では、新たな、「共時的時間感覚」がいかにして生まれるのか、それを、パウンドの「翻訳」という作業において、探っていく。</p>		<p>第1回：introduction</p> <p>第2～4回：Imagism と Vorticism の原理。</p> <p>第5～8回：“Homage to Sextus Propertius”からの翻訳。</p> <p>第9～14回：Cathay から、“The River-Merchant’s Wife: A Letter,” “The Beautiful Toilet,” “Four Poems of Departure,” “Poem by the Bridge of Ten-Shin” など。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Personae (New Directions)、および、プリント。		2000字以上のレポート、及びプレゼンテーションと授業への参加度。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (時空を越えるエズラ・パウンド)	担当者	遠藤 朋之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期は、パウンドが、おもに、いかに「時間」を越えたかを検証した。秋学期は、パウンドがいかに同時代で「空間」を越えたかを見てみたい。つまり、同時代の詩人に対して、どれほどの影響をパウンドが与えたか、それを検証する。</p> <p>「空間」を越えるわけであるから、扱う詩人は、英米の詩人たちに限らない。Gary Snyder, Allen Ginsberg、西脇順三郎、北園克衛、田村隆一、吉増剛造、Bob Marley といった詩人たちである。目指すべき到達地点は、古今と東西の交錯点には、「翻訳」という行為があるのではないか、というところだ。</p>		<p>第1回：introduction</p> <p>第2～4回：Gary Snyder の “The Hump-Backed Flute Player” などの詩。</p> <p>第5～7回：Allen Ginsberg の俳句的な詩 (“Sad Dust Glories” など)。</p> <p>第8～14回：西脇、「京都の1月」、北園、「単調な空間」など、田村の初期詩篇、吉増、「赤馬 “Be Quiet America”」、Bob Marley, “Talkin’ Blues” など。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
おもにプリント。		2000字以上のレポート、及びプレゼンテーションと授業への参加度。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じ、『白雪姫』から『ジャングル・ブック』まで、Walt Disney 存命中の長編アニメーション映画を中心に、Disney 映画の軌跡をたどります。Disney 映画と、それを核として広がる壮大な Disney 文化の世界は、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものです。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。</p> <p>授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。</p> <p>全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自（skeptical な観かたで）視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期コース・オリエンテーション</li> <li>2. Launching the Animated Feature</li> <li>3. Seven Dwarfs for Snow White</li> <li>4. New Tools 1</li> <li>5. New Tools 2</li> <li>6. Disney's Folly</li> <li>7. Pinocchio</li> <li>8. Fantasia</li> <li>9. Bambi</li> <li>10. Economizing: Dumbo</li> <li>11. The New Studio, The Strike, and the War 1</li> <li>12. The New Studio, The Strike, and the War 2</li> <li>13. Cinderella Restores the Glory</li> <li>14. 春学期の総括</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Thomas, Bob, <i>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</i>, Hyperion, New York, 1991.</p> <p>他の参考文献等については、授業中に随時紹介。</p>		出席、授業への貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期から引き続き、Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じて、Disney 映画の軌跡をたどります。</p> <p>秋学期は、Walt の存命中の作品だけでなく、Walt 亡き後のスタジオの作品（『リトル・マーメイド』まで）も扱います。受講者の皆さんには、引き続きテキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。</p> <p>春学期と同じく、授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。</p> <p>全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自（skeptical な観かたで）視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The Anthology Features</li> <li>2. Alice, Peter, Lady and the Tramp 1 (Alice)</li> <li>3. Alice, Peter, Lady and the Tramp 2 (Peter Pan)</li> <li>4. Alice, Peter, Lady and the Tramp 3 (L&amp;T)</li> <li>5. Sleeping Beauty Awakens</li> <li>6. Walt Disney's Last Films</li> <li>7. Carrying on the Tradition</li> <li>8. The Black Cauldron</li> <li>9. A New Regime and a Rebirth</li> <li>10. A New Regime and a Rebirth</li> <li>11. Who Framed Roger Rabbit</li> <li>12. Triumph: The Little Mermaid</li> <li>13. The Rescuers Down Under</li> <li>14. 秋学期の総括</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Thomas, Bob, <i>Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast</i>, Hyperion, New York, 1991.</p> <p>他の参考文献等については、授業中に随時紹介。</p>		出席、授業への貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (アメリカ黒人の歴史)	担当者	岡田 誠一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アメリカ黒人文化の流れを学ぶのが、この授業の一つの目標である。絵、風刺画、写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストに使う予定。</p> <p>今年度は、アメリカに奴隷として連れてこられた黒人が、どのように生きていくことになるかを学ぶ。</p> <p>また、英文をじっくり読むことにより、将来必ず役立つであろうような英語力を培うのが、この授業のもう一つの目標である。</p> <p>なお、アメリカ黒人文化を知るための一助として、年間数本、黒人に関する映画を鑑賞する予定である。</p> <p>この授業を受けるには、アメリカ黒人について興味を抱いていることが必要条件。</p> <p>テキストにはいわゆる原書を使うので、真面目に予習をして授業に臨むならば、一年間で驚くほどの読解力を身につけることができよう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 黒人はどのようにしてアメリカに連れてこられたか。</li> <li>・ 「黒い黄金」</li> <li>・ 新世界における奴隷</li> <li>・ コットン・ジンとは何か</li> <li>・ キング・コットン</li> <li>・ 奴隷の職人たち</li> <li>・ 家の中で働く奴隷</li> <li>・ 独立宣言と奴隷</li> </ul> <p>などについて学んでいく。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>A Pictorial History of Blackamericans</i> の抜粋 (プリント) を使用する。</p> <p>参考文献は授業中適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か、期末の試験、などにより評価が決定される。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (アメリカ黒人の歴史)	担当者	岡田 誠一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アメリカ黒人文化の流れを学ぶのが、この授業の一つの目標である。絵、風刺画、写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本をテキストに使う予定。</p> <p>今年度は、アメリカに奴隷として連れてこられた黒人が、どのように生きていくことになるかを学ぶ。</p> <p>また、英文をじっくり読むことにより、将来必ず役立つであろうような英語力を培うのが、この授業のもう一つの目標である。</p> <p>なお、アメリカ黒人文化を知るための一助として、年間数本、黒人に関する映画を鑑賞する予定である。</p> <p>この授業を受けるには、アメリカ黒人について興味を抱いていることが必要条件。</p> <p>テキストにはいわゆる原書を使うので、真面目に予習をして授業に臨むならば、一年間で驚くほどの読解力を身につけることができよう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 財産としての奴隷と合衆国憲法</li> <li>・ 奴隷小屋と疫病</li> <li>・ 奴隷の反乱</li> <li>・ 逃亡奴隷とインディアン</li> <li>・ 教育と奴隷</li> <li>・ 有名な奴隷たち</li> <li>・ ジム・クロウとは何か</li> </ul> <p>などについて学ぶ予定。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>A Pictorial History of Blackamericans</i> の抜粋 (プリント) を使用する。</p> <p>参考文献は授業中適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か、期末の試験、などにより評価が決定される。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (ヒッチコック映画の精神分析)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> ヒッチコック映画をテキストとし、それらを精神分析の視座から批評した論文を精読する。それら複数の論文の精読を通して映像テキストの精神分析とはいかなるものであるかを思考する。講義においては以下の3点が探求のテーマとなる：1) 理論とは何か、2) 批評とは何か、3) 精神分析及びクイアー理論とは何か。これら3点のテーマについて綿密なテキスト分析の実践にその可能性を辿っていく。</p> <p><b>講義概要</b> 映像という表象手段によって観客にコミュニケーションされるヒッチコック監督作品をテキストとして、精神分析批評とクイアー理論、及びコミュニケーション理論の基礎を学んでいく。映像というレトリックの手段によるテキストの構成過程を、映画作品と批評を綿密に読み込むことで、その理論的な背景を加味しながら理解していく。この講義の目標はあくまでもレトリック理論の探求であり、映画をエンターテインメントとして楽しむことではない。如何にして理論的な「読み」の楽しみを映画というテキストを通じて見だしていくのかが、講義と活発な討論を通じて学生が探求していく主題となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コース・オリエンテーション</li> <li>2. 精神分析批評とクイアー理論-Introduction, (1)</li> <li>3. 精神分析批評とクイアー理論-Introduction, (2)</li> <li>4. <i>The Lady Vanishes</i>, but the Letter Remains: Julia Kristeva and the Maternal Real(m), (1)</li> <li>5. <i>The Lady Vanishes</i>, but the Letter Remains: Julia Kristeva and the Maternal Real(m), (2)</li> <li>6. The Fear of Women and Writing in <i>Spellbound</i>: Kaja Silverman and the Question of Castration, (1)</li> <li>7. The Fear of Women and Writing in <i>Spellbound</i>: Kaja Silverman and the Question of Castration, (2)</li> <li>8. <i>Rebecca</i>, Repetition, and the Circulation of Feminine Desire: Judith Butler and the Materiality of the Letter, (1)</li> <li>9. <i>Rebecca</i>, Repetition, and the Circulation of Feminine Desire: Judith Butler and the Materiality of the Letter, (2)</li> <li>10. <i>Notorious</i>: Luce Irigaray, Feminine Fluids, and Masculine (Be)Hind-Sight, (1)</li> <li>11. <i>Notorious</i>: Luce Irigaray, Feminine Fluids, and Masculine (Be)Hind-Sight, (2)</li> <li>12. <i>Vertigo</i>: Sexual Dis-Orientation and the En-Gendering of the Real, (1)</li> <li>13. <i>Vertigo</i>: Sexual Dis-Orientation and the En-Gendering of the Real, (2)</li> <li>14. 前期総括</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert Samuels. <u>Hitchcock's Bi-Textuality: Lacan, Feminisms, and Queer Theory</u> . SUNY U. Press. 1998.		定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当）等から総合的に評価する。	

09年度以降	英語専門講読 II (ヒッチコック映画の精神分析)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後期オリエンテーション</li> <li>2. <i>Marnie</i>: Abjection, Marking, and Feminine Subjectivity, (1)</li> <li>3. <i>Marnie</i>: Abjection, Marking, and Feminine Subjectivity, (2)</li> <li>4. <i>Rear Window</i> Ethics: Laura Mulvey and the Inverted Gaze, (1)</li> <li>5. <i>Rear Window</i> Ethics: Laura Mulvey and the Inverted Gaze, (2)</li> <li>6. <i>The Birds</i>: Zizek, Ideology, and the Horror of the Real, (1)</li> <li>7. <i>The Birds</i>: Zizek, Ideology, and the Horror of the Real, (2)</li> <li>8. Epilogue: <i>Psycho</i> and the Horror of the Bi-Textual Unconscious, (1)</li> <li>9. Epilogue: <i>Psycho</i> and the Horror of the Bi-Textual Unconscious, (2)</li> <li>10. Spatial Systems in North by Northwest by F. Jameson (From S. Zizek, <u>Everything You Always Wanted to Know about Lacan (But Were Afraid to Ask Hitchcock)</u>), (1)</li> <li>11. Spatial Systems in North by Northwest by F. Jameson (From S. Zizek, <u>Everything You Always Wanted to Know about Lacan (But Were Afraid to Ask Hitchcock)</u>), (2)</li> <li>12. The Spectator Who Knew Too Much by M. Dolar (From S. Zizek, <u>Everything You Always Wanted to Know about Lacan (But Were Afraid to Ask Hitchcock)</u>), (1)</li> <li>13. The Spectator Who Knew Too Much by M. Dolar (From S. Zizek, <u>Everything You Always Wanted to Know about Lacan (But Were Afraid to Ask Hitchcock)</u>), (2)</li> <li>14. 総括：レトリック、精神分析、批評理論</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robert Samuels. <u>Hitchcock's Bi-Textuality: Lacan, Feminisms, and Queer Theory</u> . SUNY U. Press. 1998.		定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当）等から総合的に評価する。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (短編小説を読みこなす)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>20世紀以降のメジャーな作家による短編小説を読みこなします。共通テーマは「恋愛」ですが、腕利きの作家たちのこと、幸せな恋愛を謳い上げるといよりは、それぞれ独自の工夫を凝らし、思いがけない展開を仕掛けています。各作品をできるだけ正確に読み解き、作品の余韻をみんなで味わいましょう。</p> <p>講義概要</p> <p>この授業で扱う作品は、もともとネイティブの大人向けに書かれたものなので、英語はそれなりに難しいです。しかし「小説の神は細部に宿る」ものなので、無駄な言葉はないという前提で、丹念に辞書を引いて読み進めましょう。毎回、課題として4ページ前後の英文を読み、課題プリント(サマリーなど)を埋めてきてもらいます。授業では細部の表現に注目するほか、担当者から内容についての質問をします。また、作品をひとつ読み終わった段階で時間を設け、ディスカッションやライティングをとおして作品鑑賞をします。</p>		<p>1、イントロダクション</p> <p>2～4、Maeve Binchy, "The Garden Party"</p> <p>5～7、Virginia Woolf, "The Legacy"</p> <p>8～10、Graham Greene, "A Shocking Accident"</p> <p>11～13、Fay Weldon, "Horrors of the Road"</p> <p>14、まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Mowat & Bassett eds, <i>And All for Love</i> (OUP 2001) *DUOで各自購入のこと		課題提出、授業への参加、学期末試験を総合評価 *ただし4回を越えての欠席は評価対象としない	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (短編小説を読みこなす)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>春学期と同じ</p> <p>講義概要</p> <p>春学期と同じテキストを使い、比較的長い作品に取り組みます。授業のやり方に慣れてきたら、一部グループ・ディスカッションを取り入れる予定です。</p>		<p>1、イントロダクション</p> <p>2～7、H.E. Bates, "The Kimono"</p> <p>8～11、James Joyce, "A Painful Case"</p> <p>12～14、Somerset Maugham, "Mabel"</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		課題提出、授業への参加、学期末試験を総合評価 *ただし4回を越えての欠席は評価対象としない	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (アメリカ文学: John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『怒りの葡萄』(The Grapes of Wrath, 1939)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞した John Steinbeck (1902-1968) は、20世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、ジェームズディーン主演で映画化され、話題をよんだ長編作『エデンの東』(East of Eden, 1952)を読む。</p> <p>毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。更に、映画や、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆく。</p> <p>尚、この作品は全部で55章600頁にもわたる長編ゆえに、一年間の授業中に全てを読解するのは困難であるため、前期には主に Part 1 を精読し、夏期休暇中の課題として、2, 3 の読解を課す(もし原文の読解が無理であったなら、日本語訳かrewrite版でも可)。</p>		<p>1: Introduction: 作家 John Steinbeck と代表作品を紹介</p> <p>2: East of Eden の精読 Part 1/ Chapter 1</p> <p>3: " Chapter 2</p> <p>4: " Chapter 3</p> <p>5: " Chapter 4</p> <p>6: " Chapter 5</p> <p>7: " Chapter 6</p> <p>8: " Chapter 7</p> <p>9: " Chapter 8</p> <p>10: " Chapter 9</p> <p>11: " Chapter 10</p> <p>12: " Chapter 11</p> <p>13: East of Eden の映画鑑賞</p> <p>14: Review / レポート回収</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>John Steinbeck, <i>East of Eden</i>, Penguin  <i>East of Eden: Level 6 (Penguin Readers Simplified Text)</i>,  Pearson Longman  参考文献:『エデンの東』新訳版(1~4)(ハヤカワ epi 文庫)(文庫)ジョン・スタインベック(著), 土屋 政雄(翻訳)</p>		出席(30%)、授業中の発表、提出物(30%)、期末レポート(40%)を総合的に評価。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (アメリカ文学: John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的と概要は前期と同様。</p> <p>後期は、開講時まで Part 3 まで読み終えてあるという前提で、映画の基となった Part 4 を中心に読解する。</p> <p>尚、後期の初回授業時に Part 3 までのストーリーと要点確認の小テストを実施するので、受講者は初回に必ず出席のこと。</p>		<p>1: 前期レポートの返却、Part 2, 3 のあらすじ確認 East of Eden, Part 2, Chapter 22 読解</p> <p>2: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 34, 35</p> <p>3: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 36, 37</p> <p>4: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 38, 39</p> <p>5: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 40, 41</p> <p>6: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 42, 43</p> <p>7: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 44, 45</p> <p>8: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 46, 47</p> <p>9: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 48, 49</p> <p>10: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 50, 51</p> <p>11: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 52, 53</p> <p>12: East of Eden 精読 Part 4, Chapter 54, 55</p> <p>13: East of Eden 映画鑑賞</p> <p>14: Review / レポート回収</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>John Steinbeck, <i>East of Eden</i>, Penguin  <i>East of Eden: Level 6 (Penguin Readers Simplified Text)</i>,  Pearson Longman  参考文献:『エデンの東』新訳版(1~4)(ハヤカワ epi 文庫)(文庫)ジョン・スタインベック(著), 土屋 政雄(翻訳)</p>		出席(30%)、授業中の発表、提出物(30%)、期末レポート(40%)を総合的に評価。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的は3つあります。第1に、国際関係論や地域研究 (area studies) にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第2に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第3に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。</p> <p>テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読Ⅰ(春)とⅡ(秋)は継続して履修することを条件とします。また、本授業の受講者数には上限があります。初回の授業で1時間程度の英文読解力を計るためのテスト(国際政治経済の時事問題に関する英文和訳)を実施します。</p>		<p>第1回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>第2回～第14回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Regional Outlook: Southeast Asia 2010-2011</i>, ISEAS, 2010 (近刊)。(150ページ前後、価格は2000円程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。</li> <li>・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はない。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外する。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的および進め方については、英語専門講読Ⅰと同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読Ⅰ(春)とⅡ(秋)は継続性が強いので、本授業の履修については英語専門講読Ⅰ(春学期：金子担当)を履修していることを条件にします。また、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<p>第1回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>第2回～第14回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2011</i>, ISEAS, 2010 (予定)。(350ページ前後、価格は2300円程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。(内容の概略は以下のWebサイトで検索が可能：<a href="http://bookshop.iseas.edu.sg/">http://bookshop.iseas.edu.sg/</a>)</li> <li>・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (生成文法入門)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の1つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。</p> <p>読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくこととなりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction</li> <li>2 Overview</li> <li>3 Overview</li> <li>4 Overview</li> <li>5 Phrase Structure</li> <li>6 Phrase Structure</li> <li>7 Phrase Structure</li> <li>8 Binding</li> <li>9 Binding</li> <li>10 Binding</li> <li>11 Empty Pronoun PRO</li> <li>12 Empty Pronoun PRO</li> <li>13 Review</li> <li>14 Review</li> </ol> <p>※ 上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。</p> <p>※ 本講義の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p> <p>※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『チョムスキー理論辞典』 研究社</p>		<p>出席&amp;授業参加率 (30%)、レポート&amp;試験 (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (生成文法入門)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の1つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。</p> <p>読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくこととなりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Anaphors</li> <li>2 Anaphors</li> <li>3 Anaphors</li> <li>4 Government</li> <li>5 Government</li> <li>6 Types of Subject</li> <li>7 Types of Subject</li> <li>8 Types of Subject</li> <li>9 Pronouns</li> <li>10 Pronouns</li> <li>11 Referential Expressions</li> <li>12 Referential Expressions</li> <li>13 Review</li> <li>14 Review</li> </ol> <p>※ 上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『チョムスキー理論辞典』 研究社</p>		<p>出席&amp;授業参加率 (30%)、レポート&amp;試験 (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ（月3） （グリーン・ツーリズムと持続可能な地域づくり）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>農村の景観や環境を保全しながら、地域社会や経済を活性化していることは、世界中の多くの地域での懸案事項となっています。しかし実際にその方策は容易ではありません。なぜなら都市や村々は、グローバル化が進む中、常に競争を強いられ「不均等」に発展していくからです。また、地域の文化や景観を観光資源とする戦略を以上、そこには常に、消費者である都市住民≒観光客の「まなざし」が反映されます。さまざまな「不均等」な条件のなか、各地域では地域の発展のための努力と模索が展開されているのです。</p> <p>このようななか、日本においても、1990年代以降、グリーン・ツーリズムという観光形態が、地域活性化の特効薬として紹介され、各地で様々な取組みが展開されています。日本のグリーン・ツーリズムの先駆的事例なかから群馬県の村々を訪ね、調査取材した結果を皆で著者とともに輪読し、説明を加えながら理解を深めます。</p> <p>現場からグローバル化を考えるという姿勢は、これからの地球市民に不可欠な資質だと思われるので、国内の身近な話題について英文講読することにより、問題意識を深めていただきたいと思います。</p>		<p>授業の進め方は、テキストの章（節）ごとの分担を事前に決め、該当部分を担当する学生がレジメを用意し、それに基づき担当章（節）の内容に関するプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の説明、グループづくり</li> <li>2. 本テキストの背景、問題意識についての講義</li> <li>3. Rural areas in a globalized urban world</li> <li>4. The context of Japanese national development</li> <li>5. Gunma Prefecture and rural villages</li> <li>6. Mapping social and economic trends</li> <li>7. A cooperative as an engine for local economic vitalization?</li> <li>8. An amenity village for urban people</li> <li>9. Gunma's Colonial Williamsburg</li> <li>10. The road to a ghost village, or...?</li> <li>11. Suburbanization or an eco-welfare village?</li> <li>12. From mulberry field and cattle barns to a bedroom town with shopping malls and fast food restaurants</li> <li>13. Summary and reflections</li> <li>14. 教員によるレクチャーと討論</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Shu Kitano, <i>Space, Planning, and Rurality: Uneven Rural Development in Japan</i> (Trafford Publishing, 2009) ※各自で購入して下さい。		出席点（30%）、レジメの内容（20%）、発表態度（20%）、期末まとめレポート（30%）。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ（月3） （食と農からみたアメリカ社会とコミュニティ）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ローカル（＝地域）という視点からグローバルな問題を考えることを念頭に、食・農と市民社会というテーマを勉強します。アメリカの農村社会学者 Lyson (2004)の <i>Civic Agriculture</i> を教材として、グローバル企業の手に乗ねられた私達の食と農を市民社会につなぎ直す (reconnecting) ための方途を考えます。</p> <p>提起されている問題は、日本においても全く同様であり、食と農を題材として、グローバル化にどう向き合っていくかは地球市民にとっての大切な素養です。講義を進めるにあたっては2つのことを念頭におきます。第1は、ネイティブの研究者が著した比較的専門性のある単行本を読むための基礎的なスキルについて学びます。第2は、食料や農業問題の基礎的知識がない学生を念頭に、教員からの補足的なレクチャーを適宜織り込み、こうした問題領域に興味を持ってもらえるよう配慮します。進捗の速度は、実際のクラスのメンバーのレベルに合わせて、柔軟に設定していきます。</p> <p>スローフード運動、グリーン・ツーリズム、食の安全性、産直運動などに興味がある人なら関心が持てるテーマです。</p>		<p>授業の進め方は、テキストの章（節）ごとの分担を事前に決め、該当部分を担当する学生がレジメを用意し、それに基づき担当章（節）の内容に関するプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の説明、グループづくり</li> <li>2. Community Agriculture and Local Food Systems</li> <li>3. How American Agriculture Was Made Modern (1)</li> <li>4. How American Agriculture Was Made Modern (2)</li> <li>5. The Industrialization and Consolidation of Agriculture and Food Production in the United States</li> <li>6. The Global Supply Chain</li> <li>7. ビデオ（『食の未来』）と討論</li> <li>8. Toward a Civic Agriculture (1)</li> <li>9. Toward a Civic Agriculture (2)</li> <li>10. Toward a Civic Agriculture (3)</li> <li>11. Civic Agriculture and Community Agriculture Development</li> <li>12. From Commodity Agriculture and Civic Agriculture</li> <li>13. ビデオと討論</li> <li>14. 教員によるレクチャーと討論（食と農の今日的問題）</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Thomas A. Lyson, <i>Civic Agriculture: Reconnecting Farm, Food, and Community</i> (Tufts University Press, 2004) ※各自で購入して下さい。		出席点（30%）、レジメの内容（20%）、発表態度（20%）、期末まとめレポート（30%）。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ（金４） （地球市民のためのフェアトレード入門）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ローカルな視点から地球全体の課題を考えることを念頭に、先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODA などの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。</p> <p>大切なのは身の回りのことから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。</p> <p>授業の進め方は、テキストの章（節）ごとの分担を事前に決め、該当部分を担当する学生がレジメを用意し、それに基づき担当章（節）の内容に関するプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方について</li> <li>2. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore?</li> <li>3. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives</li> <li>4. Why is Fair Trade so popular?</li> <li>5. Fair Trade principles and practices</li> <li>6. Fair Trade histories</li> <li>7. ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』</li> <li>8. Yes, but does it work?</li> <li>9. Ordinary people making Fair Trade extraordinary</li> <li>10. Will free trade ever be fair?</li> <li>11. The future of Fair Trade</li> <li>12. Daily life with Fair Trade</li> <li>13. 教員によるレクチャーと討論（予定）</li> <li>14. 教員によるレクチャーと討論（予定）</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jacqueline Decarlo, <i>Fair Trade: A Beginner's Guide</i> (Oneworld Publications, 2007) ※各自で購入して下さい。		出席点（30%）、レジメの内容（20%）、発表態度（20%）、 期末まとめレポート（30%）。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ（金４） （地球市民のためのフェアトレード入門）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な文献の輪読を行います。取り上げる文献は、フェアトレードに関する社会科学分野の雑誌論文、報告書、欧米 NGO ホームページ等です。受講生が当該分野の興味ある文献を検索し、持ち寄り、輪読、発表、議論に発展させます。</p> <p>秋学期の授業の進め方としては、グループごとに教員と相談の上、フェアトレードに関する文献を選定し、報告テーマを設定します。分担してレジメを作成、それに基づき文献の内容に関するプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、担当グループが中心となって、教室内ディスカッションに発展させます。最後に、教員が講評とアドバイスをします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方について</li> <li>2. (プレゼンテーションと議論)</li> <li>3. (プレゼンテーションと議論)</li> <li>4. (プレゼンテーションと議論)</li> <li>5. (プレゼンテーションと議論)</li> <li>6. (プレゼンテーションと議論)</li> <li>7. (プレゼンテーションと議論)</li> <li>8. (プレゼンテーションと議論)</li> <li>9. (プレゼンテーションと議論)</li> <li>10. (プレゼンテーションと議論)</li> <li>11. (プレゼンテーションと議論)</li> <li>12. (プレゼンテーションと議論)</li> <li>13. (プレゼンテーションと議論)</li> <li>14. 教員によるレクチャーと討論</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
グループごとに教員と相談の上で選定する。		出席点（30%）、レジメの内容（20%）、発表態度（20%）、 期末まとめレポート（30%）。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (SLA 実証研究論文)	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[目的] 第二言語習得(SLA: second language acquisition)研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文を講読する。それにより、SLAに関する知識を得るとともに、研究論文で用いられる英語表現を知ることが目的とする。加えて、複雑ではあっても論理的な研究デザインを読み解くために繰り返し対象論文を読み、ロジカルな思考の訓練、さらなる英語力増強をも目指していく。</p> <p>[概要] 「人間はどのようにして自分の母語以外の言語（第二言語）を身に付けていくのか？」ということは、自身英語学習者であるわれわれにとって非常に身近なテーマである。また、より良い英語学習法・教育法を追い求めるなかで、教師や研究者たちはさまざまな「実証研究」を行っている。たとえば、「A という教え方と B という教え方のどちらが効果的なのか?」、「日本人の英語語彙力を正確に測るテストはどのように作ったらよいのか?」といったものである。本授業では、そのような実証研究論文を講読する。さらに、それらの研究結果、方法論について批評・議論も行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】、実証研究とは何か</li> <li>2. 実証研究論文の一例</li> <li>3. 論文(1): 内容理解の確認</li> <li>4. 論文(1): 内容理解の確認</li> <li>5. 論文(1): ディスカッション</li> <li>6. 論文(2): 内容理解の確認</li> <li>7. 論文(2): 内容理解の確認</li> <li>8. 論文(2): ディスカッション</li> <li>9. 論文(3): 内容理解の確認</li> <li>10. 論文(3): 内容理解の確認</li> <li>11. 論文(3): ディスカッション</li> <li>12. 論文(4): 内容理解の確認</li> <li>13. 論文(4): 内容理解の確認</li> <li>14. 論文(4): ディスカッション, 【まとめ】</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
日本国内で出版された、日本人英語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (SLA 実証研究論文)	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[目的] 春学期同様、SLA 研究の中の、特に「実証的研究」を行う研究論文を講読する。 秋学期は、より広い視野をもって SLA 研究を考えることを目指し、海外で出版された論文を取り入れる。</p> <p>[概要] 1) 論文を読み、その内容について理解の確認を行う 2) その研究結果、方法論について批評・議論を行う 3) 議論をもとに、より良い研究方法を提案する</p> <p>秋学期はディスカッションを英語で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】</li> <li>2. 論文(1): 内容理解の確認</li> <li>3. 論文(1): 内容理解の確認</li> <li>4. 論文(1): 内容理解の確認</li> <li>5. 論文(1): ディスカッション</li> <li>6. 論文(2): 内容理解の確認</li> <li>7. 論文(2): 内容理解の確認</li> <li>8. 論文(2): 内容理解の確認</li> <li>9. 論文(2): ディスカッション</li> <li>10. 論文(3): 内容理解の確認</li> <li>11. 論文(3): 内容理解の確認</li> <li>12. 論文(3): 内容理解の確認</li> <li>13. 論文(3): ディスカッション</li> <li>14. 最終レポート練習, 【まとめ】</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
日本国外で出版された、第二言語学習について取り扱った英語論文。その都度コピーを配布する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (対人コミュニケーション理論)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This subject is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts and develop an (inter)active attitude towards 'cultural difference(s)'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give short summary presentations, participate in discussions, write a term paper and take a written examination. All the coursework will be done in English.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development.</p> <p>*内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Defining intercultural communication (pp. 1-16)</li> <li>3. Why study intercultural communication? (pp. 16-27)</li> <li>4. A layered approach (pp. 28-34)</li> <li>5. Four layers of intercultural communication (pp. 35-54)</li> <li>6. Characteristics of identity (pp. 55-66)</li> <li>7. Explaining cultural identities (pp. 66-87)</li> <li>8. Attributions (pp. 88-98)</li> <li>9. Attitude (pp. 98-118)</li> <li>10. Types of initial intercultural interactions (pp. 119-134)</li> <li>11. Explaining initial intercultural interactions (pp. 134-148)</li> <li>12. Friendships (pp. 149-159)</li> <li>13. Romantic relationships (pp. 159-178)</li> <li>14. Wrap-up</li> </ol> <p>[Recommended reading] Sugimoto Y. (Ed.). (2009). <i>The Cambridge companion to modern Japanese culture</i>. Cambridge University Press.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Oetzel, J. G. (2009). <i>Intercultural communication: A layered approach</i> . New York: Vango Books. (400 pages)		Oral presentations (40%), term paper (30%), exam (30%)	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (対人コミュニケーション理論)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This subject is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts and develop an (inter)active attitude towards 'cultural difference(s)'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give short summary presentations, participate in discussions, write a term paper and take a written examination. All the coursework will be done in English.</p> <p>This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development.</p> <p>*内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the autumn semester</li> <li>2. Disparities in educational outcomes (pp. 179-197)</li> <li>3. Layered perspective of educational contexts (pp. 197-207)</li> <li>4. Workplace as a context for cultural diversity (pp. 208-219)</li> <li>5. Intercultural communication in the workplace (pp. 220-239)</li> <li>6. Health disparities (pp. 240-262)</li> <li>7. Layers of health care contexts (pp. 263-276)</li> <li>8. Community and culture (pp. 277-296)</li> <li>9. Layers of intercultural communities (pp. 297-309)</li> <li>10. Media production (pp. 310-324)</li> <li>11. Media perception (pp. 324-336)</li> <li>12. Why does history matter (pp. 337-351)</li> <li>13. Layered perspective of history(ies) and the future(s) (pp. 351-364)</li> <li>14. Wrap-up</li> </ol> <p>[Recommended reading] Sugimoto Y. (Ed.). (2009). <i>The Cambridge companion to modern Japanese culture</i>. Cambridge University Press.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Oetzel, J. G. (2009). <i>Intercultural communication: A layered approach</i> . New York: Vango Books. (400 pages)		Oral presentations (40%), term paper (30%), exam (30%)	

09 年度以降	英語専門講読 I (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>巷では、2008 年秋以降の世界同時不況のことを「100 年に一度の不況」「戦後最大の不況」という言葉で表現することがあります。それに対し「騒ぎすぎ」「大げさ」という批判も出ますが、実際に就職活動を体験している学生の方や、これから卒業後の身の振り方の準備にかかる学生の方は、表現はなんであれ、今の時代にリアルに不安を抱えているのではないのでしょうか。</p> <p>そんな状況の中で、「詩を学ぶ」ことは時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、詩を学ぶことも、ある意味、実用的だと言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「言葉の力」を体感することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「詩を学ぶ＝生き方を学ぶ」と言えるかもしれません。</p> <p>詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れたイメージが詩にあるとしたら、詩を一面的にしか見ていないように感じます。詩って、案外、もっと生活に密接しているものなのですよ。(↓に続く)</p>		<p>私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます(便宜上、グループ発表となりますが、評価はグループ単位ではなく、個人単位です)。発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるか、他の学生を眠らせないためにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。過去に受講して下さった学生達は、パワーポイントや youtube 等のサイトをスクリーンで見せながら解説したり、自作の紙芝居や演劇で再現したり、クイズ形式で他の学生に答えさせたり(賞品つきの時もありました)、黒板に美しくまとめて書いてくれたり等、いろいろ楽しい授業を創り出してくれました。今年も皆さんの創作力を見るのを大変楽しみにしております!</p> <p>春学期では、最初の4回で、「オーストラリアの歴史」「アボリジニの歴史」「アボリジニの神話・伝説」の概略を学びます。オーストラリア関連の映像も紹介します。背景を知った上で、アボリジニの人たちが、アボリジニ独自の言語で書いた詩(英訳されたものを配布します。CDでアボリジニ独自の言語の音声を聴きます)、それから最初から英語で書いた詩を読んでいきます。<b>(第一回目の授業でグループを作ります。必ず参加してくださいね。)</b></p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリントして配布。参考文献は授業で随時紹介。  <a href="http://www.leafandletters.com">www.leafandletters.com</a>  <a href="http://www.australianpoetry.net">www.australianpoetry.net</a></p>		<p>学期末レポート(提出しなかった場合不可)、授業での参加度(発表&amp;発言)、出席状況(欠席は4回以内。30分以内の遅刻の場合、3分の1の欠席として計算します。)</p>	

09 年度以降	英語専門講読 II (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(↑からの続きです)</p> <p>「オーストラリアを学ぶ」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。今でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しくなると思います。</p> <p>それから、私たちは案外自分について理解していません。比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいいですね。(例えば「オーストラリア人とは誰を指すか?」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など)</p> <p>講義目的をまとめて書くと、「言葉の力を体感する」「オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す」「オーストラリアを通して己を考える」また、発表形式の授業です。「自分の言葉で考え、語る」ことになります。授業時間だけでなく、生きている間ずっと、皆さんのお役に立つことができれば最高に嬉しく思います。</p> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております!</p>		<p>春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。</p> <p>春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。決して多くはない言葉のなかに、膨大な思い(思考、時空間、知識 etc)を垣間見ることになるでしょう。私はいい詩を読むと、もう単に「・・・すごい」という気持ちになってしまいます。それはもう、鳥肌ものです。皆さんとこの思いを共有できれば、とても嬉しく思います。</p> <p>&lt;春学期の講義概要&gt;  アボリジニの歴史や神話を踏まえた上で、彼らの詩を読んでいきます。CD、ビデオ、DVDを使用して、授業を進めることもあります。</p> <p>&lt;秋学期の講義概要&gt;  入植者の血を引くものたちの詩を読んでいきます。詩人本人が朗読している詩もありますので、その場合は、CDを利用して授業を進めます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリントして配布。参考文献は授業で随時紹介。  <a href="http://www.leafandletters.com">www.leafandletters.com</a>  <a href="http://www.australianpoetry.net">www.australianpoetry.net</a></p>		<p>学期末レポート(提出しなかった場合不可)、授業での参加度(発表&amp;発言)、出席状況(欠席は4回以内。30分以内の遅刻の場合、3分の1の欠席として計算します。)</p>	

09 年度以降	英語専門講読 I (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。</u></p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず、単位を認めません。</u></p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。Reading Strategies I・II・III・IVのクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。参考文献は授業中に言及する予定です</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート(500 字程度) 2 編で 40%。学期末定期試験はしません。</p> <p>レポートは 2 編必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

09 年度以降	英語専門講読 II (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、<u>原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。</u></p>		<p>教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>レポートに関する事など、授業計画の詳細は履修登録が済んだ頃に説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。Reading Strategies I・II・III・IVのクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。参考文献は授業中に言及する予定です</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート(500 字程度) 2 編で 40%。学期末定期試験はしません。</p> <p>レポートは 2 編必修です。未提出者には単位を認めません。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (Critically thinking things through)	担当者	小西 卓三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>価値や意見の多様性を求めていく時代においては、論争的な話題について考えていくことが大事になります。この授業では、議論の評価・作成をおこなうことによって、議論とは何か、論争にかかわるとは何かといったことを考えていきます。具体的には議論の分析、解釈、構成スキルの育成、議論にかかわる際の望ましい態度の醸成を目指します。</p> <p>授業形式は講義、ケーススタディ、グループワーク、発表が中心になります。まず重要な概念を学びそれを用いて考えていくという流れをとるため、学期が進むにつれて授業参加の重要性が増していきます。</p>		<p>1 Course Overview</p> <p>2 What is argument?</p> <p>3 What is argument?</p> <p>4 Argument structure</p> <p>5 Argument structure</p> <p>6 Argument structure</p> <p>7 Argument evaluation</p> <p>8 Argument evaluation</p> <p>9 Argument evaluation</p> <p>10 Evaluating extended argument</p> <p>11 Workshop</p> <p>12 Presentations</p> <p>13 Presentations</p> <p>14 Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
読書課題は配布する。		授業参加、小テスト、発表、試験の総合評価による。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (Critically thinking things through)	担当者	小西 卓三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の続きです。目的や授業形態は春学期と同じです。この学期では視覚的議論に関して検討した後、さまざまな社会的論争について実際考えてみます。</p> <p>授業形式は講義、ケーススタディ、グループワーク、発表が中心になりますが、本学期はグループワークの比重が前期よりも高くなります。</p>		<p>1 Retrospect and Prospect</p> <p>2 Visual argument</p> <p>3 Visual argument</p> <p>4 Visual argument</p> <p>5 Contemporary Issue 1</p> <p>6 Contemporary Issue 1</p> <p>7 Contemporary Issue 1</p> <p>8 Contemporary Issue 2</p> <p>9 Contemporary Issue 2</p> <p>10 Contemporary Issue 2</p> <p>11 Workshop</p> <p>12 Presentation</p> <p>13 Presentation</p> <p>14 Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
読書課題は配布する。		授業参加、小テスト、発表、試験の総合評価による。	

09 年度以降	英語専門講読 I (認知英文法)	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、英語の読解力を高めることにある。使用するテキストは、認知言語学の立場から書かれた英文法の書である。これにより、認知言語学の考え方を知ることができるだけでなく、英語そのものに対する理解も深められるはずである。</p> <p>授業では、下記のテキストの第 2 部 Things: Nouns and noun phrases を読んでゆく (プリントを配布する。テキスト購入は要しない)。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよし、というようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p>		<p>春学期 14 回の授業でテキストの第 2 部を読み進める。以下に、進度の目安・目標となる予定をあげておく。</p> <p>第 1 回 (4 月 6 日) オリエンテーション (出席は必須)  第 2 回 (4 月 13 日) Nouns 1  第 3 回 (4 月 20 日) Nouns 2  第 4 回 (4 月 27 日) Nouns 3  第 5 回 (5 月 11 日) Reference 1  第 6 回 (5 月 18 日) Reference 2  第 7 回 (5 月 25 日) Reference 3  第 8 回 (6 月 1 日) Quantifiers 1  第 9 回 (6 月 8 日) Quantifiers 2  第 10 回 (6 月 15 日) Quantifiers 3  第 11 回 (6 月 22 日) Modifiers 1  第 12 回 (6 月 29 日) Modifiers 2  第 13 回 (7 月 6 日) Modifiers 3  第 14 回 (7 月 13 日) 春学期の復習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Radden, Günter and René Dirven (2007) <i>Cognitive English Grammar</i> . Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.		評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である (ただし、出席そのものが加点の対象となることはない)。	

09 年度以降	英語専門講読 II (認知英文法)	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、英語の読解力を高めることにある。使用するテキストは、認知言語学の立場から書かれた英文法の書である。これにより、認知言語学の考え方を知ることができるだけでなく、英語そのものに対する理解も深められるはずである。</p> <p>授業では、下記のテキストの第 3 部 Situations as temporal units: Aspect, tense, and modality を読んでゆく (プリントを配布する。テキスト購入は要しない)。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする、学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよし、というようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p>		<p>秋学期 14 回の授業でテキストの第 3 部を読み進める。以下に、進度の目安・目標となる予定をあげておく。</p> <p>第 1 回 (9 月 28 日) Aspect 1  第 2 回 (10 月 5 日) Aspect 2  第 3 回 (10 月 12 日) Aspect 3  第 4 回 (10 月 19 日) Aspect 4  第 5 回 (10 月 26 日) Tense 1  第 6 回 (11 月 2 日) Tense 2  第 7 回 (11 月 9 日) Tense 3  第 8 回 (11 月 16 日) Tense 4  第 9 回 (11 月 23 日) Modality 1  第 10 回 (11 月 30 日) Modality 2  第 11 回 (12 月 7 日) Modality 3  第 12 回 (12 月 14 日) Modality 4  第 13 回 (12 月 21 日) 秋学期の復習 1  第 14 回 (1 月 11 日) 秋学期の復習 2</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Radden, Günter and René Dirven (2007) <i>Cognitive English Grammar</i> . Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins.		評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である (ただし、出席そのものが加点の対象となることはない)。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (シルヴィア・プラスの短編集を読む)	担当者	小林 愛明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アメリカの「告白派」を代表する詩人、シルヴィア・プラス (Sylvia Plath, 1932-63) の短編を詩と併せて読んでいく。</p> <p>彼女のコトバはとても難しい。履修する学生にはそれなりの語学力と忍耐が必要である。</p> <p>また、彼女の作品から「答え」を得ることは出来ない。むしろ読者は作品からの「問い」に絶えず自己を曝け出すことになる。</p> <p>だから、容易に「分かる」ことだけを学び、この先の人生を順調に、真っ直ぐに歩いていきたい人にはまず向いていない (因みにプラスは最期に自殺した)。</p> <p>発表はグループ形式で行う (A、B、C、D の合計四班)。和訳の作成は勿論だが、文化的背景についてもしっかりと調べてきてもらう。</p> <p>なお、発表を無断で欠席したり、同じ班の人に対して無責任な行動を取ったりした場合には評価対象外となるので要注意。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. A班 (“Day of Success”)</li> <li>3. B班 (〃)</li> <li>4. C班 (〃)</li> <li>5. D班 (〃)</li> <li>6. A班 (詩)</li> <li>7. B班 (〃)</li> <li>8. C班 (〃)</li> <li>9. D班 (〃)</li> <li>10. A班 (〃)</li> <li>11. B班 (詩)</li> <li>12. C班 (“The Daughters of Blossom Street”)</li> <li>13. D班 (〃)</li> <li>14. A班 (〃)</li> <li>15. B班 (〃) (レポート提出日)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>詩：授業でコピーを配布。</p> <p>短編：『成功の日』(東京：南雲堂，2004) を購入すること。</p>		<p>プレゼンテーションとワープロによる4,000字程度の作品論を総合して決める。4回以上欠席した場合やレポートに不備がある場合に関しては評価対象外となる。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (シルヴィア・プラスの短編集を読む)	担当者	小林 愛明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アメリカの「告白派」を代表する詩人、シルヴィア・プラス (Sylvia Plath, 1932-63) の短編を詩と併せて読んでいく。</p> <p>彼女のコトバはとても難しい。履修する学生にはそれなりの語学力と忍耐が必要である。</p> <p>また、彼女の作品から「答え」を得ることは出来ない。むしろ読者は作品からの「問い」に絶えず自己を曝け出すことになる。</p> <p>だから、容易に「分かる」ことだけを学び、この先の人生を順調に、真っ直ぐに歩いていきたい人にはまず向いていない (因みにプラスは最期に自殺した)。</p> <p>発表はグループ形式で行う (A、B、C、D の合計四班)。和訳の作成は勿論だが、文化的背景についてもしっかりと調べてきてもらう。</p> <p>なお、発表を無断で欠席したり、同じ班の人に対して無責任な行動を取ったりした場合には評価対象外となるので要注意。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. C班 (〃)</li> <li>3. D班 (〃)</li> <li>4. A班 (〃)</li> <li>5. B班 (〃)</li> <li>6. C班 (詩)</li> <li>7. D班 (“Johnny Panic and the Bible of Dreams”)</li> <li>8. A班 (〃)</li> <li>9. B班 (〃)</li> <li>10. C班 (〃)</li> <li>11. D班 (詩)</li> <li>12. A班 (〃)</li> <li>13. B班 (〃)</li> <li>14. C班 (〃)</li> <li>15. D班 (〃)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>詩：授業でコピーを配布。</p> <p>短編：『成功の日』(東京：南雲堂，2004) を購入すること。</p>		<p>プレゼンテーションとワープロによる4,000字程度の作品論を総合して決める。4回以上欠席した場合やレポートに不備がある場合に関しては評価対象外となる。</p>	

09 年度以降	英語専門講読 I (米国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p> <p>使用するテキストはアメリカユダヤ人史の概説書です。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
高価なため、コピーを配布します。		毎回出席をとります。授業日数の 1 / 3 以上欠席された方は単位をあげません。遅刻 3 回で欠席 1 回にカウント。	

09 年度以降	英語専門講読 II (米国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同じ		最初の授業で説明します。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同じ		春学期と同じ	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (物語を読んで楽しむ)	担当者	佐藤 勉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>優れた現代英米の物語(短編小説と呼んでもかまわない)を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語内容などに触れ、文学の読み方はどのようなものか、という点に焦点を当てて考えてみる。</p> <p>物語の面白さを感じ取りながら、読むための技術を身につけることを目指す。そのためいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになるかも知れない。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいく。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、受講生に順番に読んでもらうので毎回出席すること大切である。</p> <p>言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者が物語の語りにどんな技巧を駆使しているかを見極めていく。物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえたいことを期待している。授業では読み進める物語の解説とともに、右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説をしながら読んでいくので、番号は必ずしも授業時間の回数ではない。</p>		<p>物語の面白さへの誘い</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. F. Kafka の <i>The Helmsman</i> とシュールレアリズム</li> <li>2. J. Thurber の <i>The Unicorn in the Garden</i> と寓話</li> <li>3. J. Carol Oates の <i>Embrace</i> と精神分析</li> <li>4. L. Cooper の <i>Genie-us</i> とアイロニー</li> <li>5. L. Pirandello の <i>War</i> と社会と人間</li> <li>6. J.M. Synge の <i>Shadow of the Glen</i> の語りの面白さ</li> <li>7. D. Defoe の <i>Journal of the Plague Year</i> の鋭い視点</li> <li>8. O. Henry の <i>Last Leaf</i> における逆説的語り</li> <li>9. 前に授業の続き</li> <li>10. O. Wilde の <i>Happy Prince</i> の大人の童話とは</li> <li>11. 前の授業の続き</li> <li>12. E. Hemingway の <i>The End of Something</i> と <i>A Very Short Stories</i> におけるある愛の破局</li> <li>13. L. Newlin の <i>Our Last Day in Venice</i> における親と子の関係</li> <li>14. A.C. Clarke の <i>The Curse</i> と I. Asimov の <i>Silly Asses</i> における人間の愚かさ</li> <li>15. 前に授業の続き</li> </ol> <p>注意：この授業に参加したい学生は予習の分担ができないと次の予習予定者に迷惑がかかります。この分担約束が果たせない学生は受講しないでください。もし一回でも果たせなかった場合は不可とします。それだけ重要なのです。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはすべてプリント教材を使います。		出席点と期末テストによります。平常点は順番制で当たりますので、その時やらなかった場合にはマイナス点として点数化します。3分の2以上の出席がないと単位は出ない。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (物語を読んで楽しむ)	担当者	佐藤 勉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>優れた現代英米の物語(短編小説と呼んでもかまわない)を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語内容などに触れ、文学の読み方はどのようなものか、という点に焦点を当てて考えてみる。</p> <p>物語の面白さを感じ取りながら、読むための技術を身につけることを目指す。そのためいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになるかも知れない。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいく。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、受講生に順番に読んでもらうので毎回出席することが大切である。</p> <p>言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者が物語の語りにどんな技巧を駆使しているかを見極めていく。物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえたいことを期待している。授業では読み進める物語の解説とともに、右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説をしながら読んでいくので、番号は必ずしも授業時間の回数ではない。</p>		<p>物語の語りの技巧を学ぶとともに、さまざまな人生における物語の重要性を理解します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. F. Stockton の <i>The Lady or the Tiger</i> の語りの基本</li> <li>2. 前の授業の続き</li> <li>3. 前の授業の続き</li> <li>4. S.V. Benet の <i>By the Waters of Babylon</i> における教訓</li> <li>5. 前の授業の続き</li> <li>6. 前の授業の続き</li> <li>7. J. Steinbeck の <i>The Murder</i> における <i>Surprise Ending</i></li> <li>8. 前の授業の続き</li> <li>9. 前の授業の続き</li> <li>10. Bali Rai の <i>the White Towel</i> の問題点とは</li> <li>11. 前の授業の続き</li> <li>12. 前の授業の続き</li> <li>13. M. Burgess の <i>Whose face do you see?</i> における人間の尊厳とは</li> <li>14. 前の授業の続き</li> <li>15. 前の授業の続き</li> </ol> <p>注意：この授業に参加したい学生は予習の分担ができないと次の予習予定者に迷惑がかかります。この分担約束が果たせない学生は受講しないでください。もし一回でも果たせなかった場合は不可とします。それだけ重要なのです。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはすべてプリント教材を使います。		出席点と期末テストによります。平常点は順番制で当たりますので、その時やらなかった場合にはマイナス点として点数化します。3分の2以上の出席がないと単位は出ない。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (現代国際関係論)	担当者	佐野 康子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、国際関係論の中でも貧困、人口問題、グローバル化、紛争、民主主義などの 이슈を扱う。教材としては、<i>Foreign Affairs</i>、<i>Current History</i>、<i>The New York Times</i>、<i>Foreign Policy</i> などに掲載された記事や論文を使用する。内容の濃い論文を通じて、国際社会の争点を理解し、分析する姿勢を身につける。</p> <p>基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3名で1つのグループを形成し、グループ発表をしてもらう。</p> <p>授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んで上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。</p> <p>なお、第一回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決めるので必ず出席すること。春学期と秋学期の両方の履修が望ましい。</p>		<p>第1週目 オリエンテーション、発表者決め 第2～14週目 発表、ディスカッション</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Friedman, Thomas L. 'It's a Flat World, After All,' <i>The New York Times</i>, April 3, 2005.</li> <li>・Sachs, Jeffery D. 'Can Extreme Poverty Be Eliminated,' <i>Scientific American</i>, September 2005.</li> <li>・Easterly, William. 'The Poor Man's Burden,' <i>Foreign Policy</i>, January/February 2009</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教員が用意し、適宜配布する。		出席、授業への参加状況、発表、学期末レポートの総合評価とする。欠席は4回までとする。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (現代国際関係論)	担当者	佐野 康子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、国際関係論の中でも貧困、人口問題、グローバル化、紛争、民主主義などの 이슈を扱う。教材としては、<i>Foreign Affairs</i>、<i>Current History</i>、<i>The New York Times</i>、<i>Foreign Policy</i> などに掲載された記事や論文を使用する。内容の濃い論文を通じて、国際社会の争点を理解し、分析する姿勢を身につける。</p> <p>基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3名で1つのグループを形成し、グループによる発表をしてもらう。</p> <p>授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んで上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。</p> <p>なお、第一回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決めるので必ず出席すること。春学期と秋学期の両方の履修が望ましい。</p>		<p>第1週目 オリエンテーション、発表者決め 第2～14週目 発表、ディスカッション</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Collier, Paul. 'The Politics of Hunger,' <i>Foreign Affairs</i>, November/December 2008.</li> <li>・Lancaster, Carol. 'The New Face of Development,' <i>Current History</i>, January 2008.</li> <li>・Gettleman, Jeffrey. 'The Most Dangerous Place in the World,' <i>Foreign Policy</i>, March/April 2009.</li> <li>・Brown, Lester. 'Emerging Water Shortages,' <i>The Humanist</i>, March/April 2008.</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教員が用意し、適宜配布する。		出席、授業への参加状況、発表、学期末レポートの総合評価とする。欠席は4回までとする。	

09 年度以降	英語専門講読 I (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>まず第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とする。</p> <p>1951 年に出版された J. D. サリンジャーの <i>The Catcher in the Rye</i> は 50 年以上経った今も若者達に愛読され、アメリカ戦後小説の古典となっている。その一方でアメリカの公立図書館や教育員会で最も検閲の対象となった小説でもあり、John Lennon の暗殺者、Mark Chapman の愛読書として物議をかもしている。80 年代には映画、<i>The Field of Dreams</i> の原作本である Shoeless Joe のインスピレーションの源泉として、最近では村上春樹が翻訳を試みたことでも話題になった。私立の有名進学校 (prep school) からはみ出た 16 歳の少年 Holden Caulfield の大人になれない悩みを扱ったこの小説の魅力を下記のような質問表に基づく討論を通じて考えていきたい。</p> <p>春学期は、この小説の前半を読む。</p>		<p>第 1 週 授業の進め方などについての説明と「第 1 週の質問表」にもとづく討論による体験授業。従って、左下の欄にある「第 1 週の質問表」に答えられるよう最初の 1, 2 ページを読んでくる必要がある。</p> <p>第 2 週 前週に配布した質問表による討論。第 1 章を終了する予定。</p> <p>第 3 週以降、同様な方法で毎週平均ほぼ 1 章ずつ読んでいく予定。本書は 26 章あるので、徐々に速度を上げ、中盤からは各週 1 章以上読んでいく予定。</p> <p>質問表は全章分を教師が用意し、教師が討論の司会をするが、途中から、学生諸君にプレゼンテーションや司会をしてもらうかもしれない。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
J.D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i>		学期末の定期試験、および平常点 (授業・討論への貢献度で、「出席点」ではない)	

09 年度以降	英語専門講読 II (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の項を参照。この小説の後半を読む。</p> <p>春学期 第 1 週の質問表 <i>The Catcher in the Rye</i>, Chapter 1.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Why doesn't the narrator want to tell us "all that David Copperfield kind of crap"?</li> <li>2. What does he say he is going to tell us about in this novel?</li> <li>3. Where do you think he is now, narrating his story?</li> <li>4. What kind of person is D. B.? What does he do? Where is he now and what do you think he is doing there?</li> <li>5. What kind of school is Pency Prep? Describe the narrator's attitude toward Pency. (Does he like it? If not, why not?)</li> </ol>		<p>春学期の項を参照。</p> <p>春学期と同様な方法で <i>The Catcher in the Rye</i> の後半を読んでいく。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
J.D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i>		学期末の定期試験、および平常点 (授業・討論への貢献度で、「出席点」ではない)	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (Applied Linguistics)	担当者	清水 由理子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>外国語としての英語教育に係わるテーマを取り上げ、関連した論文を読む。学習方略(learning strategies)や動機付けなどのテーマに沿って指導方法として提唱されている方法の理論的背景とその方法を実践し検証してみる。</p> <p>また、毎回授業時間の一部で speed reading の訓練を行う。Skimming, scanning も含め、読む目的に合った読み方に慣れることを目指す。</p> <p>速読用のテキストは、受講者が決まってからテストを行い、そのレベルに合わせた教材を用いる。テキストはその後に指示する。課外に何冊かの本を読んで、発表してもらおう予定。</p> <p>英語教育に関心があり、英語での読書が好きな人向き。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. What is applied linguistics?</li> <li>3. "</li> <li>4. The Nature of Language Teaching</li> <li>5. "</li> <li>6. "</li> <li>7. Book Report (1)</li> <li>8. Second Language Acquisition and Bilingualism</li> <li>9. "</li> <li>10. Method: Approach, Design, and Procedure</li> <li>11. "</li> <li>12. Error Correction</li> <li>13. "</li> <li>14. Book Report (2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリントを使用する。</p> <p>速読用テキストは授業時に指示する。</p> <p>参考文献は授業時に紹介する。</p>		<p>研究発表 (Presentation) 20%</p> <p>Book Report 20%</p> <p>期末テスト 60%</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (Applied Linguistics)	担当者	清水 由理子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に続いて、英語教育に関する論文を読み、現在どのようなことが研究されているか、理論と実践面から考え、その中から各自がテーマを決めて調べ、発表することを含める。</p> <p>速読の訓練も引き続き行っていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Listening</li> <li>3. "</li> <li>4. Speaking</li> <li>5. "</li> <li>6. Reading</li> <li>7. "</li> <li>8. Book Report (3)</li> <li>9. Writing</li> <li>10. "</li> <li>11. Grammar</li> <li>12. "</li> <li>13. Vocabulary</li> <li>14. Book Report (4)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリントを使用する。</p> <p>参考文献は授業時に紹介する。</p>		<p>研究発表 (Presentation) 20%</p> <p>Book Report 20%</p> <p>期末テストとレポート 60%</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (イギリス児童文学)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「習うより慣れよ。」(Use makes perfect.)の観点より、面白くて易しい英語を多読することを、目的とする。(昨年の実績は、課外のレポートも含めて585頁であった。)</p> <p>Lang (Andrew,1844-1922)の『色分け昔話集』(全12巻)の内、『イエロー-昔話集』を読む。ラングはグリム同様編者に過ぎないが、中には翻訳・再話で少し変えているところもある。今回もなじみの話は少ないが、基本は同じ、夢とヒューマールとペイソスである。(1回20頁相当を2人の共同責任で読んでもらう。)</p> <p>参考文献 キャサリン・ブリグス編著 『妖精辞典』 平野敬一他訳 富山房 1992年</p>		<p>1~14</p> <p>Cat and the Mouse in Partnership The Six Swans The Dragon of the North Story of the Emperor's New Clothes The Golden Crab The Iron Stove The Dragon and his Grandmother The Donkey Cabbage The Little Green Frog The Seven Headed Serpent The Grateful Beasts The Giant and the Herd-boy The Invisible Prince The Crow How Six Men travelled through the Wide World</p>	
テキスト		評価方法	
Lang,Andrew, <i>The Yellow Fairy Book</i> . 1st World Library, 2007		期末試験をする。それとは別に課外に20頁程度のものを読んでいただく。詳細は教室で指示する。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (イギリス児童文学)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>1~14</p> <p>The Wizard King The Nixy The Grass Mountain Alphege, or the Green Monkey Fairer-than-a-Fairy The Three Brothers The Boy and the Wolves, or the Broken Promise The Grass Axe The Dead Wife In the Land of Souls The White Duck The Witch and her Servants The Magic Ring The Flower Queen's Daughter The Flying Ship</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (生成英語統語論への誘い)	担当者	鈴木 英一
<b>講義目的・講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b> 英語をはじめ人間言語で最も重要な特徴は、言語要素が線状的に配列されていることと線状的に配列されている言語要素が構造をもつということである。この授業では、この線状性と構造型という特徴と両者の関係を気鋭の言語学者Colin Phillipsの論文を読みながら理解するとともに、英語の読解力を伸ばすことを目的とする。</p> <p><b>講義概要：</b> 英語のデータに基づいて議論されているColin Phillips (2003) “Linear Order and Constituency” という論文の前半部を精読しながら、人間言語の線状的順序 (linear order) と構成素性 (constituency) に関する特徴、特にPhillipsの提案する「文構造が左から右へ建て増し構築される」というIncrementality Hypothesisと構成素性テストの矛盾を理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Incrementality Hypothesis</li> <li>2. Constituency Conflicts(1): Constituency Tests</li> <li>3. Constituency Conflicts(2): Results of Constituency Tests</li> <li>4. Constituency Conflicts(3): Understanding the Conflicts</li> <li>5. Incremental Structure Building(1): Incremental Manner</li> <li>6. Incremental Structure Building(2): Derivational Steps</li> <li>7. Incremental Structure Building(3): Supporting Arguments</li> <li>8. Specific Predictions(1): Coordination</li> <li>9. Specific Predictions(2): Deletion/Ellipsis</li> <li>10. Explaining Constituency Conflicts(1)</li> <li>11. Explaining Constituency Conflicts(2)</li> <li>12. Vanishing Constituents(1): Ellipsis vs. Movement</li> <li>13. Vanishing Constituents(2): Comparative Ellipsis(1)</li> <li>14. Vanishing Constituents(3): Comparative Ellipsis(2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：Colin Phillips (2003) “Linear Order and Constituency,” <i>Linguistic Inquiry</i> 34-1, pp. 37-90.		出席状況、授業の予習、授業中の発表、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (生成英語統語論への誘い)	担当者	鈴木 英一
<b>講義目的・講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>(春学期と同じ) 英語をはじめ人間言語で最も重要な特徴は、言語要素が線状的に配列されていることと線状的に配列されている言語要素が構造をもつということである。この授業では、この線状性と構造型という特徴と両者の関係を気鋭の言語学者Colin Phillipsの論文を読みながら理解するとともに、英語の読解力を伸ばすことを目的とする。</p> <p><b>講義概要：</b>(春学期の続き) 英語のデータに基づいて議論されているColin Phillips (2003) “Linear Order and Constituency” という論文の前半部を精読しながら、人間言語の線状的順序 (linear order) と構成素性 (constituency) に関する特徴、特にPhillipsの提案する「文構造が左から右へ建て増し構築される」というIncrementality Hypothesisに関連する、右方節点繰り上げ構文 (Right Node Raising) や移動操作による構成素の消失に関する現象やその説明方法を理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Vanishing Constituents: Loss-of-Scope Effects</li> <li>2. Right Node Raising and Movement (1)</li> <li>3. Right Node Raising and Movement (2)</li> <li>4. Right Node Raising and Movement (3)</li> <li>5. Constituency vs. Hierarchy Tests(1)</li> <li>6. Constituency vs. Hierarchy Tests(2)</li> <li>7. Argument Stranding in Right Node Raising, Movement, and Ellipsis</li> <li>8. Prediction</li> <li>9. Potential Complete VP Constraint</li> <li>10. VP-Ellipsis</li> <li>11. VP-Fronting</li> <li>12. Alternative Approaches: Flexible Constituency</li> <li>13. Combinatory Categorical Grammar</li> <li>14. Parallel Structure</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：Colin Phillips (2003) “Linear Order and Constituency,” <i>Linguistic Inquiry</i> 34-1, pp. 37-90.		出席状況、授業の予習、授業中の発表、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (Deconstructing 'Japaneseness')	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>グローバリゼーションやポスト植民地主義の状況という視点から、現代日本について書かれた英語論文の読解・議論を通じて、現代日本の多民族・多文化的状況についての検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピックのなかから研究テーマを設定する。それぞれのグループは、個別の研究テーマに関連する文献の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。扱う題材は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、チャイナタウン、国際結婚などを予定している。</p> <p>本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。</p> <p>なお、週末等を利用して、本講義に関連した学外実習等を行なう可能性があるため注意されたい。</p>		<p>1. 趣旨説明・グループ分け (初回の授業でグループ分けを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。)</p> <p>2. 各課題についての解説(1~2回)</p> <p>3. 基礎文献の購読・議論 個別の研究プロジェクトに取りかかる前の準備作業として、多文化・多民族という視点から日本社会を論じた文献の購読・議論を行なう。具体的には、テキスト欄に紹介した本のなかから、いくつかのチャプターを読んでいく。それゆえ、履修希望者はテキストを初回授業時まで用意しておくこと。なお扱う予定のチャプターは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Geographical and Generational Variations</li> <li>• Varieties in Work and Labor</li> <li>• Gender Stratification and the Family System</li> <li>• Minority Groups: Ethnicity and Discrimination</li> <li>• Popular Culture and Everyday Life</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Sugimoto, Yoshio 2003. <i>An Introduction to Japanese Society (Second Edition)</i> . Cambridge and New York: Cambridge University Press.		授業における発表・議論(70%)、期末レポート(30%)	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (Deconstructing 'Japaneseness')	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>グローバリゼーションやポスト植民地主義の状況という視点から、現代日本について書かれた英語論文の読解・議論を通じて、現代日本の多民族・多文化的状況についての検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピックのなかから研究テーマを設定する。それぞれのグループは、個別の研究テーマに関連する文献の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。扱う題材は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、国際結婚などを予定している。</p> <p>本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。</p> <p>なお、週末等を利用して、本講義に関連した学外実習等を行なう可能性があるため注意されたい。</p>		<p>春学期の英語専門講読Ⅰの成果を踏まえた上で、各グループごとに個々の研究プロジェクトに取りかかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 各グループごとに、指定された英語論文等を読み込みながら、議論を行なう。</li> <li>• 中間発表 学期半ばに各グループごとに中間発表をしてもらう。</li> <li>• 最終発表 学期末に各グループごとに最終発表をもらい、その成果をもとに年度末レポートを作成する。</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
初回の授業で、論文リスト(基本的には学術雑誌所収論文)を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。なお入手困難なものについては、担当者が配布する。		授業における発表・議論(70%)、期末レポート(30%)	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (異文化理解の視点)	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、コミュニケーション論における専門的な文献(書籍・論文)を読むのに必要な能力と知識を養うことを目的としています。すなわち、より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り、研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します。春学期は特に、文献に書かれている内容を具体化する(日常生活の例を挙げる)ことを最大の目的にします。</p> <p>授業は、グループワークが中心です。担当箇所についてのグループ発表の後、内容に関する質疑応答やディスカッション、担当者による補足説明と解説という形で進めていきます。グループ発表では、文献の内容を具体的に説明することが求められます。人は「コミュニケーションしないことはできない(cannot NOT communicate)」と言われるように、コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し、その経験の中にあふれていて、学生諸君も必ず体験していることです。このことを念頭に置いて、受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし、毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています。目指すのは「学生の、学生による、学生のための授業」です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業オリエンテーション①</li> <li>2. 授業オリエンテーション②, 教材配布</li> <li>3. グループ分け</li> <li>4. 異文化コミュニケーションの研究意義①</li> <li>5. 異文化コミュニケーションの研究意義②</li> <li>6. 異文化コミュニケーションとは何か①</li> <li>7. 異文化コミュニケーションとは何か②</li> <li>8. 中間総括および補足説明</li> <li>9. 重要な文化的価値のパターン①</li> <li>10. 重要な文化的価値のパターン②</li> <li>11. 文化(民族)アイデンティティー理解のカギ①</li> <li>12. 文化(民族)アイデンティティー理解のカギ②</li> <li>13. 二元論の源泉:デカルト的世界観</li> <li>14. 学期のまとめ, レポート課題配布</li> </ol> <p>※ 理解度等により, 授業進度が変わることもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>コピー教材を配布します。 心理学, 社会学, 物理学, 統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。</p>		<p>グループワーク(準備, 発表の仕方, 発表内容), 授業への貢献度(質疑応答, 議論への参加), 学期末レポートまたは試験により評価します。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (異文化理解の視点)	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、コミュニケーション論における専門的な文献(書籍・論文)を読むのに必要な能力と知識を養うことを目的としています。すなわち、より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り、研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します。秋学期では、特にいくつかの理論について書かれた文献を読むため、文献中に見られるそれぞれに概念やそれらの違い、およびその関連性を正しく理解しながら読み進めていくことを最大の目的にします。</p> <p>授業は、グループワークが中心です。担当箇所についてのグループ発表の後、内容に関する質疑応答やディスカッション、担当者による補足説明と解説という形で進めていきます。グループ発表では、文献の内容を具体的に説明することが求められます。人は「コミュニケーションしないことはできない(cannot NOT communicate)」と言われるように、コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し、その経験の中にあふれていて、学生諸君も必ず体験していることです。このことを念頭に置いて、受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし、毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています。目指すのは「学生の、学生による、学生のための授業」です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋学期の授業計画, 教材配布など</li> <li>2. 春学期の復習</li> <li>3. 文化アイデンティティーの次元</li> <li>4. 自己開示における欧米と日本の違い</li> <li>5. 定量的研究方法論と基本的な概念について</li> <li>6. Face-Negotiation Theory ①</li> <li>7. Face-Negotiation Theory ②</li> <li>8. Anxiety-Uncertainty Management Theory ①</li> <li>9. Anxiety-Uncertainty Management Theory ②</li> <li>10. Anxiety-Uncertainty Management Theory ③</li> <li>11. Expectancy Violation Theory ①</li> <li>12. Expectancy Violation Theory ②</li> <li>13. Expectancy Violation Theory ③</li> <li>14. 学期のまとめ, レポート課題配布</li> </ol> <p>※ 理解度により, 授業進度が変わることもあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>コピー教材を配布します。 心理学, 社会学, 物理学, 統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。</p>		<p>グループワーク(準備, 発表の仕方, 発表内容), 授業への貢献度(質疑応答, 議論への参加), 学期末レポートまたは試験により評価します。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
この授業では、20世紀後半のアメリカの女性作家・詩人たちの作品(エッセイ、短篇小説、詩)を、精読あるいは多読しながら、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 日系アメリカ人の歴史と文化</li> <li>3. 映像や音楽に見られる日系アメリカ人</li> <li>4. Hisaye Yamamoto (小説)</li> <li>5. Janice Mirikitani (詩)</li> <li>6. Janice Mirikitani (インタビュー)</li> <li>7. 日系からアジア系へ</li> <li>8. まとめ 復習テスト</li> <li>9. アフリカ系アメリカ人の文化と歴史</li> <li>10. Alice Walker (小説)</li> <li>11. Alice Walker (詩)</li> <li>12. 映像や音楽に見られるアフリカ系アメリカ人</li> <li>13. 関連テーマの評論を読む</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。		小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。 なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
前期に続き、20世紀アメリカの有色系女性作家・詩人たちの作品(エッセイ、短篇小説、詩)を精読あるいは多読することで、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. ネイティブ・アメリカンの歴史と文化</li> <li>3. Leslie Marmon Silko (小説)</li> <li>4. Leslie Marmon Silko (詩)</li> <li>5. 映像に見られるネイティブ・アメリカン</li> <li>6. 関連テーマの評論を読む</li> <li>7. まとめ 復習テスト</li> <li>8. 境界からの声—チカーナという生き方</li> <li>9. Sandra Cisneros (小説)</li> <li>10. Sandra Cisneros (詩)</li> <li>11. 映像に見られるチカーナ</li> <li>12. Sandra Cisneros (インタビュー)</li> <li>13. 関連テーマの評論を読む</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。		小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。 なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (グローバルな眼でアジアを読む)	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に取り上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思います。</p> <p>グループごとにプレゼンテーションを行いません。4人～5人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行いません。</p> <p>グループは2週間を担当し、次のグループに交代します。</p> <p>第1週目には、グループごとにプレゼン資料(レジュメ)を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましょう。</p> <p>第2週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思います。</p>		<p>1. オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 「6つ」のグループを編成 グループ発表の日程を調整</p> <p>2. グループ発表のテーマ候補 以下の中から、グループごとに選びます。</p> <p>アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど</p> <p>南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、 バングラデシュ、ネパールなど</p> <p>東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、 フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、 ミャンマー(ビルマ)など</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>Asian Survey</i> (A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2010.		プレゼン資料、プレゼンテーション、出席回数、質疑応答への貢献度などによって評価します。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (グローバルな眼でアジアを読む)	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に取り上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思います。</p> <p>グループごとにプレゼンテーションを行いません。4人～5人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行いません。</p> <p>グループは2週間を担当し、次のグループに交代します。</p> <p>第1週目には、グループごとにプレゼン資料(レジュメ)を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましょう。</p> <p>第2週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思います。</p>		<p>1. オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 「7つ」のグループを編成 グループ発表の日程を調整</p> <p>2. グループ発表のテーマ候補 春学期に扱っていない国を、以下の中から選びます。</p> <p>アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど</p> <p>南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、 バングラデシュ、ネパールなど</p> <p>東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、 フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、 ミャンマー(ビルマ)など</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>Asian Survey</i> (A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2010.		プレゼン資料、プレゼンテーション、出席回数、質疑応答への貢献度などによって評価します。	

09 年度以降	英語専門講読 I (現代イギリス小説)	担当者	東郷 公德
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、英国の作家ジョージ・オーエルの小説 <i>Nineteen Eighty-four</i> (1948 年作品) を読む。</p> <p>ここで描かれているのは、ビッグ・ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は3つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。</p> <p>人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。オーエルを読み解くキーワードは、「人間らしさ(“decency”)」である。この20世紀を代表する問題作を読みながら、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。</p>		<p>毎回、講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子を見て決定、調整する。折を見て、映画化された作品も授業内で紹介したい。学期末にレポートを課す。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		出席、授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。	

09 年度以降	英語専門講読 II (現代イギリス小説)	担当者	東郷 公德
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期の続き。		春学期の続き。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		出席、授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (国際政治史)	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際政治史（第二次世界大戦後の国際関係の歴史）に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する基礎知識を習得することを目指す。</p> <p>毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお授業終了後には、英文和訳の小テストを毎週行う。</p> <p>使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。必要部分を各自コピーして欲しい。テキストをすべて読み終わることを目指すが、おそらく無理であろう。</p> <p>テキストの英文は平易であるが、国際政治史についての基礎知識がないと読み進めることはできないだろう。自信のない学生は、受講を諦めるか、さもなくば毎週しっかりと予習をしてから出席する覚悟が必要である。特に2年生は要注意せよ。</p> <p>*なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも数ページは読んでおくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始（第1週）</li> <li>2. 各章、各セクション、各パラグラフの内容確認（第2～第14週）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Robert J. McMahon, <i>The Cold War: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2003.		評価は次の3点による。①出欠(35%)、②授業の参加度・貢献度(30%)、③学期末試験(35%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (国際関係論)	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代国際関係論に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。</p> <p>毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠になる。なお授業終了後には、和文英訳の小テストを毎週行う。</p> <p>使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。必要部分を各自コピーせよ。テキストをすべて読み終わることを目指すが、おそらく難しくであろう。</p> <p>テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと、読み進めることは難しいであろう。自信がない学生は、受講を諦めるか、さもなくば毎週しっかりと予習をしてから出席する覚悟が必要である。特に2年生は要注意。</p> <p>*なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも数ページは読んでおくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始（第1週）</li> <li>2. 各章、各セクション、各パラグラフの内容確認（第2～第14週）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Paul Wilkinson, <i>International Relations: A Very Short Introduction</i> , Oxford: Oxford University Press, 2007.		評価は次の3点による。①出欠(35%)、②授業の参加度・貢献度(30%)、③学期末試験(35%)。欠席が4回になった時点で不可。遅刻は2回で欠席とみなす。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (インタビューやニュースの SCRIPT を読む)	担当者	鍋倉 健悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>読んで理解できない英語は、当然、聴いても理解できない。 ただこのことは、往々にして忘れられがちである。</p> <p>当講座は、“英会話”以上の英語（ニュース・インタビュー・スピーチ・レクチャー e t c）を聴いて理解できるようにするためにはどうしたらよいのか、そのスキルを会得するためのものである。このため、授業では、さまざまなジャンルの SCRIPT を使って、聴解力アップのためのいろいろな読み方を体験してもらう。当講座は、いわば異文化間コミュニケーション実践のスキル・アップを目的としたものであると考えて欲しい。</p> <p>なお、授業の3分の1以上を欠席した場合、単位は認められない。</p>		<p>聴解能力には、読解能力だけでなく、スピードもまた重要となってくる。そこで、学生には、文頭からの読み、予測読み、速読など（英語を聴いて理解するための読みの技術）を教えていきたい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
毎回ごとに SCRIPT のプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (インタビューやニュースの SCRIPT を読む)	担当者	鍋倉 健悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		同上	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
毎回ごとに SCRIPT のプリントを使用		出席、平常授業での評価による	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Gary Snyder (b.1930)の詩集 <i>Riprap and Cold Mountain Poems</i> をテキストに、自然、仏教、ネイティブ・アメリカン、そしてエコロジーの視点から、「環太平洋文化圏」について考える。授業は、レポーターによる作品解釈、質疑応答を中心に進める。スナイダーについては、<a href="http://en.wikipedia.org/wiki/Gary_Snyder">http://en.wikipedia.org/wiki/Gary_Snyder</a> を参照。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) Introduction</li> <li>(2) “Mid-August at Sourdough Mountai Look out ”</li> <li>(3) “The Late Snow &amp; Lumber Strike of the Summer of Fifty-four”</li> <li>(4) “Praise for Sick Women”</li> <li>(5) “Piute Creek”</li> <li>(6) “Milton by Firelight”</li> <li>(7) “Above Pate Valley”</li> <li>(8) “Water”</li> <li>(9) ” For a Far-out Friend”</li> <li>(10) “Hay for the Horses”</li> <li>(11) ” Thin Ice”</li> <li>(12) “Nooksack Valley”</li> <li>(13) “All through the Rains”</li> <li>(14) “Migration of Birds”</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト Gary Snyder, <i>Riprap and Cold Mountain Poems</i>. Berkeley: Counterpoint, 2009. (50<sup>th</sup> Anniversary Edition) テキストは、各自 amazon.co.jp などを通して購入のこと。 参考文献 Timothy Gray, <i>Gary Snyder and the Pacific Rim: Creating Counter-Cultural Community.</i>. Iowa City: U. of Iowa P, 2006. Patric D. Murphy, <i>A Place for Wayfaring: The Poetry and Prose of Gary Snyder</i>. Corvallis, OR: Oregon State UP, 2000. 山里勝己『場所を生きるーゲーリー・スナイダーの世界』(山と溪谷社, 2006年)</p>		<p>プレゼンテーションとタームペーパー (MLA のスタイルに準じた 4,000 字程度の作品論) を総合して決める。ただし欠席が 3分の1 を超えた場合は評価の対象としない。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Gary Snyder (b.1930)の詩集 <i>The Back Country</i> をテキストに、自然、仏教、ネイティブ・アメリカン、そしてエコロジーの視点から、「環太平洋文化圏」について考える。授業は、レポーターによる作品解釈、質疑応答を中心に進める。スナイダーについては、<a href="http://en.wikipedia.org/wiki/Gary_Snyder">http://en.wikipedia.org/wiki/Gary_Snyder</a> を参照。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) “Tōji”</li> <li>(2) “Higashi Hongwanji”</li> <li>(3) “Kyoto: March”</li> <li>(4) “A Stone Garden”</li> <li>(5) “The Sappa Creek”</li> <li>(6) “At five a.m. off the North Coast of Sumatra . . . .”</li> <li>(7) “Goofing again . . . .”</li> <li>(8) “T-2 Tanker Blues”</li> <li>(9) “Cartagena”</li> <li>(10) “Riprap”</li> <li>(11) “Cold Mountain Poems” (1)</li> <li>(12) “Cold Mountain Poems” (2)</li> <li>(13) “Cold Mountain Poems” (3)</li> <li>(14) “Cold Mountain Poems” (4)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト Gary Snyder, <i>Riprap and Cold Mountain Poems</i>. Berkeley: Counterpoint, 2009. (50<sup>th</sup> Anniversary Edition) テキストは、各自 amazon.co.jp などを通して購入のこと。 参考文献 Timothy Gray, <i>Gary Snyder and the Pacific Rim: Creating Counter-Cultural Community.</i>. Iowa City: U. of Iowa P, 2006. Patric D. Murphy, <i>A Place for Wayfaring: The Poetry and Prose of Gary Snyder</i>. Corvallis, OR: Oregon State UP, 2000. 山里勝己『場所を生きるーゲーリー・スナイダーの世界』(山と溪谷社, 2006年)</p>		<p>プレゼンテーションとタームペーパー (MLA のスタイルに準じた 4,000 字程度の作品論) を総合して決める。ただし欠席が 3分の1 を超えた場合は評価の対象としない。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (欽定訳聖書を読む)	担当者	福井 嘉彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1611年発行の King James Version 「欽定訳聖書」の中からルカ福音書を読む。          学生諸君には、17世紀初頭の英文と接し、マルコ福音書が読者に伝えようとしている内容に興味を持つ必要がある。          勿論素手で理解できるものではないので、講師による新約聖書学による説明がある。テキストはプリント。</p>		<p>テキストの文章の難易度と、学生の予習能力に応じて授業を進めていく。          授業時には、名簿に従って席に着いていただく。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>The Gospel According to ST.Luke</i>		授業への出席、発表、テストの結果で評価する。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (欽定訳聖書を読む)	担当者	福井 嘉彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に続く箇所を読む		春学期に準じる	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期に準じる		春学期に準じる	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (シェイクスピア入門)	担当者	前沢 浩子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>シェイクスピアの悲劇 <i>Macbeth</i> (『マクベス』) を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に体験することを目的とする。</p> <p><i>Macbeth</i> はシェイクスピアが書いた戯曲の中でも最も短いものである。凝縮された詩の言葉の中で、自らの野心に気づき、おびえながら罪をおかし、取り返しのつかない人生を歩み続ける人間の内面が描かれている。シェイクスピアの詩の言葉を丹念に読みながら、ドラマティックなアクションと内省的な心理表現とが結びつくシェイクスピアの作劇法を理解する。</p> <p>近代初期の英語の韻文に初めて触れるという人も多いと思うので、現代の日常的な英語との語義や語法の違いなどを少しずつ説明しながら読みなれていく。またいろいろな音声テープを聞き、またセリフを音読して、韻文の音のパターンに慣れる。作品への理解を深めるために、シェイクスピア時代の劇場や社会的背景、あるいはシェイクスピアの他の作品についても、必要に応じて説明する。また日本で翻訳上演のビデオなども見て、現代における文化を超えたシェイクスピア受容についても考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シェイクスピアについての概説と授業の進め方の説明</li> <li>2. 精読</li> <li>3. 精読</li> <li>4. 精読</li> <li>5. 精読</li> <li>6. 精読</li> <li>7. 小テスト</li> <li>8. 精読</li> <li>9. 精読</li> <li>10. 精読</li> <li>11. 精読</li> <li>12. 精読</li> <li>13. 精読</li> <li>14. 精読</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
大修館シェイクスピア双書 <i>Macbeth</i>		小テスト、学期末試験、平常点を総合して評価する。	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (シェイクスピア入門)	担当者	前沢 浩子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
上に同じ。		春学期の続きを読む。 第7回目に小テストを行う。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
上に同じ。		上に同じ。	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (国際連合の組織と機能)	担当者	光辻 克馬
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、国際連合についての基礎的文献をテキストとして、(1) 国際連合について知り、(2) 国際関係分野に必要な英語能力を向上させ、(3) プレゼンテーション能力を身につけることを目指します。</p> <p>履修者は、毎週テキストの指定された部分を読んでくることが求められます。テキストの理解を深めるために、講義では関連する内容について、プレゼンテーションしたり、討論したりしましょう。</p>		<p>第1回： イントロダクション：国際連合&amp;心得解説</p> <p>第2回-第14回： 履修者による報告と討論</p> <p>履修者がテキストを読むことを重視します。読めるペースで講義は進めたいと思います。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>MJPeterson, The UN General Assembly テキストの入手方法については初回に説明します。</p>		<p>出席状況、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度などにより評価します。単位取得のためには、2/3以上の出席が必要です。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (国際連合の組織と機能)	担当者	光辻 克馬
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、国際連合についての基礎的文献をテキストとして、(1) 国際連合について知り、(2) 国際関係分野に必要な英語能力を向上させ、(3) プレゼンテーション能力を身につけることを目指します。</p> <p>履修者は、毎週テキストの指定された部分を読んでくることが求められます。テキストの理解を深めるために、講義では関連する内容について、プレゼンテーションしたり、討論したりしましょう。</p>		<p>第1回： イントロダクション：国際連合&amp;心得解説</p> <p>第2回-第13回： 履修者による報告と討論</p> <p>第14回： みんなで総括</p> <p>履修者がテキストを読むことを重視します。読めるペースで講義は進めたいと思います。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>ECLuck, UN Security Council: Practics and Promise テキストの入手方法については初回に説明します。</p>		<p>出席状況、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度などにより評価します。単位取得のためには、2/3以上の出席が必要です。</p>	

09年度以降	英語専門講読Ⅰ (米国とカリブのブラックカルチャー)	担当者	三吉 美加
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>コンテンポラリーな黒人表現の多様性を確認した上で、短編小説、雑誌記事、ブログ、映画、音楽、ダンス、絵画など、さまざまなアートフォームにおいて描かれる彼/彼女の日常を考察していく。</p> <p>一つのトピックがいろいろな場でどのように語られているのかを議論しながら、授業をすすめていく。</p> <p>米国のブラックスタディーズで扱われているテキストを本授業でもできるだけ使用していきたい。視聴覚教材も多用する。</p> <p>日本にいる私たちが黒人文化や社会について知ることについて、また、どうその知識を自らの社会、生活、人間関係のなかで捉えるのか、活かしていけるのか、などいろいろなことを考えてみたい。</p>		<p>・グループワークとプレゼンテーションもとり入れる。教材と関連することがらについて、グループ内で統一テーマを決め、各自さらに細かく担当テーマについて調べてくる。具体的には授業内で指示する。</p> <p>1 Intro. 2 黒人表現文化の概観 3 <i>Ebony</i> 4 一ドルショップとユーモア 5 一ドルショップとサスペンス 6 ミステリー1 7 ミステリー2 8 ミステリー3 9 反抗的態度について1 ヒップホップ 10 反抗的態度について2 メディアのなかの黒人像 11 反抗的態度について3 12 プレゼン 13 Wrap-Up</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		平常点(予習、授業への参加度)、小テスト	

09年度以降	英語専門講読Ⅱ (米国とカリブのブラックカルチャー)	担当者	三吉 美加
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春の続き		<p>春のつづき</p> <p>1 Intro. 2 移動するということ 3 カリブ系によるショートストーリー 4 カリブ系によるショートストーリー 5 カリブ系によるショートストーリー 6 身体1 踊る身体 7 身体2 見られる身体 8 身体3 強い身体 9 プレゼン 10 過去との縛り 11 過去との縛り 12 プレゼン 13 Wrap-Up</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Junot Diaz など講読予定。		平常点(予習、授業への参加度)、小テスト	

09 年度以降	英語の世界Ⅱ	担当者	府川 謹也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深め、英語についての知識を増やすことにあります。したがって、高校時代に習ってきた表現が「なぜそう言えるのに、こうは言えないの?」という素朴な疑問に対して、それなりに「なるほど!」と納得のいく理由のあることを説明していきます。</p> <p>この授業を受けると、例えば日本語で「ジョンにタバコをやめるよう説得したけれど、やめなかった」と言えても、“*I persuaded John out of smoking, but he didn’ t quit smoking.”と言えない理由や、“I’ m standing ( ) the street.”のカッコに in も on も入るけど、意味が違うことが分かるようになります。役に立つ、本質的知識を身につけ、その過程で、ことばが人間であることの大事な証(あかし)であることを理解してほしいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語と日本語の情報構造</li> <li>2. 情報の新旧と冠詞</li> <li>3. 情報構造と書き換え構文</li> <li>4. 英語受動文</li> <li>5. GET 受身と BE 受身</li> <li>6. 動詞的受身と形容詞的受身</li> <li>5. 自動詞構文と他動詞構文</li> <li>6. 再帰代名詞の使い方</li> <li>7. 動詞の意味と構文(結果構文)</li> <li>8. 動詞の意味と構文(二重目的語構文)</li> <li>9. 動詞の意味と構文(壁塗り構文)</li> <li>10. 動詞の意味と構文(tough 構文と中間構文)</li> <li>11. 動詞の意味ネットワーク</li> <li>12. 前置詞の意味</li> <li>13. 続き</li> <li>14. 前置詞の意味ネットワーク</li> <li>15. アスペクト(進行相と完了相)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：本学の講義支援ポータルサイトを通じてプリントを配布する。</p> <p>参考書：授業中に適宜紹介する。</p>		課題と小テストおよび定期試験で決める。	

09 年度以降	英語の世界Ⅱ	担当者	府川 謹也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的と内容は春学期と同じです。</p> <p>もう少し、この授業を受けると分かるようになる例を挙げておきます。</p> <p>(1) 沸くのは「やかん」ではなく「お湯」なのに、英語も日本語も「やかんが沸く」と言う。</p> <p>a. The kettle is boiling.</p> <p>b. ヤカンが煮えくり返っている。</p> <p>(2) ‘write Mary a letter’ と ‘write a letter to Mary’ は同じ意味だと習ったのに、b は言えない。</p> <p>a. John wrote a letter to Mary, but later he tore it up.</p> <p>b. *John wrote Mary a letter, but later he tore it up.</p> <p>(3) [疲れている人に向かって] 「一所懸命働いたから疲れを感じるのさ」という場合には a のほうがよい。</p> <p>a. You feel tired because you’ve worked hard.</p> <p>b. ??Because you’ve worked hard, you feel tired.</p> <p>(4) 受動文で get と be のどちらを使ったらよいか。</p> <p>a. Criminals must {get/?be} arrested to prove their machismo.</p> <p>b. Criminals must {?get/be} arrested to keep the streets safe.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語と日本語の情報構造</li> <li>2. 情報の新旧と冠詞</li> <li>3. 情報構造と書き換え構文</li> <li>4. 英語受動文</li> <li>5. GET 受身と BE 受身</li> <li>6. 動詞的受身と形容詞的受身</li> <li>5. 自動詞構文と他動詞構文</li> <li>6. 再帰代名詞の使い方</li> <li>7. 動詞の意味と構文(結果構文)</li> <li>8. 動詞の意味と構文(二重目的語構文)</li> <li>9. 動詞の意味と構文(壁塗り構文)</li> <li>10. 動詞の意味と構文(tough 構文と中間構文)</li> <li>11. 動詞の意味ネットワーク</li> <li>12. 前置詞の意味</li> <li>13. 続き</li> <li>14. 前置詞の意味ネットワーク</li> <li>15. アスペクト(進行相と完了相)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：本学の講義支援ポータルサイトを通じてプリントを配布する。</p> <p>参考書：授業中に適宜紹介する。</p>		課題と小テストおよび定期試験で決める。	

09年度以降	観光英語 I	担当者	落合 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 海外に旅行する日本人、海外から来日する外国人の数も飛躍的に増えており、これに対応する職業（旅行・観光・ホテル・レストランサービス等）にあつては、必然的に外国語、特に英語による業務が急増している。そこでは英語の一般的能力だけではなく、業界専門用語や独特の言い回しなど、業務遂行に必要な英語力を持ったプロフェッショナルの養成が急務であり、また恒常的にもかかる能力を有する人への高い需要がある。したがって、この授業では、主として海外旅行で必要かつ観光・旅行の仕事で役立つ観光英語の運用能力を身につけることを目的とし、具体的には、「観光英語検定試験」（Tourism English Proficiency Test）の2級合格を目指すことをひとつの目標とする。</p> <p>[講義概要] マルチメディア(DVD/ビデオ・PC)を駆使して、実際の観光状況を確認し、観光に関する用語・表現様式、文化の差異、マナー等々について学びながら、実践的英語運用能力を高めてゆくことを目途とする。</p>		<p>第1回：ガイダンス 第2回：Orientation(参加者の英語力・異文化経験・外国旅行経験等々調査) 第3回：観光英語検定試験の模擬試験実施 第4回：英語力涵養の様々な Tool(Internet,映画、テレビ、ラジオ等々)の確認と利用実践 第5回：観光体験を基にシナリオ作成 第6回：シナリオを基に観光活動を英語で実践 第7回：観光実務に必要とされる語彙の確認 第8回：異文化に対する感性を鋭くするための Case Study 第9回：観光英語検定試験の模擬試験実施 第10回：ビデオによる疑似観光体験をしながら、英語による案内を練習 第11回：ビデオによる疑似観光体験をしながら、英語による案内を練習 第12回：案内の講評と校正版の実施 第13回：ゲストを招き観光についてのインタビュー 第14回：観光英語検定試験の模擬試験実施 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考書：適宜紹介する</p>		出席30% 課題20% 試験30% 授業貢献度20%	

09年度以降	観光英語 II	担当者	日野 克美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 「観光英語 I」の続きの授業で、国際観光事業に従事する際に必要となる実務レベルの観光英語の運用能力を身につけることを目的とし、具体的には、「観光英語検定試験」（Tourism English Proficiency Test）の1級合格を目指すことをひとつの目標とする。</p> <p>[講義概要] 「観光英語 I」に引き続いて、同様の方式にて更に高度な実践的英語運用能力を涵養すべく、Role Playing を多用し、かつ観光計画を作成させ、Simulation を実施する。</p>		<p>第1回：ガイダンス 第2回：種々の英語検定試験の概観と英語語彙力テスト 第3回：観光英語検定試験1級の問題実施 第4回：問題解説 第5回：学習方法の紹介と研究 第6回：英語での日本観光計画作成 第7回：観光客からの想定質問集作成 第8回：想定質問に対する回答作成 第9回：想定質問に対する回答作成 第10回：日本の観光名所を選び、想定案内シナリオ作成 第11回：Role Playing による観光案内の練習とその経過のビデオ撮り 第12回：ビデオを見ながら検討会 第13回：観光英語検定試験1級の問題実施 第14回：観光英語検定試験1級の解説と対策 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考書：適宜紹介する</p>		出席30% 課題20% 試験30% 授業貢献度20%	

09年度以降	通訳案内士の英語Ⅰ	担当者	落合 康男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 通常通訳ガイドとして最低限求められる読解力、説明力、語彙力等、口述力以外の総合的な語学能力を身につけることを目的とし、具体的には通訳案内士試験の第一次試験の合格を目指すことを目標とする。第1次試験の出題は概ね、英文の読解問題（英文法・語法を含む）、英文和訳問題（既定英作文）、あるテーマや用語について英語で説明する、あるいは日本語の文章を英語で要約する問題（自由英作文）、それに時事英単語問題が基準となっているので、その受験対策となるような実践的学習を行う。</p> <p>[講義概要] 明確な目標の下、問題演習を多くこなしてゆく。また集中的訓練を中心とした Pair-work, Group-work の形式で柔軟な対応を身につける相互訓練、及び Communication 訓練を行う。</p>		<p>第1回：ガイダンス 第2回：Orientation（出席者の異文化体験・外国旅行体験等々調査を含む） 第3回：実際の通訳案内士試験問題に取り組む 第4回：必要とされる英語レベルの確認を行いながら、自己の英語総合力を認識させる 第5回：幅広い理解力運用力涵養のため、様々な英語（各国の訛・特徴）を知る 第6回：Speaking の訓練方法を紹介実践 第7回：Listening の訓練方法を紹介実践 第8回：Writing の訓練方法の紹介実践 第9回：Extensive/Intensive Reading の紹介実践 第10回：模擬通訳案内士試験問題取り組み 第11回：英字新聞を利用し、時事問題について簡潔に伝える練習を行う 第12回：映画を利用して名場面を英語で紹介する練習を行う 第13回：日本の名所旧跡を選び印象的に紹介する練習をする 第14回：日本一週のガイドに挑戦 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考書：適宜紹介する</p>		出席30% 課題20% 試験30% 授業貢献度20%	

09年度以降	通訳案内士の英語Ⅱ	担当者	日野 克美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 「通訳案内士の英語Ⅰ」の続きの授業であるが、「通訳案内士の英語Ⅰ」で目標とした英語力に加え、通訳案内士の第2次口述試験を合格するのに必要な実践的コミュニケーション能力の訓練を行う。</p> <p>[講義概要] 「通訳案内士の英語Ⅰ」の授業の方式を踏襲しつつ、更に高度な応用能力を涵養すべく、擬似口述試験の練習を定期的に取り入れる。クラス内でゲストを招き実際の通訳案内士の体験を行う。</p>		<p>第1回：ガイダンス 第2回：Orientation（通訳案内士の英語Ⅰで身につけた総合力の確認） 第3回：Project（観光案内の計画）大テーマ策定 第4回：各グループに分かれ、テーマを絞り、観光計画策定 第5回：各グループで調査・演習活動（1）具体的計画策定 第6回：各グループで調査・演習活動（2）計画実行及び反省・検討 第7回：各グループ発表（審査・検討会） 第8回：新しいテーマと新しいグループによる観光案内計画策定 第9回：各グループで調査・演習活動（1）前回の計画・実行の反省・検討を基に計画策定 第10回：各グループで調査・演習活動（2）計画実行及び反省・検討 第11回：各グループ発表（審査・検討会） 第12回：模擬試験 第13回：模擬試験検討会 第14回：各人による観光案内計画発表 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考書：適宜紹介する</p>		出席30% 課題20% 試験30% 授業貢献度20%	

09年度以降	Business Writing	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起させないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、TOEICで900点を取得しても大半の学生が、ある程度本格的なビジネスレター(メール)を書けないのが現状である。本講義では、本格的なBusiness Writingの書き方を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で英語を使用して働きたい学生と英語教員志望の学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来に役立つ実践的なBusiness Writingの講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。</p> <p>具体的に講義を説明いたします。英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、ビジネスレター(メール)の書き方を指導する。同時に、国際企業への就職活動や海外の大学・大学院に入学するために必要な英文履歴書と英文カバーレターの書き方も分かりやすく説明し、指導する。English for BusinessとBusiness Writingの講義で、社会でも十分に通用するBusiness Englishを総合的に学習することになります。</p> <p>尚、半期終了型の授業なので、それなりのスピードで授業を進めていきますので、予習・復習を十分にできる学生を対象といたします。一緒に勉強いたしましょう。</p>		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：Business Writingを学ぶにあたって</p> <p>第3回：ビジネスレターの形式(その1―「ビジネスレターの構成要素」)</p> <p>第4回：ビジネスレターの形式(その2―「スタイル・句読点」と練習問題)</p> <p>第5回：効果的なビジネスレター(メール)の書き方(その1―「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」)</p> <p>第6回：効果的なビジネスレター(メール)の書き方(その2―「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」と練習問題)</p> <p>第7回：ビジネスレター(メール)でよく使用される表現(その1―「取引の申込み・引合い」)</p> <p>第8回：ビジネスレター(メール)でよく使用される表現(その2―「オファー」)</p> <p>第9回：ビジネスレター(メール)でよく使用される表現(その3―「信用状」)</p> <p>第10回：ビジネスレター(メール)でよく使用される表現(その4―「積出し・クレーム」)</p> <p>第11回：英文ビジネスレターの作成</p> <p>第12回：英文履歴書の書き方</p> <p>第13回：英文カバーレターの書き方</p> <p>第14回：英文履歴書と英文カバーレターの作成</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：海老沢達郎著「BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門」金星堂</p> <p>参考書：適宜紹介する</p>		<p>学期末試験(80%)を中心にして、これに出席・レポート・授業貢献度(20%)を参考にして総合的に評価する。</p>	

09年度以降	Business Writing	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起させないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、TOEICで900点を取得しても大半の学生が、ある程度本格的なビジネスレター(メール)を書けないのが現状である。本講義では、本格的なBusiness Writingの書き方を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で英語を使用して働きたい学生と英語教員志望の学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来に役立つ実践的なBusiness Writingの講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。</p> <p>具体的に講義を説明いたします。英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、ビジネスレター(メール)の書き方を指導する。同時に、国際企業への就職活動や海外の大学・大学院に入学するために必要な英文履歴書と英文カバーレターの書き方も分かりやすく説明し、指導する。English for BusinessとBusiness Writingの講義で、社会でも十分に通用するBusiness Englishを総合的に学習することになります。</p> <p>尚、半期終了型の授業なので、それなりのスピードで授業を進めていきますので、予習・復習を十分にできる学生を対象といたします。一緒に勉強いたしましょう。</p>		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：Business Writingを学ぶにあたって</p> <p>第3回：ビジネスレターの形式(その1―「ビジネスレターの構成要素」)</p> <p>第4回：ビジネスレターの形式(その2―「スタイル・句読点」と練習問題)</p> <p>第5回：効果的なビジネスレター(メール)の書き方(その1―「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」)</p> <p>第6回：効果的なビジネスレター(メール)の書き方(その2―「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」と練習問題)</p> <p>第7回：ビジネスレター(メール)でよく使用される表現(その1―「取引の申込み・引合い」)</p> <p>第8回：ビジネスレター(メール)でよく使用される表現(その2―「オファー」)</p> <p>第9回：ビジネスレター(メール)でよく使用される表現(その3―「信用状」)</p> <p>第10回：ビジネスレター(メール)でよく使用される表現(その4―「積出し・クレーム」)</p> <p>第11回：英文ビジネスレターの作成</p> <p>第12回：英文履歴書の書き方</p> <p>第13回：英文カバーレターの書き方</p> <p>第14回：英文履歴書と英文カバーレターの作成</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：海老沢達郎著「BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門」金星堂</p> <p>参考書：適宜紹介する</p>		<p>学期末試験(80%)を中心にして、これに出席・レポート・授業貢献度(20%)を参考にして総合的に評価する。</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	A. マグズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is a once a week one-semester intermediate level course to improve students' ability to write academic essays using internet and library sources.</p> <p><u>Final end of course aim:</u> to write a good quality academic essay of between 1,000 to 1,300 words.</p> <p><u>Classroom activities:</u> you will work in small teams of 2 or 3 every week to build writing skills; to share and discuss your ideas; to plan your essay; and to assess your own draft essays and your partner's drafts.</p> <p><u>Classroom style:</u> Relaxed, fun but hardworking</p> <p><u>Attendance policy:</u> 4 absences (without a very good reason) are a FAIL. 3 'lates' means one 'absence' ('late' means you arrive up to 15 minutes after class starts; after 15 minutes is an absence)</p> <p>Please note: you cannot use Wikipedia as a source</p>		<p>Week 1: Introductions &amp; review of essay parts Week 2: Selecting a topic Week 3: Selecting sources Week 4: Analysing student-selected sources /plagiarism Week 5: Outlining skills Week 6: The introduction; body paragraph skills #1 Week 7: Body paragraph skills #2; the conclusion Week 8: Referencing skills (how to refer to your sources) Week 9: FIRST DRAFT analysis Week 10: Punctuation, spelling, connectors review Week 11: Using additional sources / referencing review Week 11: SECOND DRAFT analysis Week 12: Fixing any remaining "trouble" areas Week 13: FINAL DRAFT Week 14: Review of partners' essays</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>No textbook. The teacher will provide all materials</p> <p>An electronic dictionary will be helpful</p>		<p>20% attendance 30% class effort 50% final essay</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	A. マグズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is a once a week one-semester intermediate level course to improve students' ability to write academic essays using internet and library sources.</p> <p><u>Final end of course aim:</u> to write a good quality academic essay of between 1,000 to 1,300 words.</p> <p><u>Classroom activities:</u> you will work in small teams of 2 or 3 every week to build writing skills; to share and discuss your ideas; to plan your essay; and to assess your own draft essays and your partner's drafts.</p> <p><u>Classroom style:</u> Relaxed, fun but hardworking</p> <p><u>Attendance policy:</u> 4 absences (without a very good reason) are a FAIL. 3 'lates' means one 'absence' ('late' means you arrive up to 15 minutes after class starts; after 15 minutes is an absence)</p> <p>Please note: you cannot use Wikipedia as a source</p>		<p>Week 1: Introductions &amp; review of essay parts Week 2: Selecting a topic Week 3: Selecting sources Week 4: Analysing student-selected sources /plagiarism Week 5: Outlining skills Week 6: The introduction; body paragraph skills #1 Week 7: Body paragraph skills #2; the conclusion Week 8: Referencing skills Week 9: FIRST DRAFT analysis Week 10: Punctuation, spelling, connectors review Week 11: Using additional sources / referencing review Week 11: SECOND DRAFT analysis Week 12: Fixing any remaining "trouble" areas Week 13: FINAL DRAFT Week 14: Review of partners' essays</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>No textbook. The teacher will provide all materials</p> <p>An electronic dictionary will be helpful</p>		<p>20% attendance 30% class effort 50% final essay</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	D. H. ケネディ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is a one-semester course to improve students' ability to write academic essays in English. Students will learn how to focus a topic, develop a thesis statement, collect and synthesize data, cite sources, and organize a clear and persuasive academic essay. The instructor will lead students step by step through the academic writing process, providing feedback along the way, toward multiple drafts of a 1,000 to 1,300-word final essay.</p> <p>Class time will include lectures, brainstorming, discussion, short writing activities, and feedback.</p> <p>Students are expected to spend lots of time for assignments outside class, and to be prepared, attentive, and active during class hours.</p>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Choosing and focusing a topic</li> <li>3. Research skills</li> <li>4. Writing a thesis statement and outline</li> <li>5. Revising the thesis statement and outline</li> <li>6. Writing the first draft</li> <li>7. Revising organization: introduction, body, conclusion</li> <li>8. Revising details: support, accuracy, and logic</li> <li>9. Avoiding plagiarism: citing and quoting sources</li> <li>10. Writing the second draft</li> <li>11. Peer evaluation</li> <li>12. Common problems with punctuation, grammar, and vocabulary</li> <li>13. Editing for clarity and conciseness</li> <li>14. Sharing final drafts</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers, by David E. Kluge and Matthew A. Taylor. 2007, Cengage Learning. ISBN 978-4-902902-89-1 (¥2,300)</p>		<p>Students will be graded according to their preparation outside class, participation in class, and the progress and quality of their academic essay.</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	D. H. ケネディ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is a one-semester course to improve students' ability to write academic essays in English. Students will learn how to focus a topic, develop a thesis statement, collect and synthesize data, cite sources, and organize a clear and persuasive academic essay. The instructor will lead students step by step through the academic writing process, providing feedback along the way, toward multiple drafts of a 1,000 to 1,300-word final essay.</p> <p>Class time will include lectures, brainstorming, discussion, short writing activities, and feedback.</p> <p>Students are expected to spend lots of time for assignments outside class, and to be prepared, attentive, and active during class hours.</p>		<p>Tentative schedule:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course introduction</li> <li>2. Choosing and focusing a topic</li> <li>3. Research skills</li> <li>4. Writing a thesis statement and outline</li> <li>5. Revising the thesis statement and outline</li> <li>6. Writing the first draft</li> <li>7. Revising organization: introduction, body, conclusion</li> <li>8. Revising details: support, accuracy, and logic</li> <li>9. Avoiding plagiarism: citing and quoting sources</li> <li>10. Writing the second draft</li> <li>11. Peer evaluation</li> <li>12. Common problems with punctuation, grammar, and vocabulary</li> <li>13. Editing for clarity and conciseness</li> <li>14. Sharing final drafts</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers, by David E. Kluge and Matthew A. Taylor. 2007, Cengage Learning. ISBN 978-4-902902-89-1 (¥2,300)</p>		<p>Students will be graded according to their preparation outside class, participation in class, and the progress and quality of their academic essay.</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.		Week 1 Introduction to the course Week 2 Getting Ready to Write Week 3 The Structure of a Paragraph Week 4 The Development of a Paragraph Week 5 Descriptive and Process Paragraphs Week 6 Opinion Paragraphs Week 7 Comparison / Contrast Paragraphs Week 8 Problem / Solution Paragraphs Week 9 The Structure of an Essay Week 10 Outlining an Essay Week 11 Introductions and Conclusions Week 12 Unity and Coherence Week 13 Essays for Examinations Week 14 Timed essay	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Success With College Writing by Dorothy E. Zemach and Lisa A. Rumisek, published by Macmillan Language House.		Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).	

09年度以降	Academic Writing	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work through a step-by-step process of research and writing needed for academic writing. By the end of the course you will have completed a research paper.		Week 1 Introduction to the course Week 2 Model Research Papers Week 3 Selecting and Narrowing a Topic Week 4 Resources: Searching and Recording Week 5 Taking Notes Week 6 Plagiarism Week 7 In-text Citations Week 8 Main Ideas and Supporting Ideas Week 9 Planning and Writing an Outline Week 10 Introductions and Conclusions Week 11 Topic Sentences and Paragraphs Week 12 Developing Supporting Ideas and Details Week 13 Graphs and Tables Week 14 Review	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Developing Academic Writing Skills by Robyn Najar and Lesley Riley, published by Macmillan Language House.		Grades will be based on class participation (50%) and the final paper (50%).	

09年度以降	Academic Writing (火1)	担当者	E. J. ナオウミ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Learning to write in a foreign language takes time and effort, but it is very satisfying to be able to communicate your ideas in writing. The purpose of this course is to refine the skills acquired in the Basic Essay Writing course. Each student has a different level of skill in writing, but the only way to improve writing skills is to write. The course will introduce and give practice in collecting, organizing and presenting information in a written format in an academic environment. There will be a number of short assignments that students are encouraged to resubmit after receiving feedback and one final short paper.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Review of writing basics 1</li> <li>3. Review of writing basics 2</li> <li>4. Critical reading</li> <li>5. Summary 1</li> <li>6. Summary 2</li> <li>7. Book reports</li> <li>8. Academic vocabulary</li> <li>9. Choosing a topic - Outlining</li> <li>10. Academic patterns</li> <li>11. Introductions and conclusions</li> <li>12. Citations and references</li> <li>13. Sharing the final product</li> <li>14. Wrap up</li> </ol> <p>This syllabus may be modified to better suit student needs.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>All materials will be provided by the instructor. Dictionaries will be discussed on the first day.</p>		<p>Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%.</p>	

09年度以降	Academic Writing (火1)	担当者	E. J. ナオウミ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The purpose of this course is to further refine academic writing skills. The more students practice, the more enjoyable writing will become. There will be a number of short assignments designed to reinforce class content and to give students detailed feedback from the instructor. Students are encouraged to resubmit these assignments because it is common practice in academic writing to revise drafts before final submission. Students will also write one final paper on a topic of their choice.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Writing workshop</li> <li>3. Writing workshop</li> <li>4. Library research skills</li> <li>5. Avoiding plagiarism 1 - summary and paraphrase</li> <li>6. Topics, outlines and academic writing patterns</li> <li>7. Topics, outlines and academic writing patterns</li> <li>8. Avoiding plagiarism 2 - citations and references</li> <li>9. Topics, outlines and academic writing patterns</li> <li>10. Topics, outlines and academic writing patterns</li> <li>11. Topics for the final paper</li> <li>12. Questionnaires, graphs and tables</li> <li>13. Sharing the final product</li> <li>14. Wrap-up</li> </ol> <p>This syllabus may be modified to better suit student needs.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>All materials will be provided by the instructor. Dictionaries will be discussed on the first day.</p>		<p>Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%.</p>	

09年度以降	Academic Writing (火2)	担当者	E. J. ナオウミ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The purpose of this course is to give students an opportunity to improve their academic writing skills by working towards producing a short paper on the topic of their choice by the end of the end of the semester. There will be a number of short assignments to reinforce the skills necessary in each section of the paper. There will also be an emphasis on raising awareness of common errors in second language writing through a series of short tasks. This course is aimed at students who enjoy writing and who have had some experience in writing in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Review of the basics of academic writing</li> <li>3. From essays to short papers</li> <li>4. Research skills</li> <li>5. Critical summary 1</li> <li>6. Critical summary 2</li> <li>7. Avoiding plagiarism</li> <li>8. References and citations</li> <li>9. Narrowing topics and outlining</li> <li>10. Academic writing patterns and vocabulary</li> <li>11. Introductions and conclusions</li> <li>12. Visuals</li> <li>13. Proofreading, editing and revising</li> <li>14. Sharing the final product</li> </ol> <p>This syllabus may be modified to better meet student needs.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Materials will be provided by the instructor. Dictionaries will be introduced on the first day.</p>		<p>Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%.</p>	

09年度以降	Academic Writing (火2)	担当者	E. J. ナオウミ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The purpose of this course is to give students an opportunity to further refine their academic writing skills by working towards producing a short paper on the topic of their choice by the end of the end of the semester. There will be a number of short assignments to reinforce the skills necessary in each section of the final paper. There will also be an emphasis on raising awareness of common errors in second language writing through a series of short tasks. This course is aimed at students who enjoy writing and who have had some experience in writing in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Review of the basics of academic writing</li> <li>3. The structure of academic papers</li> <li>4. Research skills</li> <li>5. Critical summary 1</li> <li>6. Critical summary 2</li> <li>7. Avoiding plagiarism</li> <li>8. References and citations</li> <li>9. Narrowing topics and outlining</li> <li>10. Academic writing patterns and vocabulary</li> <li>11. Introductions and conclusions</li> <li>12. Visuals</li> <li>13. Proofreading, editing and revising</li> <li>14. Sharing the final product</li> </ol> <p>This syllabus may be modified to better meet student needs.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Materials will be provided by the instructor. Dictionaries will be introduced on the first day.</p>		<p>Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%.</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to refine academic writing skills in order to help build the confidence and knowledge necessary for academic life.</p> <p>Students will review basic structures, analyze writing models, improve library research skills, and practice referencing and quoting from external sources. Learn to collect ideas, organize and synthesize information to produce clear and coherent discourse.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities, working on self-expression and looking for self-improvement. Most importantly, we hope to have fun improving our writing skills.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements &amp; start Chapter # 1</p> <p>Week 2: Chapter # 1</p> <p>Week 3: Chapter # 2</p> <p>Week 4: Chapter # 2</p> <p>Week 5: Chapter # 3</p> <p>Week 6: Chapter # 3</p> <p>Week 7: Chapter # 4</p> <p>Week 8: Chapter # 4</p> <p>Week 9: Chapter # 5</p> <p>Week 10: Chapter # 5</p> <p>Week 11: Chapter # 6</p> <p>Week 12: Chapter # 6</p> <p>Week 13: Article # 7</p> <p>Week 14: Article # 7</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.		Assessment will be based on attendance, class participation and the writing of a number of papers.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to refine academic writing skills in order to help build the confidence and knowledge necessary for academic life.</p> <p>Students will review basic structures, analyze writing models, improve library research skills, and practice referencing and quoting from external sources. Learn to collect ideas, organize and synthesize information to produce clear and coherent discourse.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities, working on self-expression and looking for self-improvement. Most importantly, we hope to have fun improving our writing skills.</p>		<p>Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements &amp; start Chapter # 7</p> <p>Week 2: Chapter # 7</p> <p>Week 3: Chapter # 8</p> <p>Week 4: Chapter # 8</p> <p>Week 5: Chapter # 9</p> <p>Week 6: Chapter # 9</p> <p>Week 7: Chapter # 10</p> <p>Week 8: Chapter # 10</p> <p>Week 9: Chapter # Appendix A</p> <p>Week 10: Chapter # Appendix A</p> <p>Week 11: Chapter # Appendix B</p> <p>Week 12: Chapter # Appendix B</p> <p>Week 13: Chapter # Appendix C</p> <p>Week 14: Chapter # Appendix C</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.		Assessment will be based on attendance, class participation and the writing of a number of papers.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	J. N. ウェンデル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>As the saying goes, "Writing is thinking." –and this is never truer than when it refers to academic writing. Competence in academic writing promotes clarity and precision, and enables you to present your ideas logically and persuasively. It invites you to broaden your perspectives and deepen your understanding of your subject and its underlying issues. Developing your academic writing skills takes time and practice, but it's well worth the effort as these skills can be applied to other forms of communication.</p> <p>The prerequisites for this course are <u>Paragraph Writing</u> and <u>Basic Essay Writing</u>. After a review of academic paragraph structure and the five-paragraph essay, you will undertake a longer piece of writing, a 1000-word essay. You will begin by collecting ideas and background information and developing perspectives on your chosen subject. You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers. Finally, you will write at least two drafts of your extended essay, revising as appropriate. Outside sources will be noted and duly cited. You will not only be writing extended essays, but you will also do writing practices and exercises from the textbook. You will also analyze models of writing–successful essays that illustrate the fine-tuned integration of form and function.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Paragraph structure (Chapt 1)</li> <li>3. Unity and coherence (Chapt 2)</li> <li>4. Supporting Details (Chapt 3)</li> <li>5. From paragraph to essay (Chapt 4)</li> <li>6. The process of academic writing (Appendix A)</li> <li>7. The extended essay–Cause and effect (Chapt 6)</li> <li>8. Gathering ideas and background information</li> <li>9. Developing an outline; thesis statement</li> <li>10. First draft of extended essay due</li> <li>11. Research and documentation of sources (Appendix E)</li> <li>12. Revision</li> <li>13. Revision</li> <li>14. Final draft of extended essay due</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>Writing Academic English (4<sup>th</sup> Edition)</i>. 2006. Alice Oshima &amp; Ann Hogue. Pearson Education.</p>		<p>Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises and written homework, and their essays.</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	J. N. ウェンデル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>As the saying goes, "Writing is thinking." –and this is never truer than when it refers to academic writing. Competence in academic writing promotes clarity and precision, and enables you to present your ideas logically and persuasively. It invites you to broaden your perspectives and deepen your understanding of your subject and its underlying issues. Developing your academic writing skills takes time and practice, but it's well worth the effort as these skills can be applied to other forms of communication.</p> <p>The prerequisites for this course are <u>Paragraph Writing</u> and <u>Basic Essay Writing</u>. After a review of academic paragraph structure and the five-paragraph essay, you will undertake a longer piece of writing, a 1000-word essay. You will begin by collecting ideas and background information and developing perspectives on your chosen subject. You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers. Finally, you will write at least two drafts of your extended essay, revising as appropriate. Outside sources will be noted and duly cited. You will not only be writing extended essays, but you will also do writing practices and exercises from the textbook. You will also analyze models of writing–successful essays that illustrate the fine-tuned integration of form and function.</p> <p>(N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Paragraph structure (Chapt 1)</li> <li>3. Unity and coherence (Chapt 2)</li> <li>4. Supporting Details (Chapt 3)</li> <li>5. From paragraph to essay (Chapt 4)</li> <li>6. The process of academic writing (Appendix A)</li> <li>7. The extended essay–Cause and effect (Chapt 6)</li> <li>8. Gathering ideas and background information</li> <li>9. Developing an outline; thesis statement</li> <li>10. First draft of extended essay due</li> <li>11. Research and documentation of sources (Appendix E)</li> <li>12. Revision</li> <li>13. Revision</li> <li>14. Final draft of extended essay due</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>Writing Academic English (4<sup>th</sup> Edition)</i>. 2006. Alice Oshima &amp; Ann Hogue. Pearson Education.</p>		<p>Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises and written homework, and their essays.</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	J. ウォールドマン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation with explanation of grading system and student requirements.</li> <li>2. In-class diagnostic writing and Chapter 1</li> <li>3. Chapter 2: Review of paragraph basics.</li> <li>4. Organizing paragraphs. Finish chapter 2.</li> <li>5. Chapter 3. Revising and editing.</li> <li>6. Quiz covering the first 3 Chapters of the textbook.</li> <li>7. Chapter 4: The five-paragraph essay.</li> <li>8. The process essay.</li> <li>9. The division and classification essay.</li> <li>10. In-class timed division and classification essay.</li> <li>11. Causes and effects essay.</li> <li>12. Finish chapter 7</li> <li>13. The comparison/contrast essay.</li> <li>14. Final in-class essay.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Title: <i>Ready To Write More</i> Author: Blanchard and Root Publisher: Longman		Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays..	

09年度以降	Academic Writing	担当者	J. ウォールドマン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation with explanation of grading system and student requirements.</li> <li>2. In-class diagnostic writing and Chapter 1</li> <li>3. Chapter 2: Review of paragraph basics.</li> <li>4. Organizing paragraphs. Finish chapter 2.</li> <li>5. Chapter 3. Revising and editing.</li> <li>6. Quiz covering the first 3 Chapters of the textbook.</li> <li>7. Chapter 4: The five-paragraph essay.</li> <li>8. The process essay.</li> <li>9. The division and classification essay.</li> <li>10. In-class timed division and classification essay.</li> <li>11. Causes and effects essay.</li> <li>12. Finish chapter 7</li> <li>13. The comparison/contrast essay.</li> <li>14. Final in-class essay.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Title: <i>Ready To Write More</i> Author: Blanchard and Root Publisher: Longman		Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal of this course is to refine students' ability to write academic essays (e.g. persuasive,informative or analytical) and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse. Students will also learn how to collect and organize information,synthesize this,and quote from sources. Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Brainstorming and topic selection</li> <li>3. Organization</li> <li>4. Collecting and synthesizing information</li> <li>5 Paragraph to short essay</li> <li>6. Descriptive essay</li> <li>7. Narrative essay</li> <li>8. Opinion essay</li> <li>9. Peer evaluation</li> <li>10. writing final draft</li> <li>11. Comparison and contrast essay</li> <li>12. Paraphrasing</li> <li>13. Bibliography</li> <li>14. Final Examination</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
The textbook is to be announced		Evaluation will be based on attendance, assignments, and final examination.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this course, we will strive to provide the students will the fundamentals necessary to construct a well-organized, well-structured, persuasive essay in English. The students will also be taught the basics of how to document their research. The students will be asked to write persuasive essays on topics about which they have strong opinions (complete with additional information gleaned through research). After this course, it is hoped that the students will feel confident in writing short, well-constructed essays in English.</p>		<p>The students will work according to their own speed on a series of essays after consultation with the instructor.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There will be no text for this course. All handouts will be provided by the instructor.		The students will be graded on attendance, participation and the quality of their essays.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	M. フッド
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice.</p> <p>Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis.</p> <p>One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion</p> <p>Week 2: Summarizing</p> <p>Week 3: Summary Workshop</p> <p>Week 4: Responding</p> <p>Week 5: Responding</p> <p>Week 6: Response Workshop</p> <p>Week 7: Textual Analysis</p> <p>Week 8: Textual Analysis</p> <p>Week 9: Textual Analysis Workshop</p> <p>Week 10: Comparison &amp; Contrast</p> <p>Week 11: Comparison &amp; Contrast</p> <p>Week 12: Comparison &amp; Contrast</p> <p>Week 13: Comparison &amp; Contrast Workshop</p> <p>Week 14: Review &amp; Final Workshop</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no text for this class, but students should bring a dictionary each week.		Grades will be based on participation and written assignments.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	M. フッド
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice.</p> <p>Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis.</p> <p>One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion</p> <p>Week 2: Cause &amp; Effect</p> <p>Week 3: Cause &amp; Effect</p> <p>Week 4: Cause &amp; Effect Workshop</p> <p>Week 5: Cause &amp; Effect Workshop</p> <p>Week 6: Research Skills</p> <p>Week 7: Documentation &amp; Plagiarism</p> <p>Week 8: Evaluating Sources</p> <p>Week 9: Problem Solving</p> <p>Week 10: Problem Solving</p> <p>Week 11: Problem Solving</p> <p>Week 12: Problem Solving Workshop</p> <p>Week 13: Problem Solving Workshop</p> <p>Week 14: Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no text for this class, but students should bring a dictionary to class each week.		Grades will be determined based on participation and written assignments.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	P. ドーレ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The purpose of the 1st semester is to revise and improve the basic skills that the students already have. Various topics and exercises will be used during the semester to introduce basic academic writing skills.</p> <p>Students will be involved in peer evaluation and read each others writing and offer constructive feedback.</p> <p>Students thinking about this course should be prepared to share ideas and work together as a group with a common goal - making learning as interesting and as enjoyable as possible by taking their work seriously and meeting the challenge.</p>		<p>Week 1: Course Introduction</p> <p>Weeks 2-14: Below are topics to be covered during the semester.</p> <p>Conjunctions</p> <p>Sentence structure</p> <p>Paragraph structure</p> <p>Idea coherence</p> <p>Supporting the main points of your essay</p> <p>Research and documentation of sources</p> <p>Other topics covered during the semester will be announced in the first class.</p> <p>14. Revision</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced in the first class		Assessment details will be announced in the first class.	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to learn to:</p> <p>a) write grammatically-correct English sentences;</p> <p>b) communicate and explain, verbally and also in written English, about a variety of International topics, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>c) write English paragraphs that effectively explain/discuss a wide range of topics, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>d) (depending on student abilities &amp; desires) research and write compositions about academic (university level) topics; and</p> <p>e) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively in English writing (and in English conversations as well).</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Writing about your part-time job.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to International communication)</i>. English re-writing exercises (changing 'Wasei Eigo' sentences to correct English grammar and sentences.)</p> <p>Week 3: Writing about your <b>plans for Golden Week</b> (including elaborating (explaining) about your plans.</p> <p>Week 4: <b>"How was your Golden Week?"</b>, writing about what you did, during Golden Week. English re-writing exercises. Continuous assessments.</p> <p>Week 5: Writing and explaining about your plans for <b>Mother's Day</b>. Writing about your mother...in <b>English paragraph format</b>.</p> <p>Week 6: <b>Writing to express your opinions</b>, part one: "How do you feel about ____?" &amp; "What do you think of ____?" (Discussion and writing about News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)</p> <p>Week 7: Writing to expressing your opinions, part two. Ongoing assessments. Re-writing exercises.</p> <p>Week 8: Writing (and talking) about your <b>hobbies</b>, with elaboration thereof.</p> <p>Week 9: (Perhaps Student research/writing/discussion about a variety of themes which they choose, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest.) Continuous assessment.</p> <p>Week 10: <b>"What kind of ____ do you like?"</b>. Discussing and writing about <b>music, movies, magazines, TV shows, books, food, etc.</b>, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance.</p> <p>Week 11: International News exercise, and/or video exercise, with writing &amp; discussion about that. Re-writing exercises.</p> <p>Week 12: Writing, discussing, and elaborating about <b>future plans/career goals</b>. Continuous assessments.</p> <p>Week 14: Discussing, writing, and explaining about <b>plans for your Summer Break</b>. Re-writing exercises.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>To stimulate our writing and imagination, we may be using some videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, some songs &amp; song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>You will be assessed often -the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>write/speak/elaborate</b> (explain)/<b>communicate</b> in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on. Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes</b>, for <b>any</b> reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course (One late = 1/2 absence)</b>;</p> <p>c) if you are late/absent, and somehow miss submitting and assignment/homework, please make sure to e-mail that assignment/homework to your teacher, <b>before</b> the deadline.</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to learn to:</p> <p>a) write grammatically-correct English sentences;</p> <p>b) communicate and explain, verbally and also in written English, about a variety of International topics, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>c) write English paragraphs that effectively explain/discuss a wide range of topics, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>d) (depending on student abilities &amp; desires) research and write compositions about academic (university level) topics; and</p> <p>e) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively in English writing (and in English conversations as well).</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Discussing/communicating/writing/elaborating about your <b>Summer Break</b>, using correct modern English. Continuous assessment.</p> <p>Week 2: <b>"What do you usually do ...?"</b>: discussing, communicating, and writing about <b>your usual activities</b>. English re-writing exercises (changing 'Wasei Eigo' sentences to grammatically- &amp; culturally-correct English sentences.)</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Writing about your usual practices on holidays/weekends/weeknights. Perhaps selecting a research topic for writing.</p> <p>Week 4: <b>"What's it like?"</b>: discussing and writing, to <b>describe places, people, and things</b>, in grammatically-correct English. Re-writing exercises.</p> <p>Week 5: <b>Hallowe'en</b>: researching, discussing, and writing about this international 'festival'. Parts of a Hallowe'en video might be shown, to stimulate the imagination. Ongoing assessments.</p> <p>Week 6: <b>"If you went to a Hallowe'en party, what would you dress up as?"</b>: using your imaginative abilities to write about a possible Hallowe'en costume, and what you would do at such a party.</p> <p>Week 7: Choosing a country and <b>Fall/Winter festival</b> about which to write. Re-writing exercises.</p> <p>Week 8: Research, discussion, and writing about <b>Thanksgiving</b>. (A Song-listening exercise may be used, to stimulate discussion &amp; writing). Writing to answer the question, <b>"What are you thankful for?"</b></p> <p>Week 9: Thanksgiving, part two: continuing to write about what you are thankful for. Continuous assessments.</p> <p>Week 10: Editing your composition about a Fall/Winter festival. Re-writing exercises.</p> <p>Week 11: <b>"What are your plans for Christmas?"</b>: discussing and writing about your plans for Christmas. (A Christmas song exercise may be introduced, in order to stimulate thinking/discussion/writing.)</p> <p>Week 12: Christmas writing &amp; discussion, part two. (Parts of a Christmas video may be shown, in order to assist students to imagine Christmas possibilities.) Continuous assessments.</p> <p>Week 13: Finalizing your composition about a Fall/Winter festival. Re-writing exercises.</p> <p>Week 14: Discussion &amp; writing about <b>plans for 'O Sho Gatsu'</b>. Continuous assessment, and final submission of Fall/Winter festival composition.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>To stimulate our writing and imagination, we may be using some videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, some songs &amp; song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>You will be assessed often -the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>write/speak/elaborate</b> (explain)/<b>communicate</b> in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes</b>, for <b>any</b> reason. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course (One late = 1/2 absence)</b>;</p> <p>c) if you are late/absent, and somehow miss submitting and assignment/homework, please make sure to e-mail that assignment/homework to your teacher, <b>before</b> the deadline.</p>	

09年度以降	Academic Writing	担当者	M. ダーリン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of this class is to help students develop the skill of academic writing by learning how to construct an essay. The focus will be on the organization and presentation of ideas, and the clarity and intelligibility of the English itself.</p> <p>The typical class will usually consist of a short lecture, followed by the presentation and analysis of a model writing.</p> <p>The class will be taught entirely in English. Students will be expected to use English to discuss their own writing and model essays which will be analyzed in the class. Ample opportunities will be provided for students to revise their writings and for sharing them in class with their peers.</p> <p>By the end of this course, students will be more competent writers and better understand the process of writing academic essays.</p>		<p>Week1: Course Introduction  Week 2: Analyzing sources  Week 3: Prewriting activities  Week 4: Brainstorming and narrowing the topic  Week 5: Writing a thesis statement  Week 6: Organizing ideas; writing task  Week 7: Writing an essay outline  Week 8: Revising the outline  Week 9: Writing the draft  Week 10: Quoting other sources; writing task  Week 11: Using statistics; writing task  Week 12: Revising and Editing  Week 13: Final draft due  Week 14: Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Photocopies will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on their writing assignments, adherence to deadlines, attendance, and their progress in writing.	

09年度以降	Academic Writing	担当者	M. ダーリン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Points for further consideration:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Students will need an English-English dictionary</li> <li>• Students will be required to have a notebook</li> </ul>		<p>Week1: Course Introduction  Week 2: Analyzing sources  Week 3: Prewriting activities  Week 4: Brainstorming and narrowing the topic  Week 5: Writing a thesis statement  Week 6: Organizing ideas; writing task  Week 7: Writing an essay outline  Week 8: Revising the outline  Week 9: Writing the draft  Week 10: Quoting other sources; writing task  Week 11: Using statistics; writing task  Week 12: Revising and Editing  Week 13: Final draft due  Week 14: Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Photocopies will be provided by the instructor.		Students will be evaluated on their writing assignments, adherence to deadlines, attendance, and their progress in writing.	

09年度以降	翻訳 I (木 3)	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」(4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>2年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・春学期は 1 番から 25 番を扱います。</p> <p>翻訳家、国家試験の通訳案内士(ガイド)志望者は、併せて「通訳案内士の英語(英語で説明する日本史・日本文化・地理)」(日野教授)、「翻訳(主に和文英訳)」(白川講師)「College Grammar」(府川教授)を計画的に受講されることをお勧めします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、翻訳に必要なこと</li> <li>2、試験に立つ文明</li> <li>3、文体と内容</li> <li>4、技師の親指</li> <li>5、過激の効用</li> <li>6、精確さへの偏愛</li> <li>7、己の道を歩むということ</li> <li>8、詩人の仕事</li> <li>9、家庭から文化が伝わる</li> <li>10、若者が学ぶべき教訓</li> <li>11、外国との付き合い方</li> <li>12、歴史の皮肉</li> <li>13、自分の好みを知ること</li> <li>14、孤独の楽しみ</li> </ol> <p>*各回とも、上記ほか 1 編を扱う</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは講師の手作り。初回に渡します。 参考文献はありません。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。</p>	

09年度以降	翻訳 I (木 3)	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」(4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>2年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・秋・学期は 26 番から 50 番を扱います。</p> <p>翻訳家、国家試験の通訳案内士(ガイド)志望者は、併せて「通訳案内士の英語(英語で説明する日本史・日本文化・地理)」(日野教授)、「翻訳(主に和文英訳)」(白川講師)「College Grammar」(府川教授)を計画的に受講されることをお勧めします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、誤訳と悪訳</li> <li>2、人間のこころ</li> <li>3、ヨーロッパ文明</li> <li>4、独裁制の原因</li> <li>5、親になる喜び</li> <li>6、隣人論</li> <li>7、民主国家の政治</li> <li>8、イギリス社会</li> <li>9、努力の意味</li> <li>10、赤ずきん</li> <li>11、人を判断する難しさ</li> <li>12、書くことと話すこと</li> <li>13、日本人論</li> <li>14、大都市交通</li> </ol> <p>*各回とも上記ほか 1 編を扱う</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教材は講師の手作り。初回に渡します。 参考文献はありません。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。</p>	

09年度以降	翻訳Ⅰ（木4）	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれませんが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。</p> <p>秋学期同時限(木4)の、出版翻訳の実践クラスにつながります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、英語の規則 「日英語の誤差」</li> <li>2、児童文学「幸福の王子」Ⅰ</li> <li>3、児童文学「幸福の王子」Ⅱ</li> <li>4、詩「メリーちゃんのひつじ」</li> <li>5、詩「虹のうた」</li> <li>6、ミュージカルⅠ「オクラホマ」</li> <li>7、ミュージカルⅡ「レベッカ」</li> <li>8、ロマンス小説「サラの冒険」Ⅰ</li> <li>9、ロマンス小説「サラの冒険」Ⅱ</li> <li>10、伝記「ブレヒト」</li> <li>11、映画Ⅰ字幕「ロミオとジュリエット」</li> <li>12、映画Ⅱ吹き替え「ロミオとジュリエット」</li> <li>13、小説「武器よさらば」</li> <li>14、評論「サミング・アップ」</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは講師の手作り。初回時に渡します。参考文献はありません。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、を見ます。</p>	

09年度以降	翻訳Ⅰ（木4）	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座では、さまざまな分野の書籍の冒頭部分(600ワード程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。全25題のうち今・秋学期は14から25題目を扱います。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。</p> <p>抽選に落ちても、単位にならなくても、他学部・他大学の学生でも、大学院生でも、もぐりの社会人でも、大学教員でも、意欲のある人は受講歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、古代の芸術</li> <li>2、二都物語</li> <li>3、アニマル・ヒーリング</li> <li>4、バーブラ・ストライサンド</li> <li>5、欲望の科学</li> <li>6、重力の話</li> <li>7、出版ビジネス</li> <li>8、ロング・ブーム</li> <li>9、ジャック・ニコラウス自伝</li> <li>10、インカ帝国</li> <li>11、ルイス・キャロル</li> <li>12、サバイバー</li> <li>13、スターバックス成功物語</li> <li>14、翻訳の秘訣</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは講師の手作り。初回時に渡します。参考文献はありません。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、を見ます。</p>	

09年度以降	翻訳 I	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を明らかにし、翻訳の限界と可能性について実践的に探ります。</p> <p>翻訳では、原文を的確な英語あるいは日本語に置き換える際に、目的や状況などを考慮する必要があります。また、翻訳語の字数やリズムについても工夫が求められる場合もあります。</p> <p>授業では、主として文系英文および和文（新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品）などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。</p> <p>コトバの意味と音に関心のある学生を求めます。</p>		<p>第1回 ガイダンス 辞書について</p> <p>第2回 翻訳の難しさと面白さについて</p> <p>第3回 機械翻訳の可能性について</p> <p>第4回 翻訳の実例比較検討</p> <p>第5回 復習テスト</p> <p>第6～13回 学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換</p> <p>第14回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定する。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない	

09年度以降	翻訳 I	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。</p> <p>授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。</p> <p>なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。</p> <p>また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。</p>		<p>第1回前期テストの講評および後期授業のガイダンス</p> <p>第2回日英および英日翻訳の実例検討 その1</p> <p>第3回日英および英日翻訳の実例検討 その2</p> <p>第4～6回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第7回復習テスト</p> <p>第8～13回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第14回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定する。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。	

09年度以降	翻訳 I	担当者	藤田 永祐
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>文学作品や各種のエッセイや時事英語などを英文から日本文に翻訳します。日本語の特徴をよく生かした自然な日本文にする訓練、研究をします。授業は下準備を面倒がらずに必ずしておくことが不可欠です。そして自分の意見や質問や解釈があれば、それを発表してもらえれば授業が活性化します。</p> <p>英文を正確に読解する能力、読解した内容を適切に日本語に移し替える能力、その日本語もできるだけわかりやすい、読みやすい文章が望ましいのです。良い翻訳はしたがって普段から日本語の語彙を広げることや文体に関心興味を持っているような人でないとなかなか身に付きません。</p> <p>翻訳の基礎は英語の読解力の基本がしっかりしていることです。翻訳は購読とははっきり違います。その自覚を持たずに漫然と授業を受ける学生が少なくないようですが、それではあまり身につけません。</p> <p>教材には基礎的な能力養成に欠かせない語彙、文章構造を含んでいて、親しみやすいものを選んで使ってゆきます。</p> <p>平常点を重視しますから遅刻が多いようでは熱意のほどが疑われます。</p>		<p>最初の授業時に翻訳の心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。		平常点、提出物、出席を総合評価する。	

09年度以降	翻訳 I	担当者	藤田 永祐
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>文学作品や各種のエッセイや時事英語などを英文から日本文に翻訳します。日本語の特徴をよく生かした自然な日本文にする訓練、研究をします。授業は下準備を面倒がらずに必ずしておくことが不可欠です。そして自分の意見や質問や解釈があれば、それを発表してもらえれば授業が活性化します。</p> <p>英文を正確に読解する能力、読解した内容を適切に日本語に移し替える能力、その日本語もできるだけわかりやすい、読みやすい文章が望ましいのです。良い翻訳はしたがって普段から日本語の語彙を広げることや文体に関心興味を持っているような人でないとなかなか身に付きません。</p> <p>翻訳の基礎は英語の読解力の基本がしっかりしていることです。翻訳は購読とははっきり違います。その自覚を持たずに漫然と授業を受ける学生が少なくないようですが、それではあまり身につけません。</p> <p>教材には基礎的な能力養成に欠かせない語彙、文章構造を含んでいて、親しみやすいものを選んで使ってゆきます。</p> <p>平常点を重視しますから遅刻が多いようでは熱意のほどが疑われます。</p>		<p>最初の授業時に翻訳の心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。		平常点、提出物、出席を総合評価する。	

09年度以降	翻訳 I	担当者	前沢 浩子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「英文和訳」と「翻訳」の違いを理解し、「翻訳」の実践的な練習をする。多少ごちない日本語でも誤読していないことがわかればとりあえず合格の「英文和訳」と、「翻訳」はまったく別物だ。この授業では英文を正確に解釈した上で、日本語でその意味を再構築し読者に伝えるための「翻訳」をする訓練を行う。また時事的な話題に関する英語と日本語それぞれの語彙や表現の意味を正しく理解し身につけることも、この授業の目標である。</p> <p>新聞、雑誌あるいは放送局のウェブページなどから選んだ英文記事を日本語に訳す。社会、政治、文化など、できるだけ広範囲の話題から、世界でたった今起きている出来事についての記事を、毎回、ある程度の長さ、日本語に翻訳してあらかじめメールで提出してもらおう。その学生たちの翻訳を添削したうえ、授業中にはそれぞれの翻訳の問題点や日本人がおかしがちな誤読、日本語にしにくい表現、表記のルールなどについて講義する。</p>		<p>第1回：概論「英文和訳」と「翻訳」</p> <p>第2回：BBCの記事の翻訳(1)イギリス英語について</p> <p>第3回：BBCの記事の翻訳(2)ヨーロッパのニュース</p> <p>第4回：BBCの記事の翻訳(3)アジア・アフリカのニュース</p> <p>第5回：The Guardianの記事の翻訳(1)イギリスの新聞</p> <p>第6回：The Guardianの記事の翻訳(2)イギリスの政治</p> <p>第7回：The Guardianの記事の翻訳(3)イギリスの文化</p> <p>第8回：The New York Timesの記事の翻訳(1)アメリカの新聞</p> <p>第9回：The New York Timesの記事の翻訳(2)アメリカの政治</p> <p>第10回：The New York Timesの記事の翻訳(3)アメリカの文化</p> <p>第11回：TIMEの記事の翻訳(1)署名記事と無署名記事</p> <p>第12回：TIMEの記事の翻訳(2)科学的な話題</p> <p>第13回：TIMEの記事の翻訳(3)書評・映画評の翻訳</p> <p>第14回：まとめ「英文和訳」と「翻訳」(再考)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教材は授業中に配布する。参考文献は適宜紹介する。		The New York Timesの記事の翻訳(2)、アメリカの政治	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	翻訳 I	担当者	山中 章子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。</p> <p>春学期は Aimee Bender 著 <i>The Girl in the Flammable Skirt</i> をテキストとして使用します。この短編集には、日常を描いていながらどこか異次元を感じさせる作品が収められています。平易な言葉ですが翻訳しがいのある作品です。翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。</p> <p>授業では毎回全員から、前もって課題文 (1~2 ページ) を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出していきましょう。</p> <p>辞書は必ず持参。忘れたら欠席とします。</p>		<p>1. イントロダクション 2-14. 演習</p> <p>進度は遅いかもかもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリントを配布。 Aimee Bender 著 <i>The Girl in the Flammable Skirt</i>. New York: Anchor Books, 1999.</p>		授業内の提出課題、参加度、レポートの総合評価。	

09年度以降	翻訳 I	担当者	山中 章子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期と同様のスタイルで、授業を進めます。テキストも同じものを使用する予定ですが、場合によっては他の作家の文章を訳し、言葉・語り手の口調等の違いを体験してみることもあるでしょう。</p>		<p>1. イントロダクション 2-14. 演習</p> <p>進度は遅いかもかもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリントを配布。 Aimee Bender 著 <i>The Girl in the Flammable Skirt</i>. New York: Anchor Books, 1999.</p>		授業内の提出課題、参加度、レポートの総合評価。	

09年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	P. ネルム
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on English to Japanese translations. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will include newspaper and magazine articles, along with movies (subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will be expected to compare and discuss their translations with each other. Midterm and final examinations will be given to test students' knowledge.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		1 Introduction, Student Selection 2 Class 3 Class 4 Class 5 Class 6 Class 7 Midterm Quiz/Paper 8 Class 9 Class 10 Class 11 Class 12 Class 13 Class 14 Final Examination/Presentation	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Midterm examination 25%, Final examination 25%	

09年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	P. ネルム
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on Japanese to English translations. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include novels/essays by famous Japanese authors, along with animated movies (subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will be expected to compare and discuss their translations with each other. Midterm and final examinations will be given to test students' knowledge.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		1 Introduction 2 Class 3 Class 4 Class 5 Class 6 Class 7 Midterm Quiz/Paper 8 Class 9 Class 10 Class 11 Class 12 Class 13 Class 14 Final Presentation/Examination	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Midterm examination 25%, Final examination 25%	

09年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>翻訳は、言葉の置き換え作業ではありません。原文を正しく読み取り、いったんその意味を咀嚼してから、適切な表現を探さなくてはなりません。外国語を使いこなす能力は、最終的には母語（第一言語）の理解力・表現力に比例します。このクラスでは、演習や代表的な翻訳作品の解析を通じて翻訳と英文和訳とはどう違うのかを学び、実践の場で役に立つ「翻訳力」の基礎的なスキルを身につけます。</p>		<p>各週に予定している内容は、受講生の要望や理解度に応じ、もう少し詳しく取り上げたり、必要なテーマに差し替えたりすることもあります。和英・英和辞典は毎回持参してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要・翻訳とは</li> <li>2 文化の違いと意味のずれ</li> <li>3 意味を伝えるとは</li> <li>4 日本語の発想と英語の発想 (1)</li> <li>5 日本語の発想と英語の発想 (2)</li> <li>6 演習</li> <li>7 演習</li> <li>8 演習</li> <li>9 演習</li> <li>10 演習</li> <li>11 演習</li> <li>12 演習</li> <li>13 いろいろな翻訳</li> <li>14 まとめ・翻訳の要諦</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 適宜プリントを配布する。 参考書： 授業中に適宜紹介する。</p>		<p>課題・レポートの取り組み方、授業への能動性および出席日数を総合的に評価する。</p>	

09年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>前期に続き、演習や代表的な翻訳作品の解析を通じて翻訳と英文和訳とはどう違うのかを学び、将来実践の場で役に立つ「翻訳力」の基礎的なスキルを身につけます。</p>		<p>後期は、短文演習も交えながら、代表的な翻訳作品の購読を主体にします。 取り上げる教材、進め方については、受講生の要望と理解度に応じて決定します。和英・英和辞典は毎回持参してください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 適宜プリントを配布する。 参考書： 授業中に適宜紹介する。</p>		<p>課題・レポートの取り組み方、授業への能動性および出席日数を総合的に評価する。</p>	

09年度以降	College Grammar (月3)	担当者	靱江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、同時に更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ（授業計画2～6参照）。次に、文の各要素について学ぶ（授業計画7～14参照）。この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。</p> <p>なお、秋学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修することを可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 文</li> <li>3. 主部・文型</li> <li>4. 述語動詞Ⅰ</li> <li>5. 述語動詞Ⅱ</li> <li>6. 文の種類・8品詞</li> <li>7. 名詞</li> <li>8. 代名詞</li> <li>9. 形容詞</li> <li>10. 冠詞</li> <li>11. 副詞・動詞</li> <li>12. 助動詞</li> <li>13. 接続詞</li> <li>14. 前置詞</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：安井稔 (1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：安井稔 (1996) 『英文法総覧 (改訂版)』開拓社</p>		出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の2/3以上の出席が必要である。	

09年度以降	College Grammar (月3)	担当者	靱江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、同時に更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 秋学期は、時制と構文について学習する。まず、時制について学ぶ（授業計画2～3参照）。次に、各構文について学ぶ（授業計画4～14参照）。この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。</p> <p>なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修することを可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 時制</li> <li>3. 呼応と時制の一致</li> <li>4. 不定詞</li> <li>5. 分詞</li> <li>6. 動名詞</li> <li>7. 関係代名詞</li> <li>8. 関係副詞</li> <li>9. 態</li> <li>10. 仮定法</li> <li>11. 話法</li> <li>12. 比較</li> <li>13. 否定 (1)</li> <li>14. 否定 (2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：安井稔 (1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：安井稔 (1996) 『英文法総覧 (改訂版)』開拓社</p>		出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の2/3以上の出席が必要である。	

09年度以降	College Grammar (月4)	担当者	靱江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、同時に更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ(授業計画2～6参照)。次に、文の各要素について学ぶ(授業計画7～14参照)。この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修することを可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 文</li> <li>3. 主部・文型</li> <li>4. 述語動詞Ⅰ</li> <li>5. 述語動詞Ⅱ</li> <li>6. 文の種類・8品詞</li> <li>7. 名詞</li> <li>8. 代名詞</li> <li>9. 形容詞</li> <li>10. 冠詞</li> <li>11. 副詞・動詞</li> <li>12. 助動詞</li> <li>13. 接続詞</li> <li>14. 前置詞</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：安井稔 (1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：安井稔 (1996) 『英文法総覧(改訂版)』開拓社</p>		出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の2/3以上の出席が必要である。	

09年度以降	College Grammar (月4)	担当者	靱江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、同時に更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 秋学期は、時制と構文について学習する。まず、時制について学ぶ(授業計画2～3参照)。次に、各構文について学ぶ(授業計画4～14参照)。この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修することを可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 時制</li> <li>3. 呼応と時制の一致</li> <li>4. 不定詞</li> <li>5. 分詞</li> <li>6. 動名詞</li> <li>7. 関係代名詞</li> <li>8. 関係副詞</li> <li>9. 態</li> <li>10. 仮定法</li> <li>11. 話法</li> <li>12. 比較</li> <li>13. 否定(1)</li> <li>14. 否定(2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：安井稔 (1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> 開拓社 参考文献：安井稔 (1996) 『英文法総覧(改訂版)』開拓社</p>		出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の2/3以上の出席が必要である。	

09年度以降	College Grammar	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということが気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文（1） 4・移動が関与する構文（2） 5・移動が関与する構文（3） 6・補部と付加部の区別（1） 7・補部と付加部の区別（2） 8・補部と付加部の区別（3） 9・条件の副詞節（1） 10・条件の副詞節（2） 11・Be 動詞の機能（1） 12・Be 動詞の機能（2） 13・Be 動詞の機能（3） 14・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>出席&amp;授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	College Grammar	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということが気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性（1） 4・解釈の曖昧性（2） 5・解釈の曖昧性（3） 6・SVOC 構文の下位区分（1） 7・SVOC 構文の下位区分（2） 8・SVOC 構文の下位区分（3） 9・一般動詞の意味特性（1） 10・一般動詞の意味特性（2） 11・一般動詞の意味特性（3） 12・情報構造（1） 13・情報構造（2） 14・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>出席&amp;授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の1/3以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	College Grammar	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、英文法に対する理解を深めること及び英文法に対する理解の深め方を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目標としたい。また、英語と日本語の比較を通して、多くのものにとつての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>授業では、下記のテキストの第1章「動詞句の分類と意味」から第2章「あいまい性と意味」の前半部分の内容を講義する予定である。</p>		<p>第1回(4月9日)オリエンテーション(出席は必須)  第2回(4月16日)動詞句の分類と意味1  第3回(4月23日)動詞句の分類と意味2  第4回(4月30日)動詞句の分類と意味3  第5回(5月7日)動詞句の分類と意味4  第6回(5月14日)動詞句の分類と意味5  第7回(5月21日)動詞句の分類と意味6  第8回(5月28日)あいまい性と意味1  第9回(6月4日)あいまい性と意味2  第10回(6月11日)あいまい性と意味3  第11回(6月18日)あいまい性と意味4  第12回(6月25日)あいまい性と意味5  第13回(7月2日)あいまい性と意味6  第14回(7月9日)春学期の復習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
吉川洋・友繁義典(2008) 『入門講座 英語の意味とニュアンス』 東京:大修館書店		評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である(ただし、出席そのものが加点の対象となることはない)。	

09年度以降	College Grammar	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の目的は、英文法に対する理解を深めること及び英文法に対する理解の深め方を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目標としたい。また、英語と日本語の比較を通して、多くのものにとつての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>授業では、下記のテキストの第2章「あいまい性と意味」の後半部分から第3章「類似表現と意味」の内容を講義する予定である。</p>		<p>第1回(9月24日)オリエンテーション(出席は必須)  第2回(10月1日)あいまい性と意味1  第3回(10月8日)あいまい性と意味2  第4回(10月15日)あいまい性と意味3  第5回(10月22日)あいまい性と意味4  第6回(11月5日)あいまい性と意味5  第7回(11月12日)あいまい性と意味6  第8回(11月19日)類似表現と意味1  第9回(11月26日)類似表現と意味2  第10回(12月3日)類似表現と意味3  第11回(12月10日)類似表現と意味4  第12回(12月17日)類似表現と意味5  第13回(12月24日)類似表現と意味6  第14回(1月7日)秋学期の復習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
吉川洋・友繁義典(2008) 『入門講座 英語の意味とニュアンス』 東京:大修館書店		評価は定期試験期間中の試験による。なお、単位認定にあたっては、授業回数の3分の2以上の出席が必要である(ただし、出席そのものが加点の対象となることはない)。	

09年度以降	College Grammar (金2)	担当者	坂本 洋子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b> 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする。また、英語の規則性を探求することを目的とする。</p> <p><b>講義概要：</b> 英文法を学習する際に、トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である。文全体から句、句から語というような方式をとりながら、春学期ではまず、英文法の基本的な事項のうち、文というものはどのようなものであるかを考える。文は基本的な文、拡張的な文、派生的な文の三種類に分けられる。まず、基本的な文は5文型によって説明することが可能である。拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語+述語)を含む文であり、重文や複文として学習する。さらに、派生的な文の種類として、疑問文、感嘆文、命令文などを学習する。文の枠組みを捉えた上で、その構成要素である名詞、形容詞、冠詞、副詞などを扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文：主部を欠く文、「主部 + 述部」、節・句・語</li> <li>2. 主部：主部の要素と述部の要素</li> <li>3. 文型：5文型、5文型の拡張、7文型</li> <li>4. 述語動詞：述部、述語動詞の種類、等位叙述型、補語</li> <li>5. 述語動詞：自動詞型、他動詞型、他動詞型の述部</li> <li>6. 文の種類：中心文型の文、文の種類、重文と複文</li> <li>7. 文の種類：疑問文、感嘆文、命令文、否定文</li> <li>8. 名詞、名詞の種類、可算名詞の単数・複数形、不可算名詞、集合名詞、名詞の複数形、名詞の所有格</li> <li>9. 代名詞、代名詞の種類、人称代名詞、再帰代名詞</li> <li>10. 指示代名詞、疑問代名詞、不定代名詞</li> <li>11. 形容詞、形容詞の用法、形容詞の語順、数詞</li> <li>12. 冠詞、不定冠詞、定冠詞、無冠詞の用法</li> <li>13. 副詞、副詞の種類、副詞の用法、副詞の位置</li> <li>14. 助動詞、助動詞の用法</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書：安井稔 (1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		<p>出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

09年度以降	College Grammar (金2)	担当者	坂本 洋子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>(春学期と同じ) 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする。また、英語の規則性を探求することを目的とする。</p> <p><b>講義概要：</b>(春学期の続き) 秋学期ではまず、不定詞・分詞・動名詞を学習する。さらに、不定詞と動詞のing分詞(いわゆる現在分詞)には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する。</p> <p>次に、関係代名詞、関係副詞を扱い、制限的用法と非制限的用法について学習する。また、英語において重要な時制を扱い、英語において時の概念がどのように理解されているかを学習する。さらに、英語の文の構成に重要な役割を果たしている比較表現、否定表現、強調表現、仮定法の用法を学習する。</p> <p>秋学期の後半では、複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する。最後に、強調・省略・挿入といった言語表現の情報構造に関わる構文を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不定詞</li> <li>2. 分詞、動名詞</li> <li>3. 関係代名詞、関係副詞</li> <li>4. 時制：現在時制の用法、過去時制の用法</li> <li>5. 現在完了の用法、過去完了の用法</li> <li>6. 進行形の用法</li> <li>7. 能動態と受動態</li> <li>8. 呼応と時制の一致</li> <li>9. 仮定法、直説法と仮定法、to不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現</li> <li>10. 話法、直接話法と間接話法</li> <li>11. 比較、原級の用法、比較級の用法、最上級の用法</li> <li>12. 否定、部分否定と全体否定、否定語の位置、二重の否定</li> <li>13. 文の主語と情報構造</li> <li>14. 強調、省略・挿入</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書：安井稔 (1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		<p>出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

09年度以降	College Grammar (金4)	担当者	坂本 洋子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b> 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする。また、英語の規則性を探求することを目的とする。</p> <p><b>講義概要：</b> 英文法を学習する際に、トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である。文全体から句、句から語というような方式をとりながら、春学期ではまず、英文法の基本的な事項のうち、文というものはどのようなものであるかを考える。文は基本的な文、拡張的な文、派生的な文の三種類に分けられる。まず、基本的な文は5文型によって説明することが可能である。拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語+述語)を含む文であり、重文や複文として学習する。さらに、派生的な文の種類として、疑問文、感嘆文、命令文などを学習する。文の枠組みを捉えた上で、その構成要素である名詞、形容詞、冠詞、副詞などを扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文：主部を欠く文、「主部 + 述部」、節・句・語</li> <li>2. 主部：主部の要素と述部の要素</li> <li>3. 文型：5文型、5文型の拡張、7文型</li> <li>4. 述語動詞：述部、述語動詞の種類、等位叙述型、補語</li> <li>5. 述語動詞：自動詞型、他動詞型、他動詞型の述部</li> <li>6. 文の種類：中心文型の文、文の種類、重文と複文</li> <li>7. 文の種類：疑問文、感嘆文、命令文、否定文</li> <li>8. 名詞、名詞の種類、可算名詞の単数・複数形、不可算名詞、集合名詞、名詞の複数形、名詞の所有格</li> <li>9. 代名詞、代名詞の種類、人称代名詞、再帰代名詞</li> <li>10. 指示代名詞、疑問代名詞、不定代名詞</li> <li>11. 形容詞、形容詞の用法、形容詞の語順、数詞</li> <li>12. 冠詞、不定冠詞、定冠詞、無冠詞の用法</li> <li>13. 副詞、副詞の種類、副詞の用法、副詞の位置</li> <li>14. 助動詞、助動詞の用法</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書：安井稔 (1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		<p>出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

09年度以降	College Grammar (金4)	担当者	坂本 洋子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>(春学期と同じ) 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする。また、英語の規則性を探求することを目的とする。</p> <p><b>講義概要：</b>(春学期の続き) 秋学期ではまず、不定詞・分詞・動名詞を学習する。さらに、不定詞と動詞のing分詞(いわゆる現在分詞)には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する。</p> <p>次に、関係代名詞、関係副詞を扱い、制限的用法と非制限的用法について学習する。また、英語において重要な時制を扱い、英語において時の概念がどのように理解されているかを学習する。さらに、英語の文の構成に重要な役割を果たしている比較表現、否定表現、強調表現、仮定法の用法を学習する。</p> <p>秋学期の後半では、複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する。最後に、強調・省略・挿入といった言語表現の情報構造に関わる構文を学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不定詞</li> <li>2. 分詞、動名詞</li> <li>3. 関係代名詞、関係副詞</li> <li>4. 時制：現在時制の用法、過去時制の用法</li> <li>5. 現在完了の用法、過去完了の用法</li> <li>6. 進行形の用法</li> <li>7. 能動態と受動態</li> <li>8. 呼応と時制の一致</li> <li>9. 仮定法、直説法と仮定法、to不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現</li> <li>10. 話法、直接話法と間接話法</li> <li>11. 比較、原級の用法、比較級の用法、最上級の用法</li> <li>12. 否定、部分否定と全体否定、否定語の位置、二重の否定</li> <li>13. 文の主語と情報構造</li> <li>14. 強調、省略・挿入</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書：安井稔 (1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)</p>		<p>出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

09年度以降	College Grammar	担当者	鈴木 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>            英文法は、英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである。文は語から構成され、複数の語が句を構成し、句が結合されて文となる。英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている。英語ができるようになるために、この授業では英文法を身に付けることを目的とする。さらに、英文法の実践的応用としてTOEICの文法問題を練習し、その解説を行う。</p> <p><b>講義概要：</b>            英文法を学習する際に、トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である。文全体から句、句から語というような方式をとりながら、春学期ではまず、英文法の基本的な事項のうち、文というものとはどのようなものがあるかを考える。文は基本的な文、拡張的な文、派生的な文の三種類に分けられ、基本的な文は5文型によって説明し、拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語+述語)を含む文であり、重文や複文として学習する。さらに、文の種類として、疑問文、感嘆文、命令文、受動文、時制などを学習する。            毎回の授業のために相当な分量の教科書の予習とTOEICの宿題をすることが必要です。<u>予習と宿題を行える学生諸君の受講を強く期待します。</u> 初回のテキストは配布します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文法の全体的構成： 文型・文法</li> <li>2. 文：主部を欠く文、「主部 + 述部」、節・句・語</li> <li>3. 主部：主部の要素と述部の要素</li> <li>4. 文型 (1)：5文型</li> <li>5. 文型 (2)：5文型の拡張、7文型</li> <li>6. 述語動詞 (1)：述部、述語動詞の種類、等位叙述型、補語</li> <li>7. 述語動詞 (2)：自動詞型、自動詞・他動詞両用の動詞</li> <li>8. 述語動詞 (3)：他動詞型、他動詞型の述部</li> <li>9. 文の種類 (1)：文の種類、重文と複文</li> <li>10. 文の種類 (2)：疑問文、感嘆文</li> <li>11. 文の種類 (3)：命令文、否定文</li> <li>12. 時制 (1)：現在時制、過去時制</li> <li>13. 時制 (2)：現在完了形、過去完了形、進行形</li> <li>14. 態：能動態と受動態の区別、受動態の用法</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト： 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書： 安井稔 (1996) 『英文法総覧 (改訂版)』(開拓社)		出席状況、予習と宿題の状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価します。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされます。	

09年度以降	College Grammar	担当者	鈴木 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>(春学期と同じ)            英文法は、英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである。文は語から構成され、複数の語が句を構成し、句が結合されて文となる。英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている。英語ができるようになるために、この授業では英文法を身に付けることを目的とする。さらに、英文法の実践的応用としてTOEICの文法問題を練習し、その解説を行う。</p> <p><b>講義概要：</b>            秋学期は、文構成に関わる、呼応や時制の一致、語法、否定、強調、省略、挿入などを含む文を扱う。さらに、時制を含まない節として、不定詞・分詞・動名詞を取り上げ、不定詞と動詞のing形には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があるとことを学習する。さらに、埋め込み文の一つとして関係詞節を学習する。最後に、文を構成する要素として、名詞・代名詞・形容詞・冠詞を学習する。            春・秋学期の継続履修が認められており、お勧めします。毎回の授業のために相当な分量の教科書の予習とTOEICの宿題をすることが必要です。<u>予習と宿題を行える学生諸君の受講を強く期待します。</u> 初回のテキストは配布します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼応と時制の一致：時制の一致、時制の一致の例外</li> <li>2. 語法 (1)：直接語法と間接語法</li> <li>3. 語法 (2)：疑問文と命令文の間接語法</li> <li>4. 比較 (1)：原級・比較級</li> <li>5. 比較 (2)：最上級</li> <li>6. 否定：部分否定と全体否定、否定語の位置、二重の否定</li> <li>7. 非定形節 (1)：不定詞</li> <li>8. 非定形節 (2)：分詞、動名詞</li> <li>9. 関係詞節 (1)：関係代名詞節</li> <li>10. 関係詞節 (2)：関係副詞節</li> <li>11. 名詞：名詞の種類、名詞の形、名詞の特徴</li> <li>12. 代名詞：代名詞の種類、代名詞の用法</li> <li>13. 形容詞：形容詞の用法、形容詞の語順、数詞</li> <li>14. 冠詞：不定冠詞、定冠詞、無冠詞の用法</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト： 安井稔(1986) <i>A Shorter Guide to English Grammar</i> (開拓社) 参考書： 安井稔 (1996) 『英文法総覧 (改訂版)』(開拓社)		出席状況、予習と宿題の状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価します。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされます。	

09年度以降	College Grammar	担当者	府川 謹也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、きっちりとした語法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言っても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語という言語の規則性を探っていく習慣を身につけていく方法が、結局は効率の良い学習方法である、ということがわかるようになります。この授業では、テキストを基にした講義と、無料のオンライン学習で通訳案内士英語試験などの実用試験対策問題を解くことを通じて、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでももらいたいと思っています。</p> <p>【秋学期はテキストが変わります】</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本文型—新しい視点から眺めて</li> <li>2. 文の構造—文の多様性を探る (1)</li> <li>3. 文の構造—文の多様性を探る (2)</li> <li>4. 動詞一文の中心語句を解明 (1)</li> <li>5. 動詞一文の中心語句を解明 (2)</li> <li>6. 否定—否定の正しい意味解釈のために (1)</li> <li>7. 否定—否定の正しい意味解釈のために (2)</li> <li>8. 助動詞一文のニュアンスを表現する</li> <li>9. 受動文—なぜ受動文は存在するのか</li> <li>10. 準動詞—不定詞</li> <li>11. 準動詞—動名詞・分詞</li> <li>12. 名詞句と文構造の多様性</li> <li>13. 代用表現</li> <li>14. 関係詞</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
伊藤健三・他『大学生のための現代英文法』開拓社		定期試験と課題および授業における参加度によります。	

09年度以降	College Grammar	担当者	府川 謹也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【春学期とはテキストが異なります】</p> <p>この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、きっちりとした語法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言っても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語という言語の規則性を探っていく習慣を身につけていく方法が、結局は効率の良い学習方法である、ということがわかるようになります。この授業では、テキストを基にした講義とで通訳案内士英語試験のなどの実用試験対策問題を解くことを通じて、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでももらいたいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文 (発話行為・疑問文・命令文・感嘆文)</li> <li>2. 続き</li> <li>3. 文の要素 (意味役割)</li> <li>4. 文の構造 (動詞型)</li> <li>5. 文の構造 (形容詞型・名詞型)</li> <li>6. 文の構造 (主節・従節)</li> <li>7. 時制と相 (現在・過去・未来)</li> <li>8. 時制と相 (完了相・進行相)</li> <li>9. 時制と相 (話法)</li> <li>10. 法助動詞</li> <li>11. 否定</li> <li>12. 態</li> <li>13. 情報構造と主題構造</li> <li>14. 前提と断定</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
村田勇三郎・他『英語の文法』大修館書店		定期試験と課題とおよび授業における参加度によります。	

09 年度以降	College Grammar	担当者	藤田 永祐
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちが母国語で表現したものを字義通り英語に直そうとすると英文にならないのは、誰しも経験することでしょう(英文を使っていて犯す間違いの実に 90 パーセント以上が日本語に引きずられることと関連していると思われます)。ドイツ人やフランス人などが英語を学習するのと、たとえばトルコ人やモンゴル人、日本人が英語を学習するのとは、方法はまるで異ならねばならないと思います(言語体系がまるで違うのですから)。日本人学習者には文法の実践的知識は不可欠なのです。文法をいくら詳細に覚えても英語を使えませんが、ヒアリングをどれだけ訓練してもそれだけではやはりだめではないですか。両方面が必要なのです。日本語と英語の発想は大きく違いますから(しかも単語・語句・文章それぞれのレベルで違いますから)それらを比較検討する習慣を身につけるのは、英語を話し・書く能力を習得するのに不可欠な訓練と思います。昔の学習法は、英語を一方的に日本語にひきつけるやり方ですが、これは日本語に囲まれて暮らす私たちには自然な方法とも思えます。今度は、英語にひきつけて日本語を捉える努力をしていくと、両方の言語について気づかなかったことが分明し、運用能力向上に大変役立ちます。</p> <p>ときにテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組む予定です。</p>		<p>テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。また、テキストは中身を消化吸収するのが肝心ですから、その進行状況を最初から機械的に振り当てるわけにもいきません。テキストは易しい章は手短に、難しいが大切な章は時間をかけて進めてゆきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト 慎重に検討中		平素の小テストと平常点。	

09 年度以降	College Grammar	担当者	藤田 永祐
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちが母国語で表現したものを字義通り英語に直そうとすると英文にならないのは、誰しも経験することでしょう(英文を使っていて犯す間違いの実に 90 パーセント以上が日本語に引きずられることと関連していると思われます)。ドイツ人やフランス人などが英語を学習するのと、たとえばトルコ人やモンゴル人、日本人が英語を学習するのとは、方法はまるで異ならねばならないと思います(言語体系がまるで違うのですから)。日本人学習者には文法の実践的知識は不可欠なのです。文法をいくら詳細に覚えても英語を使えませんが、ヒアリングをどれだけ訓練してもそれだけではやはりだめではないですか。両方面が必要なのです。日本語と英語の発想は大きく違いますから(しかも単語・語句・文章それぞれのレベルで違いますから)それらを比較検討する習慣を身につけるのは、英語を話し・書く能力を習得するのに不可欠な訓練と思います。昔の学習法は、英語を一方的に日本語にひきつけるやり方ですが、これは日本語に囲まれて暮らす私たちには自然な方法とも思えます。今度は、英語にひきつけて日本語を捉える努力をしていくと、両方の言語について気づかなかったことが分明し、運用能力向上に大変役立ちます。</p> <p>ときにテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組む予定です。</p>		<p>テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。また、テキストは中身を消化吸収するのが肝心ですから、その進行状況を最初から機械的に振り当てるわけにもいきません。テキストは易しい章は手短に、難しいが大切な章は時間をかけて進めてゆきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト 慎重に検討中		平素の小テストと平常点。	

09年度以降	Communicative English	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks and group discussions.</p> <p>There will be a project to watch some TV clips and produce a tapescript and translation.</p>		<p>Week 1 Introduction to the course  Week 2 Consolidation  Week 3 Giving opinions  Week 4 Background introduction to the UK  Week 5 Work and daily lives  Week 6 Describing a place  Week 7 Biographies: famous people  Week 8 Biographies: famous people  Week 9 Language development: conditionals  Week 10 Roleplay: socializing  Week 11 Language development: quiz  Week 12 Listening project corrections  Week 13 Listening project corrections  Week 14 Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (60%) and a final assignment (40%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.	

09年度以降	Communicative English	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks and group discussions.</p> <p>There will be a project to watch some TV clips and produce a tapescript and translation.</p>		<p>Week 1 Introduction to the course  Week 2 Consolidation  Week 3 Giving opinions  Week 4 Discussion  Week 5 Language development: phrasal verbs  Week 6 Language and culture  Week 7 Language and culture  Week 8 Language development: social English  Week 9 Language development: quiz  Week 10 Some features of British culture  Week 11 London taxi  Week 12 Listening project corrections  Week 13 Listening project corrections  Week 14 Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on class participation (60%) and a final assignment (40%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.	

09年度以降	Communicative English	担当者	D. ベーカー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one term once-a-week course is designed to take you “on a bit of a journey” as I like to put it. Along the way, it gives you the chance to develop the learning and communication skills you should have been exposed to in your Comprehensive English courses.</p> <p>Overall aims are to help you further:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Comprehension across a variety of media</li> <li>➤ Critical thinking skills</li> <li>➤ Active group discussion participation</li> <li>➤ Multimedia presentation capabilities</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction &amp; Orientation</li> <li>2 Critical Thinking [CT] #1: What is the Matrix?</li> <li>3 CT #2: WWTDD?</li> <li>4 CT #3: Comedy &amp; Truth</li> <li>5 Mens Sana</li> <li>6 In Corpore Sano</li> <li>7 Self-actualization</li> <li>8 Energy Vampires</li> <li>9 Learn to learn</li> <li>10 Accelerated learning</li> <li>11 Research</li> <li>12 Findings</li> <li>13 Presentations</li> <li>14 Review &amp; Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no set textbook		Assessment is continuous and based on attendance, class participation and assignments	

09年度以降	Communicative English	担当者	D. ベーカー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one term once-a-week course is designed to take you “on a bit of a journey” as I like to put it. Along the way, it gives you the chance to develop the learning and communication skills you should have been exposed to in your Comprehensive English courses.</p> <p>Overall aims are to help you further:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Comprehension across a variety of media</li> <li>➤ Critical thinking skills</li> <li>➤ Active group discussion participation</li> <li>➤ Multimedia presentation capabilities</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction &amp; Orientation</li> <li>2 Critical Thinking [CT] #1: What is the Matrix?</li> <li>3 CT #2: WWTDD?</li> <li>4 CT #3: Comedy &amp; Truth</li> <li>5 Mens Sana</li> <li>6 In Corpore Sano</li> <li>7 Self-actualization</li> <li>8 Energy Vampires</li> <li>9 Learn to learn</li> <li>10 Accelerated learning</li> <li>11 Research</li> <li>12 Findings</li> <li>13 Presentations</li> <li>14 Review &amp; Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no set textbook		Assessment is continuous and based on attendance, class participation and assignments	

09年度以降	Communicative English	担当者	D. マツキャン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.</p>		<p>Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.</p>	

09年度以降	Communicative English	担当者	D. マツキャン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.</p>		<p>Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.</p>	

09年度以降	Communicative English (月5)	担当者	J. A. グレイ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Students will be given opportunities to lead a presentation and communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Student presentations may include video projects using YouTube, movie maker, and/or power point will be assigned to individuals for presentation in class. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction / Demonstration/Assignment Choose Topics Today</li> <li>2. Presentation Demonstration</li> <li>3. Quiz 1 Student Presentations and Discussions</li> <li>4. Quiz 2 Student Presentations and Discussions</li> <li>5. Quiz 3 Student Presentations and Discussions</li> <li>6. Quiz 4 Student Presentations and Discussions</li> <li>7. Quiz 5 Student Presentations and Discussions</li> <li>8. Quiz 6 Student Presentations and Discussions</li> <li>9. Quiz 7 Student Presentations and Discussions</li> <li>10. Quiz 8 Student Presentations and Discussions</li> <li>11. Quiz 9 Student Presentations and Discussions</li> <li>12. Quiz 10 Student Presentations and Discussions</li> <li>13. Quiz 11 Student Presentations and Discussions</li> <li>14. Wrap-up of this semester' s work.</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b></p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To Be Announced		Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	Communicative English (水5)	担当者	J. A. グレイ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Students will be given opportunities to lead a presentation and communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Student presentations may include video projects using YouTube, movie maker, and/or power point will be assigned to individuals for presentation in class. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction / Demonstration/Assignment Choose Topics Today</li> <li>2. Presentation Demonstration</li> <li>3. Quiz 1 Student Presentations and Discussions</li> <li>4. Quiz 2 Student Presentations and Discussions</li> <li>5. Quiz 3 Student Presentations and Discussions</li> <li>6. Quiz 4 Student Presentations and Discussions</li> <li>7. Quiz 5 Student Presentations and Discussions</li> <li>8. Quiz 6 Student Presentations and Discussions</li> <li>9. Quiz 7 Student Presentations and Discussions</li> <li>10. Quiz 8 Student Presentations and Discussions</li> <li>11. Quiz 9 Student Presentations and Discussions</li> <li>12. Quiz 10 Student Presentations and Discussions</li> <li>13. Quiz 11 Student Presentations and Discussions</li> <li>14. Wrap-up of this semester's work.</li> </ol> <p><b>Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.</b></p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To Be Announced		Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	Communicative English	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Exchanging personal information</li> <li>3. Personality Types</li> <li>4. Appearances</li> <li>5. Attitudes</li> <li>6. Comparing experiences</li> <li>7. Getting information</li> <li>8. Events</li> <li>9. Quiz</li> <li>10. Movies</li> <li>11. Music</li> <li>12. Media</li> <li>13. Education</li> <li>14. Test</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

09年度以降	Communicative English	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The objective of the course is to develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussion. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Summer vacation</li> <li>2. Personal opinions</li> <li>3. Japan</li> <li>4. Preferences</li> <li>5. Religions</li> <li>6. Film and TV</li> <li>7. Language</li> <li>8. Poverty</li> <li>9. War and Peace</li> <li>10. Diet and nutrition</li> <li>11. Green issues</li> <li>12. Natural Disasters</li> <li>13. Sexism</li> <li>14. Poster Presentation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Grades will be based on attendance, class participation, and tests.	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	Communicative English (月1)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to expose the class to contemporary English vocabulary, grammar and idioms, and to imbue the students with the confidence necessary to use them. This shall be accomplished through the use of film clips, from which selected portions will be used to illustrate grammatical points, targeted vocabulary and idiomatic expressions. The students will also engage in discussions, both with each other and with the instructor, on topics related to the film clips and employing the language presented in the lesson</p>		<p>The weekly schedule will be provided after consultation with the class.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No text will be used for this class. All materials will be provided by the instructor.</p>		<p>Evaluation will consist of the following: attendance, participation, 2 tests and a presentation.</p>	

09年度以降	Communicative English (金1)	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
The goal of this course is to expose the class to contemporary English vocabulary, grammar and idioms, and to imbue the students with the confidence necessary to use them. This shall be accomplished through the use of film clips, from which selected portions will be used to illustrate grammatical points, targeted vocabulary and idiomatic expressions. The students will also engage in discussions, both with each other and with the instructor, on topics related to the film clips and employing the language presented in the lesson		The weekly schedule will be provided after consultation with the class.	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No text will be used for this class. All materials will be provided by the instructor.		Evaluation will consist of the following: attendance, participation, 2 tests and a presentation.	

09年度以降	Communicative English (金1)	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
Same as 1 <sup>st</sup> semester.		Same as 1 <sup>st</sup> semester.	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Same as the 1 <sup>st</sup> semester.		Same as the 1 <sup>st</sup> semester.	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	Communicative English (金3)	担当者	L. K. ハーキンス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to expose the class to contemporary English vocabulary, grammar and idioms, and to imbue the students with the confidence necessary to use them. This shall be accomplished through the use of film clips, from which selected portions will be used to illustrate grammatical points, targeted vocabulary and idiomatic expressions. The students will also engage in discussions, both with each other and with the instructor, on topics related to the film clips and employing the language presented in the lesson</p>		<p>The weekly schedule will be provided after consultation with the class.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No text will be used for this class. All materials will be provided by the instructor.</p>		<p>Evaluation will consist of the following: attendance, participation, 2 tests and a presentation.</p>	

09年度以降	Communicative English	担当者	P. M. ホーネス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. Much of the material is based on previously learned concepts to help improve individual aspects of fluency. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Suprasegmentals</li> <li>3. Suprasegmentals</li> <li>4. Simple past review</li> <li>5. Fluency exercise</li> <li>6. Past perfect/ Fluency exercise</li> <li>7. Be going to versus will</li> <li>8. Fluency exercise</li> <li>9. Comparisons and superlatives</li> <li>10. Conditionals</li> <li>11. Conditionals</li> <li>12. Review</li> <li>13. Instructor-led discussion</li> <li>14. Instructor-led discussion</li> </ol> <p>Subject to change based on class' s needs.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Attendance, participation, written summaries, and speaking exercises	

09年度以降	Communicative English	担当者	P. M. ホーネス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 9-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Survey: Bilinguals</li> <li>3. Survey: food</li> <li>4. Survey: Dating</li> <li>5. Culture Presentation: language &amp; art</li> <li>6. Halloween</li> <li>7. Reading presentation</li> <li>8. Survey: MASK</li> <li>9. Survey: Travel</li> <li>10. Culture Presentation</li> <li>11. Culture Presentation</li> <li>12. Culture Presentation</li> <li>13. Christmas</li> <li>14. Instructor-led discussion</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Attendance, participation, written summaries, and discussions	

09年度以降	Communicative English	担当者	P. アップス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• To improve the students' knowledge of current English.</li> <li>• To improve the students' critical thinking skills</li> <li>• To improve the students' reading and speaking skills</li> <li>• To improve discussion and presentation skills.</li> </ul> <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher.</p> <p>Most of the topics will be popular in the media. In 2009 we discussed topics such as</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Gun Control</li> <li>• Global Warming</li> <li>• Japanese Population</li> <li>• Japanese Education</li> <li>• Homelessness in the World</li> <li>• Religion</li> </ul> <p>Also please note there is homework after every class.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test	

09年度以降	Communicative English	担当者	P. アップス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• To improve the students' knowledge of current English.</li> <li>• To improve the students' critical thinking skills</li> <li>• To improve the students' reading and speaking skills</li> <li>• To improve discussion and presentation skills.</li> </ul> <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher.</p> <p>Most of the topics will be popular in the media. In 2009 we discussed topics such as</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Gun Control</li> <li>• Global Warming</li> <li>• Japanese Population</li> <li>• Japanese Education</li> <li>• Homelessness in the World</li> <li>• Religion</li> </ul> <p>Also please note there is homework after every class.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	Communicative English	担当者	P. ドーレ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will ask you to take responsibility for one part of a semester long group project. Your group will need to submit drafts of your project at pre-determined times during the course.</p> <p>The general theme for the project will be given by the teacher, but your group will be able to choose the topic within that theme.</p> <p>Group members will be required to make short presentations on the progress of their project during class.</p> <p>You will begin your project by collecting ideas and background information and then develop your argument on your chosen topic.</p> <p>You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers and then finally by the teacher.</p> <p>Finally, you will present your project to the class using power point.</p> <p>The other assessment items will be announced in the first class.</p>		<p>Week 1. Orientation</p> <p>Weeks 2 - 13 project and supplementary work in class.</p> <p><b>Supplementary work includes;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- vocabulary tests</li> <li>- homework reading assignments</li> <li>- draft evaluations</li> <li>- group discussion leadership</li> </ul> <p>Weeks 14 &amp; 15 Project presentation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No TEXT		Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises and written homework, and their project presentations.	

09年度以降	Communicative English	担当者	R. J. バロウズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is an intermediate-level context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people &amp; culture</p> <p>b) improve students analytical &amp; critical abilities towards foreign &amp; Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening &amp; conversation practice around a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit an essay on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductory Class</li> <li>2. Introduction to Britain</li> <li>3. British Pop</li> <li>4. London</li> <li>5. The Train</li> <li>6. Heathrow Airport</li> <li>7. William Shakespeare</li> <li>8. Tea</li> <li>9. Climbers</li> <li>10. Sherlock Holmes</li> <li>11. The Purple Violin</li> <li>12. An English Summer</li> <li>13. Review</li> <li>14. Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also recommended.		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation & Essay.	

09年度以降	Communicative English	担当者	R. J. バロウズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is an upper-intermediate context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people &amp; culture</p> <p>b) improve students analytical &amp; critical abilities towards foreign &amp; Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening &amp; conversation practice around a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit an essay on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Preview</li> <li>2. The Seven Wonders of Britain</li> <li>3. Wales</li> <li>4. BBC World Service</li> <li>5. The Mini</li> <li>6. The Village</li> <li>7. Agatha Christie</li> <li>8. The Sea</li> <li>9. Taxi</li> <li>10. Public School</li> <li>11. Womad</li> <li>12. A British Christmas</li> <li>13. Review</li> <li>14. Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also recommended.		30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 40% Presentation & Essay.	

09年度以降	Communicative English	担当者	R. ジョーンズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course of studies.</li> <li>2 Gender Issues.</li> <li>3 Attitudes towards women.</li> <li>4 The War on Terrorism.</li> </ol> <p>Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual and keep good attendance.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

09年度以降	Communicative English	担当者	R. ジョーンズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Brief introduction/welcome back to class.</li> <li>2 Computers and society</li> <li>3 Ageing Society.</li> <li>4 The Automobile</li> </ol> <p>Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual and keep good attendance.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%</p>	

09年度以降	Communicative English (火1)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests: special festival days/occasions: recent News stories/events: and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact: proper handshake: suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to international communication.)</i></p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication: Expressing your opinions</i>, part one: "How do you feel about _____?" &amp; "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: <b>Communicating about future plans</b>. "What are your plans for Golden Week?" / "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?" <b>communicating a past experience</b>...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: (Perhaps selecting and preparing for a class presentation.) Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two.</p> <p>Week 7: (Perhaps selecting and preparing for a class presentation.) Asking and telling other people about likes &amp; dislikes. Pair practice, communicating.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your <b>hobbies</b>. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: (Perhaps Student research/discussion about a variety of themes which they choose, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations: 'GM' Food: Pros &amp; Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest.) Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?" Discussing and communicating about <b>movies, books, music, food, etc.</b> in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance. (Perhaps: refining possible presentation topics.)</p> <p>Week 11: Examining &amp; using of International vs. Domestic <b>etiquette and manners</b> Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. (Perhaps: preparations for making presentations.)</p> <p>Week 12: Continuous assessment. <b>Ways to meet new people</b> (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof.</p> <p>Week 13: <b>Body Language</b>: Gestures &amp; postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise &amp; discussion. (Perhaps: preparations for class presentations.)</p> <p>Week 14: Ongoing assessment. <b>Directions</b>: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. (Perhaps: student presentations.)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs &amp; song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>You will be assessed often: the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak/elaborate</b> (explain/<b>communicate</b> in English, the ways in which you <b>reason</b> (think): how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason</b>. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence)</b></p>	

09年度以降	Communicative English (火1)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests: special festival days/occasions: recent News stories/events: and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your <b>Summer Break</b>, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: <b>"What do you usually do...?"</b>: discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about &amp; study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: <b>Hallowe'en</b>: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' &amp; Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued.</p> <p>Week 6: Asking and communicating <b>train &amp; subway directions</b>, in International English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation. Discussion about <b>"EQ"</b>, and its effect on success in International communication, and on business success.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: <b>Thanksgiving</b>. Song-listening exercise. "What are you thankful for?"</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations:</p> <p>Week 11: <b>"How often do you ...?"</b>: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English &amp; "EQ" in conversations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: <b>Christmas</b>. Continuous assessments.</p> <p>Week 13: Christmas song-listening exercise, part two. <b>Christmas cultures</b> in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 14: Asking others, and elaborating about, <b>New Year's wishes and plans</b>. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.</p>		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think): how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason</b>. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence)</b></p>	

09年度以降	Communicative English (火3)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to international communication.)</i></p> <p>Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication</i>: <b>Expressing your opinions</b>, part one: "How do you feel about _____?" &amp; "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.)]</p> <p>Week 4: <b>Communicating about future plans</b>. "What are your plans for Golden Week?" "What are your plans for Mother's Day?"</p> <p>Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?" <b>communicating a past experience</b>...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.</p> <p>Week 6: (Perhaps selecting and preparing for a class presentation.) Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two.</p> <p>Week 7: (Perhaps selecting and preparing for a class presentation.) Asking and telling other people about likes &amp; dislikes. Pair practice, communicating.</p> <p>Week 8: Discussing and communicating about your <b>hobbies</b>. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.</p> <p>Week 9: (Perhaps Student research/discussion about a variety of themes which they choose, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest.) Pair practice, re: hobbies.</p> <p>Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about <b>movies, books, music, food, etc.</b>, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance. (Perhaps: refining possible presentation topics.)</p> <p>Week 11: Examining &amp; using of International vs. Domestic <b>etiquette</b> and <b>manners</b> Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. (Perhaps: preparations for making presentations.)</p> <p>Week 12: Continuous assessment. <b>Ways to meet new people</b> (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof.</p> <p>Week 13: <b>Body Language</b>: Gestures &amp; postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise &amp; discussion. (Perhaps: preparations for class presentations.)</p> <p>Week 14: Ongoing assessment. <b>Directions</b>: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. (Perhaps: student presentations.)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs &amp; song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.</p>		<p>You will be assessed often: the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak/elaborate</b> (explain)/<b>communicate</b> in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason</b>. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b></p>	

09年度以降	Communicative English (火3)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your <b>Summer Break</b>, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.</p> <p>Week 2: <b>"What do you usually do...?"</b>: discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about &amp; study.) Continuous assessments.</p> <p>Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.</p> <p>Week 4: <b>Hallowe'en</b>: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video.</p> <p>Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' &amp; Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued.</p> <p>Week 6: Asking and communicating <b>train &amp; subway directions</b>, in International English. Pair practice. Ongoing assessments.</p> <p>Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation. Discussion about <b>"EQ"</b>, and its effect on success in International communication, and on business success.</p> <p>Week 8: Research and discussion re: <b>Thanksgiving</b>. Song-listening exercise. "What are you thankful for?"</p> <p>Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments.</p> <p>Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations:</p> <p>Week 11: <b>"How often do you...?"</b>: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English &amp; "EQ" in conversations.</p> <p>Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: <b>Christmas</b>. Continuous assessments.</p> <p>Week 13: Christmas song-listening exercise, part two. <b>Christmas cultures</b> in various countries. Class presentations.</p> <p>Week 14: Asking others, and elaborating about, <b>New Year's wishes and plans</b>. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.</p>		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason</b>. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b></p>	

09年度以降	Communicative English	担当者	T. ヒル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is designed to help students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance.</p> <p>Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English.</p> <p>Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and a number of short papers on the issues that interest them most.</p>		<p>Introduction</p> <p>2. Japanese politics</p> <p>3. Japanese politics</p> <p>4. World politics</p> <p>5. World politics</p> <p>6. Economics and business</p> <p>7. Economics and business</p> <p>8. Social issues</p> <p>9. Social issues</p> <p>10. Sport and Entertainment</p> <p>11. Sport and Entertainment</p> <p>12. Review I</p> <p>13. Review II</p> <p>14. Review III</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Material will be taken from various news sources		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

09年度以降	Communicative English	担当者	T. ヒル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is designed to help students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance.</p> <p>Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English.</p> <p>Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and a number of short papers on the issues that interest them most.</p>		<p>Introduction</p> <p>2. Japanese politics</p> <p>3. Japanese politics</p> <p>4. World politics</p> <p>5. World politics</p> <p>6. Economics and business</p> <p>7. Economics and business</p> <p>8. Social issues</p> <p>9. Social issues</p> <p>10. Sport and Entertainment</p> <p>11. Sport and Entertainment</p> <p>12. Review I</p> <p>13. Review II</p> <p>14. Review III</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Material will be taken from various news sources and provided by the instructor.		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, the submission of a class notebook, and a final examination	

09年度以降	Communicative English	担当者	M. ダーリン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues from the textbook.</p>		<p>Week 1: Course Introduction  Week 2: Small group discussion task  Week 3: Assessing discussions  Week 4: Language for discussions  Week 5: Discussions &amp; text - unit 1  Week 6: Discussions &amp; text - unit 1 continued  Week 7: Discussions &amp; text - unit 2  Week 8: Discussions &amp; text - unit 2 continued  Week 9: Discussions &amp; text - unit 3  Week 10: Discussion &amp; text - unit 3 continued  Week 11: Discussion &amp; text - unit 4  Week 12: Discussion &amp; text - unit 4 continued  Week 13: Discussion &amp; text - unit 5  Week 14: Discussion &amp; text - unit 5 continued</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Impact Issues 3		Students will be evaluated on their active participation, their ability to lead group discussions, tests, vocabulary notebooks and attendance.	

09年度以降	Communicative English	担当者	M. ダーリン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues in the textbook.</p>		<p>Week 1: Course Introduction  Week 2: Small group discussion task  Week 3: Assessing discussions  Week 4: Language for discussions  Week 5: Discussions &amp; text - unit 1  Week 6: Discussions &amp; text - unit 1 continued  Week 7: Discussions &amp; text - unit 2  Week 8: Discussions &amp; text - unit 2 continued  Week 9: Discussions &amp; text - unit 3  Week 10: Discussion &amp; text - unit 3 continued  Week 11: Discussion &amp; text - unit 4  Week 12: Discussion &amp; text - unit 4 continued  Week 13: Discussion &amp; text - unit 5  Week 14: Discussion &amp; text - unit 5 continued</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Impact Issues 3		Students will be evaluated on their active participation, their ability to lead group discussions, tests, vocabulary notebooks and attendance.	

09年度以降	Discussion (火2)	担当者	C. B. 池口
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in face-to-face communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the first term will explore situations that show differences in thinking behavior and how these differences are reflected in the way people speak. Students will analyze and discuss different culture-style conversations.</p> <p>Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p><b>First Term:</b></p> <p>I. Orientation class objectives, method and evaluation</p> <p>II. How to avoid embarrassing conversation situations</p> <p>(1). Different Communication Styles</p> <p>(2) Sensitivity in conversations: does it help?</p> <p>(3) Be a Good Listener: a good advice?</p> <p>(4) Subtlety in Conversations: is it good?</p> <p>(5) Low-key expressions: do they help?</p> <p>(6) Frankness: when to and when not to?</p> <p>(7)Conversation Compliment: how to across cultures</p> <p>III. Summary and Evaluation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

09年度以降	Discussion (火2)	担当者	C. B. 池口
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in face-face communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the first term will explore situations that illustrate difference behavior and why these differences exist. Students will analyze and discuss various themes related to interpersonal communication.</p> <p>Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p><b>Second Term</b></p> <p>I. Orientation: class objectives, method and evaluation</p> <p>II. Behavior differences</p> <p>(1) Identity: do you have a strong cultural identity?</p> <p>(2) Values: what are your lifestyle values?</p> <p>(3) Culture shock: what is your personality type?</p> <p>(4) Culture in language: do you believe in proverbs?</p> <p>(5) Body language and customs: do you know them?</p> <p>(6) Individualism: are you an individualist?</p> <p>(7) Politeness: are you a formal or a casual person?</p> <p>(8) Communication style: what's yours?</p> <p>(9) Gender and culture: are they different?</p> <p>(10) Diversity and culture: the changing Japan!</p> <p>III. Summary and Evaluation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

09年度以降	Discussion (火3)	担当者	C. B. 池口
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in face-to-face communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the first term will explore situations that show differences in thinking behavior and how these differences are reflected in the way people speak. Students will analyze and discuss different culture-style conversations.</p> <p>Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p><b>First Term:</b></p> <p>I. Orientation class objectives, method and evaluation</p> <p>II. How to avoid embarrassing conversation situations</p> <p>(1). Different Communication Styles</p> <p>(2) Sensitivity in conversations: does it help?</p> <p>(3) Be a Good Listener: a good advice?</p> <p>(4) Subtlety in Conversations: is it good?</p> <p>(5) Low-key expressions: do they help?</p> <p>(6) Frankness: when to and when not to?</p> <p>(7)Conversation Compliment: how to across cultures</p> <p>III. Summary and Evaluation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

09年度以降	Discussion (火3)	担当者	C. B. 池口
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in face-face communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese.</p> <p>Classes in the first term will explore situations that illustrate difference behavior and why these differences exist. Students will analyze and discuss various themes related to interpersonal communication.</p> <p>Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences.</p> <p>The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.</p>		<p><b>Second Term</b></p> <p>I. Orientation: class objectives, method and evaluation</p> <p>II. Behavior differences</p> <p>(1) Identity: do you have a strong cultural identity?</p> <p>(2) Values: what are your lifestyle values?</p> <p>(3) Culture shock: what is your personality type?</p> <p>(4) Culture in language: do you believe in proverbs?</p> <p>(5) Body language and customs: do you know them?</p> <p>(6) Individualism: are you an individualist?</p> <p>(7) Politeness: are you a formal or a casual person?</p> <p>(8) Communication style: what's yours?</p> <p>(9) Gender and culture: are they different?</p> <p>(10) Diversity and culture: the changing Japan!</p> <p>III. Summary and Evaluation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced on the first day of class.		Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.	

09年度以降	Discussion	担当者	D.L. ブランケン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this class students will form 4 groups each term to lead the talk in class about various topics that they choose, first from daily life-items like work experience and places to visit or tour. Later they will select either more challenging or more personal issues by means of brainstorming and on the basis of consensus, items like dating or social topics.</p> <p>Topics will be prepared in advance at a rate of one per week as the leader groups rotate. Also, the discussion format may vary: students may engage in simple debates, survey interpreting, opinion eliciting, and taking contrarian attitudes. The final two weeks will entail a full class discussion of some issue.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Introduction; how to have a discussion</p> <p>Week 2: Ways of handling a discussion topic</p> <p>Week 3: Group I: Daily life topic A</p> <p>Week 4: Group II: Daily life topic B</p> <p>Week 5: Group III: Daily life topic C</p> <p>Week 6: Group IV: Daily life topic D</p> <p>Week 7: Critique of methods and procedures</p> <p>Week 8: Group I: More "meaty" topic A</p> <p>Week 9: Group II: Meatier topic B</p> <p>Week 10: Group III: Meatier topic C</p> <p>Week 11: Group IV: Meatier topic D</p> <p>Week 12: Full class discussion, Part 1</p> <p>Week 13: Full class discussion, Part 2</p> <p>Week 14: Supplemental work as needed</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook, but the instructor and leader groups will provide handouts and/or visual aids. Certain prints will concern methods and procedure.		Grades will be compiled from weekly oral work (50%, including full class discussion), work within the lead group (25%) and Qs&As with the teacher (25%).	

09年度以降	Discussion	担当者	D.L. ブランケン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this class students will form 4 groups each term to lead the talk in class about various topics that they choose, first from daily life-items like work experience and places to visit or tour. Later they will select either more challenging or more personal issues by means of brainstorming and on the basis of consensus, items like dating or social topics.</p> <p>Topics will be prepared in advance at a rate of one per week as the leader groups rotate. Also, the discussion format may vary: students may engage in simple debates, survey interpreting, opinion eliciting, and taking contrarian attitudes. The final two weeks will entail a full class discussion of some issue.</p> <p>You need to be proficient in spoken English, be interested in a variety of topics, very punctual in your attendance and able to hold your own in an English-only environment in the classroom.</p>		<p>Week 1: Regrouping of students and topics</p> <p>Week 2: Ways of handling a discussion topic</p> <p>Week 3: Group I: Daily life topic A</p> <p>Week 4: Group II: Daily life topic B</p> <p>Week 5: Group III: Daily life topic C</p> <p>Week 6: Group IV: Daily life topic D</p> <p>Week 7: Critique of methods and procedures</p> <p>Week 8: Group I: More meaty topic A</p> <p>Week 9: Group II: Meatier topic B</p> <p>Week 10: Group III: Meatier topic C</p> <p>Week 11: Group IV: Meatier topic D</p> <p>Week 12: Full class discussion, Part 1</p> <p>Week 13: Full class discussion, Part 2</p> <p>Week 14: Supplemental work as needed</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook, but the instructor and leader groups will provide handouts and/or visual aids. Certain prints will concern methods and procedure.		Grades will be compiled from weekly oral work (50%, including full class discussion), work within the lead group (25%) and Qs&As with the teacher (25%).	

09年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions in order to improve fluency in English communication skills.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles covering current local and global issues in order to improve English and knowledge.</p> <p>The class seeks to provide an enjoyable and interesting environment to discuss current topics and issues. Students are expected to collaborate and engage in friendly pair and group discussions.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start topic # 1</p> <p>Week 2: Discussion Topic # 1</p> <p>Week 3: Discussion Topic # 2</p> <p>Week 4: Discussion Topic # 2</p> <p>Week 5: Discussion Topic # 3</p> <p>Week 6: Discussion Topic # 3</p> <p>Week 7: Discussion Topic # 4</p> <p>Week 8: Discussion Topic # 4</p> <p>Week 9: Discussion Topic # 5</p> <p>Week 10: Discussion Topic # 5</p> <p>Week 11: Discussion Topic # 6</p> <p>Week 12: Discussion Topic # 6</p> <p>Week 13: Discussion Topic # 7</p> <p>Week 14: Discussion Topic # 7</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Discussion notes and handouts will be provided every week.		Assessment will be based on weekly exercises, attendance, discussion involvement and class participation.	

09年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course aims to provide friendly forums for student discussions in order to improve fluency in English communication skills.</p> <p>Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles covering current local and global issues in order to improve English and knowledge.</p> <p>The class seeks to provide an enjoyable and interesting environment to discuss current topics and issues. Students are expected to collaborate and engage in friendly pair and group discussions.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start topic # 8</p> <p>Week 2: Discussion Topic # 8</p> <p>Week 3: Discussion Topic # 9</p> <p>Week 4: Discussion Topic # 9</p> <p>Week 5: Discussion Topic # 10</p> <p>Week 6: Discussion Topic # 10</p> <p>Week 7: Discussion Topic # 11</p> <p>Week 8: Discussion Topic # 11</p> <p>Week 9: Discussion Topic # 12</p> <p>Week 10: Discussion Topic # 12</p> <p>Week 11: Discussion Topic # 13</p> <p>Week 12: Discussion Topic # 13</p> <p>Week 13: Discussion Topic # 14</p> <p>Week 14: Discussion Topic # 14</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Discussion notes and handouts will be provided every week.		Assessment will be based on weekly exercises, attendance, discussion involvement and class participation.	

09年度以降	Discussion	担当者	P. M. ホーネス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is an introductory course in discussion. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics. Students will select topics and research them for the discussions. For several weeks, students will develop their ideas in groups on a specific topic. Thereafter, each student will present his/her idea individually. Students should come to class ready to discuss material researched outside of class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction; select topics</li> <li>2. Discussion</li> <li>3. Discussion</li> <li>4. Presentation</li> <li>5. Discussion</li> <li>6. Discussion</li> <li>7. Presentation</li> <li>8. Discussion</li> <li>9. Discussion</li> <li>10. Presentation</li> <li>11. Discussion</li> <li>12. Discussion</li> <li>13. Presentation</li> <li>14. Test</li> </ol> <p>Subject to change based on class' s needs.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.		Attendance, participation, written summaries, discussion exercises, presentations, and test	

09年度以降	Discussion	担当者	P. M. ホーネス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Although this is the second half to the introduction of discussion, the first half semester is not a necessary requirement to participate in this class. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics. Students will select topics and research them for the discussions. For several weeks, students will develop their ideas in groups on a specific topic. Thereafter, each student will present his/her idea individually. Students should come to class ready to discuss material researched outside of class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction; select topics</li> <li>2. Discussion</li> <li>3. Discussion</li> <li>4. Presentation</li> <li>5. Discussion</li> <li>6. Discussion</li> <li>7. Presentation</li> <li>8. Discussion</li> <li>9. Discussion</li> <li>10. Presentation</li> <li>11. Discussion</li> <li>12. Discussion</li> <li>13. Presentation</li> <li>14. Test</li> </ol> <p>Subject to change based on class' s needs.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.		Attendance, participation, written summaries, discussion exercises, presentations, and test	

09年度以降	Discussion	担当者	S. ロシート
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Aims to improve</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. knowledge of social current issues in Japan</li> <li>2. understanding about what nonprofit NGOs are doing to tackle these problems</li> <li>3. ability to communicate about these issues</li> <li>4. critical understanding</li> <li>5. develop presentation skills</li> </ol> <p>Weekly assignments: Each week students will complete short readings, which will form a based for class discussion.</p> <p>Class format Instructor presentation - key issues. Group work - discussion, review of readings and exercises. Participant presentation - present summaries, final project.</p>		<p>* Since we will be focusing on current issues - specific contents may change. * semester 1 will focus on Japan</p> <p>Class 1 Introduction to course, Overview of current social issues in Japan Class 2 What is a nonprofit NGO? Class 3 Aging in Japan Class 4 NGOs working on Aging Class 5 Youth issues Class 6 NGOs working with youth Class 7 Presentation skills #1 Class 8 Mid-term presentations Class 9 Home violence Class 10 Why we need more shelters and support systems Class 11 Homelessness and new poverty in Japan Class 12 New comers in Japan Class 13 Presentation skills #2 Class 14 Wrap up &amp; Final Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Online readings Anyone without internet access should tell the instructor in class1</p>		<p>Active class participation, mid-term presentation, final project (paper and presentation) and regular completion of assignments. Attendance of 75% is required to pass.</p>	

09年度以降	Discussion	担当者	S. ロシート
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Aims to improve</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. knowledge of current global issues</li> <li>2. understanding about what nonprofit NGOs are doing to tackle these problems</li> <li>3. ability to communicate about these issues</li> <li>4. critical understanding</li> <li>5. develop presentation skills</li> </ol> <p>Weekly assignments: Each week students will complete short readings, which will form a based for class discussion.</p> <p>Class format Instructor presentation - key issues. Group work - discussion, review of readings and exercises. Participant presentation - present summaries, final project.</p>		<p>* Since we will be focusing on current issues - specific contents may change. * semester 2 will focus on international issues</p> <p>Class 1 Introduction to course, Overview of issues Class 2 What is poverty? What is hunger? Class 3 What can we do about hunger and poverty? Class 4 Health issues Class 5 Education about AIDS Class 6 Presentation skills Class 7 Mid-term presentations Class 8 Youth making a difference around the world! Class 9 Conflict and peace Class 10 Refugees and asylum seekers Class 11 Environmental issues Class 12 Making your life more environmentally friendly Class 13 Smart shopping: Fair trade and organics Class 14 Wrap up &amp; Final Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Online readings Anyone without internet access should tell the instructor in class1</p>		<p>Active class participation, mid-term presentation, final project (paper, presentation) and regular completion of assignments. Attendance of 75% is required to pass.</p>	

09年度以降	Public Speaking I	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

09年度以降	Public Speaking II	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

09年度以降	Public Speaking I	担当者	P. マッケビリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

09年度以降	Public Speaking II	担当者	P. マッケビリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

09年度以降	Public Speaking I	担当者	板場 良久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>前半は様々な形態や状況でのスピーチの練習をします。  後半は、公的に発信するためのコミュニケーション戦略を映像制作プロジェクトとして立ち上げます。  現在の英語力よりも、コミュニケーションする積極性が問われます。  春と秋の組み合わせで計画されていますので、1年間継続する学生を想定したクラスです。</p>		<p>1～3 Public Speaking の基本（ミニ講義）  4～6 Oral Interpretation  7～9 Impromptu Speaking  10～14 Public Media Project I</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布予定		授業への積極的な参加のみです。（流暢に話せるかどうかは重要ではありません。）	

09年度以降	Public Speaking II	担当者	板場 良久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の履修が前提となります。  春学期からの継続的な内容です。</p>		<p>1. Mystery Speaking  2. More Theories（ミニ講義）  3. Consultation（相談日）  4～5 Informative Speaking  6. Consultation（相談日）  7～9 Persuasive Speaking  10～14 Public Media Project II</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布予定		授業への積極的な参加のみです。（流暢に話せるかどうかは重要ではありません。）	

09年度以降	Public Speaking I	担当者	門倉 弘枝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 「異文化コミュニケーション」という言葉がよく聞かれる今日、どうしたら英語で上手くコミュニケーションがとれるようになるのでしょうか。この授業では、自分の伝えたい事を言葉のみでなく、Physical Message, Visual Message, Story Message によって如何により効果的にプレゼンテーションが出来るようになるかを学びます。</p> <p>講義概要： プレゼンテーションをする時のコミュニケーションの方法と段階を上記の三つに分けます。それぞれのメッセージは'What', 'Why', 'How', 'Practice' の四項目から成り、更に'Performance' と'Evaluation' のセクションで自分のプレゼンテーションを通じて、又クラスメイトのプレゼンテーションを聞き、如何に改善すべきかを自ら学びとります。 カラーの愉快的イラストを使いながら、100パーセント学習者参加型の演習方法で授業を進めていきます。 進度は皆さんの様子を見ながら必要に応じて調整していきます。DVDが大きな助けとなるでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. [I] THE PHYSICAL MESSAGE: What is Physical Message?</li> <li>3. Posture and Eye Contact</li> <li>4. Informative Speech</li> <li>5. Performance</li> <li>6. Gestures</li> <li>7. Layout Speech</li> <li>8. Performance</li> <li>9. Voice Inflection</li> <li>10. Demonstration Speech</li> <li>11. Performance</li> <li>12. [II] THE VISUAL MESSAGE: Effective Visuals (1)</li> <li>13. Effective Visuals (2)</li> <li>14. Performance</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：Harrington, D. &amp; LeBeau, C., <i>Speaking of Speech - New Edition-Basic Presentation Skills for Beginners</i>. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2009. 2500円 + 税</p>		<p>出席状況、授業への参加度、宿題、発表、試験などから総合的に評価します。主に授業中のプレゼンテーションを最重要視するので、出席は最も重要。</p>	

09年度以降	Public Speaking II	担当者	門倉 弘枝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 春学期と同じ。</p> <p>講義概要： 春学期に引き続く。</p> <p><b>注意：</b> 何らかの理由で秋学期から履修する場合は、春学期の授業内容を理解し、且つ実際にそこまでの段階のパフォーマンスが出来るようにしておく必要があります。秋学期の最初の授業で指導致します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [II] THE VISUAL MESSAGE (前期の続き) Explaining Visuals (1)</li> <li>2. Explaining Visuals (2)</li> <li>3. Performance</li> <li>4. [III] THE STORY MESSAGE: What is Story Message? Presentation Structure</li> <li>5. Introduction What is the Story Message?</li> <li>6. Introductory Phrases Model Introduction</li> <li>7. Performance (Introduction)</li> <li>8. The Body Evidence</li> <li>9. Transitions</li> <li>10. Sequencers</li> <li>11. Performance (Body)</li> <li>12. The Conclusion - How to Make a Conclusion?</li> <li>13. Performance (Conclusion)</li> <li>14. Final performance</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>春学期と同じ。</p>	

09年度以降	Debate I	担当者	J. N. ウェンデル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will develop both the English language skills and strategies you need to make discussion and debate in English exciting and challenging. Every other week, we will read a newspaper item on a current topic and discuss the underlying issues and controversies. We will then flesh out arguments for and against a position related to the controversy. Finally, we will organize debate teams and hold debates in class. Throughout the semester, we will discuss debating techniques and strategies. Students will write a position paper of around 300 words on three of the debate topic that are featured.</p>		<p>1 Course introduction and orientation  2-3 Debate introductions and conclusions  4 Debate #1  5-6 Giving your opinions  7 Debate #2  8-9 Agreeing and disagreeing  10 Debate #3  11-12 Giving reasons by comparing and contrasting  13 Debate #4  14 Summary and reflection</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>There is no set textbook. Instructional materials and handouts will be distributed to students throughout the semester.</p>		<p>Assessment will be based on classroom participation, your performance in the debates, and homework assignments.</p>	

09年度以降	Debate II	担当者	J. N. ウェンデル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will develop both the English language skills and strategies you need to make discussion and debate in English exciting and challenging. Every other week, we will read a newspaper item on a current topic and discuss the underlying issues and controversies. We will then flesh out arguments for and against a position related to the controversy. Finally, we will organize debate teams and hold debates in class. Throughout the semester, we will discuss debating techniques and strategies. Students will write a position paper of around 300 words on three of the debate topic that are featured.</p>		<p>1 Course introduction and orientation  2-3 Debate introductions and conclusions  4 Debate #1  5-6 Challenging supports  7 Debate #2  8-9 Responding to attacks  10 Debate #3  11-12 Rebuttal speeches  13 Debate #4</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>There is no set textbook. Instructional materials and handouts will be distributed to students throughout the semester.</p>		<p>Assessment will be based on classroom participation, your performance in the debates, and homework assignments.</p>	

09年度以降	Debate I	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語発話能力の養成を目的とした言語教育活動には現在多くの方法があるが、4技能（聞く、話す、読む、書く）のみならず「考える」という第5の技能を磨くディベートこそ英語発話能力向上の最も効果的な学習方法のひとつといえる。ディベート実践に不可欠な一連の作業を通じて、英語発話能力を向上させていくことを目標とする。</p> <p>前期の最初に、ディベートの実践に必要な技術と評価の為のパロットの書き方を学ぶ。その後、グループに別れて、リサーチやブレインストーミングの段階を経て、ディベートの実践を行う。ディベートの命題としては社会的または政治的な問題を取り扱う予定である。ディベートの準備と実践を通して英語発信能力を、そして他グループの実践に対する評価をする事によって、聴き、理解し、更に発信するコミュニケーション能力を高めることができる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation: What is Argument and What is Debate?</li> <li>2. Analysis and Structure of Argument</li> <li>3. Evidence as Support</li> <li>4. Warrant</li> <li>5. Refutation</li> <li>6. How to Research a Topic</li> <li>7. Case Construction I</li> <li>8. Case Construction II</li> <li>9. Structural and Language Considerations</li> <li>10. 1st Debate I</li> <li>11. 1st Debate II</li> <li>12. 1st Debate III</li> <li>13. Review of the First Debate and Reflections</li> <li>14. Wrap Up</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
松本茂『頭を鍛えるディベート入門：発想と表現の技法』講談社ブルーバックス		総合的な評価はディベートのパフォーマンス（60%）、パロット（15%）、クラス内での積極的な参加度（15%）、出席（10%）、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	

09年度以降	Debate II	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>前期に学習したディベートの技術に基づき、ディベート実践を反復する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientations</li> <li>2. Preparation for the Second Debate</li> <li>3. Preparation for the Second Debate</li> <li>4. 2nd Debate I</li> <li>5. 2nd Debate II</li> <li>6. 2nd Debate III</li> <li>7. Review of the Second Debate</li> <li>8. Preparation for the Third Debate</li> <li>9. Preparation for the Third Debate</li> <li>10. 3rd Debate I</li> <li>11. 3rd Debate II</li> <li>12. 3rd Debate III</li> <li>13. Review of the Third Debate</li> <li>14. Course Summary</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
松本茂『頭を鍛えるディベート入門：発想と表現の技法』講談社ブルーバックス		総合的な評価はディベートのパフォーマンス（それぞれ30%—計60%）、パロット（15%）、クラス内での積極的な参加度（15%）、出席（10%）、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	

09年度以降	通訳 I	担当者	鍋倉 健悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>通訳の基礎訓練というのは、コミュニケーション能力としての総合的語学力をアップするためシステムティックなトレーニングにはかならない。</p> <p>このため、様々な方法で、リーディング、リスニング、スピーキングの技術を強化していくための練習を具体的に行っていく。</p>		<p>1～2回は通訳全般についての話。3回目以降から実際のトレーニングに入るが、その内容は次のとおり：</p> <p>リピーティング、クイック・レスポンス、シャドーイング、ボキャビル、サイト・トランスレーション、サラマイゼーション、ワンセンテンスからパラグラフ通訳、リテンション、通訳メモの取り方 etc.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを使用する予定		平常の授業での評価。授業はステップ・アップ形式で進むので欠席すると大変不利。	

09年度以降	通訳 I	担当者	鍋倉 健悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		<p>同上</p> <p>ただし、春学期よりも内容の種類と難易度が増す。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上		同上	

09年度以降	通訳 I (金2)	担当者	原口 友子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>☆通年での履修を前提として授業を行います。</p> <p>授業の目的は以下の二つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 逐次通訳ができるようになる。</li> <li>2. 聞いて理解できる語彙を増やす</li> </ol> <p>教員が通訳訓練学校で受けた訓練方法をそのまま教室で再現し、逐次通訳の実践的トレーニングを行います。</p> <p>語彙が制限されている英語教材を用いるので、内容は聴き取れるのですが、聞きながらメモをとり、即座に日本語に通訳するのは簡単ではありません。毎週、メモを取る技術や、一瞬で日本語に訳す能力を習得していきます。一年後には、聞き取れた内容はすべて即座に通訳できるようになります。</p> <p>ニュースの英語はスピードが速く、単語も難しいので敬遠する学生が多いのが現状です。この度、丁度良いテキストが出版されたのを機に、そんな悩みを解決してみましよう。授業の一部として、少しずつ進みます。</p>		<p>&lt;第1回&gt;</p> <p>毎回皆さんの通訳は録音し、USBに保存します。一回目は、忘れてくる人がいるので注意して下さい。</p> <p>&lt;授業構成&gt;</p> <p>最初の20分は、指定したテキストを用いて、ニュースの語彙を学びます。語彙を増やすには、ニュース原稿を見ながらのシャドウイングが効果的です。少しずつですが、一年かけて、報道の語彙力を増やして行きます。</p> <p>残りの70分は、実践的なトレーニングを行います。各自、メモを取りながら、逐次通訳を行います。<u>この時の教材は指定教科書とは別のもの</u>で、語彙が制限された教材です。(プリントで配布するので、購入の必要はなし)</p> <p>実際に通訳訓練を行う中で、メモの取り方や、通訳にふさわしい表現などを身につけて行きます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>NHK WORLD NEWS: A Guide to English Listening and Reading 木村友保 南雲堂 (語彙の学習テキストとして使用)</p>		出席率、授業中の通訳、小テスト、定期試験の総合評価	

09年度以降	通訳 I (金2)	担当者	原口 友子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>通年での履修を前提に授業を進めますので、後期から履修すると、授業についてこられない可能性もあります。</p> <p>前期に引き続き、CALL教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら、実際に逐次通訳を行い、各自のパフォーマンスは録音する、という実践的な訓練を積み重ねます。</p> <p>後期になると、逐次通訳がそれなりに形になってきます。現場からの実況中継がそれらしい日本語で通訳できるようになるでしょう。クタクタになりながらも、緊張感と達成感を楽しんでいる学生が多いようです。</p>		<p>&lt;第1回&gt;</p> <p>各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。</p> <p>&lt;第2回以降～&gt;</p> <p>上記の通訳 I に準じます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
前期のテキストを引き続き使用します。		出席率、授業中の通訳、小テスト、定期試験の総合評価	

09年度以降	通訳 I (金4)	担当者	原口 友子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>☆通年での履修を前提として授業を行います。</p> <p>授業の目的は以下の二つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 逐次通訳ができるようになる。</li> <li>2. 聞いて理解できる語彙を増やす</li> </ol> <p>教員が通訳訓練学校で受けた訓練方法をそのまま教室で再現し、逐次通訳の実践的トレーニングを行います。</p> <p>語彙が制限されている英語教材を用いるので、内容は聴き取れるのですが、聞きながらメモをとり、即座に日本語に通訳するのは簡単ではありません。毎週、メモを取る技術や、一瞬で日本語に訳す能力を習得していきます。一年後には、聞き取れた内容はすべて即座に通訳できるようになります。</p> <p>ニュースの英語はスピードが速く、単語も難しいので敬遠する学生が多いのが現状です。この度、丁度良いテキストが出版されたのを機に、そんな悩みを解決してみましよう。授業の一部として、少しずつ進みます。</p>		<p>&lt;第1回&gt;</p> <p>毎回皆さんの通訳は録音し、USBに保存します。一回目は、忘れてくる人がいるので注意して下さい。</p> <p>&lt;授業構成&gt;</p> <p>最初の20分は、指定したテキストを用いて、ニュースの語彙を学びます。語彙を増やすには、ニュース原稿を見ながらのシャドウイングが効果的です。少しずつですが、一年かけて、報道の語彙力を増やして行きます。</p> <p>残りの70分は、実践的なトレーニングを行います。各自、メモを取りながら、逐次通訳を行います。<u>この時の教材は指定教科書とは別のもの</u>で、語彙が制限された教材です。(プリントで配布するので、購入の必要はなし)</p> <p>実際に通訳訓練を行う中で、メモの取り方や、通訳にふさわしい表現などを身につけて行きます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>NHK WORLD NEWS: A Guide to English Listening and Reading 木村友保 南雲堂 (語彙の学習テキストとして使用)</p>		出席率、授業中の通訳、小テスト、定期試験の総合評価	

09年度以降	通訳 I (金4)	担当者	原口 友子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>通年での履修を前提に授業を進めますので、後期から履修すると、授業についてこられない可能性もあります。</p> <p>前期に引き続き、CALL教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら、実際に逐次通訳を行い、各自のパフォーマンスは録音する、という実践的な訓練を積み重ねます。</p> <p>後期になると、逐次通訳がそれなりに形になってきます。現場からの実況中継がそれらしい日本語で通訳できるようになるでしょう。クタクタになりながらも、緊張感と達成感を楽しんでいる学生が多いようです。</p>		<p>&lt;第1回&gt;</p> <p>各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。</p> <p>&lt;第2回以降～&gt;</p> <p>上記の通訳 I に準じます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
前期のテキストを引き続き使用します。		出席率、授業中の通訳、小テスト、定期試験の総合評価	

09年度以降	通訳Ⅱ	担当者	原口 友子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;内容の一新&gt; 今年度からは、通訳教材の難易度は、通訳Ⅰと同じにします。</p> <p>&lt;講義の目的&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 簡単な同時通訳ができるようになる。</li> <li>② 逐次通訳が、通訳Ⅰより、長時間通訳し続けることができるようになる</li> <li>③ 聞いて理解できる語彙を増やす</li> </ol> <p>教員が通訳訓練学校で受けた訓練方法をそのまま教室で再現し、同時通訳や逐次通訳の実践的トレーニングを行います。</p> <p>ニュースの英語はスピードが速く、単語も難しいので敬遠する学生が多いのが現状です。この度、丁度良いテキストが出版されたのを機に、そんな悩みを解決してみましよう。通訳者が語彙を増やすのと同じやり方を用いて、字を目で追いながら放送と同時に声を出すことで語彙を増やします。授業の一部として、少しずつ進みます。</p>		<p>通訳Ⅰの履修が望ましいですが、TOEIC スコア 800 以上の力があれば「通訳Ⅱ」から始めても問題ありません。</p> <p>☆毎週 USB を持参して下さい。各自の通訳は録音し USB に保存します。</p> <p>通訳練習の教材は、語彙の難易度が制限されたものを使います。2 回メモを取った後、長い逐次通訳、内容が完全に把握できたところで、同時通訳の練習へと進みます。</p> <p>同時通訳はとても難しい印象があるようですが、お手本を聞いた後、真似してやってみると、驚くほど言えるようになります。教員の同時通訳を聞き、「どこを訳さないか」を盗んで下さい。</p>	
<b>キスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>NHK WORLD NEWS: A Guide to English Listening and Reading 木村友保 南雲堂 (語彙の学習テキストとして使用)</p>		出席率、授業中の通訳、小テスト、定期試験の総合評価	

09年度以降	通訳Ⅱ	担当者	原口 友子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に準ずる</p> <p>(ひとこと)</p> <p>日本語と英語では、同じ内容を述べるのにかかる時間が大きく異なります。すべての情報を訳すと、日本語は、英語の1、5倍の時間が必要になります。</p> <p>したがって、同時で通訳するには、情報量を減らす工夫が必要となります。逐次通訳は「枝葉まで訳す」、同時通訳は「幹だけ訳す」と方針を定めるとよいでしょう。</p>		春学期に準ずる	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
前期のテキストを引き続き使用します。		出席率、授業中の通訳、小テスト、定期試験の総合評価	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です）</p> <p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょうか。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語+ビジネス+コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に「英文 Business Writing の基本」を一年間かけて分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>春学期14回の履修、或いは秋学期14回の履修では当然ながら社会に出て通用するような英語力はつきません。従って、<b>通年で履修する授業計画となっております。</b></p> <p>次に、外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で英語を使用して働きたいという学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来に役立つ実践的な英語ビジネス・コミュニケーションの講義であると同時に、（下に続く）</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 「Business English を学ぶにあたって」と「ビジネスレターの形式（1）」</li> <li>3. 「ビジネスレターの形式（2）」</li> <li>4. 「ビジネスレターの形式（3）」と「練習問題」</li> <li>5. 「効果的なビジネスレターを書くための10のポイント（1）」</li> <li>6. 「効果的なビジネスレターを書くための10のポイント（2）」と「練習問題」</li> <li>7. 「取引の申し込み（1）」</li> <li>8. 「取引の申し込み（2）」</li> <li>9. 「取引の申し込みに対する応答」</li> <li>10. 「引合い（1）」</li> <li>11. 「引合い（2）」</li> <li>12. 「オファー（1）」</li> <li>13. 「オファー（2）」</li> <li>14. 春学期のまとめ</li> </ol> <p>授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体的目安とと考えてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老沢 達郎著『Business Writing---英文ビジネスレター入門』金星堂		学期末の試験（90%）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（上から続く）</p> <p>アカデミックな講義を目指します。</p> <p>具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレター（メール）の書き方を指導する。また、Business English を国際語である英語を使用して、ビジネスを促進させるための<b>ビジネス・コミュニケーション</b>としてとらえ、効果的なビジネスレターの書き方を例を挙げて説明・指導する。また、<b>就職活動に必要な英文履歴書と英文カバーレターの書き方を分かりやすく説明・指導する。</b></p> <p>「英文 Business Writing 実践練習」と称して、授業で学習した知識を利用して英文 Business Writing の基本的な練習問題を行っていきます。実際に企業等でよく使用されている英文 Business Writing 能力を身につけられるように指導していきたいと思っています。尚、この練習は、春学期後半から行っていきます。</p> <p>メディア英語と併せて履修すると、国際コミュニケーションを体系的に学習することができます。一緒に一年間勉強しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 「英文履歴書の書き方（1）」</li> <li>3. 「英文履歴書の書き方（2）」</li> <li>4. 「英文カバーレターの書き方（1）」</li> <li>5. 「英文カバーレターの書き方（2）」</li> <li>6. 「オファーに対する応答（1）」</li> <li>7. 「オファーに対する応答（2）」</li> <li>8. 「信用状（1）」</li> <li>9. 「信用状（2）」</li> <li>10. 「積出し（1）」</li> <li>11. 「積出し（2）」</li> <li>12. 「クレーム（1）」</li> <li>13. 「クレーム（2）」</li> <li>14. 秋学期のまとめ</li> </ol> <p>春学期と同じように「英文 Business Writing 実践練習問題」を秋学期中盤から行っていきます。尚、授業計画は通年で計画しておりますので、大体的目安とと考えてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ		学期末の試験（90%）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です）</p> <p>「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあつて、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEICで900点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事のある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない、全くの初心者である英語学科の学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、一年間かけて分かりやすく、指導していきます。</p> <p>春学期14回の履修、或いは秋学期14回の履修では当然ながら社会に出て通用するような英語力はつきません。従つて、通年で履修する授業計画となっています。</p> <p>次に、外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界等で英語を使用して働きたいという学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。将来に役立つ実践的な英語ビジネス・コミュニケーションの講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。（下に続く）</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 「英字新聞の特徴について（1）」</li> <li>3. 「英字新聞の特徴について（2）」</li> <li>4. 「Headlineの読み方実践練習（1）」と「経済用語解説」</li> <li>5. 「Headlineの読み方実践練習（2）」と「経済用語解説」</li> <li>6. 「Headlineの読み方実践練習（3）」と「経済用語解説」</li> <li>7. 「Leadの読み方実践練習（1）」と「経済用語解説」</li> <li>8. 「Leadの読み方実践練習（2）」と「経済用語解説」</li> <li>9. 「Leadの読み方実践練習（3）」と「経済用語解説」</li> <li>10. 「Leadの読み方実践練習（4）」と「経済用語解説」</li> <li>11. 「広告欄の読み方（1）」と「経済用語解説」</li> <li>12. 「広告欄の読み方（2）」と「経済用語解説」</li> <li>13. 「求人欄の読み方（1）」と「経済用語解説」</li> <li>14. 春学期のまとめ</li> </ol> <p>春学期後半から「経済用語に関する語彙力増強練習」を行っていきます。これにより、「経済用語解説」と併せると、英文経済記事の読み方の基本を身につけることが出来ると思います。</p> <p>授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体の目安とと考えてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験（90％）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（10％）を参考にして総合的に評価する。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（上から続く）</p> <p>具体的に講義を説明します。春学期は、日本で発行されている英字新聞の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。即ち、英字新聞の特徴、Headline（見出し）の読み方、Lead（記事の第1節）の読み方、広告欄の読み方、求人欄の読み方等を分かりやすく説明・指導していきます。秋学期は、国際経済を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。</p> <p>同時に、例えば、「current account（経常収支）」、「discount rate（公定歩合）」、「deflation（デフレ）」と言つた英文経済記事に出てきた「経済の専門用語」を英語学科の学生にも理解できるように分かりやすく説明していきます。経済の知識がないと、「英字新聞ビジネス欄」を一人ではまず学習できないと思います。この講義の特色の一つと言えるでしょう。そしてこれが、就職活動の一助になればと思っています。また、春学期後半から、「経済用語に関する語彙力増強練習」を行っていきます。</p> <p>メディア英語と併せて履修すると、国際コミュニケーションを体系的に学習することができます。一緒に一年間勉強しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 「求人欄の読み方（2）」と「経済用語解説」</li> <li>3. 「経済記事の読み方実践練習（1）」と「経済用語解説」</li> <li>4. 「経済記事の読み方実践練習（2）」と「経済用語解説」</li> <li>5. 「経済記事の読み方実践練習（3）」と「経済用語解説」</li> <li>6. 「経済記事の読み方実践練習（4）」と「経済用語解説」</li> <li>7. 「国際経済記事の読み方実践練習（1）」と「経済用語解説」</li> <li>8. 「国際経済記事の読み方実践練習（2）」と「経済用語解説」</li> <li>9. 「国際経済記事の読み方実践練習（3）」と「経済用語解説」</li> <li>10. 「国際経済記事の読み方実践練習（4）」と「経済用語解説」</li> <li>11. 「英文雑誌経済記事の読み方（1）」と「経済用語解説」</li> <li>12. 「英文雑誌経済記事の読み方（2）」と「経済用語解説」</li> <li>13. 「英文雑誌経済記事の読み方（3）」と「経済用語解説」</li> <li>14. 秋学期のまとめ</li> </ol> <p>秋学期中盤から「経済用語に関する語彙力増強練習」を行っていきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上に同じ		学期末の試験（90％）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（10％）を参考にして総合的に評価する。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木3)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文 (Business Correspondence) を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに (右記参照)、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元 (春学期は Unit1~12) における実務知識、通信文のスケルトン・プラン (skeleton plan)、および専門語彙 (technical terms) を学ぶとともに、通信文の読解 (英文和訳) と作成 (和文英訳) の訓練を行います。また、毎月1回 (春学期は5月、6月、7月の最初の授業時)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト (vocabulary check) を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><b>*注意:</b> このシラバスは木曜日 3 時限の授業のもので、杉山担当のもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2 ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。</li> <li>3 「市況」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>4 「取引先の発見」の実務知識と通信文の読解・作成 (第1回語彙力診断テストを実施します)</li> <li>5 「取引の申込み」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>6 「信用照会」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>7 「引合い」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>8 「引合いに対する返事」の実務知識と通信文の読解・作成 (第2回語彙力診断テストを実施します)</li> <li>9 「オファー」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>10 「カウンター・オファー」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>11 「注文」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>12 「注文の受諾と謝絶」の実務知識と通信文の読解・作成 (第3回語彙力診断テストを実施します)</li> <li>13 「成約」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>14 春学期の授業の総復習を行います。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習2 1講』(三恵社、2007年) および配布プリント</p> <p>(参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メールパーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木3)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文 (Business Correspondence) を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに (右記参照)、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元 (秋学期は Unit13~21) における実務知識、通信文のスケルトン・プラン (skeleton plan)、および専門語彙 (technical terms) を学ぶとともに、通信文の読解 (英文和訳) と作成 (和文英訳) の訓練を行います。また、毎月1回 (秋学期は10月、11月、12月の最初の授業時)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト (vocabulary check) を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。</p> <p><b>*注意:</b> このシラバスは木曜日 3 時限の授業のもので、杉山担当のもう1つの同一名称科目とは内容が異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2 ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。</li> <li>3 「信用状の開設と訂正」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>4 「海上保険」の実務知識と通信文の読解・作成 (第4回語彙力診断テストを実施します)</li> <li>5 「輸出手配」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>6 「船積」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>7 「輸入手配」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>8 「決済」の実務知識と通信文の読解・作成 (第5回語彙力診断テストを実施します)</li> <li>9 「クレーム」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>10 「クレーム調整」の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>11 「会社社交文」(推薦状)の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>12 「会社社交文」(案内状)の実務知識と通信文の読解・作成 (第6回語彙力診断テストを実施します)</li> <li>13 「会社社交文」(礼状・見舞い状)の実務知識と通信文の読解・作成</li> <li>14 秋学期の総復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習2 1講』(三恵社、2007年) および配布プリント</p> <p>(参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メールパーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木4)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents)の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。</p> <p>具体的には、工業製品 (manufactured goods) の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。春学期は、<u>成約にいたるまでの段階</u>に登場する代表的なビジネス文書として、<u>レター・オブ・インテント (letter of intent ; LOI)</u>、<u>スポット売買契約書(one-shot sales contract)</u>の表面約款と裏面約款、<u>長期売買契約書 (long-term sales contract)</u>、<u>取扱説明書(instruction manual)</u>などを扱います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。  <b>*注意：このシラバスは木曜日4時限の授業のものです。</b></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 春学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2 レター・オブ・インテントの意義と目的や作成上の注意点について説明し、実際のサンプルを検討します。</li> <li>3 同上</li> <li>4 レター・オブ・インテント作成の実習を行います。</li> <li>5 同上</li> <li>6 スポット販売契約書 (売主側作成)とスポット購買契約書 (買主側作成)の目的や作成上の注意点について説明し、実際の「表面約款」のサンプルを検討します。</li> <li>7 一般取引条件(general terms and conditions)、すなわちスポット売買契約書の「裏面約款」の目的、作成上の注意点、書式の闘い (battle of forms) 等について説明し、実際のサンプルを逐条的に検討します。</li> <li>8 同上</li> <li>9 長期売買契約書について説明し、実際のサンプルを実質条項を中心に検討します。</li> <li>10 同上</li> <li>11 製造物責任 (Product Liability) の観点から、英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明します。</li> <li>12 Plain English での取扱説明書の方略を検討します。</li> <li>13 同上</li> <li>14 春学期の授業の総復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) 当方で用意するプリント  (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		<p>出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木4)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents)の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。</p> <p>具体的には、工業製品 (manufactured goods) の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。秋学期は、<u>履行および決済の段階</u>に登場する代表的なビジネス文書として、<u>商業送り状 (commercial invoice)</u>、<u>包装明細書 (packing list)</u>、<u>船荷証券 (bill of lading)</u>、<u>保険証券 (insurance policy)</u>等の船積書類、<u>輸出申告書と輸入申告書</u>、<u>荷為替信用状 (documentary letter of credit)</u>などを扱います。</p> <p>なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。  <b>*注意：このシラバスは木曜日4時限の授業のものです。</b></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2 各種の船積書類(shipping documents; S/D)の意義と目的、作成上または読解上の注意点等を説明します。</li> <li>3 商業送り状と梱包明細書の実際のサンプルを検討します。</li> <li>4 商業送り状と梱包明細書を作成する実習を行います。</li> <li>5 船荷証券と保険証券の実際のサンプルを検討します。</li> <li>6 船荷証券と保険証券の記載事項を読解する実習を行います。</li> <li>7 通関手続 (customs clearance) について詳しく説明し、輸出申告書と輸入(納税)申告書の実際のサンプルを検討します。</li> <li>8 輸出申告書 (export declaration) を作成する実習を行います。</li> <li>9 同上</li> <li>10 輸入(納税)申告書 (import declaration) 作成する実習を行います。</li> <li>11 同上</li> <li>12 荷為替信用状による決済の仕組みを詳しく説明します。</li> <li>13 荷為替信用状の実際のサンプルを検討し、信用状の記載事項を読解する実習を行います。</li> <li>14 秋学期の授業の総復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) 当方で用意するプリント  (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		<p>出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一に尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月1）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っでの演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビジネス英語の特徴</li> <li>2 プリント①（英文ビジネスコラム）</li> <li>3 国際取引概略Ⅰ</li> <li>4 プリント②</li> <li>5 国際取引概略Ⅱ</li> <li>6 プリント③</li> <li>7 引合（inquiry）</li> <li>8 プリント④</li> <li>9 オファーⅠ（offer）</li> <li>10 プリント⑤</li> <li>11 オファーⅡ</li> <li>12 プリント⑥</li> <li>13 授業時に説明</li> <li>14 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月1）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 契約Ⅰ（contract）</li> <li>2 プリント⑦</li> <li>3 契約Ⅱ</li> <li>4 プリント⑧</li> <li>5 クレームⅠ（claim）</li> <li>6 プリント⑨</li> <li>7 クレームⅡ</li> <li>8 プリント⑩</li> <li>9 企業内組織の英語</li> </ol> <p>授業と平行して、10月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月2）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>目的</b> ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p><b>講義概要</b> 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っでの演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビジネス英語の特徴</li> <li>2 プリント①（英文ビジネスコラム）</li> <li>3 国際取引概略Ⅰ</li> <li>4 プリント②</li> <li>5 国際取引概略Ⅱ</li> <li>6 プリント③</li> <li>7 引合（inquiry）</li> <li>8 プリント④</li> <li>9 オファーⅠ（offer）</li> <li>10 プリント⑤</li> <li>11 オファーⅡ</li> <li>12 プリント⑥</li> <li>13 授業時に説明</li> <li>14 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月2）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>目的</b> ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p><b>講義概要</b> 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 契約Ⅰ（contract）</li> <li>2 プリント⑦</li> <li>3 契約Ⅱ</li> <li>4 プリント⑧</li> <li>5 クレームⅠ（claim）</li> <li>6 プリント⑨</li> <li>7 クレームⅡ</li> <li>8 プリント⑩</li> <li>9 企業内組織の英語</li> </ol> <p>授業と平行して、10月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	P. ネルム
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of the course is to introduce students to the various types of English used in the media world: newspapers, magazines, other printed publications, radio news, TV news, the Internet, blogs, etc. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions, and to submit written papers as requested. There will be a midterm exercise to test students' knowledge to that point, and a final examination or presentation at the end of the term.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year. Media English I is aimed at students with an intermediate-level ability.</p>		<p>1 Introduction, Student Selection</p> <p>2 Class</p> <p>3 Class</p> <p>4 Class</p> <p>5 Class</p> <p>6 Class</p> <p>7 Midterm Quiz/Paper</p> <p>8 Class</p> <p>9 Class</p> <p>10 Class</p> <p>11 Class</p> <p>12 Class</p> <p>13 Class</p> <p>14 Final Examination/Presentation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays/papers/midterm 25%, Final examination/presentation 25%	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	P. ネルム
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of the course is to introduce students to the various types of English used in the media world: newspapers, magazines, other printed publications, radio news, TV news, the Internet, blogs, etc. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions, and to submit written papers as requested. There will be a midterm exercise to test students' knowledge to that point, and a final examination or presentation at the end of the term.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year. Media English I is aimed at students with an intermediate-level ability. Preference will be given to students taking the first-semester course as well.</p>		<p>1 Introduction</p> <p>2 Class</p> <p>3 Class</p> <p>4 Class</p> <p>5 Class</p> <p>6 Class</p> <p>7 Midterm Quiz/Paper</p> <p>8 Class</p> <p>9 Class</p> <p>10 Class</p> <p>11 Class</p> <p>12 Class</p> <p>13 Class</p> <p>14 Final Presentation/Examination</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays/papers/midterm 25%, Final examination/presentation 25%	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的・講義概要は春・秋学期共通です)</p> <p>国際化時代にあつて、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、TOEIC で900点を取得しても英字新聞を読みこなすことはできません。また、大半の学生が卒業しても、英字新聞を読めないのが現状であります。英字新聞をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。本講義では、「英字新聞丸かじり」と称して、英字新聞に馴染みのない学生に「英字新聞の基本的な読み方」を一年間かけて分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>春学期14回の履修、或いは秋学期14回の履修では当然ながら社会に出て通用するような英語力はつきません。従って、<b>通年で履修する授業計画となっております。</b></p> <p>次に、<b>外資系企業、航空業界、貿易業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル業界、観光業界</b>等で、英語を使用して働きたいという学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。<b>将来に役立つ実践的なメディア英語の講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。</b></p> <p>具体的に講義を説明いたします。本講義では、プリントを使用して、英字新聞を読む意義、英字新聞の特徴、Headline (見出し) の読み方、(下に続く)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 「英字新聞を読む意義」と「英字新聞の特徴(1)」</li> <li>3. 「英字新聞の特徴(2)」</li> <li>4. 「英字新聞の特徴(3)」</li> <li>5. 「Headlineの読み方実践練習(1)」</li> <li>6. 「Headlineの読み方実践練習(2)」</li> <li>7. 「Headlineの読み方実践練習(3)」</li> <li>8. 「Headlineの読み方実践練習(4)」</li> <li>9. 「Leadの読み方実践練習(1)」</li> <li>10. 「Leadの読み方実践練習(2)」</li> <li>11. 「Leadの読み方実践練習(3)」</li> <li>12. 「Leadの読み方実践練習(4)」</li> <li>13. 「Leadの読み方実践練習(5)」</li> <li>14. 春学期のまとめ</li> </ol> <p>尚、授業の第5回目あたりから、毎回「英字新聞に頻出する語彙練習問題」を実施し、受講生の語彙力増強を図ります。</p> <p>授業計画はあくまで通年で計画しておりますので、大体の目安と考えて下さい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験(90%)を中心にして、これに出席・授業への貢献度(10%)を参考にして総合的に評価する。	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上から続く)</p> <p>Lead(記事の第1節)の読み方などの基本をまず指導していきます。次に、具体的に、社会面・政治面・経済面・国際面の記事の読み方、社説の読み方、コラムの読み方などを勉強していき、英字新聞全体をある程度読みこなす力を養成していきたいと思っています。見出しが読めれば、その記事の50%は理解できたと言ってよいでしょう。また、記事の第1節にはその記事の要約が書かれており、一番重要な部分となっております。従って、「見出し」と「記事の第1節」が理解できれば、その記事を大体理解したことになります。<b>本講義ではこの部分の読み方を徹底的に指導し、英字新聞を読みこなす能力を養成いたします。</b></p> <p>授業の最初に、「英字新聞の読み方のコツ」と称して、大きな問題となったトピックスを紹介し、英字新聞に頻出する語彙等を解説・説明いたします。同時に、「約400語の英字新聞に頻出する基本語彙集」のプリントを配布いたします。更に、「英字新聞に頻出する語彙練習問題」を行い、受講生の語彙力増強を図ります。これにより、秋学期の終わりには、英字新聞をある程度読めるようになっていくと確信しております。一緒に一年間勉強しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 「英字新聞社会面の記事の読み方実践練習(1)」</li> <li>3. 「英字新聞社会面の記事の読み方実践練習(2)」</li> <li>4. 「英字新聞政治面の記事の読み方実践練習(1)」</li> <li>5. 「英字新聞政治面の記事の読み方実践練習(2)」</li> <li>6. 「英字新聞経済面の記事の読み方実践練習(1)」</li> <li>7. 「英字新聞経済面の記事の読み方実践練習(2)」</li> <li>8. 「英字新聞国際面の記事の読み方実践練習(1)」</li> <li>9. 「英字新聞国際面の記事の読み方実践練習(2)」</li> <li>10. 「英字新聞社説の読み方実践練習(1)」</li> <li>11. 「英字新聞社説の読み方実践練習(2)」</li> <li>12. 「英字新聞コラムの読み方実践練習(1)」</li> <li>13. 「英字新聞コラムの読み方実践練習(2)」</li> <li>14. 秋学期のまとめ</li> </ol> <p>尚、授業の3回目あたりから、春学期と同じように毎回「英字新聞に頻出する語彙練習問題」を実施いたします。このように、<b>本講義は「英字新聞丸かじり」の授業です。</b></p> <p><b>また、英語ビジネスコミュニケーションと併せて履修すると、国際コミュニケーションを体系的に学習することができます。</b></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験(90%)を中心にして、これに出席・授業への貢献度(10%)を参考にして総合的に評価する。	

09年度以降	メディア英語Ⅰ（月４）	担当者	岡田 誠一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アメリカ国内でのテレビニュースは、かなり速度がはやい。そこで使われる単語は一音節の短いものが多く、文章としては単文が多用される。また、緊張感・臨場感を持たせるために、不完全な文が使われる傾向がある。このような英語に慣れるため、授業ではDVDを用いて、アメリカのテレビニュースを聞き取る練習をする。何度も繰り返し聞くことによって、ニュースの内容をより多く把握できるようになること、それがこの授業の目標である。</p> <p>また、新聞で使われる英語も一種独特である。これに習熟しないと英字新聞を読むことはできない。この授業では、新聞英語の特徴を理解し、実際に記事を読んで、その特異性に慣れるようにする。</p> <p>更に、ラジオ（AFN）や映画を活用して、ヒヤリングの上達を目指す。</p> <p>意外に難しいのがマンガである。英語圏の文化を熟知していないと完全な理解は難しい。マンガも扱う予定。</p> <p>また、英語らしい英語を書けるようになるにはどうすればよいのか。実は、留学をせずに作文力をアップする方法が存在するのである。翻訳の利用である。</p> <p>つまり、様々なメディアで使われる英語に慣れること、英語を聞き取る力を養うこと、これがこの授業の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の進め方、「英語」の学び方について</li> <li>2 英字新聞の読み方。プリント配布</li> <li>3 Unit 1 オバマ大統領が英語の先生</li> <li>4 Unit 2 ソーダの飲み過ぎに注意</li> <li>5 Unit 3 万能細胞の研究</li> <li>6 新聞切り抜きを読む。マンガの利用</li> <li>7 Unit 4 スーツとイギリス人</li> <li>8 Unit 5 就職先を見つけて</li> <li>9 映画を利用</li> <li>10 Unit 6 パキスタンの子供たちと教育</li> <li>11 Unit 7 オバマ夫人とイギリス</li> <li>12 AFN、翻訳の利用</li> <li>13 映画の活用</li> <li>14 Unit 8 新しい仕事</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>ABC World News 12</i> 金星堂</p> <p>参考書は授業において適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か（20点）、期末の試験（80点）、などにより評価が決定される。</p>	

09年度以降	メディア英語Ⅰ（月４）	担当者	岡田 誠一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の進め方、「英語」の学び方について</li> <li>2 英字新聞の読み方。プリント配布。「例」を読む</li> <li>3 新聞切り抜きを読む。翻訳の活用</li> <li>4 Unit 9 プロムと服装</li> <li>5 Unit 10 遺伝子操作は許されるか</li> <li>6 Unit 11 少女の命と犬</li> <li>7 映画の利用</li> <li>8 Unit 12 ジンバブエの現状</li> <li>9 Unit 13 キャンパスと寄付</li> <li>10 AFN、マンガの利用</li> <li>11 Unit 14 刺激の強いコマーシャル</li> <li>12 Unit 15 不況とテント村</li> <li>13 映画の利用</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同じ		春学期と同じ	

09年度以降	メディア英語 I (木4)	担当者	岡田 誠一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アメリカ国内でのテレビニュースは、かなり速度がはやい。そこで使われる単語は一音節の短いものが多く、文章としては単文が多用される。また、緊張感・臨場感を持たせるために、不完全な文が使われる傾向がある。このような英語に慣れるため、授業ではDVDを用いて、アメリカのテレビニュースを聞き取る練習をする。何度も繰り返し聞くことによって、ニュースの内容をより多く把握できるようになること、それがこの授業の目標である。</p> <p>また、新聞で使われる英語も一種独特である。これに習熟しないと英字新聞を読むことはできない。この授業では、新聞英語の特徴を理解し、実際に記事を読んで、その特異性に慣れるようにする。</p> <p>更に、ラジオ (AFN) や映画を活用して、ヒヤリングの上達を目指す。</p> <p>意外に難しいのがマンガである。英語圏の文化を熟知していないと完全な理解は難しい。マンガも扱う予定。</p> <p>また、英語らしい英語を書けるようになるにはどうすればよいのか。実は、留学をせずに作文力をアップする方法が存在するのである。翻訳の利用である。</p> <p>つまり、様々なメディアで使われる英語に慣れること、英語を聞き取る力を養うこと、これがこの授業の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の進め方、「英語」の学び方について</li> <li>2 英字新聞の読み方。プリント配布</li> <li>3 Unit 1 オバマ大統領が英語の先生</li> <li>4 Unit 2 ソーダの飲み過ぎに注意</li> <li>5 Unit 3 万能細胞の研究</li> <li>6 Unit 4 スーツとイギリス人</li> <li>7 映画を利用</li> <li>8 Unit 5 就職先を見つけて</li> <li>9 Unit 6 パキスタンの子供たちと教育</li> <li>10 新聞切り抜きを読む。マンガの利用</li> <li>11 Unit 7 オバマ夫人とイギリス</li> <li>12 Unit 8 新しい仕事</li> <li>13 AFN、翻訳の利用</li> <li>14 映画の活用</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>ABC World News 12</i> 金星堂 参考書は授業において適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習して授業に臨んだか否か (20点)、期末の試験 (80点)、などにより評価が決定される。</p>	

09年度以降	メディア英語 I (木4)	担当者	岡田 誠一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期と同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業の進め方、「英語」の学び方について</li> <li>2 英字新聞の読み方。プリント配布</li> <li>3 新聞切り抜きを読む。</li> <li>4 Unit 9 プロムと服装</li> <li>5 Unit 10 遺伝子操作は許されるか</li> <li>6 映画の利用</li> <li>7 Unit 11 少女の命と犬</li> <li>8 Unit 12 ジンバブエの現状</li> <li>9 AFN、マンガの利用</li> <li>10 Unit 13 キャンパスと寄付</li> <li>11 Unit 14 刺激の強いコマーシャル</li> <li>12 映画の利用</li> <li>13 Unit 15 不況とテント村</li> <li>14 翻訳の活用</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	小林 愛明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>新聞やインターネット等に掲載されている情報を通じて、様々な「メディア」の英語を読み・聴き・理解する術を習得していく。なお、“軸”としてはまだホットな(?)話題であろうオバマ大統領を中心として展開していく予定。同時にアメリカにおける人種間の軋轢を、映画などを通じて紹介していく。</p> <p>なお、発表を無断で欠席したり、同じ班の人に対して無責任な行動を取ったりした場合には評価対象外となるので要注意。</p>		<p>1. イントロダクション 2～15. メディア英語 (実践)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>① テキストはプリントにて配布。 ② 辞書は毎回必ず持参してくること。 (『リーダーズ英和辞典』レベルのものが望ましい)</p>		<p>出席・発表・学期末のレポートを総合して決める。4回以上欠席した場合やレポートに不備(資料の無断盗用など)がある場合には評価対象外となるので注意。</p>	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	小林 愛明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>新聞やインターネット等に掲載されている情報を通じて、様々な「メディア」の英語を読み・聴き・理解する術を習得していく。なお、“軸”としてはまだホットな(?)話題であろうオバマ大統領を中心として展開していく予定。同時にアメリカにおける人種間の軋轢を、映画などを通じて紹介していく。</p> <p>なお、発表を無断で欠席したり、同じ班の人に対して無責任な行動を取ったりした場合には評価対象外となるので要注意。</p>		<p>1. イントロダクション 2～15. メディア英語 (実践)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>① テキストはプリントにて配布。 ② 辞書は毎回必ず持参してくること。 (『リーダーズ英和辞典』以上のものが望ましい)</p>		<p>出席・発表・学期末のレポートを総合して決める。4回以上欠席した場合やレポートに不備(資料の無断盗用など)がある場合には評価対象外となるので注意。</p>	

09年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

09年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced in the first class		To be announced in the first class	

09年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	P. ネルム
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of the course is to introduce students to the various types of English used in the media world: newspapers, magazines, other printed publications, radio news, TV news, the Internet, blogs, etc. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions, and to submit written papers as requested. There will be a midterm exercise to test students' knowledge to that point, and a final examination or presentation at the end of the term.</p> <p>Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year. Media English II is aimed at students with an advanced-level ability.</p>		<p>1 Introduction, Student Selection</p> <p>2 Class</p> <p>3 Class</p> <p>4 Class</p> <p>5 Class</p> <p>6 Class</p> <p>7 Midterm Quiz/Paper</p> <p>8 Class</p> <p>9 Class</p> <p>10 Class</p> <p>11 Class</p> <p>12 Class</p> <p>13 Class</p> <p>14 Final Examination/Presentation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays/papers/midterm 25%, Final examination/presentation 25%	

09年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	P. ネルム
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of the course is to introduce students to the various types of English used in the media world: newspapers, magazines, other printed publications, radio news, TV news, the Internet, blogs, etc. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions, and to submit written papers as requested. There will be a midterm exercise to test students' knowledge to that point, and a final examination or presentation at the end of the term.</p> <p>Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year. Media English II is aimed at students with an advanced-level ability. Preference will be given to students taking the first-semester course as well.</p>		<p>1 Introduction</p> <p>2 Class</p> <p>3 Class</p> <p>4 Class</p> <p>5 Class</p> <p>6 Class</p> <p>7 Midterm Quiz/Paper</p> <p>8 Class</p> <p>9 Class</p> <p>10 Class</p> <p>11 Class</p> <p>12 Class</p> <p>13 Class</p> <p>14 Final Presentation/Examination</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials to be handed out in class weekly.		Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays/papers/midterm 25%, Final examination/presentation 25%	

09年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	東郷 公德
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
英字新聞の記事を読む。いろいろな内容の報道記事や特集記事を読むことを通して一般社会で必要とされる英語の語彙力を養成する。予習してきた事を確認するために、毎回簡単な単語テストを行う。教材については、次の授業で使う記事のコピーを毎回配布するので、出来るだけ欠席しないことが大切である。授業では英文記事を和訳しながら内容理解に努めたい。		毎回、授業の初めに単語小テストを行う。授業では主に和訳をしながら記事を読み進める。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		主として単語小テストの結果の平均点により評価する。	

09年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	東郷 公德
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		主として単語小テストの平均点により評価する。	

09年度以降	シネマ英語	担当者	岡田 誠一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>百年前の映画も、ビデオで日常的に観ることができる世の中となった。こういう時代に生きて、「映画」を放っておくことはないと思う。芸術、教養として、また、娯楽として、映画をもう一度考え直してみる必要があるのではないだろうか。この授業では、映画に関する様々なことを学んでいく。そして、映画の歴史について学ぶことにより、アメリカ文化についての理解を深めるのが、この授業の目標の一つである。</p> <p>授業では、テキストの精読だけでなく、他の参考書（抜粋のプリント）もできる限り用いる予定。英語を読む力を培うのがこの授業のもう一つの大きな目標である。</p> <p>また、出来るだけビデオを利用して、映画について様々なことを学んで行く予定。少なくとも、映画が嫌いでない、できれば、映画が好き、という人に受講してもらいたい。</p>		<p>（初期の映写機；映画の誕生；特殊効果はどのようにして生まれたか；最初のスタジオ；トーキーの出現；初期のハリウッド；30年代に活躍した俳優たち）などについて学ぶ計画。</p> <p>また、過去の名画を数本鑑賞の予定である。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『楽しい映画文化史』 成美堂		出席回数、予習をして授業に臨んだか否か、試験、などによって総合的に評価する。	

09年度以降	シネマ英語	担当者	岡田 誠一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
前期と同じ。		<p>（ハリウッドとスター・システム；検閲とヘイズコード；カラー映画の出現；アニメ映画の製作；セルの活用；ディズニー映画）などについて学んで行く予定。</p> <p>前期同様、過去の名画を鑑賞する計画である。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『楽しい映画文化史』 成美堂		出席回数、予習をして授業に臨んだか否か、試験、などによって総合的に評価する。	

09年度以降	シネマ英語	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：</p> <p>公開後 60 年を経ても今尚その輝きを失わない名画、「カサブランカ」。(アカデミー賞受賞) 第二次世界大戦のヨーロッパ、モロッコを舞台に繰り広げられる物語をDVDで観賞し、生き生きとしたオーセンティックな使える英語を学び、発表などを通じて実際に使えるようにしていきます。時代的背景の中で深みのある台詞でつづられていくストーリーを楽しみながら学べると思います。</p> <p>講義概要：</p> <p>DVD を見てスクリプトをよく理解し、Exercise で確認します。チャプターごとに好きな表現を選び、ペアでスキットを作成し発表して、生きた英語を身につけていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Unit 1. I'll Die in Casablanca</li> <li>3. Unit 2. Where Were You Last Night?</li> <li>4. Unit 3 Yeah? What's His Name? Afternoon Tea Break 1</li> <li>5. Unit 4. Play "As Time Goes By"</li> <li>6. Unit 5. Here's Looking at You, Kid.</li> <li>7. Unit 6. Kiss Me As If It Were the Last Time Afternoon Tea Break 2</li> <li>8. Unit 7. Your Story Had Me a Little Confused</li> <li>9. Unit 8. Nobody Ever Loved Me That Much</li> <li>10. Unit 9. This Café Is Closed Until Further Notice! Afternoon Tea Break 3</li> <li>11. Unit 10. I Wish I Didn't Love You So Much</li> <li>12. Unit 11. She Isn't Just Any Woman</li> <li>13. Unit 12. We Always Have Paris</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ed. by Hiromi Akimoto/Mayumi Hamada. <i>Casablanca -- Cool and Unforgettable English</i> . Macmillan Languagehouse, ¥2500 +税		出席状況、授業への参加度、宿題、発表、エッセイ提出等から総合的に評価します。授業中のプレゼンテーションも重要視しますので、出席は最も重要。	

09年度以降	シネマ英語	担当者	門倉 弘枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：</p> <p>3 つの有名なアメリカ映画、マーガレット ミッチェルの「風と共に去りぬ」、ルイザ メイ オルコットの「若草物語」、ライマン フランク ボームの「オズの魔法使い」をどうしてアメリカの歴史的、社会的、文化的背景を理解し、アメリカの心を感じることが出来れば嬉しいと思います。</p> <p>講義概要：</p> <p>DVD を観て、練習問題をして内容の理解を確認します。それからその場面場面にちりばめられた多くの英語表現を学び、それらの表現を使い各自スキットを作成して発表することにより実際に使えるようにしていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. "Gone With the Wind" Unit 1. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review</li> <li>3. Unit 2. Same as Above</li> <li>4. Unit 3. "</li> <li>5. Unit 4. Vocabulary Exercises/Scene 1,2, 3/Summary</li> <li>6. "Little Women" Unit 5. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review</li> <li>7. Unit 6. Same as above</li> <li>8. Unit 7. "</li> <li>9. Unit 8 Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Summary</li> <li>10. "The Wizard of Oz" Unit 9. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review</li> <li>11. Unit 10. Same as Above</li> <li>12. Unit 11. "</li> <li>13. Unit 12. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/ Summary</li> <li>13. まとめ (1)</li> <li>14. まとめ (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ed. by M. Ishizuka, M. Kobayashi, M. Maass, M. Nagasaki. <i>American Spirits in Movies</i> . Seibido. ¥2400.		春学期に同じ。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム交流論	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ツーリズムによる交流が持つ力は、国際収支改善、雇用促進、地域開発等の経済的側面のみならず社会、文化、教育、環境、国際親善など非常に広範囲な分野に強い影響力を及ぼしていることを学習する。</p> <p>講義概要 わが国の国家戦略としての観光立国政策を理解し、日本における国際観光の意義、国際観光の歴史的経緯を学びながら、経済的、文化的、社会的側面を考察し、その重要性を認識すること、日本人の海外旅行者数と訪日外国人旅行者数のアンバランスは重大問題として学習する。訪日外国人旅行者の動向、日本の観光魅力、主要国の国際観光の状況と日本との交流、国際観光マーケティングについても理解を深める。</p> <p>講義では、流動的な旅行業界や航空業界の動き等々、観光関連報道記事を適宜取り上げたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 国際観光の推移と概況</li> <li>3. 訪日外国人旅行者誘致の歴史</li> <li>4. 日本のソフトパワーと観光</li> <li>5. ソフトパワーとしての国家の観光魅力</li> <li>6. 国際観光立国の今日的意義</li> <li>7. インバウンド観光（訪日外国人）の現状</li> <li>8. 国際観光と観光マーケティング</li> <li>9. 観光立国推進基本法と実施策（VJC）</li> <li>10. インバウンド振興と観光政策</li> <li>11. 日本の海外旅行市場動向</li> <li>12. 日本の海外旅行市場振興</li> <li>13. 国際観光の展望</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。</p> <p>参考文献：適宜指示する。</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム・リスク論	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。 授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。 国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースは授業の前半で見ますが、後半は国際ツーリズム・リスクに関連したトピックを取り上げます。以下のようなトピックを予定しています。</p> <p>(1) エアライン時刻表を読む (2) 海外旅行パンフレットを読む (3) ディズニー映画「カリブの海賊」を見る (4) ソマリア海賊の BBC ニュースを見る (5) スパイ映画「007」を見る (6) コーヒー・紅茶・スパイスと海賊 (7) 宝石・ダイヤモンドと国際テロ</p>		<p>1 エアライン時刻表の読み方 2 海外旅行パンフレットの読み方 3 ディズニー映画「カリブの海賊」を見て解説 4 ディズニー映画「カリブの海賊」を見て解説 5 海賊 6 海賊 7 海賊：コーヒー・紅茶・スパイス 8 ソマリア海賊の BBC ニュースを見る 9 まとめ 10 スパイ映画「007」を見て解説 11 テロネットワーク 12 テロネットワーク 13 テロネットワーク：宝石とダイヤモンド 14 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは最初の授業でお知らせします。		評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

09年度以降	ツーリズム文化論	担当者	太田 勉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>2008年の観光庁発足に象徴されるように、ツーリズムの振興は国家的戦略目標になっています。独自の豊かな文化を持つ国々や地域は多数の人々をひきつけてやみません。文化は国や地域の歴史、伝統、人々の行動様式や価値観の表れでもあります。オランダやラスベガスにみられる巨大ツーリズム産業の成立は、アメリカの開拓者精神を抜きには語れません。アジア各地に展開する香港系高級ホテルチェーンの成功も、華人文化に脈々と流れる事業家精神の基礎の上に築かれています。</p> <p>若い世代の海外旅行離れは日本のツーリズム衰退につながる危険性をはらんでいます。メディアの発達により、海外の事情をいながらにして知ることが出来る時代になりました。東アジアの若い世代は、さまざまなメディア情報に触発され、海外を目指します。日本の同世代は疑似体験に満足し、内にこもります。自らの旅行体験に根ざした、グローバルな視野を持った若い世代が育つことが、インバウンド、アウトバウンドに限らず、日本のツーリズム振興にとって重要だと考えます。こうした考えに基づき講義を進めたいと思います。外国の基本的な地名、人名等の正しい英語表記使用を含め、一般授業を通じて英語力の裾野を広げる機会を提供するのも本講義のねらいの一つです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インバウンドツーリストに見るツーリズム文化</li> <li>2. インターネットとツーリズム</li> <li>3. 外国政府観光局のツーリズムプロモーション</li> <li>4. アメリカのツーリズム文化</li> <li>5. 大自然の魅力を最大限に引き出し、環境にも配慮するアメリカの国立公園行政</li> <li>6. オランダやラスベガスに見る、巨大ツーリズム産業の成立</li> <li>7. クルージングを楽しむ人々</li> <li>8. 世界で宿泊産業をリードするホテルチェーン</li> <li>9. アジアのツーリズムを支える頭脳集団</li> <li>10. 旧暦の正月こそ本当の正月、東アジアの華人文化</li> <li>11. 植民地遺産を活かす香港のツーリズム</li> <li>12. アジアの大衆文化とツーリズム</li> <li>13. 琉球文化とアメリカ文化の混合が独自の魅力を作り出す沖縄</li> <li>14. 国家の総合力を試される MICE ツーリズムの行方</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
なし		小テスト2回(40%)と期末試験(60%)を実施します。出席日数が少ない場合減点対象とすることがあります。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム・メディア論	担当者	高橋 利男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、「ツーリズムとメディアの係わり方」をテーマに、メディアを通して、ツーリズム産業を俯瞰（ふかん。高所から見渡すこと。）し、その動向全体を把握する中で、その課題と方向性について検討すること、さらにはその新たな潮流の可能性について考えることです。</p> <p>講義内容としては、旅行業及び航空・宿泊等の関連産業について、新聞・業界紙等のメディアを通して、企業の広報・広告、消費者（旅行者）ニーズ、地域活性化等の様々な視点から、事例研究します。</p> <p>海外旅行、国内旅行、訪日旅行及び新しいツーリズムの各分野にわたり幅広く事例を取り上げ、時にはその表面と裏面についても比較研究することにより、ツーリズム産業を展望するにあたり必要な様々な基礎知識を習得するとともに、課題考察力を養うことを主眼としています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. ツーリズム・広報から見たメディア(1)</li> <li>3. ツーリズム・広報から見たメディア(2)</li> <li>4. ツーリズム・広報から見たメディア(3)</li> <li>5. ツーリズム・販売促進から見たメディア(1)</li> <li>6. ツーリズム・販売促進から見たメディア(2)</li> <li>7. ツーリズム・販売促進から見たメディア(3)</li> <li>8. メディアから見たツーリズム(1)</li> <li>9. メディアから見たツーリズム(2)</li> <li>10. メディアから見たツーリズム(3)</li> <li>11. 業法・約款から見たツーリズム(1)</li> <li>12. 業法・約款から見たツーリズム(2)</li> <li>13. 業法・約款から見たツーリズム(3)</li> <li>14. 講義のまとめ (日次の順序は前後します)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
新聞・業界紙等の記事コピー等		評価方法：期末定期試験（80％）＋平常授業における課題レポート等（20％）＝100点満点	

		担当者	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム・マネジメント論	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> ツーリズム産業におけるマネジメントの基本であるマーケティングの基本概念や、観光市場調査の方法、観光行動の分析、観光需要予測、商品企画等をマーケティングの側面より学習する。</p> <p><b>講義概要</b> ツーリズム産業のマーケティングに関して、需要予測、市場分析、環境分析、価格戦略、販売促進戦略等のマーケティング手法を基に、各分野の具体的な事例を検証する。旅行業では旅行ブランドの実態、ブランドの定義、機能、確立条件、旅行商品とブランド等、ブランドに焦点を絞り考察する。又、宿泊業、航空業、観光地のマーケティング戦略について学習し、ツーリズム産業におけるマーケティングの重要性を理解する。</p> <p>講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. マーケティングの定義</li> <li>3. 需要予測・ニーズとウォンツ</li> <li>4. 購買意思決定プロセス</li> <li>5. 市場分析・セグメンテーション</li> <li>6. マーケティングの環境分析とは（SWOT分析）</li> <li>7. 市場成長率・相対的市場</li> <li>8. 旅行商品の流通チャネル</li> <li>9. マーケティングと価格戦略</li> <li>10. ブランド構築</li> <li>11. 販売促進戦略</li> <li>12. マーケティングリサーチ</li> <li>13. マーケティングの社会的役割</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：観光マーケティング入門（森下昌美）同友館 その他、適宜指示する。</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	国際会議・イベント事業論	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。</p> <p>講義概要 なぜ人は集うのか、その核心部分を探ることから始まり、国際会議やイベントとは何か、歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。</p> <p>講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. イベント・コンベンションの発生と発展</li> <li>3. イベント・コンベンションとは①</li> <li>4. イベント・コンベンションとは②</li> <li>5. 世界と日本のイベント・コンベンション動向</li> <li>6. イベント・コンベンションの仕組みと実務①</li> <li>7. イベント・コンベンションの仕組みと実務②</li> <li>8. イベント・コンベンション産業①</li> <li>9. イベント・コンベンション産業②</li> <li>10. イベント・コンベンションの施設と付帯設備</li> <li>11. コンベンション・ビューローの役割と機能</li> <li>12. イベント・コンベンションの推進機関</li> <li>13. イベント・コンベンションの課題と展望</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：イベント&amp;コンベンション概論（JTB能力開発）その他は適宜指示する。</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム政策論	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 観光政策と行政、観光に関する政府の具体的な施策、行政組織や「観光立国推進基本法」を学習することにより「観光立国」を目指す観光政策への理解を深める。</p> <p><b>講義概要</b> 国際観光推進による外貨獲得と国際理解の増進は、わが国のみならず諸外国においても重要な国の政策である。観光現象は経済的、政治的、文化的に強い影響力を社会に及ぼし、近年は自然景観や環境との関係も注視されている。多様で影響力の強い観光現象に対して、国や地方自治体等の行政機関がどう関わるかはそれぞれの観光政策に基づいていることを理解する。 わが国の観光政策を明治時代から現代まで、それぞれの時代の状況に応じてどんな政策が講じられたかを学ぶことにより、なぜ今、観光立国を国策とすることの意味を認識する。併せて、観光行政組織や関連法規についても学習する。</p> <p>講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p>		<p><b>講義の概要</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観光政策とは</li> <li>2. 観光政策の課題①国際観光の推進・外貨獲得・国際理解</li> <li>3. 観光政策の課題②国民の余暇と観光の健全な発展</li> <li>4. 観光政策の課題③地域振興としての観光開発</li> <li>5. 観光政策の変遷①明治時代・大正時代の観光政策</li> <li>6. 観光政策の変遷②昭和時代の観光政策（戦前・戦後）</li> <li>7. 観光政策の変遷③昭和時代の観光政策（海外旅行自由化と促進策）</li> <li>8. 観光政策の変遷④昭和時代の観光政策（貿易外収支改善とテンミリオン計画）</li> <li>9. 観光政策の変遷⑤昭和時代の観光政策（総合保養地整備法と内需拡大）</li> <li>10. 現代の観光政策①観光立国推進とV J C</li> <li>11. 現代の観光政策②観光立国推進基本法</li> <li>12. 観光の行政組織・観光庁と政府観光局</li> <li>13. 観光の関連法規</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：観光学入門（岡本伸之）有斐閣、観光行政と政策（進藤敦丸）明現社、その他適宜指示する。</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

09年度以降	旅行・宿泊産業論	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b>          ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。</p> <p><b>講義概要</b>          旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。旅行業の発展経緯と機能役割、マーケティングについて重点的に学習する。IT時代における旅行ビジネスの実態と今日的課題及び将来像についても把握する。          宿泊産業では旅館を含む全体の概略を学習するが、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホスピタル産業としての側面よりホテル業のサービスの実態についても学習する。</p> <p>講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 旅行業の沿革①</li> <li>3. 旅行業の沿革②</li> <li>4. 旅行会社の意義と役割</li> <li>5. 旅行会社の分類と商品</li> <li>6. 旅行会社の業務</li> <li>7. 旅行業界の現状と課題・展望</li> <li>8. 宿泊業の沿革</li> <li>9. 宿泊業の概要</li> <li>10. ホテル業の種別           <ol style="list-style-type: none"> <li>11. ホテル業の運営経営形態</li> <li>12. ホテル業のサービス</li> <li>13. ホテル業界の現状と・展望</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol> </li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	航空産業論	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 国際観光事業において重要な役割を担う国際航空産業は、各国の経済力や政策に左右される国際政治の影響を受けやすい。国際航空業の仕組みや成り立ちを、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れを学習することにより把握する。併せて、わが国の航空政策の現状と課題、及び将来の展望について理解する。</p> <p><b>講義概要</b> 国際線運航の原則、航空の国際的組織、国際航空の潮流、わが国の航空政策等々を学習することにより、国際航空運送の仕組みを理解する。又、各国の航空規制緩和がもたらした航空業界の変革について、アメリカの航空政策の規制緩和を中心に学習する。殊に、ローコストキャリア（新規低運賃航空会社）の台頭が著しい欧米、アジアの現状を検証する。一方、羽田の国際化問題で揺れるわが国の航空運送の現状について、空港問題を中心に航空政策の課題についても触れ、今後の展望を学習する。</p> <p>講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 国際線運航の原則 <ol style="list-style-type: none"> <li>①領空主権主義と運輸権</li> </ol> </li> <li>3. 国際線運航の原則 <ol style="list-style-type: none"> <li>②シカゴ条約と空の自由</li> </ol> </li> <li>4. 航空の国際的組織 ICAO と IATA</li> <li>5. 米国の航空規制緩和</li> <li>6. 航空規制緩和と LCC（ロー・コスト・キャリア）</li> <li>7. 米国の新規航空企業 <ol style="list-style-type: none"> <li>①サウスウエスト航空の事例</li> </ol> </li> <li>8. 米国の新規航空企業 <ol style="list-style-type: none"> <li>②サウスウエスト航空の事例</li> </ol> </li> <li>9. 航空経営戦略の潮流（ハブ・アンド・スポークとアライアンス）</li> <li>10. 日本の航空政策と規制緩和</li> <li>11. 日本の航空業の現状（JAL・ANA・新規企業）</li> <li>12. 日本の空港の現状と課題①</li> <li>13. 日本の空港の現状と課題②</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：航空産業入門（ANA総合研究所）東洋経済新報社、航空事業論（井上泰日子）日本評論社</p>		試験結果と授業への参加度等を総合的に判断する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	サステイナブル・ツーリズム論	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サステイナブル・ツーリズム論」の講義を行います。ただし、「市民参加のまちづくり論」未受講生も全く問題なく受講することができます。</p> <p>近年、環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。</p> <p>本講義は、「サステイナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローバルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えていきます。</p> <p>なお、サステイナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサステイナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. マスツーリズムとサステイナブルツーリズム</li> <li>3. 開発と持続可能性概念</li> <li>4. 開発と持続可能性概念（続き）</li> <li>5. 地球環境問題</li> <li>6. 自然・環境思想（国立公園・ナショナルトラスト・世界遺産）</li> <li>7. エコツーリズム（歴史と概説）</li> <li>8. エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例）</li> <li>9. エコミュージアム（歴史と概説）</li> <li>10. LOHAS（ロハス）と観光</li> <li>11. 欧米のグリーンツーリズム</li> <li>12. 日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開）</li> <li>13. グリーンツーリズムの二面性と矛盾</li> <li>14. アクセシブル観光（ユニバーサル交流）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。</p>		<p>期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	オルタナティブ・ツーリズム論	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。</p> <p>なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。</p> <p>なお、毎回小レポートを課すので、注意されたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>趣旨説明</li> <li>オルタナティブ・ツーリズムの背景</li> <li>ビデオ上映(ジャマイカの観光開発)</li> <li>場所性の商品化—アマンリゾーツの戦略</li> <li>環境主義の商品化—エコリゾート</li> <li>世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバン の事例</li> <li>世界遺産と観光 2—中国・麗江 の事例</li> <li>ビデオ上映 (バックパッカーの窮状)</li> <li>先住民と観光—北米イヌイットの事例</li> <li>先住民と開発—開発的遭遇</li> <li>先住民と環境主義</li> <li>コミュニティ・ベース・ツーリズム 1—タイ北部の事例—</li> <li>コミュニティ・ベース・ツーリズム 2—ソロモン諸島の事例—</li> <li>まとめ・予備日</li> </ol> <p>(なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。	

09年度以降	ツーリズム人類学	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする際の方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。</p> <p>本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明</li> <li>2. グローバリゼーションの民族誌1</li> <li>3. グローバリゼーションの民族誌2</li> <li>4. 観光の誕生</li> <li>5. ビデオ上映</li> <li>6. 表象の政治学—情報資本主義と観光</li> <li>7. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史</li> <li>8. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生</li> <li>9. 文化装置としてのホテル</li> <li>10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例</li> <li>11. セックス・ツーリズム—タイの事例</li> <li>12. 少数民族と観光—タイの事例</li> <li>13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」</li> <li>14. まとめ・予備日</li> </ol> <p>(なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。随時、文献リストを配布します。		授業毎のレスポンスペーパー+小レポート(50%)、期末テスト(50%)	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ツーリズム地誌論	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における1泊2日の研修旅行を通じて、世界各地のツーリズムに関連する幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指す。</p> <p>リトルワールドには、22カ国、33の地域・民族の家屋や生活道具が移築・復元されている。受講者は、複数のグループに分かれ、そのなかから1つの地域・民族を選び、それぞれの地域や民族の文化や習慣について、事前に資料収集を行なう。そして、こうした文献調査を踏まえた上で、研修旅行では、各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらう。さらに、これらの文献調査・研修旅行の成果を踏まえた上で、学期末に報告書を作成する。</p> <p>本講義は、リトルワールドにおける実習を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となる。またグループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備に積極的に参加できる者のみ履修を認める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>趣旨説明・グループ分け</li> <li>講義(2回) 文化の収集と展示の歴史、芸術—文化システム論など異文化展示・博物館論に関する基礎的な概念についての紹介。</li> <li>発表・議論(3~4回) 各グループによる、発表計画・中間報告。</li> <li>研修旅行 11月13(土)日、14(日)日に実施予定。費用は往復新幹線利用で3.5万円程度(飲食費は除く)。</li> <li>発表・議論(6回) 文献資料・博物館での実習を踏まえた、成果報告についての発表。</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。		研修旅行での案内、授業におけるプレゼンテーション、期末レポート、議論への参加度などをふまえて、総合的に評価する。	

09年度以降	市民参加のまちづくり論	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。</p> <p>まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。</p> <p>教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 地域の発展を理解するための視座</li> <li>3. 内発的発展と外来型開発</li> <li>4. 組織・制度化 (institutionalization)</li> <li>5. 住民参加(participation)の意義と多義性</li> <li>6. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ</li> <li>7. 内発的発展におけるキーパーソン</li> <li>8. 共益から公益の創出へ：NYと東京のドッグランを例として</li> <li>9. コミュニティマネー（ビデオ、坂本龍一『地域通貨の未来』）</li> <li>10. コミュニティ開発とコミュニケーションエラー：インドネシアでのNGO援助を事例として</li> <li>11. 過疎地の地域づくりと外部者のまなざし</li> <li>12. 多文化共生と地域づくり</li> <li>13. まちづくりと観光（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』）</li> <li>14. 大学とまちづくり</li> <li>15. まとめ：「まちづくりは人づくり」</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※各自で購入してください</p>		<p>期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。</p>	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	フィールドワーク論	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「江戸・東京・Tokyo」をテーマに、フィールドワークと呼ばれる学問的営みを、実践的に身につけることを目的としている。人類学者・社会学者・地理学者・建築学者などによって書かれたテキストを参考にして、実際に東京の街を歩き、東京という都市の成り立ちや人々の営みなどについて「解説」を行なう。</p> <p>受講者は複数のグループに分かれ、担当教員が指定した5～6つのコースを1つ選択し、5月から6月の週末に一緒に歩いてもらう(実費負担)。そして町歩きの結果について、各々のコースに関連する文献資料の収集・議論を踏まえた上で、学期末にグループ発表を行なう。</p> <p>なお本講義は、グループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備・街歩きの実習に積極的に参加できる者のみ履修を認める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>趣旨説明・グループ分け</li> <li>各町歩きコースに関する講義・解説(5～6回) <ol style="list-style-type: none"> <li>山の手と下町 <ul style="list-style-type: none"> <li>城北地区(本郷、上野、浅草)</li> <li>城南地区(赤坂、六本木)</li> </ul> </li> <li>ウォーターフロントから「新」下町へ <ul style="list-style-type: none"> <li>深川、佃、月島</li> </ul> </li> <li>「おばあちゃんの原宿」 <ul style="list-style-type: none"> <li>巣鴨</li> </ul> </li> <li>繁華街の過去・現在・未来 <ul style="list-style-type: none"> <li>渋谷</li> </ul> </li> <li>エスニック・タウン <ul style="list-style-type: none"> <li>新宿、新大久保</li> </ul> </li> <li>ジブリ映画の舞台ニュータウン <ul style="list-style-type: none"> <li>多摩ニュータウン</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>各グループの発表・議論(5～6回)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。随時、プリントや文献リストを配布します。		授業での発表・議論への参加度(50%)、学期末レポート(50%)	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	インターンシップ	担当者	遠藤 充信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b>          在学中に自らの専攻、将来のキャリア形成に関連した就業体験を行うことで、働くことの意義や、実社会の現状の理解と自己の職業への適応力等を学習し、併せて、その経験を踏まえて自己の人生（キャリア）をどのように形成していくかを考える。</p> <p><b>講義概要</b>          この講義は、事前学習としての9回の講義と、夏休みに行う実習、9月に実施する5回（2日～3日）の事後学習としての報告会から構成されている。          事前学習は、インターンシップの意義と目的を理解し、効果的に実習が受けられるようにする。          社会人としての常識や企業で仕事をするものの意義や遵守すべき事項等の一般論と、ツーリズム産業を構成する各業界の現状と業務内容や課題と将来像に関する講義を行う。          報告会では、実施報告書、日誌に基づき、実習で得た様々な体験とそこから学んだことに関する発表と議論を行う。          報告会で得た各々の情報を全員が共有することにより各人のキャリア形成に役立てるようにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. インターンシップの実際</li> <li>3. ツーリズム産業で働くということ</li> <li>4. 企業としての旅行業界</li> <li>5. 企業としての宿泊業界</li> <li>6. 企業としての航空業界</li> <li>7. 企業としてのエコツーリズム業界</li> <li>8. 公的機関としての政府観光局業務</li> <li>9. インターンシップ実習前の心得 インターンシップ実習・国内・海外 （夏季休暇の2～3週間）</li> <li>10. 報告会</li> <li>11. 報告会</li> <li>12. 報告会</li> <li>13. 報告会</li> <li>14. 報告会とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。		実施報告書、日誌、発表会内容等を総合的に判断する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	トランスナショナル文化論	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[講義目的] 異文化理解の一環として、文化が国境を越えて、トランスナショナルに交流し、また、変容していくさまを、民族、ジェンダー、文化的アイデンティティの構築のプロセスとして理解する。</p> <p>[講義概要] 社会学、人類学、文化研究、ポストコロニアル研究などの知見をふまえ、学際的、複眼的なアプローチをおこなう。テキストはあくまでも出発点であり、毎回の授業では、現代の地球社会が直面している多様な問題を紹介しながら、文化のトランスナショナルな側面を考えていく。</p>		<p>第1回：イントロダクション 第2回：基本概念 第3回：グローバル・エスノスケープ 第4回：世界都市 第5回：研究方法と実践 第6回：歴史的視座 第7回：アイデンティティの問題： 民族とナショナリズム 第8回：アイデンティティの問題： ジェンダーとセクシュアリティ 第9回：アイデンティティの問題： モダニズムとポストモダニズム 第10回：文化と芸術 第11回：移民、ツーリズムと共同体 第12回：国境と宗教 第13回：理念、価値の分散 第14回：グローバル社会とトランスナショナリズム 第15回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： Steven Vertovoc <i>Transnationalism</i>, Routledge, 2009. 参考書：適宜紹介する</p>		<p>毎回授業終了時に提出してもらいリアクション・ペーパーと、学期末試験の合計による。なお、3回以上欠席した者に単位は認められない。</p>	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	トランスナショナル・メディア論	担当者	コーディネーター 永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は交流文化学科、ならびに英語学科所属の専任教員によるオムニバス形式の授業である。ここではメディアを、新聞やテレビに限定せず、小説、映画、広告、インターネット、その他あらゆる情報伝達の媒体（手段）を含めたより幅広いものとして捉える。そのうえで、各国または各地域の、もしくは国境を越えた、さらには地球規模で見た、メディアを通じた文化、歴史、言語、情報・科学技術、環境、政治、経済、社会現象などのインターフェースについて、各教員が専門の立場から論じるものである。</p> <p>同科目を通じて交流文化学科の学生が、英語学科ならびに交流文化学科の教員を知る良い機会ともなるであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 9月29日、永野隆行「オリエンテーション」</li> <li>2. 10月6日、竹田いさみ「CNNとBBC：トランスナショナル・TVメディア」</li> <li>3. 10月13日、片山亜紀「妊娠小説の国際比較」</li> <li>4. 10月20日、佐野康子「映像から見るアフリカ：グローバル化のもたらすもの」</li> <li>5. 10月27日、須永和博「Covering Other Cultures: メディアと異文化表象」</li> <li>6. 11月3日、町田喜義「日韓のTVドラマについて」</li> <li>7. 11月10日、N. ジョスト「Media Literacy in a Global Context」</li> <li>8. 11月17日、前沢浩子「Reel Britannia : シェイクスピア俳優とハリウッド映画」</li> <li>9. 11月24日、原成吉「ロック・ミュージックから見たベトナム戦争」</li> <li>10. 12月1日、島田啓一「アメリカのユダヤ系作家たち」</li> <li>11. 12月8日、金子芳樹「ブログとYouTubeが変える政治と社会」</li> <li>12. 12月15日、永野隆行「冷戦とメディア：国際関係の現実がどう作られたのか」</li> <li>13. 12月22日、高橋雄一郎「オーストラリアと多元文化主義」</li> <li>14. 1月12日、北野収「国際協力の表象と認識」</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員から適宜紹介されます。		出欠ならびに学期末試験（マークシート方式）による。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	メディア・ライティング論	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「人に読ませる文章」を書くには、どのような訓練・思考・実践が必要なのかを論じる。マスコミ、メディア業界を志望する者のみならず、一般常識として必要とされる企画・起案書、報告書など、社会人として当然知識を備えているべき文書の書き方も講義する。実戦的な記事・文書執筆、その編集・校正・校閲などを、受講者に参加させる形で講義する。</p>		<p>実際の受講者数を見た上で授業のやり方・進め方を決める。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		未定（履修する学生の人数によって決定する）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	パフォーマンス研究	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] パフォーマンスをより広い視野で捉え、トランスナショナルな立場から分析して、異文化理解に役立てる。</p> <p>[講義概要] 芸能・舞台芸術に限らず、世界のさまざまな地域の宗教儀礼や、国家の式典、オリンピックや万博などのイベント、ツーリズム、日常生活におけるパフォーマンスなどについて、学際的に学ぶ。</p>		<p>第1回：イントロダクション 第2回：パフォーマンスとは何か 第3回：パフォーマンス研究とは何か 第4回：パフォーマンス研究の学問的構成 第5回：宗教祭祀の比較研究 第6回：世俗儀礼の比較研究 第7回：パフォーマンスと民族誌 第8回：パフォーマンスと遊戯 第9回：国際的パフォーマンス 第10回：アイデンティティとパフォーマンス 第11回：グローバリゼーションとパフォーマンス 第12回：演劇的パフォーマンスの比較研究 第13回：パフォーマンスとパフォーマンスティヴィティ 第14回：パフォーマンスと現代思想 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：鈴木健・高橋雄一郎編著『クリティカル・カルチュラル・スタディーズ—パフォーマンス研究のキーワード』大阪、世界思想社、2010（予定）。 Richard Schechner, <i>Performance Studies: An Introduction</i>, New York: Routledge, 2006. 参考書：高橋雄一郎『身体化される知』東京、せりか書房、2005.</p>		授業中に数回実施する小テストと、学期末に提出するレポートの合計による。	

09年度以降	表象文化論	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>[講義目的] 表象 (representation) と文化の関係を考察する。</p> <p>[講義概要] テキストには、カルチュラル・スタディーズの主要な論客である Stuart Hall が、イギリスの Open University のために編纂した、<i>Representation: Cultural Representations and Signifying Practices</i> (London: Sage, 1997) から抜粋 (pp. 13-74) を用いる。</p> <p>テキストは図書館の指定図書になっているので、各自でコピーするか、講義支援システムからダウンロードすることもできる。(但し、登録期間終了までは、各自のアカウントからは入れないので、高橋雄一郎の教員名から、授業科目を探すこと。)</p> <p>昨年度、英語学科の「英語圏の文学・文化特殊講義 a (高橋)」で単位を修得した学生は、内容が重複するので、履修が認められない。</p>		<p>第1回：セクション1 第2回：同上 第3回：同上 第4回：同上 第5回：同上 第6回：セクション2 第7回：同上 第8回：同上 第9回：セクション3 第10回：同上 第11回：セクション4 第12回：同上 第13回：同上 第14回：同上</p> <p>初回の授業には 15 分から 19 分上半分までを予習しておくこと。初回から実質的な授業をおこなうので、充分注意して出席すること。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
上記テキスト以外の参考文献は、授業時に適宜、紹介する。		授業への積極的な参加と、課題による。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	開発文化論	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバルとローカルなものへの対抗・交渉は現代社会を考える重要な視座の1つです。</p> <p>近年、alternative (もう1つの) という言葉を時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。</p> <p>この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の最新の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。</p> <p>開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p> <p>(参考文献)  W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 開発と文化変容 (ビデオ『ラダック：懐かしい未来』)</li> <li>3. 社会的構築物としての貧困とポスト開発思想</li> <li>4. ある女性NGOワーカーの遍歴と教訓</li> <li>5. フェアトレードの父の思想と哲学</li> <li>6. 伝統文化と教育・学び</li> <li>7. グローバル化・伝統・ジェンダー</li> <li>8. 宗教と社会開発NGO</li> <li>9. 地域メディアとアイデンティティ戦略</li> <li>10. コミュニティと外部を結ぶ人材</li> <li>11. 開発ワーカーと異文化適応 ※教室内ワークショップ</li> <li>12. 構造調整と農民・先住民の自己防衛</li> <li>13. 巨大開発計画と地域住民・NGO</li> <li>14. 文化変容とグローバル公共空間</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
(テキスト) 北野収『南部メキシコの内発的発展とNGO』勁草書房。※各自で購入してください (参考文献) 上欄を参照。		期末試験 (60%)、平常授業による課題レポートなども評価対象 (40%)。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	トランスナショナル社会学	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の<u>実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」<u>概念の可能性を考える</u>こと、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目し、グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。</p> <p>関連する理論・言説について講義するとともに、外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 社会学とはどのような学問か</li> <li>3. 国家と社会との関係、トランスナショナリズムとは</li> <li>4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア</li> <li>5. 国境・国民概念②：知られざる漂泊民サンカの末路</li> <li>6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム</li> <li>7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容</li> <li>8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰</li> <li>9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史</li> <li>10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達</li> <li>11. アイデンティティ①：在日学生の手記（その1）</li> <li>12. アイデンティティ②：在日学生の手記（その2）</li> <li>13. 民際協力としての自治体国際協力</li> <li>14. 学生研究に有用な調査方法</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『<u>辺境から眺める</u>』みずす書房、藤田結子『<u>文化移民</u>』新曜社、嘉本伊都子『<u>国際結婚論!?</u>』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『<u>地域をつなぐ国際協力</u>』創成社</p>		<p>期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	食の文化論	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。</p> <p>現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみあることもあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。</p> <p>このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 文化を捉える視点：伝統・近代・グローバル化</li> <li>3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定）</li> <li>4. 伝統の変容と越境（日本食、中華料理、エスニック料理などを例に）</li> <li>5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ）</li> <li>6. 現代人の食：「マクドナルド化」概念を手がかりに</li> <li>7. 現代のフードシステム：外食と中食（なかしょく）</li> <li>8. 自給率問題とフードマイレージ</li> <li>9. 食とグローバリズム（ビデオ『キング・コーン』）</li> <li>10. 食とナショナリズム（捕鯨、コメ問題）</li> <li>11. 食育と学校</li> <li>12. フェアトレードの展開と現状</li> <li>13. 有機農業運動、スローフード運動</li> <li>14. 地球社会と「食」：食料廃棄物、食糧援助</li> <li>15. まとめ：食の「再ローカル化」(re-localization)をめぐして</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	前沢 浩子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「英語圏」は時代とともに大きく広がり、今や英語は実質的な lingua franca(共通語)として世界各地で用いられている。この授業では英語圏が時代とともに拡大していった経緯や、それぞれの地域で派生した政治的問題や地域文化の特性を、歴史の大きなパースペクティブの中でとらえることを目的とする。</p> <p>講義は複数の講師によるオムニバス形式で進められる。それぞれ 1 週ごとの講義は独立したものであるが、1 回ごとに歴史上のある一日、そして地球上のある一都市あるいは一地域を講義内容の起点とする。そのとき、そこで何が起きたのか、そしてそれが、今日、大きく拡大した英語圏の中でいかなる意味を持ちうるのか。この問題意識が 14 回の講義に通底している。</p> <p>多岐にわたる視点から英語圏を考察し、英語圏が大きく拡大した歴史的ダイナミズムと、現在の英語圏の持つ多様性と複雑さへの理解を深めてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1588 年 8 月 8 日 Gravelines—島国のルネサンス (前沢)</li> <li>2. 1066 年 10 月 14 日 Hastings—Norman Conquest が英語に与えた影響 (清水)</li> <li>3. 1600 年 12 月 31 日 London—東インド会社の誕生とスパイス貿易 (竹田)</li> <li>4. 1607 年 5 月 14 日 Jamestown—北米植民地開発開始 (永野)</li> <li>5. 1620 年 11 月 21 日 Cape Cod—巡礼始祖アメリカへ来る (高橋)</li> <li>6. 1649 年 1 月 30 日 London—イギリス革命、イギリス事情—17 世紀を中心に (白鳥)</li> <li>7. 1608 年 12 月 9 日 London—ミルトン誕生、その人と作品 (白鳥)</li> <li>8. 1841 年 7 月 5 日 Leicester—トーマス・クックと近代ツーリズムの始まり (遠藤)</li> <li>9. 1887 年 12 月 1 日 British Malaya and India—文化装置としてのホテル (須永)</li> <li>10. 1836 年 3 月 6 日 San Antonio—テキサスの誕生とアラモ (島田)</li> <li>11. 2007 年 4 月 16 日 Virginia—韓国人学生銃乱射事件とアメリカの銃規制問題 (金子)</li> <li>12. 2009 年 1 月 20 日 Washington—オバマ政権成立とユダヤ・ロビー (佐藤)</li> <li>13. 1972 年 11 月 17 日 Washington—共和党とユダヤ人社会の同盟成立 (佐藤)</li> <li>14. 1997 年 8 月 31 日 Paris—Diana の死と Cool Britannia (前沢)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストとして授業中にハンドアウトを配布する。</p> <p>参考書は授業中に適宜紹介する。</p>		<p>定期試験による。詳細は第 1 回目の授業で説明する。</p>	

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	前沢 浩子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期から引き続き、英語圏の政治的問題、文化、言語を取り巻く状況などについて考察する。</p> <p>秋学期も講義は複数の講師によるオムニバス形式で進められる。秋学期の講義は 20 世紀以降の英語圏に焦点を絞って構成されている。春学期同様、1 週ごとの講義は独立したものであるが、14 回の講義を通して、英語圏における 20 世紀の様々な変化について理解を深めるとともに、21 世紀の展望について考え、広い視座を持つことを目指してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1901 年 1 月 22 日 Isle of Wight—20 世紀の始まり (前沢)</li> <li>2. 1996 年 3 月 25 日 Beverley Hills—オスカー受賞監督人質事件 (児嶋)</li> <li>3. 1997 年 7 月 4 日 Sligo—アイルランド北西部の幽霊譚 (児嶋)</li> <li>4. 1914 年 4 月 11 日 London—音声学者が舞台上に登場 (青柳)</li> <li>5. 1967 年 10 月 7 日 Monaco—英語のユーモアについて (鍋倉)</li> <li>6. 1955 年 10 月 7 日 San Francisco—Poetry Reading at the Six Gallery: The Birth of Beat Generation (原)</li> <li>7. 1967 年 1 月 12 日 San Francisco—The Human Be-In: The Birth of Counterculture (原)</li> <li>8. 1963 年 5 月 25 日 Addis Ababa—アフリカ統一に向けて (佐野)</li> <li>9. 2010 年 1 月 2 日 Melbourne—インド人留学生 Nitin Garg の死 (工藤)</li> <li>10. 1999 年 8 月 9 日 Singapore—“Speak Good English” キャンペーンと多言語社会 (浅岡)</li> <li>11. 2007 年 12 月 28 日 Ithaca—Civic Agriculture (NY 州の食・農・ツーリズム) (北野)</li> <li>12. 1973 年 1 月 22 日 Washington—中絶合法化までのアメリカ (片山)</li> <li>13. 2009 年 5 月 31 日 Wichita—産婦人科医が殺される (片山)</li> <li>14. 2005 年 7 月 7 日 London—オリンピック開催決定と同時に多発テロ (前沢)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストとして授業中にハンドアウトを配布する。</p> <p>参考書は授業中に適宜紹介する。</p>		<p>定期試験による。詳細は第 1 回目の授業で説明する。</p>	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (フランスの美術Ⅰ)	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>オルセー美術館をモデルに、19世紀後半の美術を概観します。時代背景や当時の美術制度のあり方について知識を深め、歴史的コンテクストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 オルセー美術館と19世紀のパリ</li> <li>3 アングルとドラクロワ</li> <li>4 19世紀の美術制度-1</li> <li>5 19世紀の美術制度-2</li> <li>6 クールベと写実主義</li> <li>7 ドーミエとカリカチュア</li> <li>8 ミレーと農民絵画</li> <li>9 バルビゾン派</li> <li>10 マネと落選展</li> <li>11 印象派-1</li> <li>12 印象派-2</li> <li>13 印象派-3</li> <li>14 まとめ</li> </ol> <p>*受講者の人数によっては発表してもらうことも考えています。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は必要に応じて授業中に指示します。		平常点（出席）とレポートによる。	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (フランスの美術Ⅱ)	担当者	阿部 明日香
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>印象派誕生以降のフランス美術の展開を概観します。その多様性について学び、それぞれの画家、運動、ジャンルが提起する問題について理解を深めることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 印象派、その後の展開-1</li> <li>3 印象派、その後の展開-2</li> <li>4 印象派、その後の展開-3</li> <li>5 象徴主義の絵画</li> <li>6 ゴーガンとポンタヴェン派</li> <li>7 ボナールとナビ派</li> <li>8 スーラとシニャック</li> <li>9 ジャポニスム</li> <li>10 アール・ヌーヴォー</li> <li>11 写真-1</li> <li>12 写真-2</li> <li>13 ロートレックとパリの歓楽街</li> <li>14 まとめ</li> </ol> <p>*受講者の人数によっては発表してもらうことも考えています。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は必要に応じて授業中に指示します。		平常点（出席）とレポートによる。	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語概論 a)	担当者	金井 満
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ほとんどのみなさんは、すでに英語という外国語を学習してきています。しかし、コミュニケーションの手段としての言語には様々な側面があります。言語が辿ってきた変化の歴史や言語の使用されている状況、社会、地域などの多種多様な要因を知らなければ、本当の意味でドイツ語が学ぶことにはなりません。本年度の「ドイツ語学概論」では、ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標としたいと思います。</p> <p>講義科目ではありますが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を探ってみたいと思います。春学期では、言語についての一般的な問題を取り上げます。言語学概論とだぶる部分も出てくるとは思いますが、できるだけドイツ語との比較も含めて進めていきたいと思っています。講義科目だから聞いてさえいればいいという態度の学生ではなく、自分の考えや意見の持ち、それを人に伝えられる学生を希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ことばの不思議-導入と年間計画</li> <li>2. ことばの不思議 (1)</li> <li>3. ことばの不思議 (2)</li> <li>4. ことばの不思議 (2)</li> <li>5. ドイツ語の履歴書-ドイツ語史 (1)</li> <li>6. ドイツ語の履歴書-ドイツ語史 (2)</li> <li>7. それってドイツ語-ドイツ語の方言</li> <li>8. 文法のお話 (1)-品詞ってなに</li> <li>9. 文法のお話 (2)-木を見て森を見ず</li> <li>10. 文法のお話 (3)-パンドラの箱</li> <li>11. 辞書は大きなおもちゃ箱</li> <li>12. 言語というブラックホール</li> <li>13. まとめ</li> <li>14. 予備日</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適時講義で指示		試験あるいはレポートと授業中の課題。講義への参加度。	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語概論 b)	担当者	金井 満
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ほとんどのみなさんは、すでに英語という外国語を学習してきています。しかし、コミュニケーションの手段としての言語には様々な側面があります。言語が辿ってきた変化の歴史や言語の使用されている状況、社会、地域などの多種多様な要因を知らなければ、本当の意味でドイツ語が学ぶことにはなりません。本年度の「ドイツ語学概論」では、ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標としたいと思います。</p> <p>講義科目ではありますが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を探ってみたいと思います。秋学期には範囲の比重をドイツ語に移して、言語の問題を様々な側面から扱うことによって深めていきたいと考えています。講義科目だから聞いてさえいればいいという態度の学生ではなく、自分の考えや意見の持ち、それを人に伝えられる学生を希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語は怪人二十面相</li> <li>2. 言語学の歴史</li> <li>3. 音の世界-音声学・音韻論</li> <li>4. 形にこだわって-形態論</li> <li>5. 文の組み立てについて-統語論</li> <li>6. 意味って何 (1)-意味論</li> <li>7. 意味って何 (2)-意味論</li> <li>8. 言語は生き物 (1)-実用論</li> <li>9. 言語は生き物 (2)-実用論</li> <li>10. 言語と社会-社会言語学</li> <li>11. 言語と心-言語心理学あるいは認知</li> <li>12. 言語研究への道</li> <li>13. まとめ</li> <li>14. 予備日</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適時講義で指示		試験あるいはレポートと授業中の課題。講義への参加度。	

09 年度以降	ヨーロッパの文化 (フランスの音楽Ⅰ)	担当者	松橋 麻利
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今年度は、人間の心を情熱的に表現した 19 世紀のロマンティズムから始めて、それが時代とともにどのように変化していったかを見る。そしてそれが現代の人間表現にどのようにつながるかを考えることを目的とする。</p> <p>春学期は、まずフランスのベルリオーズが始めた音楽がその後どのような流れを作り出していくかを辿る。そしてその影響を受けながらも 19 世紀後半からのフランス音楽が新たな独自の表現を生み出す様子を器楽を中心に見ていく。</p> <p>音・楽譜・映像を活用しながら進めていく。受講者は、自分でも積極的に音楽を聴くように心がけること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. ベルリオーズ</li> <li>3. ヴェーバー</li> <li>4. リスト</li> <li>5. 国民楽派</li> <li>6. ヴァーグナー (1)</li> <li>7. ヴァーグナー (2)</li> <li>8. サン＝サーンス</li> <li>9. フォーレ (1)</li> <li>10. フォーレ (2)</li> <li>11. ドビュッシー (1)</li> <li>12. ドビュッシー (2)</li> <li>13. ドビュッシー (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリント。 参考文献は授業時に紹介。</p>		<p>出席 (10%) と、2 回の試験の平均 (90%) による (各試験実施の時点で 1/3 以上欠席の学生には受験を認めない)。</p>	

09 年度以降	ヨーロッパの文化 (フランスの音楽Ⅱ)	担当者	松橋 麻利
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今年度は、人間の心を情熱的に表現した 19 世紀のロマンティズムから始めて、それが時代とともにどのように変化していったかを見る。そしてそれが現代の人間表現にどのようにつながるかを考えることを目的とする。</p> <p>秋学期は、ロマンティックな表現が頂点に達したあとの動向、音楽聴取に変革をもたらす徴候、そしてその後の流れを見ていく。</p> <p>音・楽譜・映像を活用しながら進めていく。受講者は、自分でも積極的に音楽を聴くように心がけること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. ラヴェル (1)</li> <li>3. ラヴェル (2)</li> <li>4. サティ (1)</li> <li>5. サティ (2)</li> <li>6. シェーンベルク</li> <li>7. ストラヴィンスキー (1)</li> <li>8. ストラヴィンスキー (2)</li> <li>9. フランス六人組 (1)</li> <li>10. フランス六人組 (2)</li> <li>11. フランス六人組 (3)</li> <li>12. ケージ</li> <li>13. 音楽への意識</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリント。 参考文献は授業時に紹介。</p>		<p>出席 (10%) と、2 回の試験の平均 (90%) による (各試験実施の時点で 1/3 以上欠席の学生には受験を認めない)。</p>	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語圏文学・思想概論 a)	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期では、「文学」って何?という問題から授業を始めます。</p> <p>「読書感想文」を書かされて辟易(へキエキ)しませんでしたか? 「国語」の入試で解釈の問題に正解が1つしかないことに疑問を感じませんでしたか? 「文学」はなぜ「ブン学」で、「音楽」のように「ブン楽」ではないのでしょうか?</p> <p>こんな疑問や不信感(?)を出発点にしながら、最初に「文学」(そして文学研究)という問題を考えます。</p> <p>続いて、メルヒェン・昔話という「単純な語りの形式」を中心に据えて、文学のさまざまな面白さ、問題点を考えていきます。また、詩・劇・散文という主要なジャンルについても、考えていきます。</p> <p>また、文学と思想(哲学・宗教など)のつながりも、必要に応じて考えていきます。</p>		<p>詳しくは第1回の授業で指示します。</p> <p>大枠としては次の点を検討します:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文学をめぐって <ul style="list-style-type: none"> <li>・「文学」って何?</li> <li>・「文学研究」は何のために?</li> <li>・「作者」は死んだ?</li> <li>・「読者」の可能性</li> <li>・「本」は滅ぶのか?</li> </ul> </li> <li>2. さまざまなジャンル <ul style="list-style-type: none"> <li>・「単純な語りの形式」(メルヒェン・寓話・伝説、etc.)</li> <li>・「叙情詩」(詩なしには生きられない?)</li> <li>・「劇」(ドラマチックな人生?)</li> <li>・「散文」(近代の申し子)</li> </ul> </li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献例: 手塚富雄『ドイツ文学案内』岩波文庫 生野幸吉・檜山哲彦編『ドイツ名詩選』岩波文庫 テキストはコピーで、文献は授業でその都度紹介します。</p>		<p>出席(4回以上の欠席は評価の対象としません)および期末試験によります。</p>	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語圏文学・思想概論 b)	担当者	矢羽々 崇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期では、主に2つの目標にそって授業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 私たちの日常生活と「文学」の関係を考える。 「文学」は本や教科書、図書館といったかたちで、私たちの「外」にあるだけではありません。日常の暮らしの「中」にあって、私たちの考え方や行動パターンに影響を与えているのです。そんな「よそゆき」ではない文学を考えてみます。</li> <li>2) ドイツ文学と思想のアウトラインを知る。 皆さんはドイツ語圏の文学を知っていますか? 18世紀後半に書かれたゲーテの『若きウェルテルの悩み』を出発点にして、現代までのドイツ文学の歩みを辿っていきます。また、文学と思想(哲学・宗教など)が、それぞれの時代でどう関連したのかを考えます。</li> </ol>		<p>詳しくは第1回の授業で指示します。</p> <p>大枠としては次の点を検討します:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 私たちの中の「文学」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアとしての文学</li> <li>・文学とさまざまなメディア</li> <li>・文学をめぐる諸制度(文学部、図書館、etc.)</li> </ul> </li> <li>2. ドイツ語圏の文学・思想 <ul style="list-style-type: none"> <li>・近代的な恋愛のはじまり(『ウェルテル』)</li> <li>・ロマン派というアヴァンギャルド(前衛派)</li> <li>・文学が文学だった頃(19世紀)</li> <li>・見えない世界との出会い(20世紀前半)</li> <li>・ナチズムと文学</li> <li>・アウシュヴィッツの後に詩を書くことは野蛮? など</li> </ul> </li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献例: H・シュラッファー『ドイツ文学の短い歴史』和泉、安川訳、同学社、2008年</p>		<p>出席(4回以上の欠席は評価の対象としません)、レポートおよび期末試験によります。</p>	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語圏芸術・文化概論 a)	担当者	山本 淳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p><b>講義概要</b> ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。</p> <p>映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について</li> <li>2 ドイツ語圏芸術・文化のルーツと特質</li> <li>3 中世</li> <li>4 同上</li> <li>5 ルネサンス・宗教改革期</li> <li>6 同上</li> <li>7 三十年戦争・バロック期</li> <li>8 同上</li> <li>9 啓蒙主義時代</li> <li>10 同上</li> <li>11 ロマン主義時代</li> <li>12 同上</li> <li>13 グリムのメルヒェン</li> <li>14 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。	

09年度以降	ヨーロッパの文化 (ドイツ語圏芸術・文化概論 b)	担当者	山本 淳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。 その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。</p> <p><b>講義概要</b> ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。</p> <p>映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について</li> <li>2 19世紀後半</li> <li>3 同上</li> <li>4 世紀転換期</li> <li>5 同上</li> <li>6 モダニズム</li> <li>7 同上</li> <li>8 ヴァイマル文化</li> <li>9 同上</li> <li>10 ナチズムと芸術</li> <li>11 同上</li> <li>12 現代へ：新たな芸術の展開</li> <li>13 同上</li> <li>14 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じその都度指示する。</p>		講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。	

09年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。</p> <p>授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。</p> <p>国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインのPR 情報に注目し、CNN やBBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースを見た後、授業の後半では「グローバル社会を見る眼」を養いましょう。これに関連したトピックを取り上げ、用語の解説も行います。</p> <p>国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。料理でもイタリアン、フレンチ、中華、日本料理では味覚が異なります。料理方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。この授業では、そのノウハウを伝えていきます。</p> <p>一緒に、国際問題を料理してみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際情報ツール「ニュースの見方」</li> <li>2 グローバル社会を見る眼</li> <li>3 国際システム</li> <li>4 国際システム</li> <li>5 国内社会と国際社会の相違</li> <li>6 国内社会と国際社会の相違</li> <li>7 政治過程：恋愛・結婚・ファミリー 権威：権力＋正統性</li> <li>8 まとめ</li> <li>9 米欧の世界観</li> <li>10 イギリスの思想家</li> <li>11 ヨーロッパの思想家</li> <li>12 国際社会の比較</li> <li>13 国際社会の比較</li> <li>14 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『グローバル社会論資料集』		評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

09年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。</p> <p>授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。</p> <p>国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインのPR 情報に注目し、CNN やBBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースを見た後、授業の後半では「グローバル社会を見る眼」を養いましょう。これに関連したトピックを取り上げ、用語の解説も行います。</p> <p>国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。料理でもイタリアン、フレンチ、中華、日本料理では味覚が異なります。料理方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。この授業では、そのノウハウを伝えていきます。</p> <p>一緒に、国際問題を料理してみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際情報ツール「ニュースの見方」</li> <li>2 グローバル社会を見る眼</li> <li>3 国際システム</li> <li>4 国際システム</li> <li>5 国内社会と国際社会の相違</li> <li>6 国内社会と国際社会の相違</li> <li>7 政治過程：恋愛・結婚・ファミリー 権威：権力＋正統性</li> <li>8 まとめ</li> <li>9 米欧の世界観</li> <li>10 イギリスの思想家</li> <li>11 ヨーロッパの思想家</li> <li>12 国際社会の比較</li> <li>13 国際社会の比較</li> <li>14 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『グローバル社会論資料集』		評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

09年度以降	グローバル社会論 b	担当者	佐野 康子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目標は、学生が一年時に学習した国際関係論の基礎から更に理解を深めること、また国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになることである。</p> <p>本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組みとしての主体、ならびに分析視点としての理論について学ぶ。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体的に上げ、理論的アプローチを適用することでグローバル社会の実態の把握にせまる。</p>		<p>第1回 ガイダンス、グローバル化する国際社会</p> <p>第2回 国際政治の理論とは何か</p> <p>第3回 国際政治の分析枠組み①国際関係</p> <p>第4回 国際政治の分析枠組み②国家</p> <p>第5回 国際政治の分析枠組み③個人</p> <p>第6回 国際政治アプローチ①現実主義</p> <p>第7回 国際政治アプローチ②理想主義</p> <p>第8回 国際政治アプローチ③コンストラクティズム／小テスト</p> <p>第9回 安全保障</p> <p>第10回 国際経済関係</p> <p>第11回 地球環境</p> <p>第12回 人権</p> <p>第13回 貧困と開発</p> <p>第14回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指定する。		出席、中間テスト、学期末試験の総合評価とする。欠席は4回までとする。	

09年度以降	グローバル社会論 b	担当者	佐野 康子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目標は、学生が一年時に学習した国際関係論の基礎から更に理解を深めること、また国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになることである。</p> <p>本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組みとしての主体、ならびに分析視点としての理論について学ぶ。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体的に上げ、理論的アプローチを適用することでグローバル社会の実態の把握にせまる。</p>		<p>第1回 ガイダンス、グローバル化する国際社会</p> <p>第2回 国際政治の理論とは何か</p> <p>第3回 国際政治の分析枠組み①国際関係</p> <p>第4回 国際政治の分析枠組み②国家</p> <p>第5回 国際政治の分析枠組み③個人</p> <p>第6回 国際政治アプローチ①現実主義</p> <p>第7回 国際政治アプローチ②理想主義</p> <p>第8回 国際政治アプローチ③コンストラクティズム／小テスト</p> <p>第9回 安全保障</p> <p>第10回 国際経済関係</p> <p>第11回 地球環境</p> <p>第12回 人権</p> <p>第13回 貧困と開発</p> <p>第14回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指定する		出席、中間テスト、学期末試験の総合評価とする。欠席は4回までとする。	

09年度以降	国際協力論	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。</p> <p>授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみます。</p> <p>国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。</p> <p>国際ニュースは授業の前半で見ますが、後半は国際協力に関連した2つのトピックを取り上げます。</p> <p>第1のトピックは、グローバル社会における先進国と発展途上国の関係を、オーストラリアに注目して、国際協力の視点から取り上げます。</p> <p>第2のトピックは、国際テロです。世界は9・11テロ事件によって大きく変化し、国際協力のあり方も見直されるようになりました。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際情報ツール「ニュースの見方」</li> <li>2 オーストラリアは、どんな国</li> </ol> <p>&lt;国際協力の表とウラ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 国境を越える</li> <li>4 国境を越える</li> <li>5 国内の紛争</li> <li>6 国内の紛争</li> <li>7 地域の協力</li> <li>8 ニッチ外交</li> <li>9 まとめ</li> </ol> <p>&lt;国際リスクを考えてみよう&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10 国際テロ</li> <li>11 国際テロ</li> <li>12 国際テロ</li> <li>13 テロ対策と国際協力</li> <li>14 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』（中公新書、2000年）、同『国際テロネットワーク』（講談社現代新書、2006年）の2冊。		評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	国際開発論	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、開発途上国における貧困および開発の実態を明らかにし、さらにグローバル化時代において開発途上国が直面する課題と可能性について検討します。</p> <p>講義は3つのシリーズから構成されます。第1の「開発途上国の貧困」では、貧困の実態を紹介するとともにその要因を多面的に捉えます。第2の「開発途上国の開発とその実態」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、経済成長重視政策の問題点やグローバリゼーションが開発途上国に与えている影響に関して検討し、さらに近年目覚まし中国の経済発展の実態について、その弊害を含めて探ります。第3の「グローバル化時代の国際開発」では、グローバル化時代における開発の新たなトレンドを探りつつ、新たな開発の方向性やビジネスの可能性について考えます。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：開発と国際関係 ＜開発途上国の貧困＞</li> <li>2. 貧困の現状／歴史的要因（1）：植民地支配の影響</li> <li>3. 歴史的要因（2）：アジアにおける植民統治</li> <li>4. 政治的要因（1）：民主主義と開発</li> <li>5. 政治的要因（2）：開発独裁体制</li> <li>6. 社会・文化的要因：インド・カースト制度 ＜開発途上国の開発とその実態＞</li> <li>7. 経済開発の方法とパターン</li> <li>8. 高度経済成長の要因と弊害</li> <li>9. 開発途上国にとってのグローバリゼーション</li> <li>10. 中国経済発展の光と影（1） 発展の勢い</li> <li>11. 中国経済発展の光と影（2） 弊害と矛盾 ＜グローバル化時代の国際開発＞</li> <li>12. 国際ビジネスの新展開（1）：ポップカルチャー</li> <li>13. 国際ビジネスの新展開（2）：ツーリズム関連産業</li> <li>14. 国際ビジネスの新展開（3）：イスラム関連産業</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。		学期末試験の成績を中心に評価を行います。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	国際交流論	担当者	小松 諄悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流の三分野における、国際文化交流事業の実践を検証します。</p> <p>分野ごとの文化交流事業の実践を学習しながら、文化交流政策、文化交流の目的についても、考察していきたいと思えます。</p> <p>国際環境の変化が、いかに文化交流に影響を与えるかも、検討したいと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際文化交流の歴史</li> <li>2. 国際交流基金の歴史</li> <li>3. 芸術交流</li> <li>4. 芸術交流の実践</li> <li>5. 芸術交流の実践 (2)</li> <li>6. 日本語教育</li> <li>7. 日本語教育の実践</li> <li>8. 日本研究</li> <li>9. 日本研究事業の実践</li> <li>10. 知的交流</li> <li>11. 知的交流の実践</li> <li>12. 知的交流の実践 (2)</li> <li>13. 国際環境の変化と国際文化交流の変遷</li> <li>14. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
必要に応じ、授業でレジユメを配布		期末レポートによって評価 (80%) するが、出席率も考慮に入れる (20%)。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	国際NGO・ボランティア論	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化、多極化、多様化といった現象が進む現代社会において、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。また、国際協力を担う主体も多様化し、国家、国際機関、企業などとともに非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、国際協力、とりわけ開発援助におけるNGOの機能と役割に注目しながら、現代の国際社会が抱える開発協力の諸問題について考えます。</p> <p>本講義は3つのシリーズから構成されます。第1の「開発援助の仕組みと展開」では、政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODAの新たなトレンドと課題を探ります。第2の「NGOの役割と課題」ではNGOやボランティア組織のあり方について歴史的背景を踏まえながら捉え、さらに開発とNGOとの関係について具体的なケースを取り上げながら考えます。最後の「国際協力の新たなテーマとNGO」では、近年注目されている国際協力の幾つかの側面に着目しながら、新たなNGOの役割と課題について検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO</li> <li>&lt;開発援助の仕組みと展開&gt;</li> <li>2. ODAの仕組みとトレンド</li> <li>3. 日本のODAの特徴</li> <li>4. 日本の援助実績と問題点</li> <li>5. 日本のODAの課題</li> <li>&lt;NGOの役割と課題&gt;</li> <li>6. 国際援助の新たなテーマとNGO</li> <li>7. NGOの定義と歴史的経緯</li> <li>8. NGOの機能と途上国での役割</li> <li>9. 開発とNGO：ケーススタディ(1)バングラデシュ</li> <li>10. 開発とNGO：ケーススタディ(2)マレーシア</li> <li>&lt;国際協力の新たなテーマとNGO&gt;</li> <li>11. マイクロクレジットという方法</li> <li>12. ジェンダー問題と開発</li> <li>13. 地球環境問題と国際協力</li> <li>14. 大規模自然災害と国際協力</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。		学期末試験の成績を中心に評価を行います。	

09年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義の問題意識】</b> 日本が 21 世紀においてアジア太平洋地域の平和と安定に積極的に関わろうとすると、日本とオーストラリアのパートナーシップはとりわけ重要である。それは、両国が自由主義的民主主義と市場経済という政治的・経済的基本理念、またアジア太平洋地域の平和と安定の実現という戦略的価値を共有すると同時に、こうした価値観とは必ずしも同調しないアジアの歴史と伝統のなかで生きているというアイデンティティをも共有し、両国の連携のための基盤が存在しているからである。日豪両国がともに信頼できるパートナーとして、国際社会において共同行動をとり、平和と安定に積極的に貢献していかなければならない。</p> <p><b>【講義概要】</b> 春学期の講義では、イギリスによるオーストラリア植民地の形成（18 世紀後半）から、第二次世界大戦終結までのオーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国）やアメリカ、アジア地域との関係性のなかで概観していく。 本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。</p>		<p>第 1 回：イントロダクションーオーストラリアを学ぶ意義 第 2 回：植民地オーストラリア①ー植民地の誕生と発展 第 3 回：植民地オーストラリア② ー大英帝国とオーストラリア 第 4 回：ゴールドラッシュと白豪主義政策 第 5 回：多文化主義社会オーストラリア 第 6 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ー「二つのナショナリズム」 第 7 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ー第一次世界大戦とアンザック精神 第 8 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ー第一次世界大戦とオーストラリア国内社会 第 9 回：第二次世界大戦ーアジア国際関係と黄禍論 第 10 回：2 つの捕虜収容所①ーアンボン捕虜収容所 第 11 回：2 つの捕虜収容所②ーカウラ捕虜収容所 第 12 回：対日講和問題とオーストラリア 第 13 回：オーストラリアにおける先住民問題① ー1970 年代まで 第 14 回：オーストラリアにおける先住民問題② ーラッド首相の「謝罪演説」まで 第 15 回：総括と質疑応答</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：竹田、森、永野編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布</p>		不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。	

09年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義の問題意識】</b> 日本が 21 世紀においてアジア太平洋地域の平和と安定に積極的に関わろうとすると、日本とオーストラリアのパートナーシップはとりわけ重要である。それは、両国が自由主義的民主主義と市場経済という政治的・経済的基本理念、またアジア太平洋地域の平和と安定の実現という戦略的価値を共有すると同時に、こうした価値観とは必ずしも同調しないアジアの歴史と伝統のなかで生きているというアイデンティティをも共有し、両国の連携のための基盤が存在しているからである。日豪両国がともに信頼できるパートナーとして、国際社会において共同行動をとり、平和と安定に積極的に貢献していかなければならない。</p> <p><b>【講義概要】</b> 秋学期の講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリアの歴史を概観していく。 本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。</p>		<p>第 1 回：イントロダクション ーオーストラリア外交を見る眼 第 2 回：チフリー労働党政権の外交 ー新たな国際関係構築の模索 第 3 回：アンザス同盟の実現 第 4 回：冷戦下のアジア① ー中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争 第一次インドシナ危機 第 5 回：冷戦下のアジア② ーイギリスのアジアの戦争「対決政策」 第 6 回：冷戦下のアジア③ ーアメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」 第 7 回：ポストベトナムのオーストラリア外交 第 8 回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ーオーストラリアの「アジア化」 第 9 回：ミドルパワー外交①PKO、多国間主義 第 10 回：ミドルパワー外交②移民、難民、援助 第 11 回：ミドルパワー外交③核軍縮 第 12 回：ミドルパワー外交④国際テロとの戦い 第 13 回：日豪関係の歴史的展開ー敵国から同盟国へ 第 14 回：ラッド労働党政権の政治と外交 第 15 回：21 世紀オーストラリア外交の行方&amp;質疑応答</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>竹田、森、永野編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布</p>		不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。	

09年度以降	ヨーロッパの社会 (フランスの政治経済Ⅰ)	担当者	千代浦 昌道
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u></p> <p>重商主義以後のフランスの政治経済の動向と工業化の進展についての歴史を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てる。</p> <p><u>講義概要</u></p> <p>フランス経済の現状の概観を説明した上で、現在のフランス政治経済の歴史的背景を遡る。とくに18世紀以後第二次大戦前までのフランスの政治経済発展史について講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義に関する一般的注意</li> <li>2. 簡単な政治・経済用語の基礎知識</li> <li>3. 現代フランス政治経済概観</li> <li>4. 経済発展と工業化についての基礎知識</li> <li>5. 重商主義時代のフランス経済</li> <li>6. フランス大革命と産業革命</li> <li>7. フランス産業革命概観</li> <li>8. フランスの農業と産業革命</li> <li>9. フランスの工業化と人口問題</li> <li>10. フランスの天然資源問題と工業化</li> <li>11. フランスの保護主義と植民地経営</li> <li>12. フランスの金融制度の発展と工業化</li> <li>13. フランス工業化の社会的諸条件</li> <li>14. フランス企業経営者の社会的地位</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>パワーポイントを使用して講義する。参考文献：服部春彦、谷川稔編著『フランス近代史』（ミネルヴァ書房、1993）</p>		<p>定期試験による。出欠は成績評価の参考資料とする。</p>	

09年度以降	ヨーロッパの社会 (フランスの政治経済Ⅱ)	担当者	千代浦 昌道
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u></p> <p>第二次大戦後のフランス政治経済の歴史と現状を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てる。</p> <p><u>講義概要</u></p> <p>第二次世界大戦後のフランス政治経済の成長と変遷を、経済計画・国有化政策・民営化などの流れに沿って説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦後フランスの経済：基礎経済統計</li> <li>2. 戦後フランスの政治経済概観①</li> <li>3. 戦後フランスの政治経済概観②</li> <li>4. フランスの経済計画と国有化政策</li> <li>5. EEC発足とフランス経済の開放化</li> <li>6. ドゴール＝ポンピドゥー時代の経済政策</li> <li>7. ジスカールデスタンとバール・プラン</li> <li>8. ミッテラン時代の経済と経済政策①</li> <li>9. ミッテラン時代の経済と経済政策②</li> <li>10. ミッテラン時代の経済と経済政策③</li> <li>11. シラク時代の経済と経済政策①</li> <li>12. シラク時代の経済と経済政策②</li> <li>13. フランス経済の現状とサルコジ大統領の経済政策</li> <li>14. フランス政治経済の最新情報</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>統計資料などを随時に配布する。 パワーポイントを使用して講義する。 参考文献：渡邊啓貴著『フランス現代史』（中公新書、1998）</p>		<p>定期試験による。出欠は成績評価の参考資料とする。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	ヨーロッパの社会 (フランスの政治経済Ⅱ)	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスは、ヨーロッパ統合の開始当初から今日まで、統合において常に重要な役割を担ってきました。また、ヨーロッパ統合の進展とともに、フランスの対ヨーロッパ政策は国内の政策との関わりを一層強めているのが現状です。本講義では、戦後から今日に至るまで、ヨーロッパ統合という問題にフランスがどのように対応してきたかを、同時代資料（主にフランス語）を交えつつ概観します。</p> <p>履修者数によっては発表をしてもらい、今日のフランス・EU関係についてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 第四共和制期</li> <li>3~4. ドゴール時代</li> <li>5~6. ポンピドゥー時代</li> <li>7~8. ジスカールデスタン時代</li> <li>9~10. ミッテラン時代</li> <li>11~12. シラク時代</li> <li>13~14. 現在</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業の際に指示します。		テストと平常点（課題提出、発表）	

09年度以降	ヨーロッパの社会 (ドイツ語圏歴史概論 a)	担当者	古田 善文
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 講義の目標は、近代以降のドイツ語圏（ドイツ以外にもオーストリアやスイスも含む）の歴史の流れを受講生にわかりやすく解説することである。受講生は、主にフランス革命以降、この地域で発生した主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。</p> <p>講義概要： 春学期は、フランス革命期から第一次世界大戦の勃発までを対象に、近代ドイツ国家成立のプロセスとその問題点を整理していく。授業では毎回レジュメを配付するほか、DVDやビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。</p>		<p>第1回：年間授業計画、評価方法、参考文献等についての説明</p> <p>第2回：歴史とは何か？（主要な歴史方法論の解説）</p> <p>第3回：「記憶」をめぐる論争（1）ドイツ</p> <p>第4回：「記憶」をめぐる論争（2）オーストリア／日本</p> <p>第5回：ビデオ上映と解説：『ショア』関連</p> <p>第6回：ハプスブルク帝国史（1）：マリア・テレジア以前</p> <p>第7回：ハプスブルク帝国史（2）：マリア・テレジアの時代</p> <p>第8回：19世紀史（1）：ナポレオンとドイツ・オーストリア</p> <p>第9回：19世紀史（2）：1848年革命の社会史</p> <p>第10回：19世紀史（3）：若きヒトラーと世紀末ウィーン</p> <p>第11回：現代の開幕（1）：ドイツ統一と世界帝国への夢</p> <p>第12回：現代の開幕（2）：第一次世界大戦（原因）</p> <p>第13回：現代の開幕（3）：第一次世界大戦（経過／帰結）</p> <p>第14回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>原則として、毎回講義レジュメを配付する。 若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史—18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房 2008年 第4版</p>		<p>学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。</p>	

09年度以降	ヨーロッパの社会 (ドイツ語圏歴史概論 b)	担当者	古田 善文
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 講義の目標は、ワイマール期からナチスの時代を経て、第二次世界大戦後のドイツ語圏の歴史の流れを概観していく。受講生は、この時代の主要な歴史的事象についての基礎知識を深め、さらに歴史的な“ものの見方”の習得をめざす。</p> <p>講義概要： 秋学期は、ワイマール共和国の成立期からヒトラーの独裁を経て、第二次世界大戦の終結にいたる20世紀の激動の時代を検討する。春学期と同様、授業では毎回レジュメを配付するほか、DVDやビデオ教材を使用し、解りやすい解説を心がける。</p>		<p>第1回：革命の時代：ドイツ革命とオーストリア革命</p> <p>第2回：ヴェルサイユ条約、サン・ジェルマン条約</p> <p>第3回：ファシズムの誕生（1）：イタリア・ファシズムを中心とする欧州ファシズム運動の比較検討</p> <p>第4回：ファシズムの誕生（2）：ナチス運動の誕生</p> <p>第5回：ファシズム論の変遷</p> <p>第6回：危機の30年代（1）：民主政治システムの崩壊</p> <p>第7回：危機の30年代（2）：戦間期の国際政治</p> <p>第8回：ビデオ上映と解説：「ナチズム」関連</p> <p>第9回：受容と抵抗：ナチス体制下の民衆生活</p> <p>第10回：第二次世界大戦（1）：大戦の経過と帰結</p> <p>第11回：第二次世界大戦（2）：ホロコーストと戦後補償</p> <p>第12回：占領改革と戦後復興：ドイツ占領から東西ドイツの成立まで</p> <p>第13回：ドイツ統一とEU新時代</p> <p>第14回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>原則として、毎回講義レジュメを配付する。 若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史—18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房 2008年 第4版</p>		<p>学期末に実施する筆記試験、および出席状況に基づいて決定する。</p>	

2010年度

**第二外国語（英語プラス1言語）**

**【全学共通授業科目】**

**シラバス**

09年度以降	ドイツ語 (Ia 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の言葉で相手とのコミュニケーションがとれるということです。「話せる」ことは外国語学習の基本になります。いくら文法を知っていても、文章が読めても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。日本人教員のもとで学んだ文法の基礎と日常的な文章パターンを駆使して、ドイツ語を話してみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Lektion 1 人と知り合う-1 Kontakte 1</li> <li>2. Lektion 2 人と知り合う-2 Kontakte 2</li> <li>3. Lektion 3 専攻と言語 Studium und Sprachen</li> <li>4. Lektion 4 趣味 Hobbys</li> <li>5. Lektion 5 食事 Essen und Trinken</li> <li>6. Lektion 6 家族と職業 Familie und Berufe</li> <li>7. 小テスト</li> <li>8. Lektion 7 持ち物 Gegenstände</li> <li>9. Lektion 8 住居 Wohnen</li> <li>10. Lektion 9 時刻と日付 Uhrzeit und Datum</li> <li>11. Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende</li> <li>12. Lektion 11 街と大学 Stadt und Universität</li> <li>13. Lektion 12 休暇の前 Vor den Ferien</li> <li>14. 小テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤、下田、Papentin, Oldehaver :『CD付・スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社)		小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (Ib 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。秋学期では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。</p> <p>春学期のテキストの11課と12課を終了してから、秋学期のテキストの1課から5課までを学習します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Lektion 1 Reise und Verkehr 旅行と交通</li> <li>2. 同上</li> <li>3. Lektion 2 Im Restaurant und im Hotel レストランとホテルで</li> <li>4. 同上</li> <li>5. Lektion 3 In der Stadt 街で</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 小テスト</li> <li>8. Lektion 4 Wetter 天気</li> <li>9. 同上</li> <li>10. Lektion 5 Krankheiten und Körperpflege 病気と体の手入れ</li> <li>11. 同上</li> <li>12. Lektion 6 Geschenke und Einladungen 贈り物と招待</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 小テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤、下田、Papentin, Oldehaver :『CD付・スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 2 integriert)』(三修社)		小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (Ia 総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>外国語を学んでいて一番うれしいことは、その国の言葉で相手とのコミュニケーションがとれるということです。「話せる」ことは外国語学習の基本になります。いくら文法を知っていても、文章が読めても、話せないというのは致命的で、勉強していても面白くも何ともありません。日本人教員のもとで学んだ文法の基礎と日常的な文章パターンを駆使して、ドイツ語を話してみましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Lektion 1 人と知り合う-1 Kontakte 1</li> <li>2. Lektion 2 人と知り合う-2 Kontakte 2</li> <li>3. Lektion 3 専攻と言語 Studium und Sprachen</li> <li>4. Lektion 4 趣味 Hobbys</li> <li>5. Lektion 5 食事 Essen und Trinken</li> <li>6. Lektion 6 家族と職業 Familie und Berufe</li> <li>7. 小テスト</li> <li>8. Lektion 7 持ち物 Gegenstände</li> <li>9. Lektion 8 住居 Wohnen</li> <li>10. Lektion 9 時刻と日付 Uhrzeit und Datum</li> <li>11. Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende</li> <li>12. Lektion 11 街と大学 Stadt und Universität</li> <li>13. Lektion 12 休暇の前 Vor den Ferien</li> <li>14. 小テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤、下田、Papentin, Oldehaver :『CD付・スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 1 integriert)』(三修社)		小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (Ib 総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。秋学期では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。</p> <p>春学期のテキストの11課と12課を終了してから、秋学期のテキストの1課から5課までを学習します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Lektion 1 Reise und Verkehr 旅行と交通</li> <li>2. 同上</li> <li>3. Lektion 2 Im Restaurant und im Hotel レストランとホテルで</li> <li>4. 同上</li> <li>5. Lektion 3 In der Stadt 街で</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 小テスト</li> <li>8. Lektion 4 Wetter 天気</li> <li>9. 同上</li> <li>10. Lektion 5 Krankheiten und Körperpflege 病気と体の手入れ</li> <li>11. 同上</li> <li>12. Lektion 6 Geschenke und Einladungen 贈り物と招待</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 小テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤、下田、Papentin, Oldehaver :『CD付・スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語 (Szenen 2 integriert)』(三修社)		小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語(Ia 総合3)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>交流文化学科専用の総合ドイツ語は、日本人教員担当の「総合3」と外国人教員担当の「総合1・2」を合わせて履修することにより、受講生がドイツ語の4技能(「読む」「書く」「聞く」「話す」)をバランス良く修得し、同時にドイツ語文化圏に関する基礎知識を得ることを目的としています。</p> <p>日本人教員担当の本講義の主たる目的は、1年間でドイツ語初級文法の要点を修得させることにあります。使用テキストは、練習問題に文法内容の基本練習の他に、聞き取り練習やパートナー練習が含まれており、受信型のみでなく発信型のドイツ語運用能力の向上にも配慮しています。これらの練習問題を楽しくやりながら自然にドイツ語の基礎的な文法知識が身に付くように指導します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字と発音</li> <li>2. 同上</li> <li>3. Lektion 1</li> <li>4. 同上</li> <li>5. Lektion 2</li> <li>6. 同上</li> <li>7. Lektion 3</li> <li>8. 同上</li> <li>9. Lektion 4</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 同上</li> <li>12. Lektion 5</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 同上</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
清野智昭『ドイツ語の時間(話すための文法)改訂版』(朝日出版社)		小テスト、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

09年度以降	ドイツ語(Ib 総合3)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期の内容を参照。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Lektion 6</li> <li>2. 同上</li> <li>3. Lektion 7</li> <li>4. 同上</li> <li>5. Lektion 8</li> <li>6. 同上</li> <li>7. Lektion 9</li> <li>8.</li> <li>9. Lektion 10</li> <li>10. 同上</li> <li>11. 同上</li> <li>12. Lektion 11</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 同上</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
清野智昭『ドイツ語の時間(話すための文法)改訂版』(朝日出版社)		小テスト、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

09年度以降	ドイツ語 (Ⅱa 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>一年間の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。二年時では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Lektion 7 Personenbeschreibung 人物描写</li> <li>2. 同上</li> <li>3. Lektion 8 Müll und Umwelt ゴミと環境</li> <li>4. 同上</li> <li>5. Lektion 9 Verbote und Gebote 禁止と命令</li> <li>6. 同上</li> <li>7. <b>小テスト</b></li> <li>8. Lektion 10 Lebenslauf und Schulsystem 履歴と学校制度</li> <li>9. 同上</li> <li>10. Lektion 11 Feste und Feiertage 祝祭と祝日</li> <li>11. 同上</li> <li>12. Lektion 12 Jahresende und -anfang 年末年始</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 小テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver : 『CD付き・スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語 (三修社)』		小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語 (Ⅱb 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この時間では様々な練習 (簡単な言葉遊び、役割遊び、パートナーにインタビューをする等) を通して、会話表現能力を訓練します。学生の皆さんは既に持っているドイツ語の知識を活用して、更に表現力を高めて下さい。</p> <p>最初の時間に履修者のレベルと興味に合わせて、皆さんにふさわしい教材を選ぶことにします。例えば授業で、ドイツの若者たちの日常生活を描いた短い場面で構成されているビデオ教材 (Treffpunkt Berlin) を使用し、それについて練習するのもよいでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己紹介</li> <li>2. 授業</li> <li>3. 授業</li> <li>4. 授業</li> <li>5. 授業</li> <li>6. 授業</li> <li>7. 小テスト / 授業</li> <li>8. 授業</li> <li>9. 授業</li> <li>10. 授業</li> <li>11. 授業</li> <li>12. 授業</li> <li>13. 授業</li> <li>14. 小テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
コピーとビデオなどを用意します。		授業参加度と2回のテストにより評価します。	

09年度以降	ドイツ語（Ⅱa 総合2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>一年間の授業で基本的な会話の語彙やパターンを身につけたことと思います。二年時では更に多くの場面で使える会話の表現を学んで下さい。文法的にはあまり難しいことは既になくて、状況に応じた受け答えの練習です。もう少し語彙を増やし、ドイツ語圏で暮らしても困らない程度の日常会話を修得しましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Lektion 7 Personenbeschreibung 人物描写</li> <li>2. 同上</li> <li>3. Lektion 8 Müll und Umwelt ゴミと環境</li> <li>4. 同上</li> <li>5. Lektion 9 Verbote und Gebote 禁止と命令</li> <li>6. 同上</li> <li>7. <b>小テスト</b></li> <li>8. Lektion 10 Lebenslauf und Schulsystem 履歴と学校制度</li> <li>9. 同上</li> <li>10. Lektion 11 Feste und Feiertage 祝祭と祝日</li> <li>11. 同上</li> <li>12. Lektion 12 Jahresende und -anfang 年末年始</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 小テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver：『CD付き・スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語（三修社）		小テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

09年度以降	ドイツ語（Ⅱb 総合2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この時間では様々な練習（簡単な言葉遊び、役割遊び、パートナーにインタビューをする等）を通して、会話表現能力を訓練します。学生の皆さんは既に持っているドイツ語の知識を活用して、更に表現力を高めて下さい。</p> <p>最初の時間に履修者のレベルと興味に合わせて、皆さんにふさわしい教材を選ぶことにします。例えば授業で、ドイツの若者たちの日常生活を描いた短い場面で構成されているビデオ教材（Treffpunkt Berlin）を使用し、それについて練習するのもよいでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己紹介</li> <li>2. 授業</li> <li>3. 授業</li> <li>4. 授業</li> <li>5. 授業</li> <li>6. 授業</li> <li>7. 小テスト / 授業</li> <li>8. 授業</li> <li>9. 授業</li> <li>10. 授業</li> <li>11. 授業</li> <li>12. 授業</li> <li>13. 授業</li> <li>14. 小テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
コピーとビデオなどを用意します。		授業参加度と2回のテストにより評価します。	

09年度以降	ドイツ語(Ⅱa 総合3)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、ドイツ語の初級文法を一通り終了した受講生を対象として、ドイツ語の読解力の養成と文法知識を定着させることを主たる目的とし、合わせて現代ドイツ文化・生活に関する基礎知識を修得させることを目指す。</p> <p>使用するテキストには各章にそのテーマに対応するふたつの読章が配されている。各読章には内容理解問題、文法問題、作文練習、聞き取り練習、ゲーム（会話練習含む）等、多彩な練習問題が用意されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Kapitel 1 Europa, Europa</li> <li>2. 同上</li> <li>3. 同上</li> <li>4. Kapitel 2 Musik</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 同上</li> <li>8. Kapitel 3 Mail und Handy</li> <li>9. 同上</li> <li>10. 同上</li> <li>11. Kapitel 4 Einkaufen</li> <li>12. 同上</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 同上</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Ute Schmidt 他著『CD付き 現代ドイツ語を学ぶための10章』（三修社）		小テスト、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

09年度以降	ドイツ語(Ⅱb 総合3)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期を参照。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Kapitel 5 Studium</li> <li>2. 同上</li> <li>3. 同上</li> <li>4. Kapitel 6 Multikulturelles</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 同上</li> <li>8. Kapitel 7 Essen</li> <li>9. 同上</li> <li>10. 同上</li> <li>11. Kapitel 8 Umwelt</li> <li>12. 同上</li> <li>13. 同上</li> <li>14. 同上</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Ute Schmidt 他著『CD付き 現代ドイツ語を学ぶための10章』（三修社）		小テスト、期末試験、出席状況などを評価対象とする。	

09年度以降	フランス語 (Ia 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(Ia 総合1) は日本人講師、(Ia 総合2) はフランス人講師が担当する。</p> <p>この(Ia 総合1)では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、Grammaire 1a</li> <li>2. Grammaire 1b</li> <li>3. Grammaire 2a</li> <li>4. Grammaire 2b</li> <li>5. Grammaire 3a</li> <li>6. Grammaire 3b</li> <li>7. Grammaire 4a</li> <li>8. Grammaire 4b</li> <li>9. Grammaire 5a</li> <li>10. Grammaire 5b</li> <li>11. Grammaire 6a</li> <li>12. Grammaire 6b</li> <li>13. Grammaire 7a</li> <li>14. Grammaire 7b</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (Ib 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Conversation et Grammaire</i> で、(Ib 総合1) は日本人講師、(Ib 総合2) はフランス人講師が担当する。</p> <p>この(Ib 総合1)では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習</li> <li>2. Grammaire 8a</li> <li>3. Grammaire 8b</li> <li>4. Grammaire 9a</li> <li>5. Grammaire 9b</li> <li>6. Grammaire 10a</li> <li>7. Grammaire 10b</li> <li>8. Grammaire 11a</li> <li>9. Grammaire 11b</li> <li>10. Grammaire 12a</li> <li>11. Grammaire 12b</li> <li>12. Grammaire 13a</li> <li>13. Grammaire 13b</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書： <i>Conversation et Grammaire</i> (Alma) 辞書・参考書については適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (Ia 総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。</p> <p>フランス語 (Ia 総合1：日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、Conversation 1a</li> <li>2. Conversation 1b</li> <li>3. Conversation 2a</li> <li>4. Conversation 2b</li> <li>5. Conversation 3a</li> <li>6. Conversation 3b</li> <li>7. Conversation 4a</li> <li>8. Conversation 4b</li> <li>9. Conversation 5a</li> <li>10. Conversation 5b</li> <li>11. Conversation 6a</li> <li>12. Conversation 6b</li> <li>13. Conversation 7a</li> <li>14. Conversation 7b</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教科書：<i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)</p> <p>辞書・参考書については適宜指示をする。</p>		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (Ib 総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。</p> <p>フランス語 (Ib 総合1：日本人講師担当) とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習</li> <li>2. Conversation 8a</li> <li>3. Conversation 8b</li> <li>4. Conversation 9a</li> <li>5. Conversation 9b</li> <li>6. Conversation 10a</li> <li>7. Conversation 10b</li> <li>8. Conversation 11a</li> <li>9. Conversation 11b</li> <li>10. Conversation 12a</li> <li>11. Conversation 12b</li> <li>12. Conversation 13a</li> <li>13. Conversation 13b</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教科書：<i>Conversation et Grammaire</i> (Alma)</p> <p>辞書・参考書については適宜指示をする。</p>		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (Ia 応用)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実用フランス語検定4級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 演習(1)</li> <li>3. 演習(2)</li> <li>4. 演習(3)</li> <li>5. 演習(4)</li> <li>6. 演習(5)</li> <li>7. 演習(7)</li> <li>8. 演習(8)</li> <li>9. 演習(9)</li> <li>10. 演習(10)</li> <li>11. 演習(11)</li> <li>12. 演習(12)</li> <li>13. 演習(13)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語 (Ib 応用)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実用フランス語検定4級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 演習(1)</li> <li>3. 演習(2)</li> <li>4. 演習(3)</li> <li>5. 演習(4)</li> <li>6. 演習(5)</li> <li>7. 演習(7)</li> <li>8. 演習(8)</li> <li>9. 演習(9)</li> <li>10. 演習(10)</li> <li>11. 演習(11)</li> <li>12. 演習(12)</li> <li>13. 演習(13)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語（Ⅱa 総合1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次のフランス語（Ⅰa 総合1）に引き続き、週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Initial vol.1</i> および <i>Initial vol.2</i> で、（Ⅱa 総合1）は日本人講師、（Ⅱa 総合2）はフランス人講師が担当する。</p> <p>この（Ⅱa 総合1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>Initial vol.1</i> unité 6 leçon 21</li> <li>2. unité 6 leçon 22</li> <li>3. unité 6 leçon 23</li> <li>4. unité 6 leçon 24</li> <li>5. <i>Initial vol.2</i> unité 1 leçon 1</li> <li>6. unité 1 leçon 2</li> <li>7. unité 1 leçon 3</li> <li>8. unité 1 leçon 4</li> <li>9. unité 2 leçon 5</li> <li>10. unité 2 leçon 6</li> <li>11. unité 2 leçon 7</li> <li>12. unité 2 leçon 8</li> <li>13. まとめ</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Initial vol.1 &amp; 2</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

09年度以降	フランス語（Ⅱb 総合1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次のフランス語（Ⅰb 総合1）に引き続き、週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Initial vol.1</i> および <i>Initial vol.2</i> で、（Ⅱb 総合1）は日本人講師、（Ⅱb 総合2）はフランス人講師が担当する。</p> <p>この（Ⅱb 総合1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>Initial vol.2</i> unité 3 leçon 9</li> <li>2. unité 3 leçon 10</li> <li>3. unité 3 leçon 11</li> <li>4. unité 3 leçon 12</li> <li>5. unité 4 leçon 13</li> <li>6. unité 4 leçon 14</li> <li>7. unité 4 leçon 15</li> <li>8. unité 4 leçon 16</li> <li>9. unité 5 leçon 17</li> <li>10. unité 5 leçon 18</li> <li>11. unité 5 leçon 19</li> <li>12. unité 5 leçon 20</li> <li>13. まとめ</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Initial vol.1 &amp; 2</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

09年度以降	フランス語（Ⅱa 総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次のフランス語（Ⅰa 総合2）に引き続き、週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Initial vol.1</i> および <i>Initial vol.2</i> で、（Ⅱa 総合1）は日本人講師、（Ⅱa 総合2）はフランス人講師が担当する。</p> <p>（Ⅱa 総合2）では決まった言い回しと会話が中心となる。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>Initial vol.1</i> unité 6 leçon 21</li> <li>2. unité 6 leçon 22</li> <li>3. unité 6 leçon 23</li> <li>4. unité 6 leçon 24</li> <li>5. <i>Initial vol.2</i> unité 1 leçon 1</li> <li>6. unité 1 leçon 2</li> <li>7. unité 1 leçon 3</li> <li>8. unité 1 leçon 4</li> <li>9. unité 2 leçon 5</li> <li>10. unité 2 leçon 6</li> <li>11. unité 2 leçon 7</li> <li>12. unité 2 leçon 8</li> <li>13. まとめ</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Initial vol.1 &amp; 2</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

09年度以降	フランス語（Ⅱb 総合2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年次のフランス語（Ⅰb 総合2）に引き続き、週2回の授業で、フランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。教科書は <i>Initial vol.1</i> および <i>Initial vol.2</i> で、（Ⅱb 総合1）は日本人講師、（Ⅱb 総合2）はフランス人講師が担当する。</p> <p>（Ⅱb 総合2）では決まった言い回しと会話が中心となる。</p> <p>右におおよその進度を示すが、実際の進度は各担当者により異なることがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>Initial vol.2</i> unité 3 leçon 9</li> <li>2. unité 3 leçon 10</li> <li>3. unité 3 leçon 11</li> <li>4. unité 3 leçon 12</li> <li>5. unité 4 leçon 13</li> <li>6. unité 4 leçon 14</li> <li>7. unité 4 leçon 15</li> <li>8. unité 4 leçon 16</li> <li>9. unité 5 leçon 17</li> <li>10. unité 5 leçon 18</li> <li>11. unité 5 leçon 19</li> <li>12. unité 5 leçon 20</li> <li>13. まとめ</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書： <i>Initial vol.2</i> (Fernand Nathan) 辞書・参考書については各担当者より指示がある。		各担当者より指示・説明がある。	

09年度以降	フランス語（Ⅱa 応用）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実用フランス語検定3級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 演習(1)</li> <li>3. 演習(2)</li> <li>4. 演習(3)</li> <li>5. 演習(4)</li> <li>6. 演習(5)</li> <li>7. 演習(7)</li> <li>8. 演習(8)</li> <li>9. 演習(9)</li> <li>10. 演習(10)</li> <li>11. 演習(11)</li> <li>12. 演習(12)</li> <li>13. 演習(13)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	フランス語（Ⅱb 応用）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実用フランス語検定3級合格を目指し、フランスの紹介も含めた補完的な総合学習（文法練習、読解、聞き取り、慣用句等）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 演習(1)</li> <li>3. 演習(2)</li> <li>4. 演習(3)</li> <li>5. 演習(4)</li> <li>6. 演習(5)</li> <li>7. 演習(7)</li> <li>8. 演習(8)</li> <li>9. 演習(9)</li> <li>10. 演習(10)</li> <li>11. 演習(11)</li> <li>12. 演習(12)</li> <li>13. 演習(13)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示をする。		授業時に説明する。	

09年度以降	スペイン語 (Ia 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(総合1, 2) は、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 (Ia 総合2) とのペア授業である。</p>		<p>① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ ser, estar 動詞の使い方 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</p> <p>また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらおう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09年度以降	スペイン語 (Ib 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 (Ib 総合1) は、スペイン語 (Ia 総合1, 2) の継続の授業である。</p> <p>接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(総合1, 2) は、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 (Ib 総合2) とのペア授業である。</p>		<p>① 春学期の復習 ② 動詞の活用 --- 再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法線過去 ⑨ 点過去と線過去の違い ⑩ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑪ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 ⑫ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ⑬ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑭ 命令表現</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</p>		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09年度以降	スペイン語 (Ia 総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 (Ia 総合2) はスペイン語 (Ia 総合1) とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。</p> <p>受講生は週にスペイン語 (Ia 総合1) と (Ia 総合2) のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語 (Ia 総合1) に同じ。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><b>テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</b></p> <p>また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらおう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語 (Ib 総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 (Ia 総合2) の継続授業である。</p> <p>スペイン語 (Ib 総合2) はスペイン語 (Ib 総合1) とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。</p> <p>受講生は週にスペイン語 (Ib 総合1) と (Ib 総合2) のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語 (Ib 総合1) に同じ。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><b>テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</b></p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語 (Ia 会話)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(会話) では、スペイン語 (Ia 総合 1, 2) での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。(会話)の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 (Ia 総合 1, 2) の項目と同じであるが、(会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 (Ia 総合 1, 2) の「授業計画」を参照のこと。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09年度以降	スペイン語 (Ib 会話)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 (Ia 会話) の継続の授業である。</p> <p>接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(会話)では、スペイン語 (Ib 総合 1, 2) での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。(会話) の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 (Ib 総合 1, 2) の項目と同じであるが、(会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 (Ib 総合 1, 2) の「授業計画」を参照のこと。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当者が指定する教科書 (授業開始時に指示する)		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09年度以降	スペイン語（Ⅱa 会話1）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語Ⅱは、スペイン語Ⅰで身に付けたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。</p> <p>（会話1）では、総合の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目にそって口答練習を中心に授業を進める。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、14回分の授業構成について、各担当者が4月の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ⅱb 会話1）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語（Ⅱa 会話1）の継続の授業である。</p> <p>スペイン語Ⅱは、スペイン語Ⅰで身に付けたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。</p> <p>（会話1）では、総合の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目にそって口答練習を中心に授業を進める。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、14回分の授業構成について、各担当者が9月の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ⅱa 会話2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語Ⅱは、スペイン語Ⅰで身に付けたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。</p> <p>（会話2）では、基本文法事項に沿った聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も試みる。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、14回分の授業構成について、各担当者が4月の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ⅱb 会話2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語（Ⅱa 会話2）の継続の授業である。</p> <p>スペイン語Ⅱは、スペイン語Ⅰで身に付けたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。</p> <p>（会話2）では、基本文法事項に沿った聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も試みる。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、14回分の授業構成について、各担当者が9月の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

09年度以降	スペイン語（Ⅱa 総合）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、14回分の授業構成について、各担当者が4月の最初の授業で説明する。</p> <p>左記の講義目的、講義概要を参照。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09年度以降	スペイン語（Ⅱb 総合）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語Ⅲ(総合)の継続である。</p> <p>総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>クラスの状況、語学の習得具合から判断して、14回分の授業構成について、各担当者が9月の最初の授業で説明する。</p> <p>左記の講義目的、講義概要を参照。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

09年度以降	中国語(Ia 講読・文法)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> 中国語の基礎力をつける。基本的な構文が分かり、簡単な会話ができ、文レベルの簡単な作文が出来るようになることを目指す。</p> <p><b>【講義概要】</b> 週3回の授業のうち、この時間は「書く」「読む」—講読・文法—に重きを置く。 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 中国語の表記は漢字を用い、漢字は表意文字であるので、発音は中国式ローマ字表記“ピンイン”で表す。まず“ピンイン”の表記法と対応する発音の練習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこない知識の定着を図る。</p>		<p>第1回：授業の進め方などについての説明・発音 第2回：第1課 第3回：第2課 第4回：第3課 第5回：復習 第6回：第4課 第7回：第5課 第8回：第6課 第9回：中間考査 第10回：第7課 第11回：第8課 第12回：第9課 第13回：復習 第14回：復習</p> <p>*各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『初級中国語 花ばな—改訂版—』池上貞子 他 朝日出版社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度以降	中国語(Ib 講読・文法)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> 中国語の基礎力をつける。基本的な構文が分かり、簡単な会話ができ、文レベルの簡単な作文が出来るようになることを目指す。</p> <p><b>【講義概要】</b> 週3回の授業のうち、この時間は「書く」「読む」—講読・文法—に重きを置く。 春学期既習の中国語の発音練習から始め、既習の文法事項を適時復習しつつ、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。</p>		<p>第1回：復習 第2回：第10課 第3回：第11課 第4回：第12課 第5回：復習 第6回：第13課 第7回：第14課 第8回：第15課 第9回：中間考査 第11回：第16課 第12回：第17課 第13回：第18課 第14回：復習</p> <p>*各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『初級中国語 花ばな—改訂版—』池上貞子 他 朝日出版社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度以降	中国語(Ia 会話1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国語（Ia 会話1）と中国語（Ia 会話2）とは基本的に同一テキストを用い、同一教員が担当する。したがって週2コマの科目と同様に考えてほしい。</p> <p><b>【講義目的】</b> 中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話ができるようになることを目指す。語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」—会話—に重きを置く。</p> <p><b>【講義概要】</b> 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 中国語の表記は漢字を用い、漢字は表意文字であるので、発音は中国式ローマ字表記“ピンイン”で表す。まず“ピンイン”の表記法と対応する発音の練習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこない知識の定着を図る。</p>		<p>第1・2週：授業の進め方などについての説明、発音</p> <p>第3週：第1課</p> <p>第4週：第2課</p> <p>第5週：第3課</p> <p>第6週：第4課</p> <p>第7週：復習</p> <p>第8週：中間試験</p> <p>第9週：第5課</p> <p>第10週：第6課</p> <p>第11週：第7課</p> <p>第12週：第8課</p> <p>第13週：第9課</p> <p>第14週：復習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『たのしいの中国語 愉快的汉语』金星堂		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度以降	中国語(Ib 会話1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> 中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話ができるようになることを目指す。語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」に重きを置く。</p> <p><b>【講義概要】</b> 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 “ピンイン”の読み方を徹底する。“ピンイン”の表記法と対応する発音の復習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこない知識の定着を図る。</p>		<p>第1週：発音復習、春学期の既習事項のブラッシュアップ</p> <p>第2週：第10課</p> <p>第3週：第11課</p> <p>第4週：第12課</p> <p>第5週：第13課</p> <p>第6週：復習</p> <p>第7週：中間試験</p> <p>第8週：第14課</p> <p>第9週：第15課</p> <p>第10週：第16課</p> <p>第11週：第17課</p> <p>第12週：第18課</p> <p>第13週：《補充課文》</p> <p>第14週：復習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『たのしいの中国語 愉快的汉语』金星堂		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度以降	中国語(Ia 会話2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国語（Ia 会話1）と中国語（Ia 会話2）とは基本的に同一テキストを用い、同一教員が担当する。したがって週2コマの科目と同様に考えてほしい。</p> <p><b>【講義目的】</b> 中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話ができるようになることを目指す。語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」—会話—に重きを置く。</p> <p><b>【講義概要】</b> 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 中国語の表記は漢字を用い、漢字は表意文字であるので、発音は中国式ローマ字表記“ピンイン”で表す。まず“ピンイン”の表記法と対応する発音の練習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこない知識の定着を図る。</p>		<p>第1・2週：授業の進め方などについての説明、発音</p> <p>第3週：第1課</p> <p>第4週：第2課</p> <p>第5週：第3課</p> <p>第6週：第4課</p> <p>第7週：復習</p> <p>第8週：中間試験</p> <p>第9週：第5課</p> <p>第10週：第6課</p> <p>第11週：第7課</p> <p>第12週：第8課</p> <p>第13週：第9課</p> <p>第14週：復習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『たのしいの中国語 愉快的汉语』金星堂		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度以降	中国語(Ib 会話2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> 中国語の基礎力をつけ、基本的な構文が分かり平易な会話ができるようになることを目指す。語学力の4分野「聴く」「話す」「書く」「読む」のうち、「聴く」「話す」—会話—に重きを置く。</p> <p><b>【講義概要】</b> 中国語の発音練習から始め、基本的な文型および初級文法事項を学んでいく。 “ピンイン”の読み方を徹底する。“ピンイン”の表記法と対応する発音の復習から入る。 ついで基本的な文型を学び、文型を用いた会話練習などをおこない知識の定着を図る。</p>		<p>第1週：発音復習、春学期の既習事項のブラッシュアップ</p> <p>第2週：第10課</p> <p>第3週：第11課</p> <p>第4週：第12課</p> <p>第5週：第13課</p> <p>第6週：復習</p> <p>第7週：中間試験</p> <p>第8週：第14課</p> <p>第9週：第15課</p> <p>第10週：第16課</p> <p>第11週：第17課</p> <p>第12週：第18課</p> <p>第13週：《補充課文》</p> <p>第14週：復習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『たのしいの中国語 愉快的汉语』金星堂		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度以降	中国語（Ⅱa 講読・文法）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> 1年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらにややレベルアップした語彙・文型などを学び、総合的な中国語力を身につけることを目指す。</p> <p><b>【講義概要】</b></p> <p>テキストには1年次よりも内容的にやや難しい、量的にも比較的長い文章が出てくる。文法事項を理解したうえで読解し、練習問題などで知識の定着をはかる。</p> <p>テキストの内容は現代中国を理解するためのさまざまなトピックについて説明する文章であり、日中両国の文化や表現形式を比較するてがかりともなる。</p>		<p>第1回：授業の進め方などについての説明 第2～3回：第1課 教育の公平 第4～5回：第2課 就職難 第6～7回：第3課 若者の結婚恋愛観の変化 第8回：復習・中間考査 第9～10回：第4課 ローン奴隷 第11～12回：第5課 多くの個人投資家 第13～14回：第6課 都市の消費ブーム</p> <p>*各クラスの学習状況および習熟度に応じて適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：『変化する中国』 孟広学 他 白水社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度以降	中国語（Ⅱb 講読・文法）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> 1年次において学んだ語彙・文型・文法事項を復習・確認しながら、さらにややレベルアップした語彙・文型などを学び、総合的な中国語力を身につけることを目指す。</p> <p><b>【講義概要】</b></p> <p>テキストには1年次よりも内容的にやや難しい、量的にも比較的長い文章が出てくる。文法事項を理解したうえで読解し、練習問題などで知識の定着をはかる。</p> <p>テキストの内容は現代中国を理解するためのさまざまなトピックについて説明する文章であり、日中両国の文化や表現形式を比較するてがかりとなる。</p>		<p>第1回：授業の進め方などについての説明 第2～3回：第7課 考碗族 第4～5回：第8課 家政婦 第6～7回：第9課 民は食をもって天となす 第8回：復習・中間考査 第9～10回：第10課 「80後」と「子供を育てて老後に備える」 第11～12回：第11課 老後の危機 第13～14回：第12課 中国におけるボランティア</p> <p>*各クラスの学習状況および習熟度に応じて適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：『変化する中国』 孟広学 他 白水社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度以降	中国語(Ⅱa 会話 1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】 一年次において履修した中国語の基礎に立ち、さらに語彙、文法事項などの知識を積み重ね、中国語力を高める。とりわけ実践的な会話力の習得を目指す。</p> <p>【講義概要】 テキストは日常生活のさまざまな場面における会話文、関連した文法説明と作文練習、ヒアリングを含めた練習問題からなる。 「読む」「書く」「聴く」「話す」の四分野において中国語の実践的な力をつけるよう練習を行う。</p>		<p>第1回：授業の進め方などについての説明・発音復習 第2回：第1課 我来介绍一下 第3回：第2課 你想去看看吗？ 第4回：復習 第5回：第3課 咱们去吃早点吧 第6回：第4課 要什么有什么 第7回：中間考査 第8回：第5課 到中国朋友家做客 第9回：第6課 学做中国菜 第10回：復習 第11回：第7課 一点儿小意思 第12回：第8課 能陪我上趟街吗？ 第13回：復習 第14回：復習</p> <p>*各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『実力のつく中国語』楊凱榮 他 白帝社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度以降	中国語(Ⅱb 会話 1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【講義目的】 一年次において履修した中国語の基礎に立ち、さらに語彙、文法事項などの知識を積み重ね、中国語力を高める。</p> <p>【講義概要】 テキストは日常生活のさまざまな場面における会話文、関連した文法説明と作文練習、ヒアリングを含めた練習問題からなる。 「読む」「書く」「聴く」「話す」の四分野において中国語の実践的な力をつけるよう練習を行う。</p>		<p>第1回：授業の進め方などについての説明・発音復習 第2回：第9課 知道怎么走了吗？ 第3回：第10課 在外面乘凉 第4回：復習 第5回：第11課 都去哪儿玩儿了？ 第6回：第12課 什么报纸最有意思？ 第7回：中間考査 第8回：第13課 看过中国的戏剧吗？ 第9回：第14課 我怕翻不好 第10回：復習 第11回：第15課 摔得厉害吗？ 第12回：第16課 真舍不得跟你分手 第13回：復習 (第14回)：復習</p> <p>*各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『実力のつく中国語』楊凱榮 他 白帝社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度以降	中国語(Ⅱa 会話2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> 一年次において履修した中国語の基礎に立ち、さらに語彙、文法事項などの知識を積み重ね、中国語力を高める。「会話1」と合わせて、発音練習を重視し会話力の習得に重きを置く。</p> <p><b>【講義概要】</b> テキストは日常生活のさまざまな場面における会話文、関連した文法説明、コミュニケーション表現、練習問題からなる。「読む」「書く」「聴く」「話す」の四分野において中国語の実践的な力をつける。</p>		<p>第1・2回：授業の進め方などについての説明 第1課 「紹介」</p> <p>第3・4回：第2課「最初の授業」</p> <p>第5・6回：第3課「世間話」</p> <p>第7・8回：中間考査・第4課「値切る」</p> <p>第9・10回：第5課「タクシーに乗る」</p> <p>第11・12回：第6課「バスに乗る」</p> <p>第13・14回：第7課「小包を出す」</p> <p>*各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『中国語Ⅱ 中級会話コース』顧明耀 他 白帝社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度以降	中国語(Ⅱb 会話2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> 一年次において履修した中国語の基礎に立ち、さらに語彙、文法事項などの知識を積み重ね、中国語力を高める。「会話1」と合わせて、発音練習を重視し会話力の習得に重きを置く。</p> <p><b>【講義概要】</b> テキストは日常生活のさまざまな場面における会話文、関連した文法説明、コミュニケーション表現、練習問題からなる。「読む」「書く」「聴く」「話す」の四分野において中国語の実践的な力をつける。</p>		<p>第1・2回：授業の進め方などについての説明 第8課 「レストランで」</p> <p>第3・4回：第9課「診察」</p> <p>第5・6回：第10課「訪問」</p> <p>第7・8回：中間考査・第11課「旅行」</p> <p>第9・10回：第12課「春節」</p> <p>第11・12回：第13課「送別」</p> <p>第13・14回：第14課「留学の感想」</p> <p>*各クラスの学習状況および習熟度に応じて、適宜進度を調整しつつ上記の内容について学ぶ。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『中国語Ⅱ 中級会話コース』顧明耀 他 白帝社		期末試験と平常点（中間試験、小テスト、課題の実行度、授業に対する取り組み方など）によって総合的に評価する。	

09年度以降	韓国語(Ia 総合1)	担当者	森 勇俊
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実践に役立つ韓国語を総合的に学ぶのが目的である。韓国語の授業は、1～2年次では3コマで、そのうち2コマを読解や作文等の総合的な学習に、1コマを検定試験に向けた学習に充てることとする。本授業では韓国語の総合的な学習を目指し、ハングルのしくみからはじまって基本的な挨拶、自己紹介、日常会話、韓国新聞や説明書などの文章を読む、手紙や日記を書くなどのスキルをしっかりと身につけていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：韓国語について</li> <li>2. 基本母音（1）</li> <li>3. 基本子音（1）</li> <li>4. 複合母音（1）</li> <li>5. パッチム（1）</li> <li>6. 発音の変化（1）</li> <li>7. 私は浅井ゆかりです（1）</li> <li>8. 出身はソウルですか（1）</li> <li>9. 図書館ではありません（1）</li> <li>10. 時間がありますか（1）</li> <li>11. インターネットをします（1）</li> <li>12. 貿易会社で働いています（1）</li> <li>13. 東大門市場に行きます（1）</li> <li>14. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『基礎から学ぶ韓国語講座初級』、木内明著、国書刊行会		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

09年度以降	韓国語(Ib 総合1)	担当者	森 勇俊
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実践に役立つ韓国語を総合的に学ぶのが目的である。韓国語の授業は、1～2年次では3コマで、そのうち2コマを読解や作文等の総合的な学習に、1コマを検定試験に向けた学習に充てることとする。本授業では韓国語の総合的な学習を目指し、ハングルのしくみからはじまって基本的な挨拶、自己紹介、日常会話、韓国新聞や説明書などの文章を読む、手紙や日記を書くなどのスキルをしっかりと身につけていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. しょっちゅうスーパーで買います（1）</li> <li>2. それは一万ウォンです（1）</li> <li>3. 今、何時ですか（1）</li> <li>4. 日本語を話されますか（1）</li> <li>5. そんなに遠くありません（1）</li> <li>6. いつ韓国に来ましたか（1）</li> <li>7. 民俗村に一緒に行きましょう（1）</li> <li>8. パーティーの準備をしています（1）</li> <li>9. 何も食べられませんでした（1）</li> <li>10. 陶磁器を見たいです（1）</li> <li>11. 写真を撮ってもいいですか（1）</li> <li>12. もう行かなければなりませんか（1）</li> <li>13. 手紙を書きますよ（1）</li> <li>14. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『基礎から学ぶ韓国語講座初級』、木内明著、国書刊行会		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

09年度以降	韓国語（Ia 総合2）	担当者	森 貞美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実践に役立つ韓国語を総合的に学ぶのが目的である。韓国語の授業は、1～2年次では3コマで、そのうち2コマを読解や作文等の総合的な学習に、1コマを検定試験に向けた学習に充てることとする。</p> <p>本授業では韓国語の総合的な学習を目指し、ハンダルのしくみからはじまって基本的な挨拶、自己紹介、日常会話、韓国新聞や説明書などの文章を読む、手紙や日記を書くなどのスキルをしっかりと身につけていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：韓国語について</li> <li>2. 基本母音（2）</li> <li>3. 基本子音（2）</li> <li>4. 複合母音（2）</li> <li>5. パッチム（2）</li> <li>6. 発音の変化（2）</li> <li>7. 私は浅井ゆかりです（2）</li> <li>8. 出身はソウルですか（2）</li> <li>9. 図書館ではありません（2）</li> <li>10. 時間がありますか（2）</li> <li>11. インターネットをします（2）</li> <li>12. 貿易会社で働いています（2）</li> <li>13. 東大門市場に行きます（2）</li> <li>14. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>木内明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会</p>		<p>原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。</p>	

09年度以降	韓国語（Ib 総合2）	担当者	森 貞美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>実践に役立つ韓国語を総合的に学ぶのが目的である。韓国語の授業は、1～2年次では3コマで、そのうち2コマを読解や作文等の総合的な学習に、1コマを検定試験に向けた学習に充てることとする。</p> <p>本授業では韓国語の総合的な学習を目指し、ハンダルのしくみからはじまって基本的な挨拶、自己紹介、日常会話、韓国新聞や説明書などの文章を読む、手紙や日記を書くなどのスキルをしっかりと身につけていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. しょっちゅうスーパーで買います（2）</li> <li>2. それは一万ウォンです（2）</li> <li>3. 今、何時ですか（2）</li> <li>4. 日本語を話されますか（2）</li> <li>5. そんなに遠くありません（2）</li> <li>6. いつ韓国に来ましたか（2）</li> <li>7. 民俗村に一緒に行きましょう（2）</li> <li>8. パーティーの準備をしています（2）</li> <li>9. 何も食べられませんでした（2）</li> <li>10. 陶磁器を見たいです（2）</li> <li>11. 写真を撮ってもいいですか（2）</li> <li>12. もう行かなければなりませんか（2）</li> <li>13. 手紙を書きますよ（2）</li> <li>14. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>木内明 著 『基礎から学ぶ韓国語講座初級』国書刊行会</p>		<p>原則として定期試験、授業中に行う小テスト、授業への取り組みなどに基づいて総合的に評価する。</p>	

09年度以降	韓国語 (I a 応用)	担当者	金 熙淑
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>言語はその国の文化を知る一番の近道である。ハングル文字の構造は科学的、体系的であり、発音上の多様な表現を可能にする。</p> <p>本講義では、韓国語の基本的な会話表現を学びながらハングル文字の学習と発音の変化の規則を学ぶ。はじめて出会うハングル文字の読み書きができる楽しさ、初級段階の基本的な文法を知る楽しさ、挨拶や自己紹介などの簡単な会話ができる楽しさを知る。そのためには地道な努力が必要であり、常に復習と予習を繰り返し、韓国語を学ぶ夢がもてるようにしたい。</p> <p>●欠席は遠慮し1回目の授業から出席すること。 ●「ハングル文字」の読み書きが出来るよう復習・予習を徹底的に行うこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字と発音(1、2、3)</li> <li>2. 文字と発音(5、6、7)</li> <li>3. 文字と発音(8、9、10)</li> <li>4. 第1課 私は学生です</li> <li>5. 第1課 文型・活用練習</li> <li>6. 第2課 これは何ですか</li> <li>7. 第2課 文型・活用練習</li> <li>8. 第3課 この人が誰ですか</li> <li>9. 第3課 文型・活用練習()</li> <li>10. 第4課 学校はどこにありますか</li> <li>11. 第4課 文型・活用練習()</li> <li>12. 第5課 何をしますか</li> <li>12. 第5課 文型・活用練習()</li> <li>13. 第1課から5課まで復習</li> <li>14. 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
李昌圭『韓国語を学ぼう 初級』 李昌圭『別冊練習帳 韓国語を学ぼう 初級』		出席、小テスト、期末テスト	

09年度以降	韓国語 (I b 応用)	担当者	金 熙淑
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ハングルの文字が読めるようになれば、一気に楽しくなる。本講義では、見てわかる、聞いてわかるという「理解語彙」と、書ける、話せるという「使用語彙」を増やす学習をめざす。基礎段階で学習すべき文法も体系的に学び、より豊かな表現力を身につけ、韓国語ができるという自身感をもてるように期待したい。</p> <p>●「韓国語ができるという」楽しさを知り、実際のコミュニケーションの場を楽しむようになるには、継続的な復習、予習が必要である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習 (文字と発音、第1課～2課)</li> <li>2. 復習 (第3課～5課)</li> <li>3. 第6課 何処へ行かれますか</li> <li>4. 第6課 文型・活用練習</li> <li>5. 第7課 昨日、何をしましたか</li> <li>6. 第7課 文型・活用練習</li> <li>7. 第8課 試験はいつですか</li> <li>8. 第8課 文型・活用練習</li> <li>9. 第9課 今、何時ですか</li> <li>10. 第9課 文型・活用練習</li> <li>11. 第10課 おいくらですか</li> <li>12. 第10課 文型・活用練習</li> <li>13. 第6課から10課まで復習</li> <li>14. 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
李昌圭『韓国語を学ぼう 初級』 李昌圭『別冊練習帳 韓国語を学ぼう 初級』		出席、小テスト、期末テスト	

09 年度以降	韓国語(Ⅱa 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		1. ガイダンス：韓国語について 2. 基本母音（1） 3. 基本子音（1） 4. 複合母音（1） 5. パッチム（1） 6. 発音の変化（1） 7. 私は浅井ゆかりです（1） 8. 出身はソウルですか（1） 9. 図書館ではありません（1） 10. 時間がありますか（1） 11. インターネットをします（1） 12. 貿易会社で働いています（1） 13. 東大門市場に行きます（1） 14. 授業のまとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『基礎から学ぶ韓国語講座初級』、木内明著、国書刊行会		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%	

09 年度以降	韓国語(Ⅱb 総合1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		1. 復習 2. 遅れて申し訳ありません（1） 3. この背の高い人がご主人ですか（1） 4. 付き合っている人はいませんでした（1） 5. どこのおいもりですか（1） 6. 小学校で習ったことがありますよ。（1） 7. 韓国が勝ちそうです（1） 8. 韓国が勝ちそうです（2） 9. 見ようと思います（1） 10. 雨が降り始めました（1） 11. 雨が降り始めました（2） 12. 食事でもしに行きましょうか（1） 13. 食事でもしに行きましょうか（2） 14. 授業のまとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『基礎から学ぶ韓国語講座中級』、木内明著、国書刊行会		出席 30%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%	

09年度以降	韓国語(Ⅱa 総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. しょっちゅうスーパーで買います(1)</li> <li>2. それは一万ウォンです(1)</li> <li>3. 今、何時ですか(1)</li> <li>4. 日本語を話されますか(1)</li> <li>5. そんなに遠くありません(1)</li> <li>6. いつ韓国に来ましたか(1)</li> <li>7. 民俗村に一緒に行きましょう(1)</li> <li>8. パーティーの準備をしています(1)</li> <li>9. 何も食べられませんでした(1)</li> <li>10. 陶磁器を見たいです(1)</li> <li>11. 写真を撮ってもいいですか(1)</li> <li>12. もう行かなければなりませんか(1)</li> <li>13. 手紙を書きますよ(1)</li> <li>14. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『基礎から学ぶ韓国語講座初級』、木内明著、国書刊行会		出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%	

09年度以降	韓国語(Ⅱb 総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習</li> <li>2. 実現したらいいのですが(1)</li> <li>3. 高校の時に修学旅行で来ました(1)</li> <li>4. 開かれるといいます(1)</li> <li>5. すごくきれいになりましたよ(1)</li> <li>6. 建てられて以来どのくらい経ちましたか。(1)</li> <li>7. 健康そうですね(1)</li> <li>8. タレでも作っておいて(2)</li> <li>9. 痩せるためには我慢しなくちゃ(1)</li> <li>10. 痩せるためには我慢しなくちゃ(2)</li> <li>11. 雨が降り始めました(2)</li> <li>12. 私も行くから(1)</li> <li>13. 私も行くから(2)</li> <li>14. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『基礎から学ぶ韓国語講座中級』、木内明著、国書刊行会		出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%	

09年度以降	韓国語（Ⅱa 応用）	担当者	金 熙淑
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講座は、「韓国語Ⅰ応用」の履修し、単位修得した者に限り受講可能。</p> <p>本講義では「韓国語Ⅰ」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。</p> <p>履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。</p> <p>●目標を立て、常に復習と予習を繰り返すこと。 ●6月にハングル能力検定試験5級に挑戦。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国語を学ぼう 初級の復習</li> <li>2. 韓国語を学ぼう 初級の復習</li> <li>3. 第1課 何を食べましょうか</li> <li>4. 第1課 文型・活用練習(5級問題集・第1章)</li> <li>5. 第2課 電話番号を教えてください</li> <li>6. 第2課 文型・活用練習(5級問題集・第2章)</li> <li>7. 第3課 趣味は何ですか</li> <li>8. 第3課 文型・活用練習(5級問題集・第3章)</li> <li>9. 第4課 インサドンにはどう行けばいいですか</li> <li>10. 第4課 文型・活用練習(5級問題集・第4章)</li> <li>11. 第5課 風邪は治りましたか</li> <li>12. 第5課 文型・活用練習(5級問題集・模擬テスト)</li> <li>13. 第1課から5課まで復習</li> <li>14. 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
李昌圭『韓国語を学ぼう 中級』 李昌圭『別冊練習帳 韓国語を学ぼう 中級』 李昌圭・尹南淑共著『ハングル検定試験実践問題集5級』		出席、小テスト、期末テスト ●ハングル能力検定試験結果	

09年度以降	韓国語（Ⅱb 応用）	担当者	金 熙淑
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講座は、「韓国語Ⅰ応用」を履修し、単位修得した者で、前期の講義を受けた者に限り受講可能。</p> <p>今まで見つけた知識を活かし文法や表現を応用してどんどんチャレンジしていく。韓国語の正確な表現力、会話運用力の学習をめざす。履修者には資格を取り、自分の将来に活かすことを期待したい。</p> <p>●常に復習と予習を繰り返し、韓国語を学ぶ目標をもつこと。 ●11月にハングル能力検定試験挑戦。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1課から5課まで復習</li> <li>2. 4級問題集(発音)</li> <li>3. 第6課 連休には何をするつもりですか</li> <li>4. 第6課 文型・活用練習</li> <li>5. 4級問題集(語彙)</li> <li>6. 4級問題集(文法)</li> <li>7. 第7課 雨がたくさん降るようですね</li> <li>8. 第7課 文型・活用練習</li> <li>9. 4級問題集(対話文)</li> <li>10. 4級模擬テスト</li> <li>11. 第8課 プルゴギを作ることができますか</li> <li>12. 第8課 文型・活用練習</li> <li>13. 第9課 このズボン、試着してもいいですか</li> <li>14. 期末テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
李昌圭『韓国語を学ぼう 中級』 李昌圭『別冊練習帳 韓国語を学ぼう 中級』 李昌圭・安國煥共著『ハングル検定試験実践問題集4級』		出席、小テスト、期末テスト ●ハングル能力検定試験結果	

2010年度

# 外国語学部共通科目シラバス

09年度以降	総合講座（グローバル化時代の人間形成①）	担当者	コーディネーター 工藤 和宏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講座は、人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて移動することと、学習を通して人間が形成されることの両者の関係について、個人の成長や人生設計といったミクロな次元から、国家や国際組織にとっての人材の獲得や育成といったマクロな次元までを幅広く考察します。本学の建学理念である「学問を通じての人間形成」を、異なる文化や言語が交錯するグローバルな文脈に置くことにより、受講生の自己内省、特に、大学で学ぶことの意味の再構築に役立てればと考えています。</p> <p>本講座は、オムニバス形式です。各担当講師には自身の研究者・教育者・実務者・生活者としての経験から、独自にグローバル化や人間形成について語っていただきます。「グローバル化」とはそもそも何なのか？いつごろ始まったと言えるのか？「グローバル化時代を生きる」ためには何か特別な知的・身体的営為が必要なのか？「グローバル化」が多くの人に唱えられることによって（キャリア形成や人材育成などを含む）「人間形成」にどのような意味が生まれているのか？または、消えているのか？</p> <p>様々な分野の専門家の話に耳を傾けながら、「今ここにいる自分」を相対化するのに役立ててください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工藤和宏（コーディネーター）導入</li> <li>2. 木村佐千子（独語学科）ナチス・ドイツと音楽家たち</li> <li>3. 林部圭一（独語学科）歌人ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデ</li> <li>4. 浅岡千利世（英語学科）グローバル化時代の外国語教育と学習者のアイデンティティ</li> <li>5. 北野収（交流文化学科）フェアトレードの誕生——ヴァンデルホフ神父の半生から</li> <li>6. 杉山晴信（英語学科）法規範としての“Plain English”と消費者保護の思想</li> <li>7. 田中善英（仏語学科）ことばを守るということ</li> <li>8. 佐野康子（英語学科）グローバル社会の中の東アフリカ</li> <li>9. 橋本博子（モナシユ大学人文学部）グローバル化と留学交流</li> <li>10. 阿部仁（一橋大学国際教育センター）「異文化」を理解する</li> <li>11. 堀越喜晴（明治大学政治経済学部）バリアオーバーコミュニケーション——コミュニケーションの本質を考える</li> <li>12. 工藤和宏（英語学科）獨協大学と留学生——学生交流促進の試みから学んだこと</li> <li>13. 原成吉（英語学科）詩と禅とエコロジーから見た環太平洋文化</li> <li>14. 太田浩（一橋大学国際教育センター）グローバル化と高等教育——国境を跨ぐ学生と大学の動向</li> </ol> <p>*担当講師の都合により、変更になる場合があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各担当講師より紹介されます。（コーディネーター推薦図書：アマルティア・セン（2009）『グローバリゼーションと人間の安全保障』日本経団連出版。）		学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。（平常点は主として毎回のコメントカードの質にて評価されます。）	

09年度以降	総合講座（グローバル化時代の人間形成②）	担当者	コーディネーター 工藤 和宏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講座は、人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて移動することと、学習を通して人間が形成されることの両者の関係について、個人の成長や人生設計といったミクロな次元から、国家や国際組織にとっての人材の獲得や育成といったマクロな次元までを幅広く考察します。本学の建学理念である「学問を通じての人間形成」を、異なる文化や言語が交錯するグローバルな文脈に置くことにより、受講生の自己内省、特に、大学で学ぶことの意味の再構築に役立てればと考えています。</p> <p>本講座は、オムニバス形式です。各担当講師には自身の研究者・教育者・実務者・生活者としての経験から、独自にグローバル化や人間形成について語っていただきます。「グローバル化」とはそもそも何なのか？いつごろ始まったと言えるのか？「グローバル化時代を生きる」ためには何か特別な知的・身体的営為が必要なのか？「グローバル化」が多くの人に唱えられることによって（キャリア形成や人材育成などを含む）「人間形成」にどのような意味が生まれているのか？または、消えているのか？</p> <p>様々な分野の専門家の話に耳を傾けながら、「今ここにいる自分」を相対化するのに役立ててください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工藤和宏（コーディネーター）導入</li> <li>2. 横地卓哉（仏語学科）グローバル化——負の側面</li> <li>3. 古田善文（独語学科）グローバル化の波に翻弄される統一 20年後のドイツ</li> <li>4. 若森栄樹（仏語学科）ヨーロッパから見たグローバリゼーション</li> <li>5. 渡部重美（独語学科）ゲーテのイタリア旅行——詩人再生の旅</li> <li>6. 田村毅（仏語学科）海を渡る女神たち——地中海文化圏の拡大と神話の習合</li> <li>7. 鍋倉健悦（英語学科）自己成長と幸福</li> <li>8. 日野克美（交流文化学科）ジョークを通しての人間観と国際関係</li> <li>9. 山本淳（独語学科）ブルーノ・タウトと日本</li> <li>10. 菅野直樹（防衛省防衛研究所）歴史研究所の所産と意義</li> <li>11. 工藤和宏（英語学科）グローバル JAPAN、「日本人論」と日本の若者</li> <li>12. A. Zollinger（英語学科）Teriyaki Beef and Rainbow Rolls: The Globalization of Japanese Cuisine</li> <li>13. 柿沼義孝（独語学科）外国語学習と日本の伝統文化</li> <li>14. 工藤和宏〈総括〉〇〇時代の人間形成——50年後の「私（たち）」</li> </ol> <p>*担当講師の都合により、変更になる場合があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各担当講師より紹介されます。（コーディネーター推薦図書：アマルティア・セン（2009）『グローバリゼーションと人間の安全保障』日本経団連出版。）		学期末試験の結果に平常点を加味した総合評価。（平常点は主として毎回のコメントカードの質にて評価されます。）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	総合講座（EUの歴史と現状）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つEU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。</p> <p>地域統合の歴史的前例としてのEUについて学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。</p>		<p>講義の主な内容は以下のとおりです：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想</li> <li>3~4. 戦後復興～1980年代</li> <li>5~6. マーストリヒト条約以降のEU</li> <li>7~8. EUの制度</li> <li>9~11. EUの諸政策</li> <li>12. 英・独・仏とEU</li> <li>13. EU域外との関係</li> <li>14. まとめ：EUの現在の課題</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし</p> <p>参考文献：授業の際に指示します。</p>		<p>授業における小テスト（3回程度実施、30%）と期末レポートまたは試験（70%）</p>	

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要と目標、情報科学とは</li> <li>2 データ表現、基数変換、論理演算</li> <li>3 コンピュータの構成要素</li> <li>4 ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>5 オペレーティングシステム (OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理</li> <li>6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的</li> <li>7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木</li> <li>8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例</li> <li>9 コンピュータによる言語情報処理技術 (1)</li> <li>10 コンピュータによる言語情報処理技術 (2)</li> <li>11 機械翻訳システムの演習</li> <li>12 自然言語質問応答システム</li> <li>13 インターネット上の多言語処理技術</li> <li>14 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」の各科目、および[応用]の各科目を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [総合]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」の各科目、および[応用]の各科目を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習) [英語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論(情報処理演習) [ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または [応用] の各科目を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2009年度以降に「情報科学各論 (プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(2)</li> <li>9. マクロの利用(3)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2009年度以降に「情報科学各論 (プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(2)</li> <li>9. マクロの利用(3)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2009年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が増えることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2009年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が増えることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳細な用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳細な用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

09年度以降	情報科学各論（言語情報処理1）	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>[目的]</b> この授業では、言語が機械（コンピューター）可読の資料になったとき、それらをどのような方法で分析し、その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り、考えることを目的とする。</p> <p><b>[概要]</b> コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい、近年では数多くの辞書や文法書、外国語学習書にその分析結果が活かされている。コンピューターを利用することにより、人間の目あるいは直感では知りえないことがわかることがある。たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ10は何か」とか、「日本の高校で使われている単語は、英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである。 本授業は、さまざまなジャンル、モード、発話者から集められたコーパスを、専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる。</p> <p>※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. コーパスとは何か、身近な活用例</li> <li>3. コンピューターの基本操作：テキストエディタ</li> <li>4. コンピューターの基本操作：MS Excel</li> <li>5. 高度なWeb検索方法</li> <li>6. British National Corpus (BNC) の紹介</li> <li>7. BNCを利用した語彙リストの作成</li> <li>8. BNCを利用した語彙リストの比較</li> <li>9. BNCを利用した語句検索</li> <li>10. BNCを利用した共起検索</li> <li>11. 品詞の特徴と分析</li> <li>12. DIY コーパス（映画、小説、教科書、etc.）(1)</li> <li>13. DIY コーパス（映画、小説、教科書、etc.）(2)</li> <li>14. <u>最終レポート</u>の準備</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
PowerPointの資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

09年度以降	情報科学各論（言語情報処理2）	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>[目的]</b> 春学期に引き続きコーパス分析を行うが、今学期は日本人英語学習者による話し言葉・書き言葉を集めた、「学習者コーパス」を分析の対象とする。私たち自身を含む英語学習者のアウトプットデータを分析することにより、どのような語彙・文法使用および誤り（エラー）がわれわれ日本人英語学習者の特徴なのかを知り、今後の学習や教育に活かすことを目的とする。</p> <p><b>[概要]</b> 主に日本人1200人分の英語によるインタビューデータを収集し、コーパス化したNICT JLE Corpusを扱う（日本人中高生1万人の英作文を集めたJEFLC Corpusにも触れる）。このコーパスは異なる英語力を持つ学習者グループのデータを含んでいるため、「英語力が低い人と高い人は具体的に何が違うのか？」という疑問に対する答えを求めることができる。分析は、語彙、文法、談話、誤り等の観点から行う。</p> <p>※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい ※ 「情報科学各論（言語情報処理1）」を受講していることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 学習者コーパスとは何か、身近な活用例</li> <li>3. NICT JLE Corpus の概要</li> <li>4. 流暢さの分析（1）</li> <li>5. 流暢さの分析（2）</li> <li>6. 使用語彙の分析（1）</li> <li>7. 使用語彙の分析（2）</li> <li>8. 使用文法事項の分析（1）</li> <li>9. 使用文法事項の分析（2）</li> <li>10. 誤り分析（1）</li> <li>11. 誤り分析（2）</li> <li>12. 誤り分析（3）</li> <li>13. <u>最終レポート</u>の準備（1）</li> <li>14. <u>最終レポート</u>の準備（2）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
PowerPointの資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める。	

09 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です）</b></p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見ようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析（下に続く↓）</p>		<p>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</p> <p>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</p> <p>3 計算（計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等）</p> <p>4 Excel 関数（算術・統計関数を中心に）</p> <p>5 Excel 関数（文字列操作関数を中心に）</p> <p>6 Excel 関数（論理関数を中心に）</p> <p>7 Excel 関数のネスト（1）</p> <p>8 Excel 関数のネスト（2）</p> <p>9 Excel 関数のネスト（3）</p> <p>10 データベース処理（並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索）</p> <p>11 データベース処理（クロス集計とピボットテーブル）</p> <p>12 データベース上のデータの蓄積方法</p> <p>13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</p> <p>14 まとめと演習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>）を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

09 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょ。</p>		<p>1 講義のガイダンス：コーパスとその応用</p> <p>2 Access 上にデータを格納</p> <p>3 Access のデータを引き出して Excel で分析</p> <p>4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる (MI-Score)。</p> <p>5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる (t-score)。</p> <p>6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習</p> <p>7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</p> <p>8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</p> <p>9 品詞の使われ方と英文の特徴</p> <p>10 最先端のコーパスの現状：体験アクセス</p> <p>11 「文体」をどうとらえるか。一文の長さ</p> <p>12 文の長さが意味するもの—標準偏差・変動係数</p> <p>13 語彙密度・K 特性値</p> <p>14 まとめと演習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>）を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 2009年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 2009年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

09年度以降	情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方の方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、<u>ガイダンスには必ず出席すること。</u> 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 HTMLとFTPの復習（1）</li> <li>3 HTMLとFTPの復習（2）</li> <li>4 インタラクティブなページ（HTMLとCGI）</li> <li>5 プログラミングの基礎知識</li> <li>6 JavaScript（1）</li> <li>7 JavaScript（2）</li> <li>8 JavaScript（3）</li> <li>9 JavaScript（4）</li> <li>10 JavaScript（5）</li> <li>11 CGIの利用</li> <li>12 総合課題（1）</li> <li>13 総合課題（2）</li> <li>14 鑑賞・報告会</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。 最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。</p>	

09年度以降	経済原論 a	担当者	井上 智弘
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要：</b>          経済学を初めて学ぶ学生を対象として、経済学の基礎的な理論について講義する。春学期は、家計に代表される消費者と企業に代表される生産者の行動に焦点を当てるミクロ経済学の基礎理論について説明する。また、受講生の理解を測るために、講義中に問題演習や小テストを行う。講義は右の授業計画に沿って行う予定であるが、小テストの結果等を踏まえて、計画を一部変更する可能性はある。</p> <p><b>講義目的：</b>          ミクロ経済分析を行う上で、必要不可欠な基礎理論の習得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学とは何か</li> <li>2. 需要と供給 ①</li> <li>3. 需要と供給 ②</li> <li>4. 消費者行動 ①</li> <li>5. 消費者行動 ②</li> <li>6. 消費者行動 ③</li> <li>7. 生産者行動 ①</li> <li>8. 生産者行動 ②</li> <li>9. 生産者行動 ③</li> <li>10. 余剰分析</li> <li>11. 価格規制、数量規制、課税の影響</li> <li>12. 不完全競争 ①</li> <li>13. 不完全競争 ②</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。		定期試験と講義内で行う小テストの成績で評価する。	

09年度以降	経済原論 b	担当者	井上 智弘
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要：</b>          経済学を初めて学ぶ学生を対象として、経済学の基礎的な理論について講義する。秋学期は、一国全体の経済に焦点を当てるマクロ経済学の基礎理論について説明する。また、受講生の理解を測るために、講義中に問題演習や小テストを行う。講義は右の授業計画に沿って行う予定であるが、小テストの結果等を踏まえて、計画を一部変更する可能性はある。</p> <p><b>講義目的：</b>          マクロ経済分析を行う上で、必要不可欠な基礎理論の習得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学の全体像</li> <li>2. 国民経済計算と GDP (国内総生産)</li> <li>3. 国民所得の決定メカニズム ①</li> <li>4. 国民所得の決定メカニズム ②</li> <li>5. 財政政策</li> <li>6. 貨幣の機能 ①</li> <li>7. 貨幣の機能 ②</li> <li>8. 金融政策</li> <li>9. IS-LM 分析 ①</li> <li>10. IS-LM 分析 ②</li> <li>11. 物価変動と失業 ①</li> <li>12. 物価変動と失業 ②</li> <li>13. 経済成長</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。		定期試験と講義内で行う小テストの成績で評価する。	

シラバス 交流文化学科

---

2010年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	